# UX300e

取扱説明書

| | | |
|---|---|---|
| イラスト目次 | **イラスト**から検索 | |
| 安全・安心のために | お客様に**必ずお読みいただきたいこと**<br>（主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置） | 1 |
| EV システム | 充電に関する情報など<br>（主な項目：EV システム、充電のしかた） | 2 |
| 走行に関する情報表示 | 走行に関する情報を表示する計器類の見方<br>（主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ） | 3 |
| 運転する前に | ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整<br>（主な項目：キー、ドア、シート、パワーウインドウ） | 4 |
| 運転 | 運転に必要な操作やアドバイス<br>（主な項目：EV システム始動のしかた、運転支援装置） | 5 |
| 室内装備・機能 | 室内装備の使い方など<br>（主な項目：エアコン・収納装備の使い方） | 6 |
| お手入れのしかた | 車のお手入れ・メンテナンスの方法<br>（主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換） | 7 |
| 万一の場合には | 故障したときや、緊急時などの対処<br>（主な項目：補機バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処） | 8 |
| 車両情報 | 車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報<br>（主な項目：各フルード量、タイヤ空気圧） | 9 |
| さくいん | **症状**から検索 | |
| | **音**から検索 | |
| | **アルファベット**で検索 | |
| | **五十音**で検索 | |

知っておいていただきたいこと ..... 6
本書の見方..... 9
検索のしかた..... 10
イラスト目次..... 12

## 1 安全・安心のために

### 1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に ..... 24
安全なドライブのために ..... 25
シートベルト ..... 27
SRS エアバッグ..... 30

### 1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは ..... 37
チャイルドシート..... 38

### 1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム ..... 52
オートアラーム..... 53

## 2 EVシステム

### 2-1. EV システムについて
EV システムの特徴 ..... 58
EV システムの注意 ..... 61
電気自動車運転のアドバイス ..... 65
走行可能距離について ..... 67

### 2-2. 充電について
充電に関する装備について ..... 68
普通充電ケーブルについて ..... 71
普通充電コネクターの施錠・解錠 76
接続可能な外部電源について ..... 79
充電方法について..... 82
充電に関するアドバイス ..... 86
充電の前に知っておいていただきたいこと ..... 87
普通充電のしかた..... 90
急速充電のしかた..... 97
タイマー充電機能を使う（普通充電）..... 102
マイルームモードを使う ..... 117
正常に充電できないときは.....120

## 3 走行に関する情報表示

### 3-1. 計器の見方
警告灯／表示灯 .....136
計器類 .....139
マルチインフォメーションディスプレイ.....141
ヘッドアップディスプレイ .....146

## 4 運転する前に

### 4-1. キー
キー.....152

### 4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....156
バックドア .....160
スマートエントリー＆スタートシステム.....173

### 4-3. シートの調整
フロントシート .....178
リヤシート .....179
ヘッドレスト .....180

### 4-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル .....182
インナーミラー .....183
ドアミラー .....184

### 4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉
パワーウインドウ .....186
ムーンルーフ .....189

## 5 運転

### 5-1. 運転にあたって
運転にあたって .....194
荷物を積むときの注意.....200

### 5-2. 運転のしかた
パワー（イグニッション）スイッチ.....202

トランスミッション..... 206
方向指示レバー..... 211
パーキングブレーキ..... 212
ブレーキホールド..... 215
ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 217

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方
ランプスイッチ..... 218
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 221
AHB（オートマチックハイビーム）..... 225
フォグランプスイッチ..... 227
ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 229
ワイパー＆ウォッシャー（リヤ）232

5-4. 運転支援装置について
Lexus Safety System + ..... 234
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 238
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 245
RSA（ロードサインアシスト）... 254
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 257
先行車発進告知機能..... 267
ITS Connect..... 269
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 277
PKSA（パーキングサポートアラート）..... 281
クリアランスソナー..... 282
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 290
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 294
パーキングサポートブレーキ（静止物）..... 299
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 301
ドライブモードセレクトスイッチ..... 302
運転を補助する装置..... 303

5-5. 運転のアドバイス
寒冷時の運転 .....309

6 室内装備・機能

6-1. リモートタッチ
リモートタッチ .....314

6-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ
レクサスクライメイトコンシェルジュ .....318

6-3. エアコンの使い方
オートエアコン .....319
リモートエアコンシステム.....328
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター ...330

6-4. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 .....334

6-5. 収納装備
収納装備一覧 .....337
ラゲージルーム内装備.....340

6-6. その他の室内装備の使い方
その他の室内装備 .....345
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W).....353
非常時給電システム.....359

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ .....368
内装の手入れ .....372

7-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット .....375
ガレージジャッキ .....377
ウォッシャー液の補充.....378
タイヤについて .....378
タイヤの交換 .....386
タイヤ空気圧について.....390
エアコンフィルターの交換.....391

電子キーの電池交換 ..... 393
ヒューズの点検・交換 ..... 395
電球（バルブ）の交換 ..... 398

## 8 万一の場合には

### 8-1. まず初めに

故障したときは..... 402
非常点滅灯（ハザードランプ）... 403
発炎筒 ..... 403
車両を緊急停止するには ..... 404
水没・冠水したときは ..... 405

### 8-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 407
警告灯がついたときは ..... 412
警告メッセージが表示されたときは ..... 419
パンクしたときは..... 423
EV システムが始動できないときは ..... 433
キーをなくしたときは ..... 434
充電リッドが開かないときは .... 435
電子キーが正常に働かないときは ..... 436
補機バッテリーがあがったときは ..... 438
オーバーヒートしたときは ..... 442
スタックしたときは..... 443

## 9 車両情報

### 9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ ..... 446

### 9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能 ..... 449

### 9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目 ..... 461

## さくいん

こんなときは（症状別さくいん）464
車から音が鳴ったときは（音さくいん）.....466
アルファベット順さくいん .....469
五十音順さくいん .....470

# 知っておいていただきたいこと

## 本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

レクサス販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取り扱い説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

## 不正改造について

● レクサスが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
また、このような改造は Lexus Safety System + のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はレクサス販売店にご相談ください。

- タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。
- 電装品・無線機の取り付け・取りはずし
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

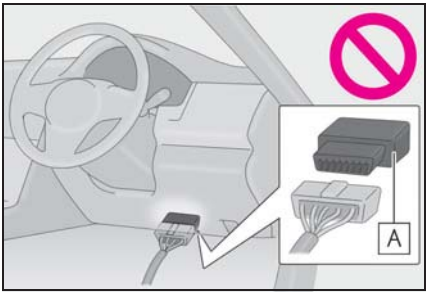
RF 送信機の取り付けについては、P.8 も参照してください。

● フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

## 故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクター A などに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、補機バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。




## 車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、レクサス販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

レクサスはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、レクサスは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はレクサス販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

## G-Link によるデータの取り扱いについて

お客様が G-Link をご利用の場合、記録データとその使用について、G-Link 利用規約をご覧ください。

## イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

- 車両の各システムの作動状況
- アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
- 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。レクサスにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、レクサスは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- レクサスが訴訟で使用する場合

ただし、レクサスは

- データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
- 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

## RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● Lexus Safety System +

● ABS（アンチロックブレーキシステム）

● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずレクサス販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をレクサス販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

## 保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

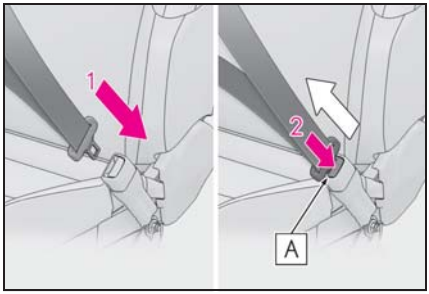
# 本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

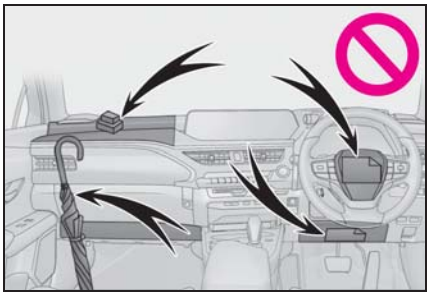
## 本文の記号について

| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 警告：<br>お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。 |
| | 注意：<br>お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。 |
| | 操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。 |
| | 機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておいておくと便利なことを説明しています。 |

## イラスト上の記号について




| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 押す、まわすなど、していただきたい操作を示しています。 |
| | フタが開くなど、操作後の作動を示しています。 |

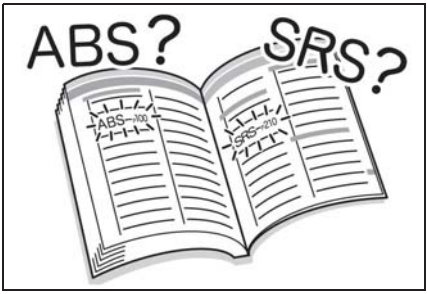


| 記号 | 意味 |
|---|---|
| | 説明の対象となるもの・場所を示しています。 |
| | **してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。 |

## 検索のしかた

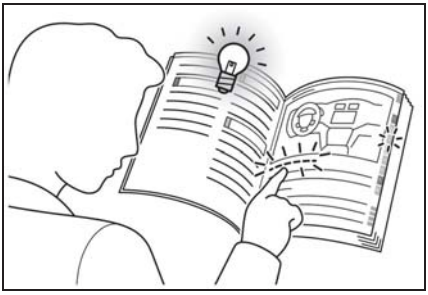
### ■ 名称から探す

●五十音順さくいん：→P.470
●アルファベット順さくいん：→P.469




### ■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：→P.12

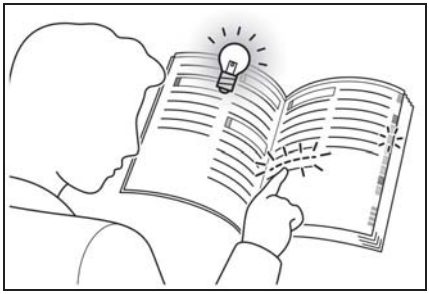


### ■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：
→P.464
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：→P.466

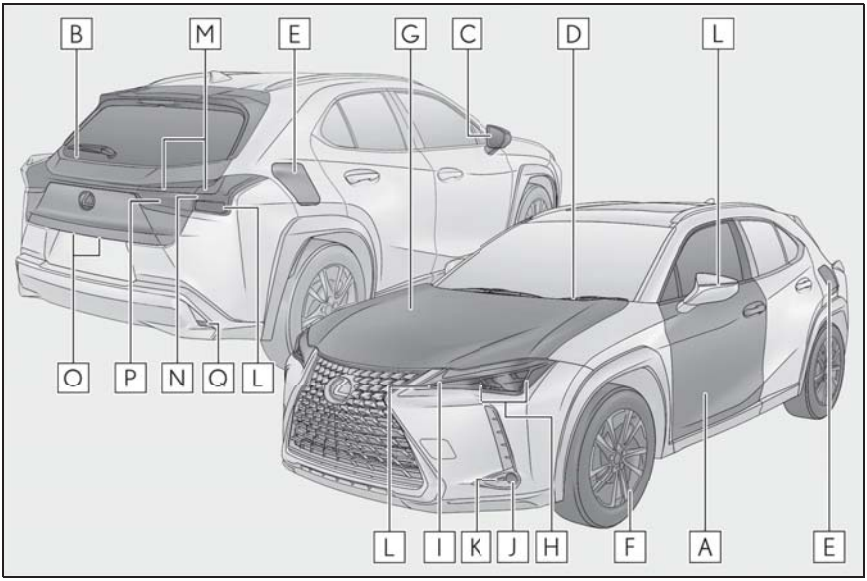
### ■ タイトルから探す

●目次：→P.2



# イラスト目次

## ■外観




ランプの形状は、グレードなどで異なります。

**A ドア ..... P.156**

施錠／解錠 ..... P.156

ドアガラスの開閉 ..... P.186

メカニカルキーでの施錠／解錠 ..... P.436

警告メッセージ ..... P.419

**B バックドア ..... P.160**

施錠／解錠 ..... P.162

開け方／閉め方 ..... P.162

パワーバックドア★ ..... P.163

警告メッセージ ..... P.419

**C ドアミラー ..... P.184**

鏡面の角度調整 ..... P.184

ミラーの格納 ..... P.185

曇りを取る（ミラーヒーター） ..... P.320

**D ワイパー** ..... **P.229**
冬季の注意 ..... P.309
凍結防止（ウインドシールドデアイサー）★ ..... P.320
洗車時の注意 ..... P.370

**E 充電ポート** ..... **P.68**
充電方法 ..... P.82

**F タイヤ** ..... **P.378**
サイズ・空気圧 ..... P.448
冬用タイヤ・タイヤチェーン ..... P.309
点検・ローテーション・タイヤ空気圧警報システム ..... P.378
パンク時の対処 ..... P.423

**G ボンネット** ..... **P.375**
開け方 ..... P.375
オーバーヒート時の対処 ..... P.442
警告メッセージ ..... P.419

**走行に関わる外装の電球（バルブ）**
（交換要領：P.398, ワット数：P.448）

**H ヘッドランプ** ..... **P.218**

**I 車幅灯・LED デイライト** ..... **P.218**

**J フロントフォグランプ** ..... **P.227**

**K コーナリングランプ** ..... **P.220**

**L 方向指示灯** ..... **P.211**

**M 尾灯** ..... **P.218**

**N 制動灯**
緊急ブレーキシグナル ..... P.304

**O 番号灯** ..... **P.218**

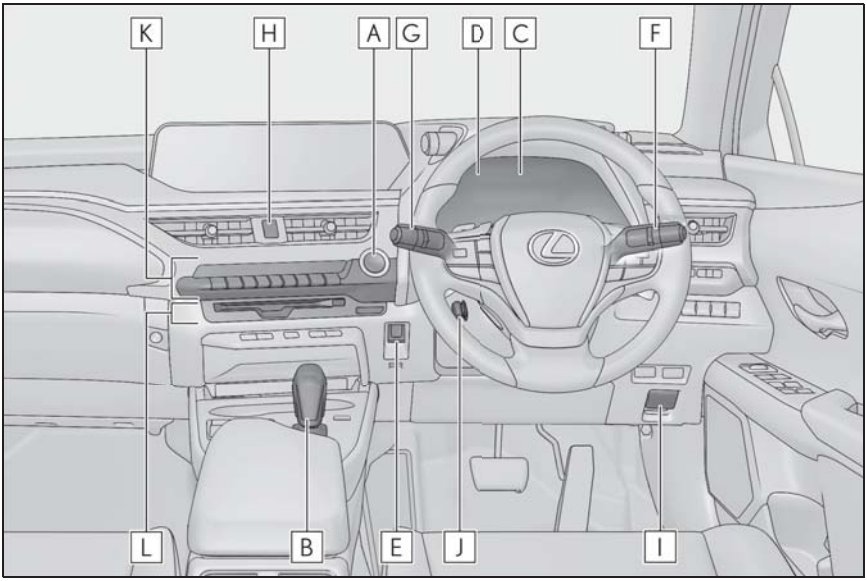
**P リヤフォグランプ★** ..... **P.227**

Q 後退灯

シフトポジションを R にする ..... P.206

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■インストルメントパネル




**A パワースイッチ ..... P.202**

EV システムの始動・モード切りかえ ..... P.202

EV システムの緊急停止 ..... P.404

EV システムが始動できないときの対処 ..... P.433

警告メッセージ ..... P.419

**B シフトレバー ..... P.206**

シフトポジションの切りかえ ..... P.207

けん引時の注意 ..... P.407

**C メーター ..... P.139**

見方・明るさの調整 ..... P.139, 141

警告灯／表示灯 ..... P.136

警告灯点灯時の対処 ..... P.412

**D マルチインフォメーションディスプレイ ..... P.141**

表示内容 ..... P.141

警告メッセージ表示時の対処 ..... P.419

**E パーキングブレーキスイッチ ..... P.212**
かける・解除する ..... P.212
冬季の注意 ..... P.310
警告ブザー・警告メッセージ ..... P.412, P.419

**F 方向指示レバー ..... P.211**
**ランプスイッチ ..... P.218**
ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト ..... P.218
AHS（アダプティブハイビームシステム）★ ..... P.221
AHB（オートマチックハイビーム）★ ..... P.225
フロントフォグランプ・リヤフォグランプ★ ..... P.227

**G ワイパー＆ウォッシャースイッチ（フロント） ..... P.229**
**ワイパー＆ウォッシャースイッチ（リヤ） ..... P.232**
使い方 ..... P.229, 232
ウォッシャー液の補充 ..... P.378
ヘッドランプクリーナー★ ..... P.229
警告メッセージ ..... P.419

**H 非常点滅灯スイッチ ..... P.403**

**I ボンネット解除レバー ..... P.375**

**J ハンドル位置調整スイッチ ..... P.182**
調整方法 ..... P.182

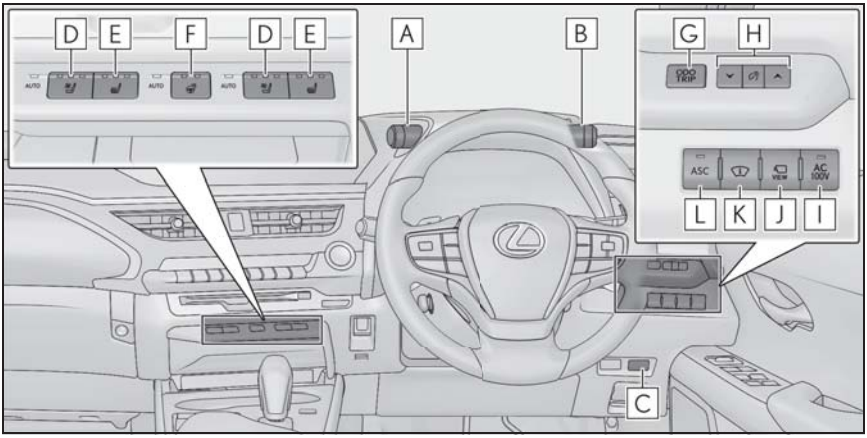
**K オートエアコン ..... P.319**
操作方法 ..... P.319
リヤウインドウガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） .. P.320

**L オーディオ ※**
音楽を聴く ※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■スイッチ類





A ドライブモードセレクトスイッチ ..... P.302

B VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ..... P.304

C パワーバックドアスイッチ★ ..... P.163

D シートベンチレータースイッチ ..... P.331

E シートヒータースイッチ ..... P.331

F ステアリングヒータースイッチ ..... P.330

G オドメーター／トリップメーター切りかえ・トリップメーターリセットボタン ..... P.140

H インストルメントパネル照度調整スイッチ ..... P.141

I AC100V スイッチ..... P.353, 359

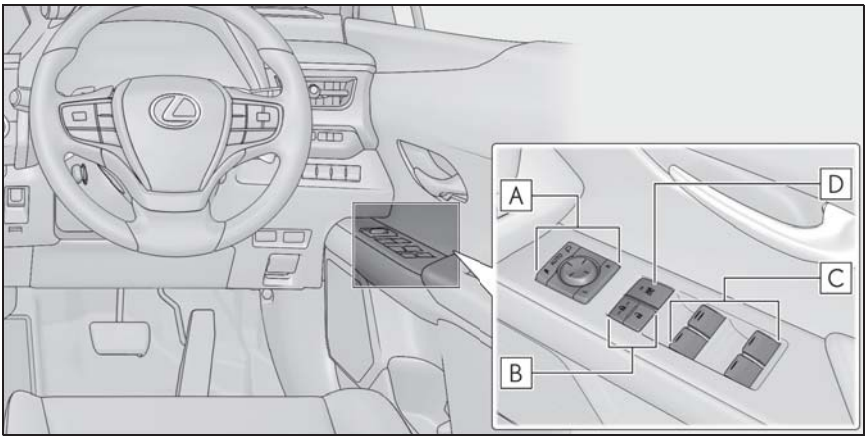
J カメラスイッチ★※

K ヘッドアップディスプレイスイッチ★..... P.146

L ASC スイッチ ..... P.217


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

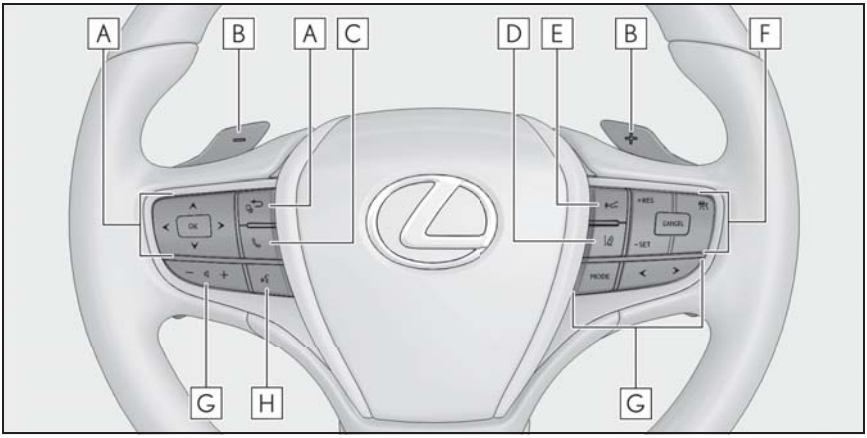



A ドアミラースイッチ ..... P.184

B ドアロックスイッチ ..... P.159

C パワーウインドウスイッチ..... P.186

D ウインドウロックスイッチ..... P.188




A メーター操作スイッチ ..... P.142

B パドルシフトスイッチ ..... P.210

C 電話スイッチ ※

D LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ..... P.245

E 車間距離切りかえスイッチ..... P.261

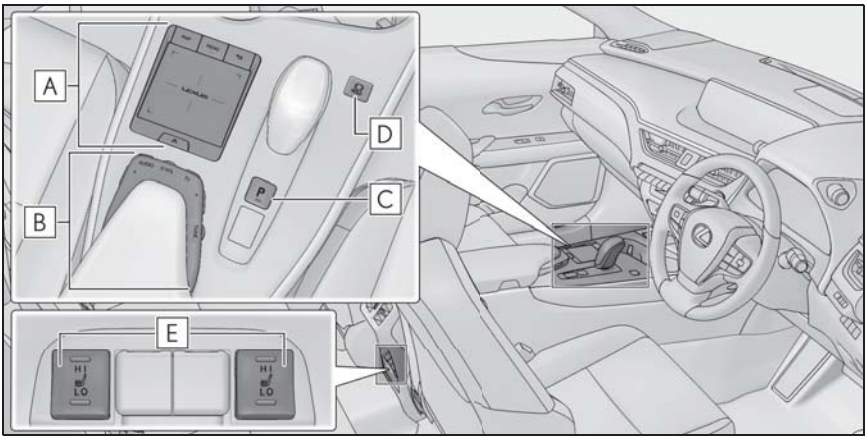
F クルーズコントロールスイッチ

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... P.257

G オーディオスイッチ ※

H トークスイッチ ※

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。




A リモートタッチ ..... P.314

B オーディオコントロールスイッチ ※

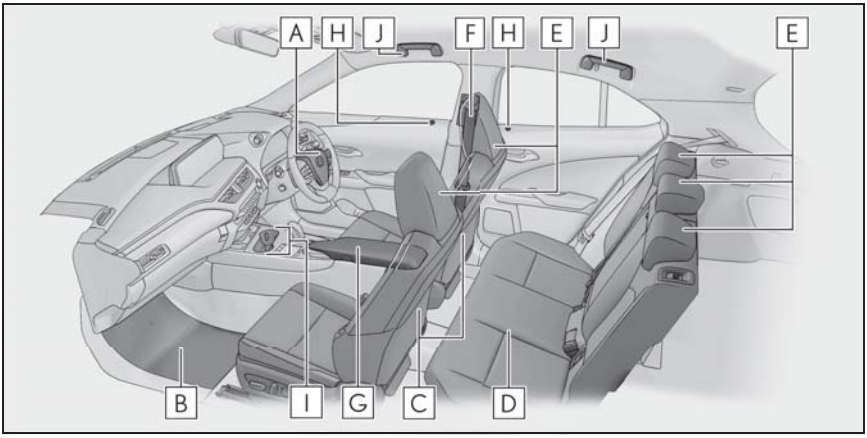
C P ポジションスイッチ..... P.207

D ブレーキホールドスイッチ..... P.215

E リヤシートヒータースイッチ..... P.331

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■室内





A SRS エアバッグ ..... P.30

B フロアマット ..... P.24

C フロントシート ..... P.178

D リヤシート ..... P.179

E ヘッドレスト ..... P.180

F シートベルト ..... P.27

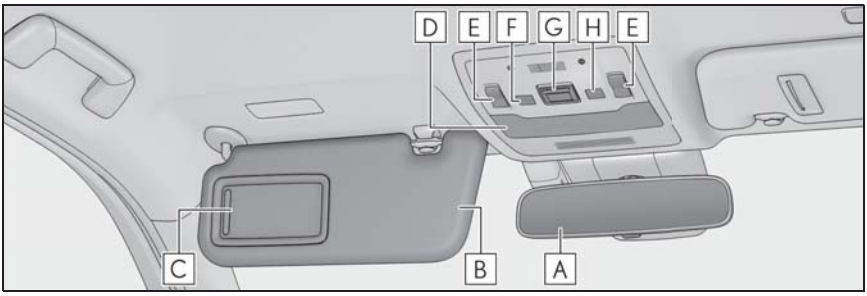
G コンソールボックス ..... P.338

H ドアロックボタン ..... P.159

I カップホルダー ..... P.339

J アシストグリップ ..... P.352

## ■天井





A インナーミラー ..... P.183

B サンバイザー ※1 ..... P.345

C バニティミラー ..... P.345

D インテリアランプ ※2 ..... P.335
パーソナルランプ ..... P.336

E ムーンルーフスイッチ★ ..... P.189

F 侵入センサー OFF スイッチ ..... P.55

G ヘルプネットスイッチパネル ※3

H インテリアランプドア連動スイッチ ..... P.335


★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.40）

※2図はフロントですが、リヤにも装着されています。

※3別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

# 安全・安心のために

～必ずお読みください～

1


## 1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に ..... 24

安全なドライブのために ..... 25

シートベルト ..... 27

SRS エアバッグ ..... 30

## 1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは ..... 37

チャイルドシート ..... 38

## 1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム ..... 52

オートアラーム ..... 53

## 運転する前に

**お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。**

### 点検整備

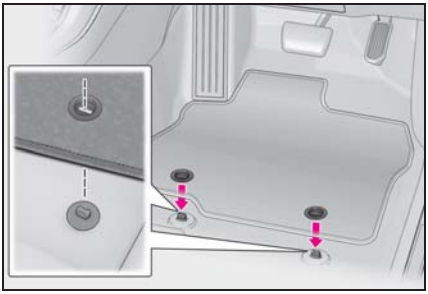
日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、レクサス販売店で必ず点検整備を受けてください。

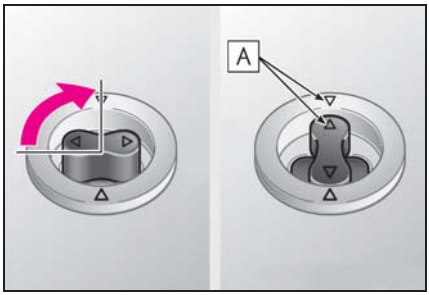
### フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む



2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する




※ △マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

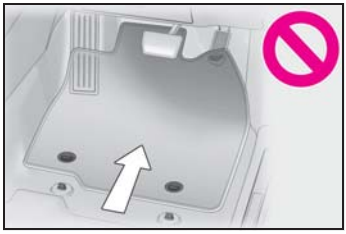
**■運転席にフロアマットを敷くときは**

- レクサス純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

**警告**

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

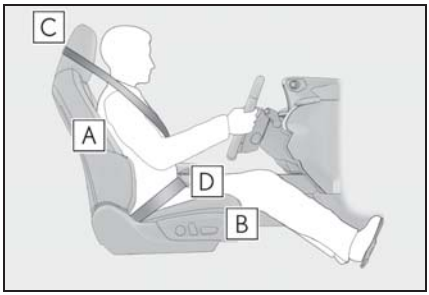


●EV システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

## 安全なドライブのために

**安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。**

### 正しい運転姿勢をとるには




A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.178）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.178）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.180）

D シートベルトを正しく着用する（→P.28）

**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

- 走行中は運転席の調整をしないでください。
  運転を誤るおそれがあります。
- 背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- フロントシートの下にものを置かないでください。
  ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。
- 公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。
- 他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。
- 飲酒運転は絶対にしないでください。
  お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。
- 運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
  周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。
- 長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
  また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

## シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。(→P.28)

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。(→P.38)

## ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。(→P.183, 184)

## シートベルト

**走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。**

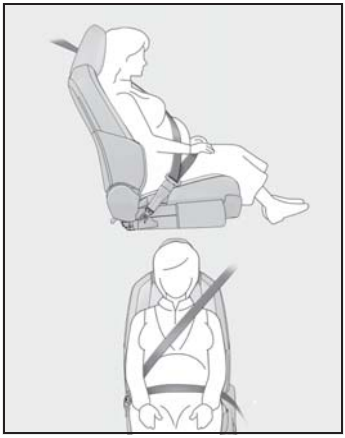
**警告**

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■シートベルトの着用について**

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

**■妊娠中の女性の場合**



医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.28）通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■疾患のある方の場合**

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

**■お子さまを乗せるとき**

→P.48

**■シートベルトの損傷・故障について**

- ベルトやプレート、バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

**警告**

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。
うまく挿し込めない場合はただちにレクサス販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、レクサス販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

## 正しく着用するには

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれがないようにする

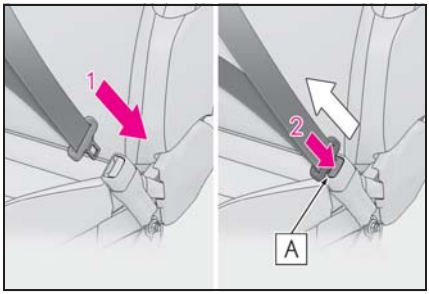
知識

**■お子さまのシートベルトの使い方**

この車のシートベルトは、シートベルトを着用するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P.38)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。(→P.27)

## 着け方・はずし方




1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

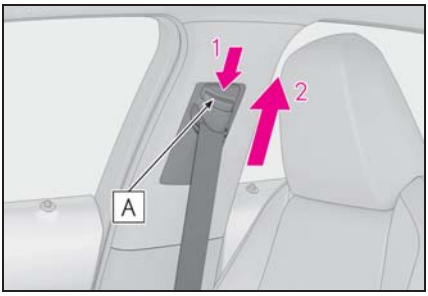
2 ベルトを解除するには、解除ボタン A を押す

知識

**■シートベルトロックの解除方法**

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

## シートベルトの高さ調節（フロント席）

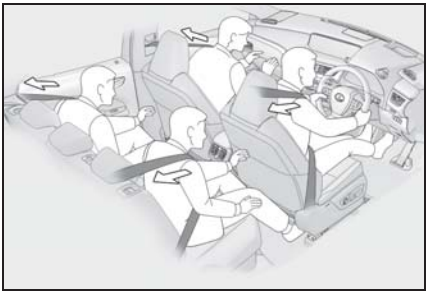



1 解除ボタン A を押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ” と音がして固定されるところまで動かしてください。

## シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）



前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■予防連携機能について

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

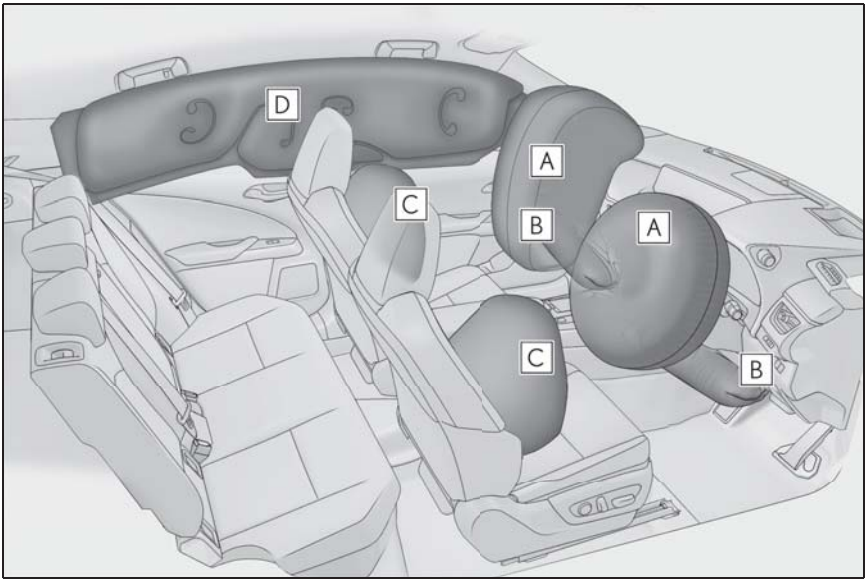
シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずレクサス販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

# SRS エアバッグ

**SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。**

## SRS エアバッグシステム

### ■ SRS エアバッグの配置




▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ（運転者と助手席乗員の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS カーテンシールドエアバッグ（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●EV システムを停止します。（→P.64）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.157）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.304）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.335）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.403）

●G-Link の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。

詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。
・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5t の車両が、約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●特に衝撃が大きい場合は、左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

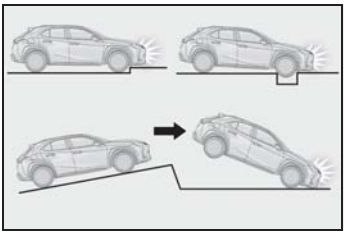
■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき



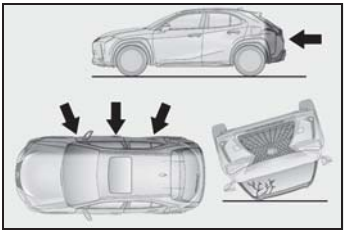
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

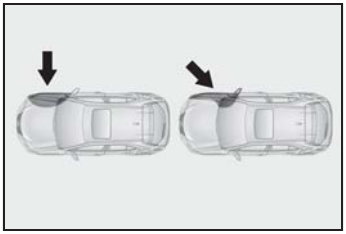


■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

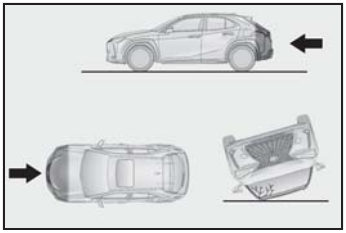


SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

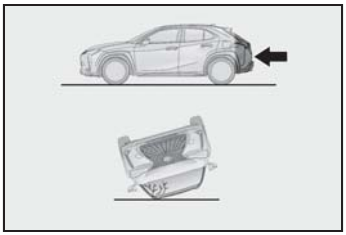
●横転



SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

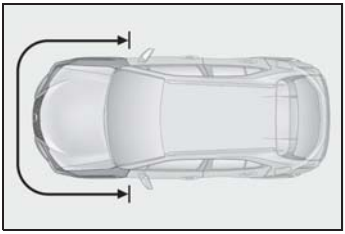


■レクサス販売店に連絡が必要な場合

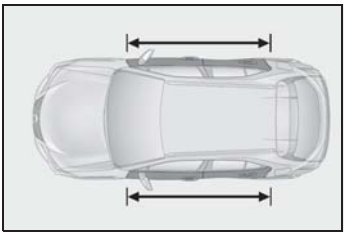
次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くレクサス販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

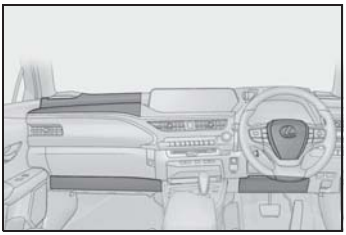
●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき



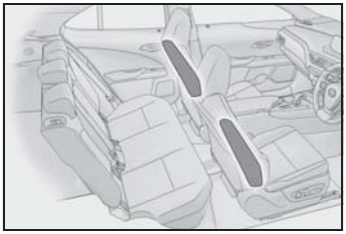
●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき



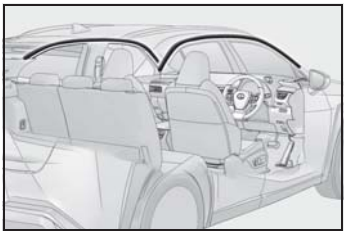
●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき



**警告**

**■SRS エアバッグについて**

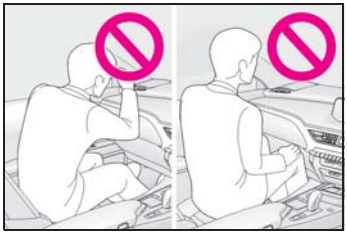
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

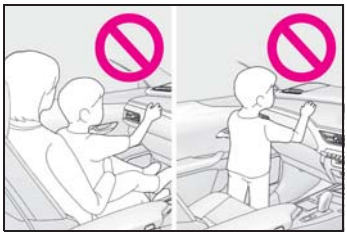
●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

**警告**

- お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
  お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
  (→P.38)
- シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない



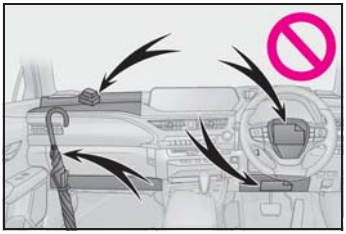
- お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない



- 運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない
- ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

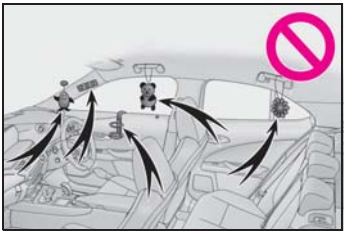
- 助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

- ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない



**警告**

- ドア・フロントウインドウガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー、ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない
（速度制限ラベルを除く：→P.427）



- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、レクサス販売店で交換してください。

**■改造・廃棄について**

レクサス販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造

**警告**

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

## お子さまを乗せるときは

**お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。**

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。（→P.38）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.159）・ウインドウロックスイッチ（→P.188）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・バックドアやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

**警告**

**■お子さまを乗せるときは**

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた、P.38 を参照してください。

## チャイルドシート

**ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。**

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
  取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。
- レクサスでは、より安全にお使いいただくために、レクサス純正チャイルドシートの使用を推奨しています。
  レクサス純正チャイルドシートは、レクサス車のために作られたチャイルドシートです。
  レクサス販売店で購入することができます。

### 目次

知っておいていただきたいこと：P.38

チャイルドシートを使用するときは：P.39

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.42

チャイルドシートの取り付け方法：P.46

・ シートベルトで固定する：P.47

・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.49

・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.50

### 知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。

**警告**

**■お子さまを乗せるときは**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

**警告**

- レクサスでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

**■チャイルドシートについて**

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください(→P.42)。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、ラゲージルーム内に容易に動かないように収納してください。

## チャイルドシートを使用するときは

### ■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

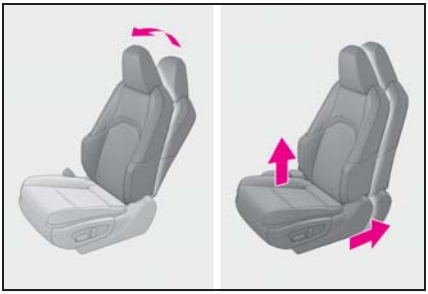
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- 背もたれを可能な限り起こす

前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- シートの高さをいちばん高い位置まで上げる
- クッション前端をいちばん下に下げる
- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。



**警告**

**■チャイルドシートを使用するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

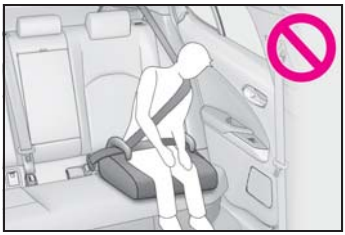
●やむを得ず 助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

**警告**

**警告**

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

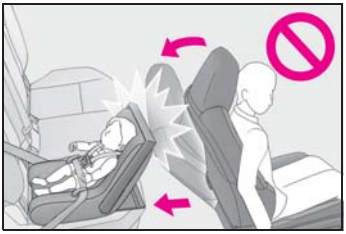


●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

**警告**

- 運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。



- 助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

## シート位置別チャイルドシートの適合性について

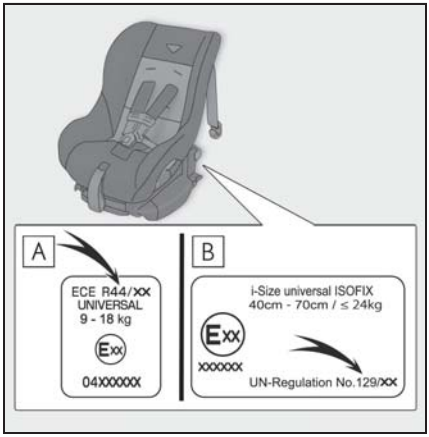
### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.43）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。
また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。
推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.45）
次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

### ■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN（ECE）R44※1 または、UN（ECE）R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。
適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。
チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。




法規番号の表示例

A UN（ECE）R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN（ECE）R129 認可マーク ※2

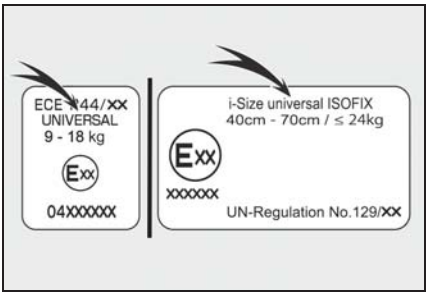
対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。
また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認

頂くか、または販売業者へ確認してください。

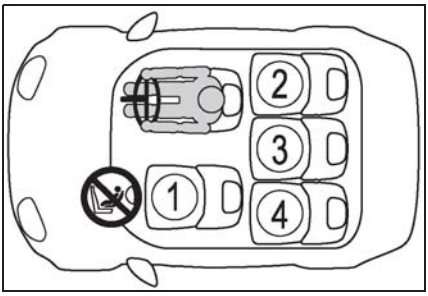
・ ユニバーサル「universal（汎用）」
・ セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
・ リストリクティッド「restricted（限定）」
・ ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」




※1 UN（ECE）R44、UN（ECE）R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

## ■ シート位置別チャイルドシートの適合性




| | |
|---|---|
| 1 ※1, 2, 3 | U L ※4 |
| 2 ※3 | U L |
| 3 ※3 | U L |
| 4 ※3 | U L |

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.45）に記載されたチャイルドシートに適しています。

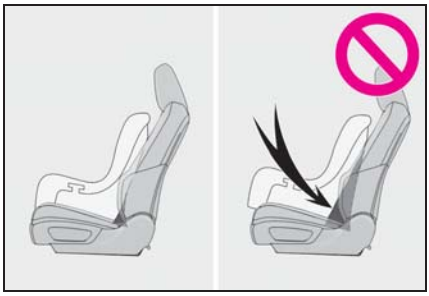
i-Size チャイルドシートおよび ISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。



※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。
取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

## ■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

| 着座位置 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| シート位置の番号 | ① | ② | ③ | ④ |
| ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有 / 無） | 有<br>前向きのみ | 有 | 有 | 有 |
| アイサイズ着座位置（有 / 無） | 無 | 有 | 無 | 有 |
| 搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2） | × | × | × | × |
| 搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3） | × | R1, R2 | × | R1, R2 |

| 着座位置 | | | | |
|---|---|---|---|---|
| シート位置の番号 | ① | ② | ③ | ④ |
| 搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3） | × | F2X, F2, F3 | × | F2X, F2, F3 |
| 搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3） | × | B2, B3 | × | B2, B3 |

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。
「治具」の種類は、次の表を確認ください。
チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

| 治具 | 使用の向き・形状・大きさ |
|---|---|
| F3 | 全高前向きチャイルドシート |
| F2 | 低型前向きチャイルドシート |
| F2X | 低型前向きチャイルドシート |
| R3 | 大型うしろ向きチャイルドシート |
| R2 | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R2X | 小型うしろ向きチャイルドシート |
| R1 | うしろ向きチャイルドシート |
| L1 | 左向き寝台式チャイルドシート |
| L2 | 右向き寝台式チャイルドシート |
| B2 | ジュニアシート |
| B3 | ジュニアシート |

### ■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

| 質量グループ | 推奨チャイルドシート | 着座位置 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ① | ② | ③ | ④ |
| 0、0+（13kg まで） | レクサス純正 NEO G-Child baby | × | ○ | ○ | ○ |
| | レクサス純正 NEO G-Child ISO leg | × | ○ | × | ○ |

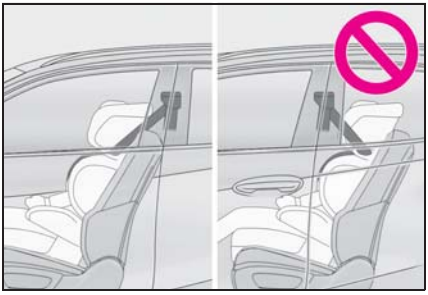
| 質量グループ | 推奨チャイルドシート | 着座位置 | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | ① | ② | ③ | ④ |
| I<br>(9 ～ 18kg) | レクサス純正 NEO G-Child baby | ○<br>前向きのみ | ○ | ○ | ○ |
| | レクサス純正 NEO G-Child ISO leg | × | ○ | × | ○ |
| II、III<br>(15 ～ 36kg) | レクサス純正ジュニアシート | ○ | ○ | ○ | ○ |

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。

● サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。

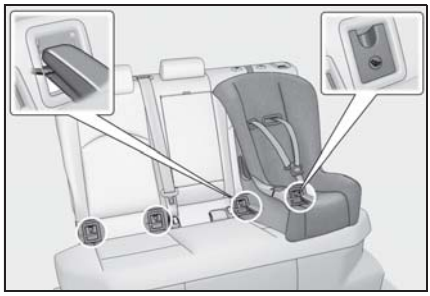
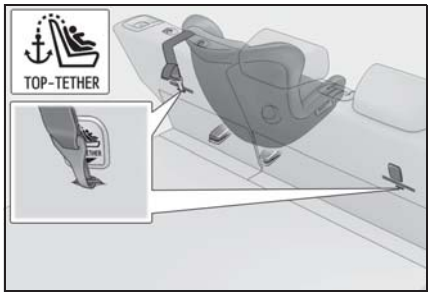
● シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。



● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

## チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

| 固定方法 | | ページ |
|---|---|---|
| シートベルトで固定する | | P.47 |
| ISOFIX ロアアンカレッジで固定する |  | P.49 |
| テザーベルトを固定する |  | P.50 |

## チャイルドシートをシートベルトで固定する

### ■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.42, 43）

1 助手席：
やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.39）

2 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正

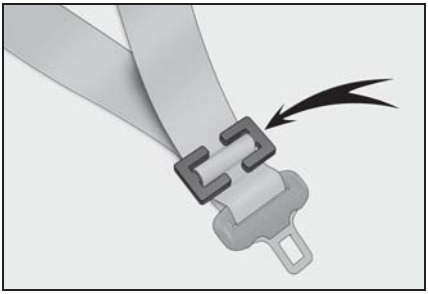
しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.180）

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、レクサス販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）



5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.48）

## ■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。
チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

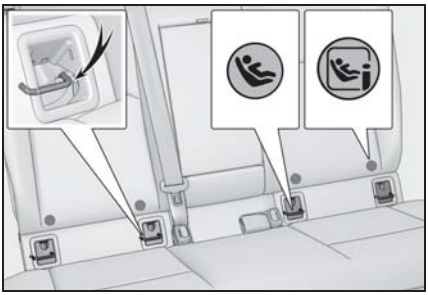
**警告**

- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

### ■ ISOFIX ロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すマークがシートに付いています）



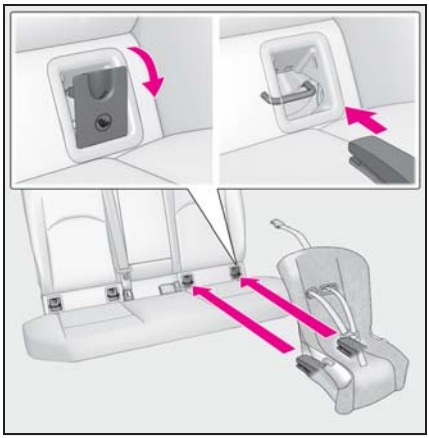
### ■ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。
お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.42, 43）

1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.180）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。



3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.48）

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。

●ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

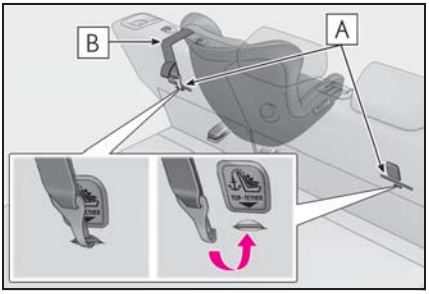
●必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

## トップテザーアンカレッジを使用する

### ■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。



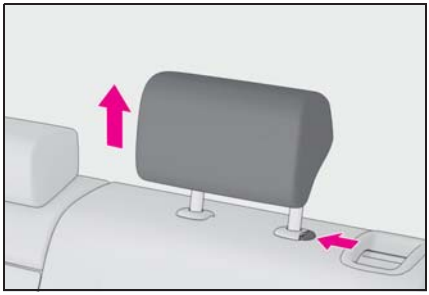

A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

### ■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

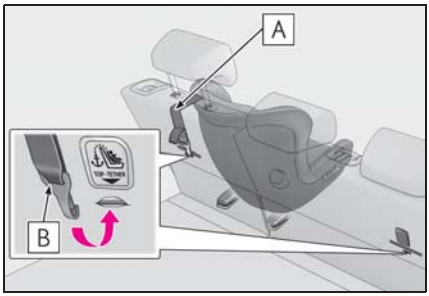
1 ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。（→P.180）



2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.48）

ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、テザーベルトは必ずヘッドレストの下へ通してください。



A テザーベルト

B フック

**警告**

**■チャイルドシートを取り付けるとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

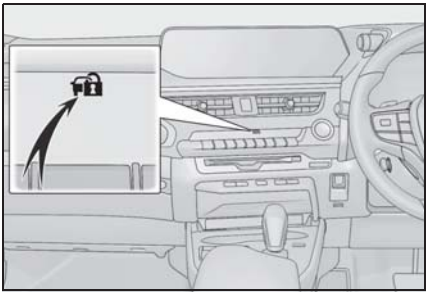
- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- ヘッドレストを上げた状態でチャイルドシートを取り付けるときは、ヘッドレストを引き上げてトップテザーアンカーに固定したあとに、ヘッドレストを下げないでください。

## イモビライザーシステム

**キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では EV システムを始動できません。車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。**

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

### システムを作動させるには



パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにセキュリティ表示灯が点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、セキュリティ表示灯が消灯します。

知識

■ **メンテナンスについて**

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■ **システムが正常に作動しないとき**

● キーが金属製のものに接したり、覆われているとき

● キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■ **イモビライザーシステムを正常に作動させるために**

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

## オートアラーム

**オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。**
**オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。**

- 施錠されたドアが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動くものを検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ G-Link サービスをご利用のお客様には、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

### オートアラームを設定／解除／停止する

#### ■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

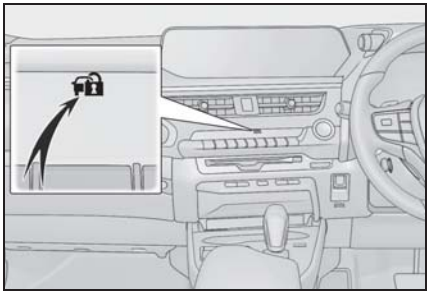
- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスとムーンルーフ★が閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

#### ■ オートアラームを設定するには

ドア・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームが設定されるとセキュリティ表示灯は点灯から点滅にかわります。



#### ■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンを使ってドアを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

#### ■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

#### ■ G-Link（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れ、ムーンルーフ★の閉め忘れを、ご指定の E メールアドレスへ

お知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

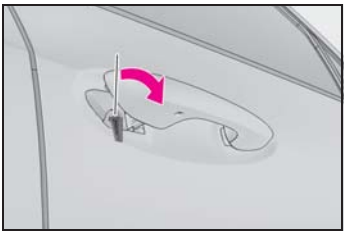
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ G-Link ／サービスの使い方／ G-Security」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

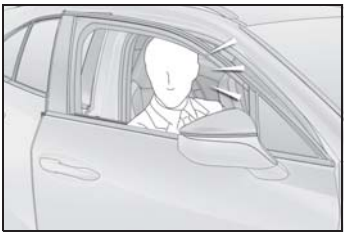
■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームの設定を解除・作動を停止する操作を行ってください。

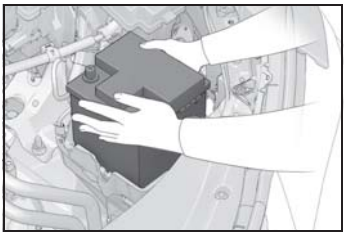
●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき



●車内に残った人が、ドアやボンネットを開けたり、ロックレバーで解錠したとき



●施錠後、補機バッテリーをはずしたとき（→P.440）



■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のような場合、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

●補機バッテリーあがりなどで充電・交換したとき

注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

## 侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、超音波を使って車内への侵入者や室内の動きを検知するセンサーです。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサーを設定するには

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→P.53）

## ■ 侵入センサーを停止するには

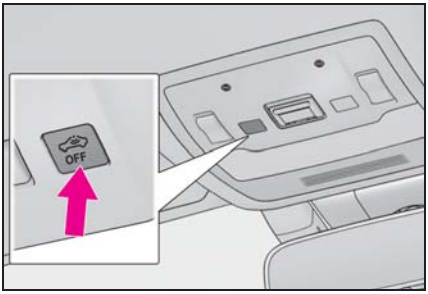
車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサーを停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサー OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサーは再びセットされます。

侵入センサーを OFF ／ ON にするたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。




知識

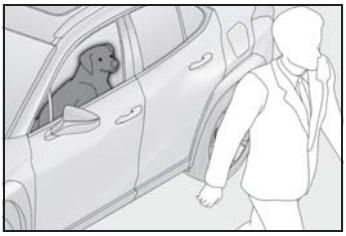
### ■ 侵入センサーの作動・停止について

- 侵入センサーの作動を停止しても、オートアラームは作動します。
- 侵入センサーを停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサーは復帰します。
- 再度オートアラームをセットすると、侵入センサーは作動可能状態（システム ON の状態）に自動復帰します。
- リモートエアコンシステムの作動中は、侵入センサーが自動的に停止します。

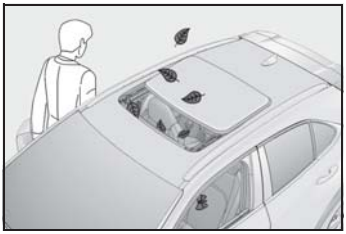
### ■ 侵入センサーについて

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

- 車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合



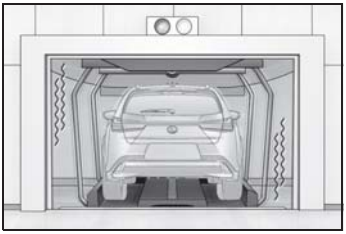
- ドアガラスやムーンルーフ★などが開いている場合、次のものを検知することがあります。
  - ・室内に入った落ち葉・虫・風など
  - ・他車の侵入センサーなどが発する超音波
  - ・室外の歩行者の動き



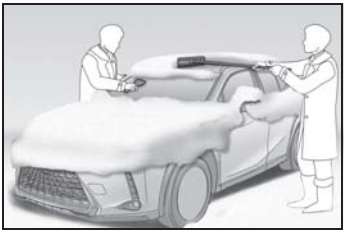
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

- マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にあるとき

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき



●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき



●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

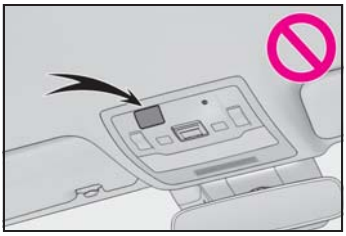
●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

注意

■**侵入センサーを正しく作動させるために**

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴射しないでください。

●センサーの穴はふさがないようにしてください。



●運転席と助手席のシートのあいだに、レクサス純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーが車両の近くにある場合、侵入センサーの作動を停止することがあります。

# EV システム 2

## 2-1. EV システムについて

EV システムの特徴 ..... 58
EV システムの注意 ..... 61
電気自動車運転のアドバイス .... 65
走行可能距離について ..... 67

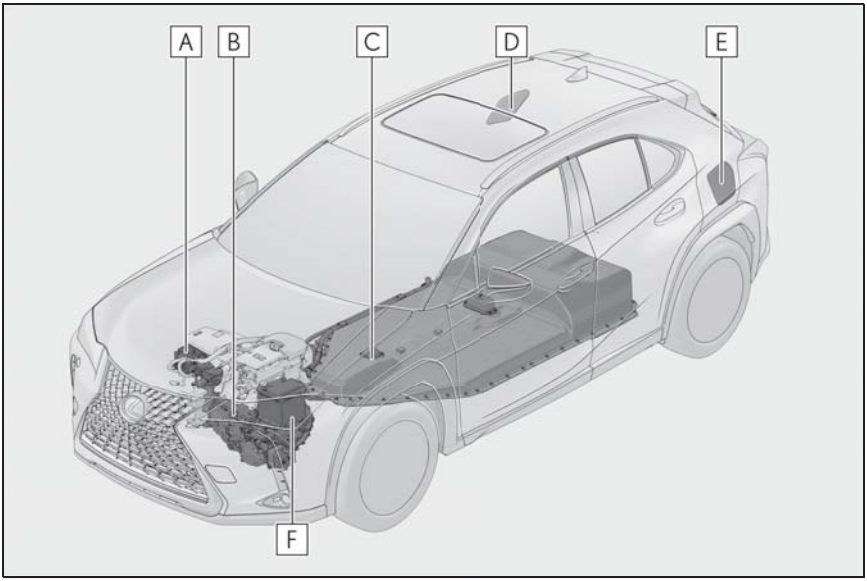
## 2-2. 充電について

充電に関する装備について ..... 68
普通充電ケーブルについて ..... 71
普通充電コネクターの施錠・解錠 ..... 76
接続可能な外部電源について .... 79
充電方法について ..... 82
充電に関するアドバイス ..... 86
充電の前に知っておいていただきたいこと ..... 87
普通充電のしかた ..... 90
急速充電のしかた ..... 97
タイマー充電機能を使う（普通充電）..... 102
マイルームモードを使う ..... 117
正常に充電できないときは ..... 120

## EV システムの特徴

**電気自動車は、従来の車両とは大きく異なります。駆動用電池に充電された電気で電気モーターを駆動させることで、走行します。電気自動車は電気を使用して走行するため、$CO_2$（二酸化炭素）や、NOx（窒素酸化物）などを排出せず、環境に優しい自動車です。**

### システムの構成部品




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A 車載充電器

B 電気モーター（駆動モーター）

C 駆動用電池

電気モーターに電気を供給します。

D 普通充電ポート

E 急速充電ポート

F 補機バッテリー

SRS エアバッグ、ヘッドライト、ワイパーなどのさまざまなシステムに電力を供給します。

■ 減速時・制動時（回生ブレーキ）

車輪が電気モーターを発電機として動かし、駆動用電池へ充電します。

この回生ブレーキ機能を活用して駆動用電池に電気を蓄えることで、走行できる距離をのばすことができます。

## 充電について

- 充電に関する装備について（→P.68）
- 普通充電ケーブルについて（→P.71）
- 接続可能な外部電源について（→P.79）
- 充電の前に知っておいていただきたいこと（→P.87）
- 充電方法について（→P.90、97）
- 正常に充電できないときは（→P.120）

知識

■ 回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、駆動用電池へ充電すると共に減速力を得ることができます。

- シフトポジションがDまたはBで走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションがDまたはBで走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■ 補機バッテリーの充電について

補機バッテリーは、EV システムが作動しているとき、または駆動用電池の充電中に、駆動用電池から充電されます。車両を長時間使用しないと、補機バッテリーの電力が自然放電のために低下する場合があります。この場合は、正しい手順に従って、対処してください。（→P.438）

■ 車を長期間使用しないとき

- 車を長期間使用しない場合は、駆動用電池が極端に充電不足になるのを防ぐため、1ヶ月に一度は駆動用電池を充電してください。
- 車両に普通充電ケーブルを接続したまま長期間放置すると、システムチェックなどの制御が働くことにより、補機バッテリーの電力消費量が増加します。普通充電ケーブルを接続しておく必要がないときは、すみやかに車両から取りはずしておいてください。

■ 駆動用電池の充電について

- 駆動用電池が低下すると、駆動用電池充電警告灯が点灯または点滅し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 必要に応じて駆動用電池を充電してください。駆動用電池が電欠になると、走行ができなくなります。駆動用電池の残量が少なくなっているときは、できるだけ早く充電してください。

■ 電気自動車特有の音と振動について

電気自動車は READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のようにエンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけて、シフトポジションを P にしてください。

EV システム始動後は、次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

- 運転席のドアが開いたときに車両の前方から聞こえるブレーキシステムの操作音
- モータールームからのモーター音

●EV システム始動時および停止時に車両モータールームから聞こえるリレーの音

●次のような場合は、“コトン”、“カチッ” などのリレー作動音が駆動用電池から聞こえます。
・EV システムが始動または停止したとき
・充電が開始または終了するとき
・急速充電を使用して駆動用電池を充電した後、初めて車両を運転するとき

●ブレーキペダルを踏んだときや、アクセルペダルをゆるめたときに聞こえる作動音

●ラジエーターや駆動用電池から聞こえる冷却ファンの作動音

●空調システム（空調コンプレッサー、送風機モーターなど）の作動音

**■メンテナンスや修理・廃車について**

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずレクサス販売店にご相談ください。

特に廃車する場合は、レクサス販売店を通じて駆動用電池の回収を行っていますので、ご協力ください。

## 車両接近通報装置

走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で通報音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

**■車両接近通報装置について**

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

●周囲の騒音が大きい場合

●雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

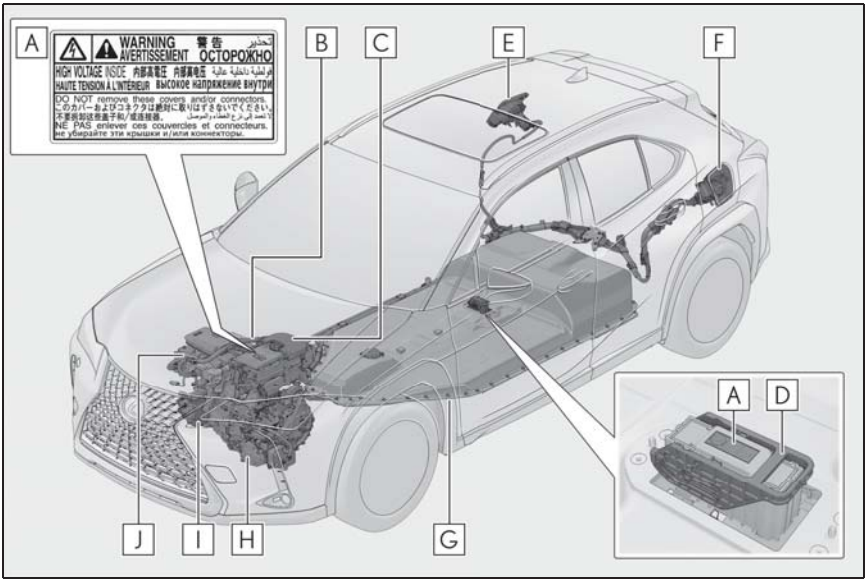
**■マルチインフォメーションディスプレイに “車両接近通報装置故障 販売店で点検してください” が表示されたとき**

車両接近通報装置に異常があるおそれがあります。レクサス販売店に連絡してください。

## EV システムの注意

EV システムには、駆動用電池・パワーコントロールユニット・オレンジ色の高電圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（公称約 355.2V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位がありますので、ご注意ください。なお、高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。

### システムの構成部品




イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B 高電圧ケーブル（オレンジ色）

C パワーコントロールユニット /DC-DC コンバータ

D サービスプラグ

E 普通充電インレット

F 急速充電インレット

G 駆動用電池

H 電気モーター（駆動モーター）

I エアコンコンプレッサー

J 車載充電器

知識

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や電気製品とくらべて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池（リチウムイオン電池）について

駆動用電池には寿命があります。駆動用電池の容量（蓄電能力）は、ほかの充電式電池と同様に時間の経過や使用状況にともない低下します。低下の程度は運転のしかた、充電のしかたなど、お車の使用状況や環境（外気温等）により大きく異なります。
これらはリチウムイオン電池本来の特性であり、不具合ではありません。なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

容量低下を抑えるためには、P.89 の “駆動用電池の容量低下について” に記載されていることを心がけてください。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－ 30 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。
その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

警告

■高電圧・高温について

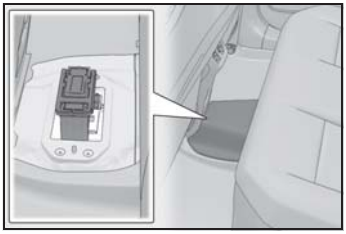
この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後は EV システムが高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●サービスプラグが床下の駆動用電池に設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。
サービスプラグは、レクサス販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。



**警告**

**■事故が発生したとき**

次のことをお守りいただかないと、感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため、安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止する

●高電圧部位・高電圧の配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない

●車室内および車室外に、はみ出している電気配線には絶対にさわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない
駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●駆動用電池の電解液がもれている場合は、車両に近付かない
万一、駆動用電池が破損しても、電池内部の構造により大量に電解液が流出することはありませんが、流出すると蒸気を発生します。蒸気は目や皮膚に刺激性があり、吸引すると急性中毒を起こすおそれがあり危険です。

●火気や高温のものを絶対に近付けない
電解液に引火するおそれがあり危険です。

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火する
水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●前輪が接地した状態でけん引しない
電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.407）

●車の下の路面などを確認し、液体のもれ（エアコンの水以外）が見つかった場合、駆動用電池が損傷している可能性があります。できるだけ早く車両を離れてください。
この場合は、レクサス販売店に状況を連絡するときに併せてお伝えください。

**■駆動用電池について**

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、レクサス販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。
適切に回収されないと、次のようなことが起こり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する
特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

**警告**

- 駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、レクサス販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■走行中の留意事項**

- 電気自動車は走行時にエンジン音がないため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。
- 車両床下に強い衝撃を受けたときは、すぐに安全な場所に停車し下まわりを点検してください。
  床下に駆動用電池の液もれや損傷が見られる場合、絶対に車両にふれず、すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

**■改造について**

車高を下げると、床下にある駆動用電池が衝撃を受けやすくなり、電池を損傷し、発火や車両火災などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。車高を下げる改造は絶対に行わないでください。

## 緊急停止システム

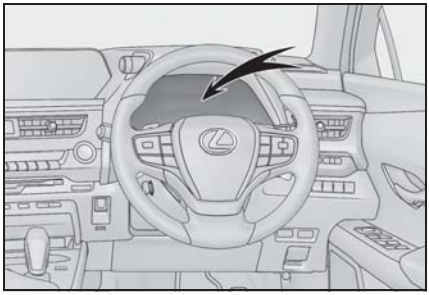
事故により衝撃を受けたときなどは、EV システムを停止して高電圧を遮断します。

この場合、EV システムを再始動させることができなくなるためレクサス販売店へご連絡ください。

## 警告メッセージ

EV システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。

警告メッセージは、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。表示された画面の指示に従ってください。（→P.127, 419）



知識

**■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき**

EV システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

**■駆動用電池が電欠になったとき**

駆動用電池が電欠で EV システムが始動できないときは、駆動用電池充電警告灯が消灯するまで、十分に充電（普通充電または急速充電）してから再始動してください。

また、電欠のとき、パワースイッチを ON にした状態で急速充電を行うことはでき

ません。パワースイッチを OFF してから急速充電を行ってください。

## 電気自動車運転のアドバイス

**従来の車両とは異なり、電気自動車が走行を続けると電力消費率は低下します。高速道路での運転または平均車速の高い運転を続けた場合、走行できる距離が短くなる可能性があります。駆動用電池の残量が低下しているときは、表示された走行可能距離に頼りすぎたり、高速道路を運転したりしないでください。適度な車速で走行すると、電力消費を抑えることができます。経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。**

### シフトポジションの操作

- 信号待ちや渋滞のときなどは、シフトポジションを D にしましょう。
- 駐車するときは、シフトポジションを P にしましょう。
- シフトポジションを N にしても、電費向上の効果はありません。N では、駆動用電池は充電されないため、エアコンなどを使用していると駆動用電池の残量が低下します。

### 渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは電費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセ

ルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な電気消費を抑えることができます。

## EV システムインジケーターの利用

メーター内の EV システムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、より環境に配慮した走行が可能です。（→P.140, 150）

## 減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

## 高速道路での運転

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。また、料金所手前では早めにアクセルをもどし、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

## エアコンの ON ／ OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な電力消費を抑えることができます。

夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り、電費向上につながります。

冬季：過剰または不要な暖房は避けましょう。ヒーターを使いすぎないことも電費向上に効果的です。

- レクサスクライメイトコンシェルジュを使用すると、空調が自動的に快適な状態に制御され、余分な電力消費を抑えることがができます。（→P.318）
- 普通充電ケーブルが車両に接続されている状態でリモートエアコンシステム（→P.328）を使用すると、主に外部電源の電力を使用して車内を空調できるため、出発直後の駆動用電池の電力消費を抑制できます。
- タイマー設定時、充電モードを “出発” に設定し、エアコン連動を ON にしておくことで、“出発” に設定した時間に併せて、あらかじめ車内を空調しておくことができ、出発直後のエアコンの負荷を低減することができます。（→P.102）

## タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、電費悪化につながります。
また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では電力消費量が大きくなります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

## 荷物

重い荷物が積まれていると、電費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。

## 走行可能距離について

**マルチインフォメーションディスプレイに表示される走行可能距離は、現在どのくらい走行が可能かの目安を示しており、表示の距離を実際に走行できない場合があります。**

### 表示値について

マルチインフォメーションディスプレイには、駆動用電池の残量や状態から十分な走行性能が出せる値を推進して表示しています。（→P.142）
低温時には、駆動用電池残量が残っていても、走行距離がなくなる場合があります。早めに充電してください。

### 走行できる距離を伸ばすためのヒント

走行できる距離は、運転のしかた・道路状況・天候や気温・電装品の使用状況・乗員数などに大きく左右されます。

次のことに気を付けて運転していただくと、より走行できる距離を伸ばすことが可能です。

- 車間距離を十分にとり、不要な加減速をしない
- むだな加減速をくり返さない
- 走行中は、一定の速度で走行することを心がける
- エアコンを適切に使用し、過剰または不要な冷房・暖房は避ける
- 指定されたサイズのタイヤを使用し、タイヤの空気圧を適正に維持する
- 不要な荷物を積まないように心がける

### 充電が完了したときの表示について

車両の充電が正しく完了したかどうかは、次のことで確認できます。

- 普通充電ポートの充電インジケーターが消灯する
- パワースイッチがOFFの状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイに“充電結果のお知らせ　充電完了しました”と表示される（→P.87）

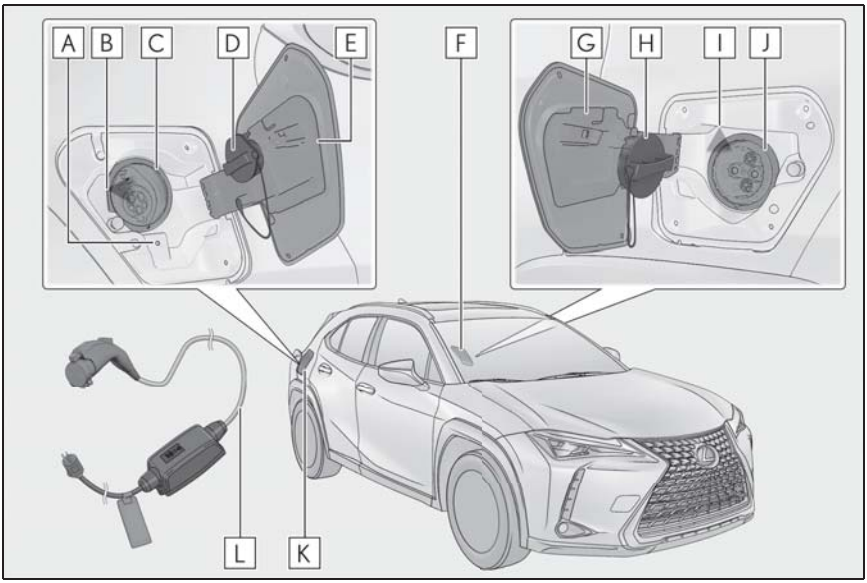
接続する電源やタイマー充電機能の使用に関わらず、上記のことが確認できれば正しく充電されています。

充電に関するメッセージについて：→P.127

## 充電に関する装備について

この車両には外部電源と車両とを接続するための普通充電ケーブルなどが装備されています。

### 充電装備と名称




A 普通充電インジケーター（→P.70）

B 普通充電インレット照明

C 普通充電インレット

D 普通充電インレットキャップ

E 普通充電リッド（→P.69）

F 急速充電ポート

G 急速充電リッド（→P.69）

H 急速充電インレットキャップ

I 急速充電インレット照明

J 急速充電インレット

K 普通充電ポート

L 普通充電ケーブル（→P.71）

## 充電リッドの開閉

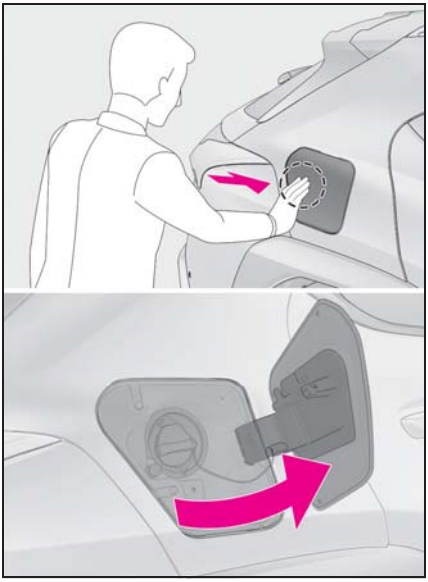
普通充電リッドと急速充電リッドの開閉操作は同様です。

### ■ 充電リッドの開け方

ドアを解錠することで、充電リッドを解錠する。（→P.156）

充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押し、充電リッドを開ける。

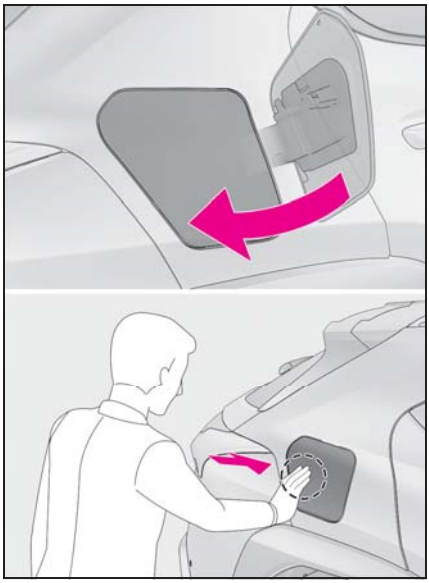
押して手を離すと、充電リッドが少し開きます。その後、手で全開にします。



### ■ 充電リッドの閉め方

充電リッドを閉め、充電リッドの車両後端（図に示す位置）を押す

ドアを施錠すると、充電リッドも施錠されます。



知識

**■充電リッドの施錠について**

●次のような場合には、充電リッドが施錠されます。
・ワイヤレスリモコンでドアを施錠する
・スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠する
・メカニカルキーでドアを施錠する

●解錠操作後ドアおよび充電リッドを開けなかったときは、ドアが自動的に施錠されることにより、充電リッドも施錠されます。

●ドアが施錠されている状態で、充電リッドを閉めた場合は、充電リッドが施錠されません。その場合は、ドアを再度施錠することで、充電リッドを施錠することができます。

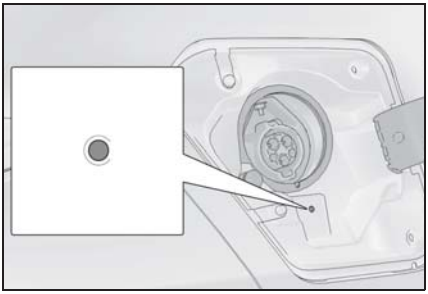
●普通充電コネクターが施錠されると、急速充電リッドも施錠されます。

■充電リッドが開かないとき

→P.435

## 普通充電インジケーター

点灯・点滅パターンの変化により、次のように充電に関する状況をお知らせします。



| 点灯・点滅パターン | 車両の状況 |
|---|---|
| 点灯 | ・普通充電中<br>・普通充電が可能な状況のとき<br>・駆動用電池ヒーター（→P.84）の作動中<br>・駆動用電池冷却（→P.84）の作動中 |
| 点滅（通常）※ | 充電スケジュール（→P.102）が登録されている状態で、普通充電ケーブルを車両に接続したとき（普通充電時のみ） |
| 速い点滅※ | 電源または車両の異常などにより普通充電ができない状況（→P.122）のとき |
| 消灯 | ・普通充電コネクターが普通充電インレットに挿し込まれていないとき<br>・タイマー充電（→P.102）の待機中<br>・普通充電が終了したとき |

※一定時間点滅したあと、消灯します。

知識

■普通充電ポートの充電インジケーターについて

普通充電中・リモートエアコンシステムの使用中にシステム異常などが発生した場合は、一定時間速い点滅をしたあとで消灯します。

その場合、パワースイッチがOFFの状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示されたメッセージの内容に従って、それぞれ対処してください。

## 普通充電ケーブル★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**普通充電ケーブルの機能や正しい取り扱い方法などについて説明しています。**

### 警告

**■普通充電ケーブル・コントロールユニットを取り扱うとき**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットの分解・修理・改造をしない
  普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常が認められた場合は、ただちに使用を中止してレクサス販売店にご連絡ください。
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに強い衝撃を与えたり落としたりしない
- 普通充電ケーブルを無理に折り曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、引きずるなどの負担をかけない
- 普通充電ケーブルを鋭利なもので傷付けたりしない
- 電源プラグの端子を折り曲げたり異物を付けたりしない
- 普通充電コネクター・電源プラグを水に浸けない
- 普通充電ケーブルを熱器具等の高温物に近付けない
- 普通充電ケーブル・電源プラグコードに負荷をかけない（コントロールユニット・普通充電コネクターに普通充電ケーブルを巻き付けるなど）
- コンセント・電源プラグに負荷がかかる状態で使用したり、放置したりしない（コントロールユニットが接地せず、宙吊りになっているなど）

### 注意

**■普通充電ケーブルの取り扱いに関する注意**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、普通充電ケーブルや普通充電インレットの故障につながるおそれがあります。

- 普通充電コネクターは、斜めになったり傾いたりしないよう、普通充電インレットにまっすぐ挿し込む
- 普通充電コネクターを挿し込んだあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけたり、こじったりしない。また、体や荷物などをぶつけないように注意する
- 普通充電ケーブルを踏んだり、つまずいたりしないように注意する
- 普通充電コネクターを取りはずす前に、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する（→P.76）
- 普通充電ケーブルを取りはずしたあとは、すみやかに所定の位置に片付ける
- 普通充電コネクターを取りはずしたあとは、普通充電インレットキャップを確実に取り付ける

**■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき**

→P.90

注意

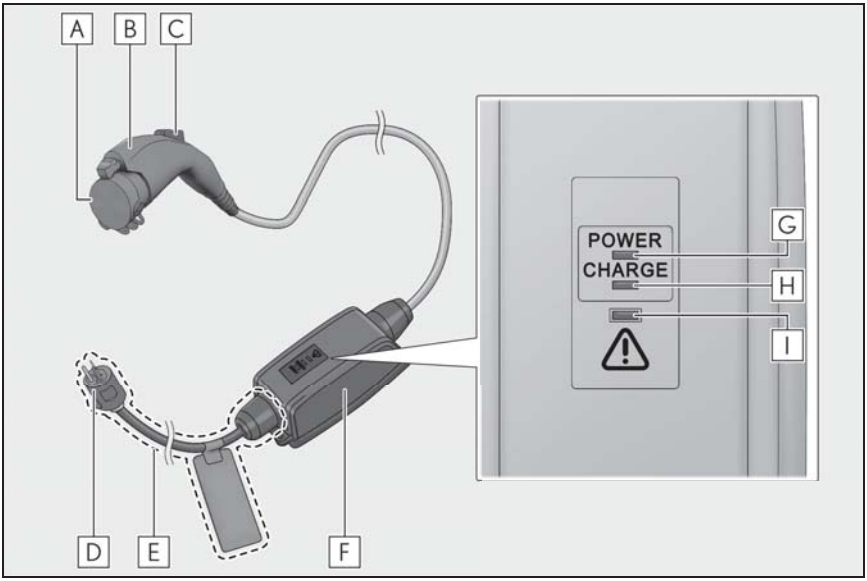
■寒冷時の注意

寒冷時は、普通充電ケーブル・電源プラグコードが通常より固くなることがあるため、固くなった状態で無理な力をかけないでください。普通充電ケーブル・電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

■電源プラグコードについての注意

電源プラグコードは充電以外の用途で使用しないでください。電源プラグコードの損傷につながるおそれがあります。

## 各部の名称




A 普通充電コネクターキャップ

B 普通充電コネクター

C ロック解除ボタン

D 電源プラグ

E 電源プラグコード

F コントロールユニット

G 電源インジケーター（→P.73）

H 充電インジケーター（→P.73）

I エラーインジケーター（→P.73）

## 安全機能について

普通充電ケーブルに取り付けられているコントロールユニットは、次のような安全機能を備えています。

### ■ 漏電検知機能

充電中に漏電を検知すると、自動的に電気を遮断し、漏電による感電や火災などを未然に防ぎます。

漏電検知機能により電気が遮断された場合は、エラーインジケーターが点滅します。（電気が遮断された場合の対処方法については、P.74 を参照してください）

### ■ 自動チェック機能

漏電検知機能の作動に問題がないか、充電開始前に自動でシステムチェックが実施されます。

システムチェックの結果、漏電検知機能の異常が検出されると、エラーインジケーターの点滅でお知らせします。（→P.74）

### ■ 温度検知機能

電源プラグに温度検知機能が搭載されており、充電中、コンセント側のゆるみなどにより電源プラグ部が発熱した場合に、充電電流を制御することで発熱を抑制します。

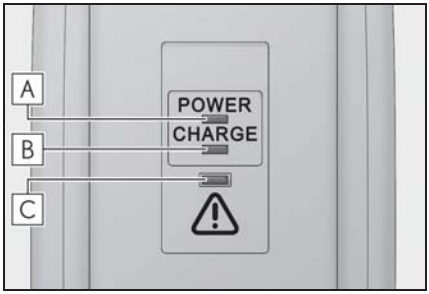
### ■ 車両との通電の条件

電源プラグがコンセントに挿してあっても、普通充電コネクターが車両に接続されていないと、普通充電コネクターに通電されない構造になっています。

## コントロールユニット上のインジケーターについて

### ■ 各インジケーターの働き

3 つのインジケーターで、それぞれ次の状態を示します。




A 電源インジケーター

コントロールユニットに通電しているときに点灯します。

B 充電インジケーター

充電中に点灯します。

C エラーインジケーター

漏電が発生したとき、またはコントロールユニットに異常が発生したとき点滅します。

### ■ 充電時に異常が発生したとき

コントロールユニット上のインジケーターの点灯・点滅状態の組み合わせにより、異常の内容をお知らせします。

エラーインジケーターが点灯・点滅したときは、いったん電源プラグをコンセントから抜き、再度コンセントに挿し込んで、エラーインジケーターが消灯するか確認してください。

エラーインジケーターが消灯していれば、そのまま充電が可能です。

消灯しない場合は、次の表に従って対処してください。

| 状況 | 電源インジケーター | エラーインジケーター | 原因・対処 |
|---|---|---|---|
| 充電システムエラー | 消灯 | 消灯または点灯 | 漏電を検知して充電を中断しているか、普通充電ケーブルが故障しています。<br>**→ レクサス販売店にご相談ください。** |
| | 点灯 | 点滅 | |
| 電源プラグ温度検知異常 | 点滅 | 点滅 | 電源プラグの温度検知部品が故障しています。<br>**→ レクサス販売店にご相談ください。** |
| 電源プラグ温度上昇検知 | 点滅 | 消灯 | コンセントと電源プラグとの接触不良などにより、電源プラグの温度上昇を検知しました。<br>**→ 電源プラグがコンセントに確実に挿し込まれているか確認してください。** |
| 普通充電ケーブル寿命予告 | 点灯 | 点滅 | 普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限に近付いています。<br>**→ レクサス販売店にご相談ください。** |
| 普通充電ケーブル寿命 | 点灯 | 点灯 | 普通充電ケーブルの充電回数が、使用可能な上限をこえています。<br>**→ レクサス販売店にご相談ください。** |

## 普通充電ケーブルの点検・お手入れ

安全にお使いいただくために、日常的に次の事項を点検してください。

**警告**

**■日常点検について**

定期的に次のことを確認してください。

点検をしないで使い続けると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットに破損などがないこと
- コンセントに破損がないこと
- コンセントの挿し込みがゆるくなっていないこと
- 充電中に電源プラグが極端に熱くならないこと
- 電源プラグの刃が変形していないこと
- 電源プラグにほこり等の汚れがないこと

電源プラグはコンセントから抜いて点検してください。また、点検の結果、普通充電ケーブルに異常が見つかった場合は、ただちに使用を中止して、レクサス販売店にご相談ください。

**■普通充電ケーブルのお手入れについて**

汚れたときは固くしぼった布で汚れをふき取ったあと、乾いた布でから拭きしてください。

なお、水洗いは絶対に行わないでください。普通充電ケーブルを水洗いすると、充電時に火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■長期間普通充電ケーブルを使用しないとき**

電源プラグをコンセントから抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこりがたまり、過熱や発火の原因となります。

また、普通充電ケーブルは水気がない場所で保管してください。

## 普通充電コネクターの施錠・解錠

**普通充電中の充電コネクターの取りはずしや、第三者による充電ケーブルの持ち去りなどのいたずらなどを回避することができます。**

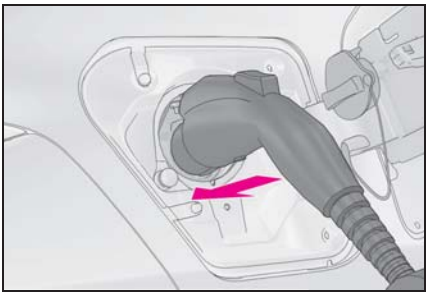
### 普通充電リッドを解錠するには

→P.69

### 普通充電コネクターを施錠・解錠するには

■ **施錠するときは**

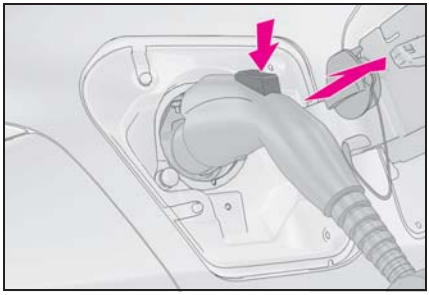
普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込むと、自動的に施錠されます。



■ **解錠するときは**

車両のドアが解錠されると、普通充電コネクターが解錠されます。
→P.156

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。



■ **普通充電コネクターの施錠・解錠方法を変更するには**

マルチインフォメーションディスプレイの画面で、普通充電コネクターの施錠・解錠方法を次のように変更することができます。

設定操作のしかたについては、P.449 を参照してください。

車両に普通充電ケーブルが接続されていると、普通充電コネクターの施錠・解錠の設定を変更できません。

| 設定 | 作動内容 |
|---|---|
| オートロック（初期設定） | 普通充電コネクターを接続すると自動で施錠される |
| オートロック＆アンロック | 普通充電コネクターを接続すると自動で施錠され、充電終了後は自動的に解錠される ※1,2 |
| OFF | 普通充電コネクターのロックシステムを使用しない |

※1 オートロック後に停電などで電源が遮断されると、普通充電コネクターが解錠されます。

※2 オートロック（初期設定）と同様の操作で普通充電コネクターを解錠するこ

ともできます。

知識

■普通充電コネクターの施錠機能について

●普通充電コネクターの抜き差しをくり返すと、普通充電コネクターのロックシステムがシステムを保護するために、一時的に作動しないことがあります。この場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●普通充電コネクターの施錠機能は、普通充電ケーブルの盗難防止を保証するものではありません。また、すべてのいたずら行為に効果を発揮するものではありません。

●普通充電コネクターを解錠する際に、ドアが解錠されている状態で、普通充電コネクターが施錠されている場合は、次の操作で解錠できます。

・ワイヤレスキーを使用する：解錠ボタンを押してドアを解錠する。（→P.156）

・スマートエントリー＆スタートシステムを使用する：一度ドアを施錠してから再度解錠していただく必要があります。（→P.156）

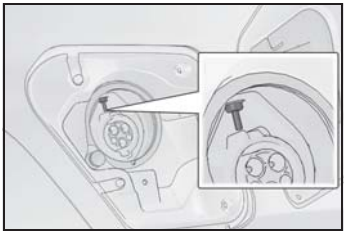
■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内に普通充電コネクターを取りはずさなかったときは、普通充電コネクターが再度、施錠されます。

■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき

コネクターロックピンが下がっていないか確認してください。

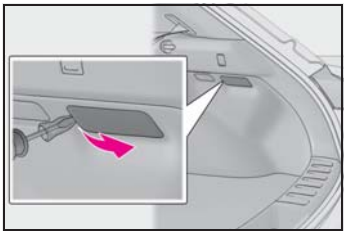
コネクターロックピンが下がっている場合は、ドアを解錠してコネクターロックを解錠し、コネクターロックピンが上がっている状態にしてください。



■普通充電コネクターを解錠できないとき

通常の操作で普通充電コネクターを解錠できないときは、コネクターロック緊急解除レバーを操作して、普通充電コネクターを解錠することができます。

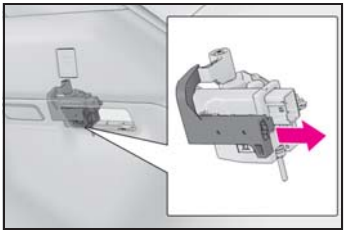
**1** 図に示すカバーを取りはずす



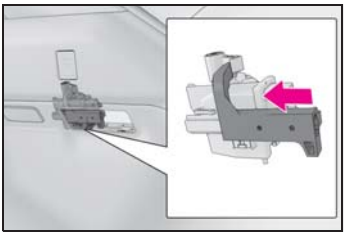
**2** コネクターロック緊急解除レバーを矢印の方向に動かす ※

普通充電コネクターが解錠され、普通充電コネクターの取りはずしが可能になります。

※ 必ず矢印の方向に操作してください。操作し始めた際に “カチッ” という音がしても、緊急レバーが動かなくなるまで動かしてください。また、矢印の向き以外に力をかけると、コネクターロック緊急解除レバーが損傷するおそれがあります。



3 緊急解除レバー操作後は、“カチッ”という音がするまでリンクを元の位置に押し戻して下さい。



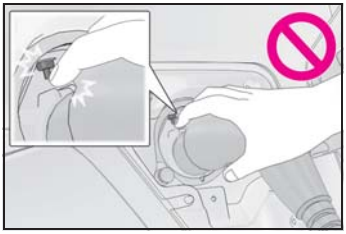
この方法は、緊急時の一時的な対処です。異常が解消しない場合は、すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

通常の操作で普通充電コネクターを解錠できるときは、緊急解除レバーを操作しないでください。

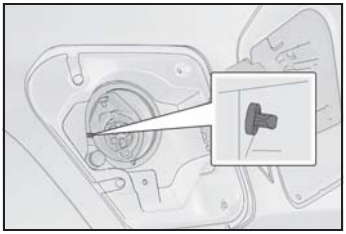
**警告**

**■普通充電インレットに普通充電コネクターを接続するとき**

●コネクターロック部に手を入れないでください。コネクターロックピンに挟まれ、けがをするおそれがあり危険です。



●充電リッドロック部にふれないようにご注意ください。コネクターロック作動時、充電リッドロックピンも作動するため、手にあたり、けがをするおそれがあり危険です。



**注意**

**■普通充電コネクターを施錠するとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、コネクターロックシステムの故障の原因となります。

●普通充電コネクターがこの車両に適合していることを確認する
異なるタイプの普通充電コネクターや、挿入部が破損・変形した普通充電コネクターなどは、施錠できない可能性があります。

注意

●普通充電コネクターを施錠したあとは、普通充電コネクターに無理な力をかけない
普通充電コネクターを取りはずすときは、必ずコネクターロックを解除してください。

## 接続可能な外部電源について

**この車両を充電するための外部電源は、ここで説明する要件を備えている必要があります。**

**充電作業を行う前に、あらかじめ次の事項をご確認ください。**

警告

**■電気事故についての警告**

車両の充電を行うときは、必ず本書に記載されている注意事項をお守りください。

必要要件を満たしていない電源を使用したり、記載されている禁止事項を守らずに充電を行ったりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

知識

**■契約電力について**

自宅の電源で充電する際は、契約電力※をご確認ください。

充電するには、100V 換算での契約容量が必要となります（例えば 200V 電源で 16A の場合、100V 換算で 32A となります）。必要な電力に応じた契約電力でないと、充電時にブレーカーが作動する場合があります。

※電力会社との電気契約の変更が必要になる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

**■充電環境について**

●必要な電力に対応した専用の普通充電器（スタンド）、または車両に搭載されている普通充電ケーブルを使用して、

充電を行ってください。

・200V 電源で 30A に対応した充電器（スタンド）を使用した場合、約 6kW で充電されます。
・200V 電源で 16A に対応した普通充電器（スタンド）または普通充電ケーブルを使用した場合、約 3kW で充電されます。

● 自宅で普通充電器（スタンド）を使用して充電するには、普通充電器（スタンド）の設置が必要です。普通充電器（スタンド）の設置については、販売業者にお問い合わせください。

## 電源について

● 充電用コンセントには、必ず専用回路を設置してください。

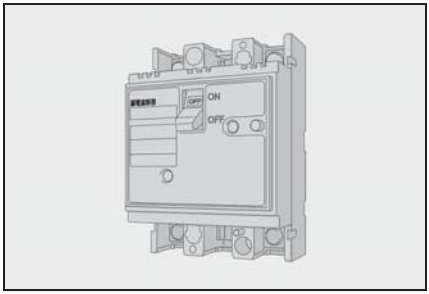
● 200V 電源で 16A（100V 換算で 32A）の電流が流れてもブレーカーが作動しない（電流が遮断されない）コンセントに接続してください。※

※ 電力会社との電気契約の変更が必要となる場合があります。電気契約に関するご相談については、ご契約中の電力会社にお問い合わせください。

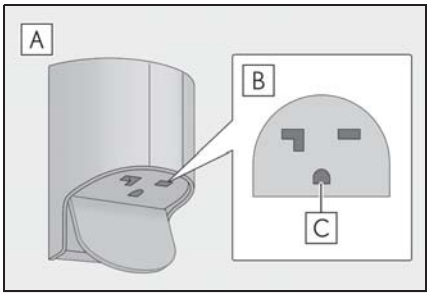
● 分岐回路内に専用の漏電遮断器が設置されていることを確認してください。

もし設置されていない場合は、必ず設置した上で車両の充電を行ってください。※

※ 建物の電気工事や、電流容量などのご相談については、電気工事業者などにお問い合わせください。




● EV専用コンセントに接続してください。




A EV 専用コンセントの例

推奨コンセント型式：

パナソニック製 WK4322

B コンセント極配置 ※

JIS C 8303

2 極 接地極（アース）付コンセント

20A 250V

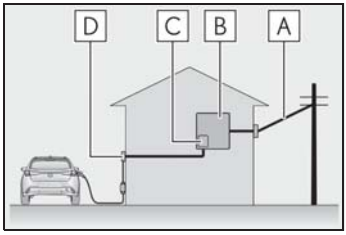
C 接地極（アース）

※ 図は代表的な形状を示したもので、実際のコンセントとは形状が異なる場合があります。

知識

### ■自宅の電源（コンセント）と普通充電ケーブルを使用して充電するとき

より安全に充電を行うために、次のような充電設備を設置することをおすすめします。※




A 電線

B 分電盤

C 分岐専用回路内高速高感度形漏電遮断器

万一、漏電が発生したときに住宅全体が停電する可能性を低減します。また、漏電発生時における人体への影響を最小限に抑えることができます。

D 専用コンセント（→P.80）

専用コンセントは日々の使用に対する耐久性が確保されており、充電中に電源プラグがコンセントから脱落するのを防ぎます。

※ 手元スイッチを使うと、スイッチ操作でコンセントへの電気が遮断できるため、電源プラグの抜き挿しをより安全に行うことができます。

**警告**

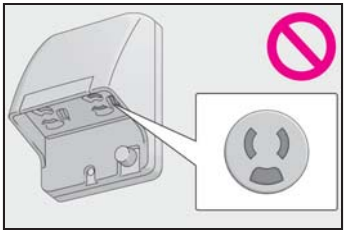
**■電源についての警告**

充電時に使用する外部電源については、必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

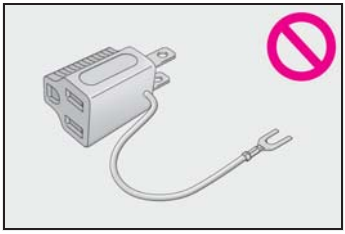
●安全のため、必ず接地極（アース）付きのコンセントに接続してください。

●必ずブレーカーおよび漏電遮断器が設置されたコンセントを使用してください。
ブレーカーがないと、ショートなど異常時の過電流に対して安全を確保できません。

●抜止形のコンセントは耐久性が十分ではない場合があるため、充電用コンセントとしては常用しないでください。



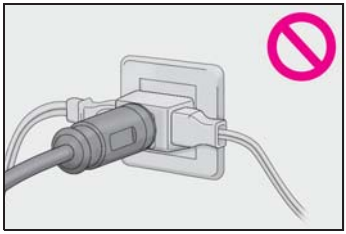
●コンセントと電源プラグは、必ず直接接続してください。
コンセントとのあいだに分岐アダプターを接続したり、変換アダプターなどを接続したりしないでください。



**警告**

- 必ず車両に搭載されている普通充電ケーブルで届く範囲のコンセントに接続し、延長コードは使用しないでください。
  延長コードを使用すると、異常発熱や漏電検知機能（→P.73）が働かなくなるなどの原因になります。

- 分岐用コンセントには接続しないでください。



- 普通充電コネクターと普通充電インレットは、必ず直接接続してください。
  普通充電コネクターと普通充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

## 充電方法について

**この車は、次の方法で駆動用電池を充電することができます。**

### 充電方法の種類

#### ■ 普通充電（→P.90）

AC コンセントと車両に付属している普通充電ケーブル、または普通充電器（スタンド）などで行う充電方法です。

充電開始時刻（または出発時刻）・曜日を設定しておくことで、ご希望の日時にタイマー充電を行うことも可能です。（→P.102）

#### ■ 急速充電（→P.97）

CHAdeMO( チャデモ )※ 規格に準拠した急速充電器（スタンド）を使用して行う充電方法です。普通充電にくらべて短時間で駆動用電池を充電できます。

※ CHAdeMO はチャデモ協議会が提案する商標名です。

## 充電時間の目安

駆動用電池の充電に必要な時間は、供給電圧と充電電流によって異なります。

| 接続電源 | 充電器（スタンド） | | | | 普通充電ケーブル |
|---|---|---|---|---|---|
| | 急速充電 ※6 | | 普通充電 | | |
| 供給電圧 | - | | 200V 電源 | | 200V 電源 |
| 充電電流 ※1 | 最大 125A | | 30A | 16A | 16A |
| 充電時間 ※2, 3 | 約 50 分 ※4 | 約 80 分 ※5 | 約 7 時間 30 分 | 約 14 時間 | 約 14 時間 |

※1数値は最大値です。なお、“車両設定”で充電電流の上限値を変更できます。（→P.93）

※2駆動用電池の残量・外気温・充電器（スタンド）の仕様などの条件により、充電完了までに必要な時間はかわります。

※3マイルームモードを使用しているときは、充電完了までの時間が長くなる、または充電が完了しない場合があります。

※4駆動用電池の満充電量の約 75% まで充電するのに必要な時間

※5駆動用電池を 100% まで充電するのに必要な時間

※6急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがあります。

知識

**■充電時間が長くなるとき**

次のような場合は、充電時間が通常より長くなることがあります。

- 低温または高温の環境下にあるとき
- 車両の電力消費量が大きいとき（ヘッドランプが点灯しているときなど）
- マイルームモードを使用しているとき
- 充電中に停電したとき
- 電源が切れたとき
- 外部電源の供給電圧が低下したとき
- 車両を長期間放置したことなどにより、補機バッテリーの充電量が低下したとき
- “車両設定”で充電時の最大電流を8Aにしたとき ※
- 駆動用電池ヒーターが作動したとき
- 充電前に駆動用電池冷却（→P.84）が作動したとき
- 接続先のコンセントなどに問題があるとき
- 高負荷走行の直後などで駆動用電池の温度が高いとき
- 普通充電器（スタンド）・急速充電器（スタンド）で供給電力を調整しているとき
- ひんぱんに急速充電をくり返したとき

※ 普通充電時のみ

■充電電力について

この車両は最大約 6kW の充電が可能です。

ただし、使用する普通充電器（スタンド）、または普通充電ケーブルによっては、充電電力が制限される場合があります。

## 充電に連携する機能について

この車両には、充電に連携する各種の機能が搭載されています。

### ■ マイルームモード（→P.117）

車両に普通充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力※で、車両のエアコンやオーディオなどの電装品を使用できます。

※ 状況により、駆動用電池の電力が消費される場合があります。

### ■ 駆動用電池ヒーター

外気温が低い場合、車両に充電ケーブルが接続されていると、駆動用電池が一定以上の温度になるように、自動で昇温します。

- 車両から充電ケーブルをはずす、または充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- タイマー充電時（→P.102）は、タイマー設定内容に応じて作動します。

### ■ 駆動用電池の温度調整システム

車両に充電ケーブルを接続したまま、およそ 3 日が経過すると、駆動用電池ヒーターが自動で停止し、システムが作動します。外気温が極めて低いとき、自動で駆動用電池を保護します。

- 車両に充電ケーブルを接続したまま、31 日が経過すると、システムが自動で停止します。
- システムが作動すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

### ■ 駆動用電池冷却

駆動用電池の温度が高いとき、車両に普通充電ケーブルが接続されていると、充電前に駆動用電池を冷却し、保護します。

高速道路で高い速度で連続運転するときや急速充電中などの場合には、作動することがあります。

知識

■駆動用電池ヒーターについて

- 充電中以外でも作動する場合があります
- 駆動用電池ヒーターの作動中は、充電インジケーターが点灯します。
- 充電中に駆動用電池ヒーターが作動すると、通常よりも充電時間が長くなる場合があります。
- 駆動用電池ヒーターが作動すると、駆動用電池の残量が低下するため、駆動用電池の残量を補うために再度充電を行うことがあります。

■駆動用電池冷却について

- 普通充電のみ：マルチインフォメーションディスプレイで “駆動用電池冷却” の設定変更が可能。
- 駆動用電池冷却の待機中、または作動中のときは、普通充電インジケーターが点灯します。
- 駆動用電池冷却は、最大で約 30 分作動します。ただし、充電モード（→P.102）を “出発” に設定したと

きは、現在時刻から充電完了までの所要時間に十分な余裕がない場合、駆動用電池冷却の作動時間が短くなります。

●駆動用電池の残量が少ないときは、駆動用電池が高温であっても、駆動用電池冷却が作動しない場合があります。

●駆動用電池冷却の作動中に次の操作を行うと、駆動用電池の冷却作動が停止します。
・ボンネットを開けたとき
・パワースイッチを OFF 以外にしたとき
・シフトポジションを P 以外にしたとき
・リモートエアコンシステム（→P.328）を作動させたとき
・“今すぐ充電”（→P.102）を実施したとき
・駆動用電池の残量が一定未満になったとき

●駆動用電池冷却は、駆動用電池と外部電源からの電力を利用します。
・駆動用電池冷却の作動中は、駆動用電池残量が一定の幅で増減し、通常普通充電時のように駆動用電池残量が増加しません。
・駆動用電池冷却の作動中も、普通充電器（スタンド）からは充電中と認識されます。
よって、充電時間に応じて課金される普通充電器（スタンド）では、駆動用電池冷却の作動中にも課金が発生します。

■**駆動用電池冷却の設定を変更するには**

1 メーター操作スイッチの＜または＞を押して⚙を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“車両設定”を選択し、“OK”を押す

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“充電設定”を選択し、“OK”を押す

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“電池冷却”を選択し、“OK”を押す

5 “On”または“Off”を押して“OK”を押す

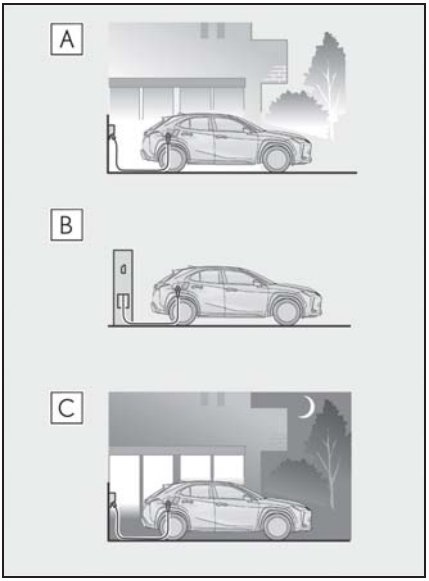
“Off”を選択すると、走行状況に応じて駆動用電池の出力を制限される場合があります。

## 充電に関するアドバイス

**この車両の充電機能を活用する方法や、充電に関する情報の確認方法などを説明しています。**

### 上手に充電するには

出発前・ドライブ中など、電気自動車の状況に応じて充電機能を使い分けると便利です。




**A** お出かけの前に

電気自動車を使用するために、お出かけの前には普通充電で駆動用電池を充電しましょう。（→P.90）

タイマー充電機能（→P.102）を使えば、ご希望の出発時刻に合わせて自動で充電が完了するように設定することができます。また、お出かけの時刻に合わせて、自動でエアコンを作動させ、あらかじめ車内を快適な状態にしておくことも可能です。

**B** ドライブの途中で

ドライブ中に駆動用電池の残量が少なくなったら、最寄りの充電設備で駆動用電池を充電しましょう。急速充電時は、約50 分で、駆動用電池の満充電量の約75% まで充電されます。（→P.83）

**C** 帰宅したら

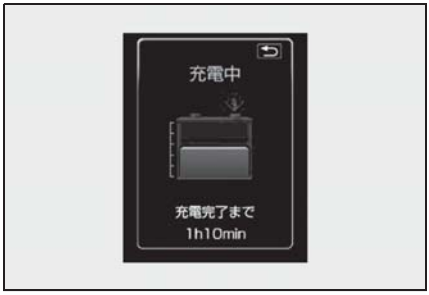
次回のドライブのために、駆動用電池を充電しておきましょう。

充電スケジュールを登録しておけば、深夜・早朝などのご希望の時間に駆動用電池を充電できます。なお、タイマー充電は、毎日、またはご希望の曜日の同じ時刻に、自動で充電されるように設定することも可能です。（→P.102）

### 充電に関する情報を確認するには

車両のマルチインフォメーションディスプレイで、充電に関する各種の情報を確認できます。

■ **充電中は**




充電中にいずれかのドアを開けると、現在の充電状態と充電完了までに必要な時間の目安※ が表示されます。

充電電流が小さくなり、充電時間が長くなると、充電完了するまでの時間が表示されない場合があります。

※ 急速充電中、充電完了までに必要な時

間の目安は表示されません。

### ■ 充電が終わったあとは

充電終了後、パワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、充電結果についてのメッセージが表示されます。また、充電停止となる操作をしたときや、充電できない状況が発生した場合などには、メッセージが表示されます。

表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ必要な操作を行ってください。(→P.127)

## 充電の前に知っておいていただきたいこと

**車両に充電ケーブルを接続して充電を行う前に、必ず次の事項をご確認ください。**

知識

### ■充電電流について

普通充電の最大電流は 30A です。ただし、普通充電器（スタンド）の最大電流によっては、充電電流は 30A よりも小さくなることがあります。

### ■安全機能について

- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、パワースイッチを操作しても EV システムを始動することはできません。
- READY インジケーターが点灯しているときに充電ケーブルを接続すると、EV システムは自動的に停止し、走行できなくなります。
- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、シフトポジションを P 以外に切りかえることはできません。

**警告**

### ■充電するときの警告

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、充電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

- 充電時は、普通充電器（スタンド）、急速充電器（スタンド）、充電ケーブルに近付かないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

**警告**

- 充電中は車内にとどまらないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、ラゲージルームなど含めた車内に入り込まないでください。充電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

**■車両に充電ケーブルが接続されているとき**

シフトポジションを操作しないでください。

万一、急速充電コネクターが故障していた場合、シフトポジションがPからほかのシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

## 充電に関する留意事項

この車は一般家庭用のACコンセントに接続して駆動用電池を充電できますが、一般的な電気製品と次の点が大きく異なるため、取り扱いを誤ると火災や感電事故が発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 普通充電時は、大電流で長時間電流が流れる（→P.79）
- お客様の充電環境によっては、屋外で充電作業を行う

充電作業は、本書で説明している内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- お子さまなど、不慣れな方だけで充電作業を行わないでください。また、普通充電ケーブルは幼児の手の届かない場所で保管してください。
- 充電器（スタンド）で充電する場合は、機器の使用手順に従って作業を行ってください。
- 公共の普通充電器（スタンド）で充電する場合は、タイマー充電の設定状態を確認してください。

・充電スケジュールが登録されているときは一時的にOFFにするか、“今すぐ充電”をONにしてください。（→P.108, 115）

・充電スケジュールがONになっていると、普通充電ケーブルを接続しても充電が開始されません。また、充電が開始しなくても、普通充電ケーブルを接続したことで課金される場合があります。

## 充電前の重要確認事項

必ず次の点をご確認ください。

- パーキングブレーキが確実にかかっていること（→P.212）
- ヘッドランプ、非常点滅灯・室内灯などのランプ類が消灯していること

ランプ類が点灯していると、それらの機器に電力が消費され、充電時間が長くなります。

- パワースイッチがOFFになっていること（→P.202）

## 普通充電ケーブルの点検

充電の前に、普通充電ケーブル各部の状態に異常がないかご確認ください。（→P.74）

知識

■普通充電・急速充電について

普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。2 つある充電インレットの両方に充電ケーブルを接続しても、いずれか一方のみで充電されます。

■駆動用電池の容量低下について

駆動用電池は使用していくうちに、徐々に電池容量が低下していきます。低下する割合は車の使い方、使用環境により異なります。電池容量の低下を抑えるために、次のことを心がけてください。

- 満充電状態での高温炎天下での駐車は極力避ける
- 走行中にひんぱんな急加速、急減速をしない
- 最高車速付近での走行を控える
- 充電は走行開始前に満充電になるよう、タイマー充電（→P.102）を活用する
- ひんぱんな急速充電は避ける

なお、電池の容量が低下すると走行できる距離が減少しますが、車両性能などが著しく低下するものではありません。

■充電後に駆動用電池の残量が低下するとき

次の場合、システムの保護のために、充電完了後の駆動用電池の残量が通常よりも少なくなる（満充電後の走行可能距離が短くなる）※ ことがあります。

- 気温が低い、または高い環境で充電したとき
- 高負荷走行の直後、かつ炎天下で充電したとき

上記に該当しないのに、充電完了後の駆動用電池残量が大幅に低下したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

※ この場合、駆動用電池の残量表示が満充電になっていても、通常よりも早く残量が低下します。

■駆動用電池への充電量が減少するとき

普通充電器（スタンド）の供給電力が小さい、または駆動用電池ヒーターの作動等により駆動用電池への充電電力が小さくなった場合、駆動用電池への充電量が減少することがあります。

## 普通充電のしかた

**ここでは、車両に付属の普通充電ケーブルを使用して普通充電する手順を説明しています。**

**充電設備を利用する際は、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法をご確認ください。**

充電スケジュールが登録されているときは、“今すぐ充電”をONにしてから充電を実施してください。（→P.108, 115）

注意

**■普通充電ケーブルや関連部品などを取り扱うとき**

普通充電ケーブルや充電関連部品などの損傷を防ぐため、取り扱いの際は次のことをお守りください。

- 充電を中断・終了するときは、電源プラグを抜く前に普通充電コネクターを抜く
- 普通充電ケーブルを抜くときは、普通充電コネクターが解錠されていることを確認する
- 普通充電コネクターの保護キャップ・普通充電インレットキャップを無理に引っ張らない
- 充電中に普通充電コネクターを揺するなど振動を与えない
  充電を停止することがあります。
- 普通充電インレットに普通充電コネクター以外のものを挿し込まない
- 電源プラグをコンセントに抜き挿しするときは、必ず電源プラグ本体を持って操作する
- 普通充電インレットキャップを鋭利なもので傷付けたりしない
- ケーブルが引っかかったり、絡んだ状態から無理に引っ張らない
  絡んだ場合は、ほどいてから使用してください。
- 普通充電インレットの改造や分解、修理などは絶対にしないでください。
  思わぬ故障や事故の原因になって、重大な障害を受けるおそれがあり危険です。修理については、レクサス販売店にご相談ください。

### 充電前の重要確認事項

→P.87

### 充電するときは

1 普通充電ケーブルを用意する

2 普通充電ケーブルの電源プラグを外部電源のコンセントに挿し込む

必ず電源プラグ本体を持って、確実に奥まで挿し込んでください。

手元スイッチがある場合は、スイッチをONにしてください。

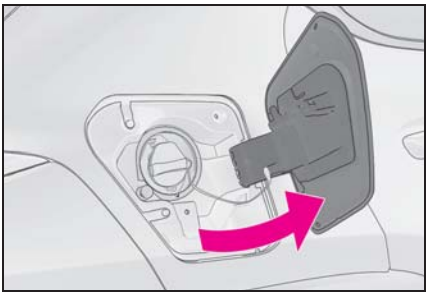
コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯していることを確認してください。（点灯していないときは、P.120を参照してください）

コンセントや電源プラグへの負荷を軽減するために、電源プラグを挿しているときは、ひもなどを使って、コントロールユニットをフック等に引っかけて使用してください。

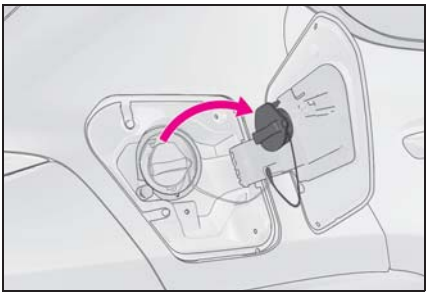
3 車両のドアを解錠して、普通充電リッドを開ける（→P.156）

普通充電リッド（車両の右側）を開けると、普通充電インレット照明が点灯しま

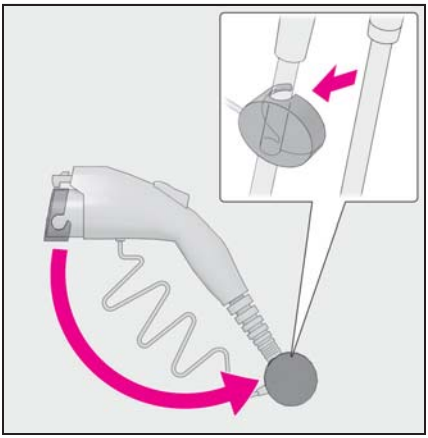
す。



4 普通充電インレットキャップをはずし、充電リッド裏側のホルダーに固定する



5 普通充電コネクターの保護キャップをはずし、ケーブルにかけて固定する

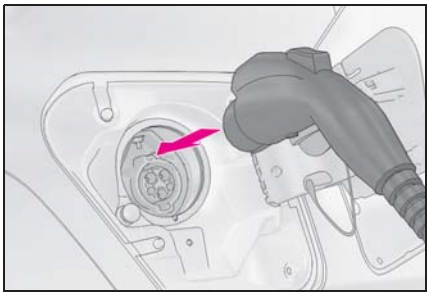


6 普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込む

普通充電コネクターの下側にあるガイドの位置を合わせて、まっすぐにいっぱいまで挿し込みます。

“カチッ” という音がして、普通充電コネクターが確実にロックされたことを確認してください。

普通充電コネクターを挿し込むと、自動的に施錠されます。(→P.76)



**7** 普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認する

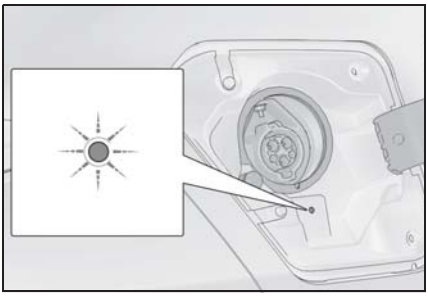
普通充電インジケーターが点灯していないときは、充電が開始されていません。（→P.70）

普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときは、充電スケジュールが登録されています。（→P.102）

充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したときは、P.74 の記載を確認し、対処してください。

充電が完了すると、充電インジケーターが消灯します。

充電完了前に何らかの理由により充電が停止したときも、充電インジケーターが消灯します。その場合は、P.120 の記載をご確認ください。



知識

**■普通充電中は**

- 車両の状態により、充電が開始されるまでの時間が異なる場合がありますが、異常ではありません。
- コントロールユニットの表面が温かくなることがありますが、異常ではありません。
- 電波の状況によっては、ラジオに雑音が入ることがあります。
- 普通充電中、ドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイの画面で、現在の充電状態や、充電完了までの時間の目安を確認することができます。（→P.86）
- 充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。

**■普通充電ケーブルの接続後に普通充電ポートの充電インジケーターが点滅したとき**

充電スケジュール（→P.102）が登録されている状態になっており、充電を開始することができません。タイマー充電をキャンセルして充電を開始したいときは、次のいずれかの操作を行ってください。

- “今すぐ充電” を ON にする（→P.108, 115）
- 普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているあいだに、接続した普通充電コネクターを取りはずして、約 5 秒以内に接続し直す

**■車を長期間使用しないとき**

→P.59

**■普通充電インレットに普通充電コネクターを挿し込めないとき**

→P.77

**■普通充電時の充電時間について**

→P.83

**■充電時間が長くなるとき**

→P.83

**■安全機能について**

普通充電コネクターを普通充電インレットに挿し込んだ状態でも、ロック解除ボタンを押しているあいだは、充電が開始されません。

なお、充電中に数秒程度ロック解除ボタンを押し続けると充電が中止されます。充電を再開したいときは、いったん普通

充電コネクターを抜いてから再度、普通充電コネクターを挿し直して、普通充電ポートの充電インジケーターが点灯することを確認してください。

### ■充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は

マルチインフォメーションディスプレイの“車両設定”で、普通充電時の充電電流の上限値を変更することができます。

1 メーター操作スイッチの<を押して>を押して⚙を選択し、“OK”を押す

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“車両設定”を選択し、“OK”を押し続ける

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“充電設定”を選択し、“OK”を押す

“充電設定”画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“充電電流”を選択し、“OK”を押す

“充電電流”画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“16A”または“8A”を選択し、“OK”を押す

充電時の最大電流が16A/8Aに制限されます。※

充電電流の上限値を変更しても、充電時に家庭のブレーカーが落ちる場合は、接続した電源が充電に必要な要件を満たしているか確認してください。(→P.80)

※ 充電電流を制限すると、充電完了までの時間は長くなります。

### ■充電量上限設定のしかた

マルチインフォメーションディスプレイの“車両設定”で、充電時の充電量の上限を変更することができます。

充電量上限で設定した値は普通充電、急速充電共通です。

1 メーター操作スイッチの<または>を押して⚙を選択し、“OK”を押す

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“車両設定”を選択し、“OK”を押し続ける

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“充電設定”を選択し、“OK”を押す

“充電設定”画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“充電量上限”を選択し、“OK”を押す

“充電電流”画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“Full／90%”または“90%”を選択し、“OK”を押す

“90%”を選択すると、充電量が90%を超えないように充電されます。

急速充電中に変更した場合、充電器（スタンド）のタイムアウトにより、満充電せずに途中で停止することがあります。

**⚠警告**

**■充電するときの警告**

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

- 必ず充電に必要な要件を満たす電源に接続する（→P.79）
- 充電前に普通充電ケーブル・電源プラグ・コンセントに変形・破損・水分・腐食・ほこり等の異物がないことを確認する
- 充電前に普通充電インレットに変形・破損・腐食・ほこり等の異物がないか、または雪・氷が付着していないことを確認する
  付着している場合は、普通充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。
- 普通充電インレットの端子部がぬれないようにする
- 挿し込みがゆるくなったコンセントは使用しない
- 過熱するおそれがあるため、普通充電ケーブルを束ねたり巻いたりした状態で充電しない
- 普通充電コネクター・普通充電インレットの端子に金属製の鋭利なもの（針金など）でふれたり、手でふれたり、異物でショートさせたりしない
- 屋外では必ず防雨形コンセントを使用する
  防雨スイッチプレートを確実に閉めてください。閉まらない場合は、新しいプレートに交換してください。
- 充電を中断するときは、普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う
- 充電中に発熱・発煙・異臭・異音などを発見したときは、ただちに充電を中止する
- コンセントが水没または雪に埋もれている場合は、電源プラグは挿さない
- 雨や雪の中で充電を行うときは、ぬれた手で電源プラグの抜き挿しを行わない。また、コンセントや電源プラグをぬらさない
- 落雷の可能性がある天候のときは充電を行わない
- 普通充電ケーブルをドアやバックドアで挟まない
- 普通充電ケーブルや電源プラグ・普通充電コネクター・コントロールユニットを車両で踏まない
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで挿し込む
- 延長コード・変換アダプターを使用しない
- 普通充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める
  冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- 普通充電ケーブルの接続後、どこかに巻き付いていないか確認する

**警告**

**■普通充電コネクターを接続するとき**

普通充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って普通充電コネクターを接続してください。普通充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず普通充電コネクターを車両の普通充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■充電時にコントロールユニット上のエラーインジケーターが点灯・点滅したときは**

電源経路に漏電が発生しているか、普通充電ケーブル・コントロールユニットに異常がある可能性があります。
P.74 の記載内容を確認し、対処してください。対処してもエラーインジケーターが消灯しない場合は、ただちに充電を中止し、普通充電ケーブルを取りはずして、レクサス販売店にご連絡ください。そのまま充電を続けると、思わぬ事故の発生や重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

**■車載充電器について**

モータールームに充電器があります。充電器については、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 充電時は高温になります。やけどをするおそれがあるため、ふれないでください。
- 分解・修理・改造しないでください。修理が必要な場合は、必ずレクサス販売店にご相談ください。

**注意**

**■充電時の注意**

普通充電インレットに電源プラグを挿し込まないでください。
普通充電インレットが故障するおそれがあります。

**■自家用発電機の使用について**

充電用電源に自家用発電機は使用しないでください。

安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したりするおそれがあります。

**■駆動用電池の充電について**

普通充電時、供給する電源が小さい、駆動用電池ヒーターもしくは他の電流の大きい機能を作動する場合、走行可能な距離は一時的に減る可能性があります。

**■充電設備について**

電力設備などが併設された環境では、ノイズにより安定した充電ができなかったり、電圧が足りず、普通充電ケーブルのコントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅したりするおそれがあります。

## 充電したあとは

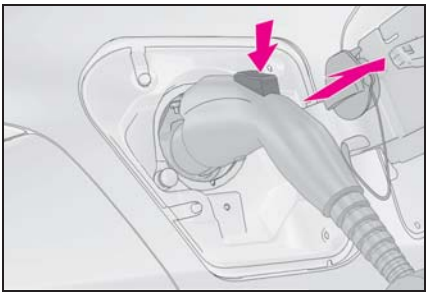
**1** 車両のドアを解錠して、普通充電コネクターを解錠する
(→P.156)

ドアを解錠すると、普通充電コネクターも解錠され、普通充電インレット照明が

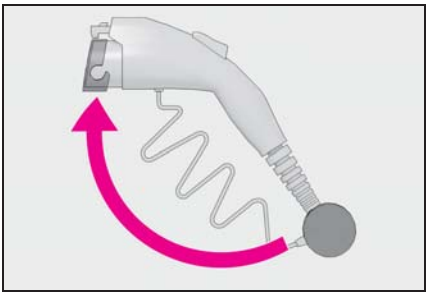
点灯します。

**2** ロック解除ボタンを押しながら手前に引いて、普通充電コネクターを取りはずす

普通充電中（充電インジケーター点灯中）にロック解除ボタンを押すと、充電が停止されます。

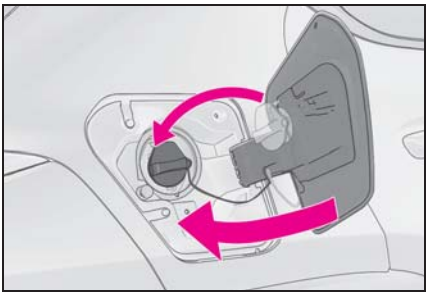


**3** 普通充電コネクターの保護キャップを取り付ける



**4** 普通充電インレットキャップをはめ、普通充電リッドを閉める

キャップとインレット上部の水平部位置を合わせて、まっすぐはめてください。



**5** 長期間使用しないときは、コンセントから電源プラグを抜く

必ず電源プラグ本体を持って抜いてください。

取りはずした普通充電ケーブルは、すみやかに片付けてください。（→P.97）

電源プラグを挿したままにするときは、1ヶ月に 1 回は電源プラグに汚れやほこりがないか点検してください。

知識

**■普通充電時の充電時間について**

普通充電は、急速充電にくらべて駆動用電池への負荷が少ないため、駆動用電池を長持ちさせることができます。

**■周囲の温度が低温または高温のとき**

充電が完了して駆動用電池残量計（→P.139）が満充電の状態になっていても、パワースイッチを ON にすると残量表示がわずかに低下することがありますが、異常ではありません。

**■普通充電コネクターをはずすとき**

ロック解除ボタンを押して、レバーが上がることを確認してから普通充電コネクターを手前に引いてください。

ロック解除ボタンを押してもレバーが上がらないときは、普通充電コネクターが施錠されています。その場合は、ドアの解錠操作をし、普通充電コネクターを解錠してください。（→P.76）

**警告**

**■充電後の警告**

長期間使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。電源プラグやコンセントにほこり等の汚れがたまると、故障や火災などが発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■充電後の注意

●普通充電ケーブルは幼児やお子さまの手の届かない場所で保管してください。

●普通充電インレットから普通充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず普通充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉めてください。
普通充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、普通充電インレットに水や異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

●コンセントから電源プラグを取りはずしたあとは、普通充電ケーブルをほこりや水などがかからない安全な場所に保管してください。
普通充電ケーブルを足や車両で踏んだりすると、普通充電ケーブルや電源プラグが損傷する原因となります。

## 急速充電のしかた

**ここでは、急速充電の手順を説明しています。**

**充電設備を利用する際は、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法をご確認ください。**

注意

■急速充電器（スタンド）を使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●CHAdeMO 認定の急速充電器（スタンド）を使用してください。

●30m をこえるケーブルを使用しないでください。

●本車両の急速充電は、30m 以内のケーブルでの充電、もしくはほかの機器／車両と同時充電しない急速充電器（スタンド）に対応しています。

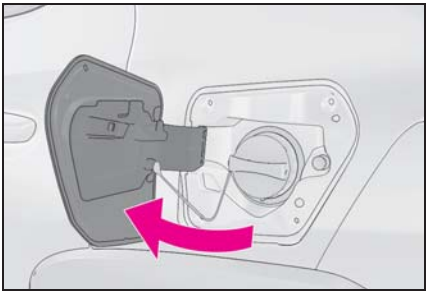
### 充電前の重要確認事項

→P.87

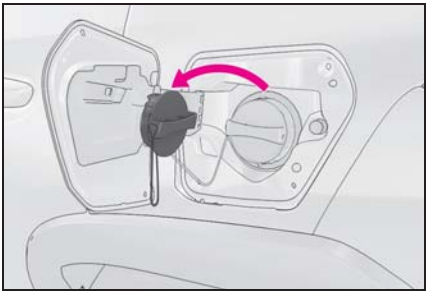
### 充電するときは

1 車両のドアを解錠して、急速充電リッドを開ける（→P.156）

**2** 急速充電リッド（車両の左側）を開けると、急速充電インレット照明が点灯します。



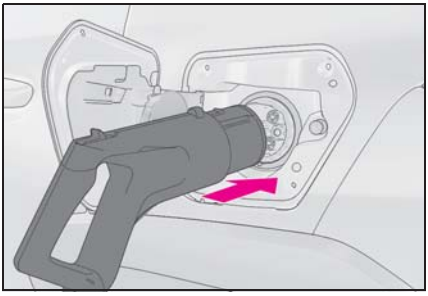
**3** 急速充電インレットキャップをはずし、図のように固定する



**4** 急速充電コネクターを急速充電インレットに挿し込む

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。



**5** 急速充電器（スタンド）を操作して充電を開始する

具体的な開始方法については、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従ってください。

システムチェックが実施されたあと、充電が開始されます。

充電を中断したいときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って、停止してください。

知識

**■急速充電時の充電時間について**

→P.83

**■充電時間が長くなるとき**

→P.83

**■急速充電器（スタンド）に車両異常があるようなメッセージが表示されたとき**

急速充電器（スタンド）に車両異常があるようなメッセージ（例えば、“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生” など）が表示されても、車両の異常ではなく、急速充電器（スタンド）と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、急速充電コネクター端子故障（接点不良）などが考えられます。

車両に異常がない場合は、急速充電器（スタンド）の管理者に連絡してください。

**■急速充電器（スタンド）に表示される充電時間について**

急速充電器（スタンド）によっては実際の充電時間より多めの充電時間が表示されることがありますが、故障ではありません。

**■急速充電中は**

●マルチインフォメーションディスプレ

イで、現在の充電状態を確認することができます。

●急速充電器（スタンド）での充電中、急速充電器（スタンド）に表示される充電時間と、実際の充電時間とは異なる場合があります。

●急速充電中は、ノイズの発生によりラジオが聞こえなくなる場合があります。

●充電開始時の駆動用電池残量や外気温などの影響により、充電量上限まで到達する前に充電が停止する場合があります。

●駆動用電池の容量の低下を防ぐため、ひんぱんな急速充電は避けることをおすすめします。

●急速充電が終了したあとは、ほかの利用者のため、すみやかに急速充電スペースから移動してください。

■**充電量上限設定のしかた**

→P.93

■**急速充電後、マルチインフォメーションディスプレイに “充電システム 確認のため 充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” が表示されたとき**

急速充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、EV システムを始動できなくなります。

急速充電後に EV システムを始動できなくなったときは次の手順で充電システムのチェックを実施してください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする

2 急速充電インレットキャップをはめ、充電リッドを閉める

3 パワースイッチを ON にする

マルチインフォメーションディスプレイに “充電システム確認中” が表示されたことを確認してください。

充電システムのチェック中は、充電リッドを開けないでください。

システムチェックが終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。

4 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯することを確認する

充電システムのチェックを実施しても EV システムを始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。

**警告**

■**急速充電するときの警告**

充電するときは、必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●急速充電器（スタンド）・急速充電インレットに破損箇所がないか確認する

急速充電インレットに破損箇所がある場合は絶対に急速充電を行わず、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に手をふれたり、異物でショートさせたりしない

●急速充電インレットに急速充電コネクター以外のものを挿し込まない

●急速充電コネクター・急速充電インレットの端子に、金属製の鋭利なもの（針金や針など）でふれない

●ケーブルが折れ曲がったり、重いものの下敷きになったりしていないことを確認する

**警告**

●急速充電コネクターと急速充電インレットは、必ず直接接続する

急速受電コネクターと急速充電インレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

●急速充電を中断するときは、急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従う

急速充電中に発熱・発煙・異音・異臭などを発見したときは、ただちに充電を中止してください。

●急速充電コネクター・急速充電インレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、急速充電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

●落雷の可能性がある天候のときは急速充電を行わない

急速充電中、雷に気付いたときは、車両およびケーブルにさわらないでください。

●急速充電インレットの端子部が濡れないようにする

●急速充電システムを使用するときは、ボンネットを閉める

冷却ファンが急にまわり出すことがあります。ファンなど回転部分にふれたり、近づいたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

**■急速充電コネクターを接続するとき**

急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って急速充電コネクターを接続してください。急速充電コネクターが正しく接続されていない場合、システムがコネクターの接続を認識できず、EV システムを始動できてしまうことがあります。充電完了後、EV システムを始動する前に、必ず急速充電コネクターを車両の急速充電インレットから取り外してください。もしコネクターが接続されたままの車両を発進させると、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

**■急速充電するとき**

必ず急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って、急速充電を行ってください。誤った取り扱いをすると、車両や急速充電器（スタンド）などを損傷するおそれがあります。

## 充電したあとは

1 急速充電器（スタンド）を操作して充電を停止する

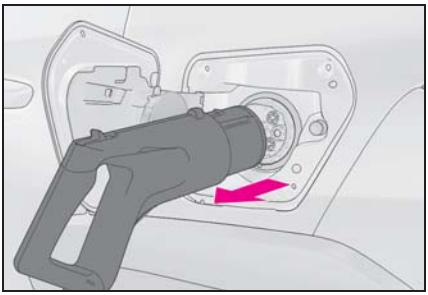
2 急速充電コネクターを取りはずす

急速充電コネクターの形状や取り扱い方法などは、急速充電器（スタンド）のタイプにより異なります。

急速充電器（スタンド）の取り扱い方法に従って、作業を行ってください。

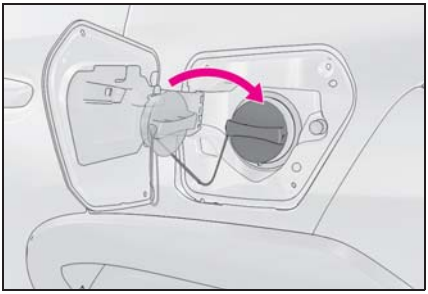
取りはずした急速充電コネクターは、も

との位置にもどしてください。



**3** 急速充電インレットキャップをはめ、急速充電リッドを閉める

キャップとインレット上部の水平部位置を合わせて、まっすぐはめてください。



知識

**■急速充電コネクターを解錠できないとき**

●急速充電コネクターは、急速充電器（スタンド）により施錠しています。

車両のコネクターロック緊急解除レバーで操作を行っても解錠はできません。

●急速充電中は急速充電コネクターをはずすことはできません。はずす必要があるときは充電を中止してください。充電が停止すると急速充電コネクターをはずすことができます。

●充電が停止しても急速充電コネクターが抜けない場合、急速充電器（スタンド）に異常がある可能性があります。設備の管理者にご連絡ください。

**■急速充電をしたあと**

充電量上限で設定した値まで充電しても、急速充電器（スタンド）に表示される充電量が実際の充電量より低く表示されることがあります。

注意

**■急速充電後の注意**

急速充電インレットから急速充電コネクターを取りはずしたあとは、必ず急速充電インレットキャップを急速充電インレットにはめて、急速充電リッドを閉めてください。
急速充電インレットキャップをはずしたまま放置すると、急速充電インレットに異物が入り、車両故障につながるおそれがあります。

## タイマー充電機能を使う（普通充電）

**充電スケジュールを登録しておくことで、ご希望の時刻に普通充電を実施することができます。また、出発する時刻に合わせて充電が完了するようにしたり、特定の曜日の同じ時刻に充電を実施したりするなど、お好みに合わせたタイマー設定が可能です。**

### タイマー設定でできること

充電スケジュールの登録時には、次の各機能の設定が可能です。

#### ■ 充電モードの選択

次の 2 種類から充電モードを選択できます。

▶ 開始

設定した時刻 ※1, 2 に普通充電が開始され、満充電になると充電が終了します。

夜間電力 ※3 を利用して普通充電する場合などに便利です。

▶ 出発

設定した時刻までに普通充電が完了するように、充電が実施されます。※4, 5

この設定を選択したときは、エアコン連動機能が利用可能になります。

※1 駆動用電池の状態により、普通充電が開始される時刻に誤差が生じる場合があります。

※2 タイマー充電は、マルチインフォメーションディスプレイに表示される時刻に従って実行されます。

※3 夜間電力の料金設定は、電力会社との契約内容により異なります。詳しくは、各電力会社にご確認ください。

※4 車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、すぐに充電が開始されます。その際は、充電スケジュールを確認してください。

※5 普通充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。

#### ■ 繰り返し設定

ご希望の曜日を選択することで、繰り返しタイマー充電が行われるように設定できます。（曜日を選択しない場合は、1 回のみ充電が実施されます）

#### ■ エアコン連動設定

充電モードを “ 出発 ” に設定したときは、設定した時刻に合わせて、車両のエアコンが自動で作動 ※ するように設定できます。

お出かけに合わせて、あらかじめ車内を空調しておくことで、乗車直後から快適にお車をご使用いただけます。

※ 出発設定時刻の約 20 分前から作動を開始します。

#### ■ “ 今すぐ充電 ” の ON ／ OFF

充電スケジュールがひとつでも登録されていると、車両に普通充電ケーブルを接続しても、タイマー充電の設定時刻まで普通充電が開始されません。充電スケジュールの登録内容を変更することなく充電を行いたいときは、“ 今すぐ充電 ” を ON にすることで、充電スケジュールが一時的に無効になり、普通充電ケーブル接続後、普通充電を開始すること

ができます※。

※ タイマー充電が設定されていて、今すぐ充電が ON の状態でコネクターを取りはずすと、今すぐ充電が OFF になります。

### ■ “次回充電予定”※1 の変更

登録済みの繰り返し設定の内容を変更せずに※2、次回の充電予定のみを一時的に変更することができます。

※1 登録済みの充電スケジュールのうち、現在時刻から最も近い充電スケジュールを“次回充電予定”と呼びます。タイマー充電は、“次回充電予定”の設定に従い、普通充電を実施します。

※2 “次回充電予定”を変更すると、“次回充電予定”として登録されたタイマー充電が実施されるまでの期間の充電スケジュールは、一時的に無効になります。（例えば、次回充電予定を 2 日後に設定した場合、それまでの期間に充電スケジュールが登録されていても、次回充電予定として設定された時刻までは、タイマー充電が実施されなくなります）

知識

**■タイマー設定について**

充電スケジュールは、最大で 15 件まで登録できます。

**■タイマー充電機能について**

タイマー充電機能は、急速充電時には使用できません。

**■タイマー充電機能を正しく作動させるために**

次のことをご確認ください。

- 車両の時計の時刻や曜日がずれていないこと
- パワースイッチが OFF になっていること
- 充電スケジュールの登録後に普通充電ケーブルを接続すること
  普通充電ケーブルを接続した時点の充電スケジュールを基に、充電の開始時刻が決定されます。
- 普通充電ケーブルの接続後、普通充電ポートの充電インジケーターが点滅することを確認する（→P.70）
- 電力遮断機能（タイマー機能を含む）を持つコンセントで使用しない
  常に電力が供給されているコンセントを使用してください。タイマー機能などで電力が遮断されるコンセントでは、設定されている時間帯に電力が遮断されるため、意図どおりに充電が行われない場合があります。
- 駆動用電池が満充電になっていないこと
- 時計の GPS 補正設定が“する”になっていること
  GPS 信号を受信できない場所で時刻を変更した場合、一度 GPS 信号を受信できる場所で GPS 補正を“する”に設定してください。

GPS について詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

**■充電スケジュールに関係なく充電するとき**

充電スケジュール待機中、一時的にキャンセルする操作を行うと、充電スケジュールがキャンセルされ、充電を開始します。

**■普通充電ケーブルが車両に接続されたままの状態のとき**

連続する複数の充電スケジュールが登録されていても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずして再接続するまで、

次のタイマー充電は実施されません。また、駆動用電池が満充電のときは、タイマー充電は実施されません。

■エアコン連動設定について

●エアコン連動設定を ON にすると、設定した出発時刻までエアコンが作動するため、エアコンの電力消費量によっては、設定時刻になっても充電が終了していない場合があります。

●駆動用電池が満充電の場合、充電スケジュールが登録されていても充電は実施されませんが、エアコン連動が ON の場合は、“出発” に設定した時刻に近付くとエアコンのみが 1 回だけ作動します。その場合、エアコンの電力消費によって、出発時に駆動用電池の残量が低下していることがあります。

●エアコン連動を作動するには、ドアが施錠されている必要があります。

■スマートフォンとの連携について

G-Link サービスご契約のお客様は、smartG-Link アプリで、次回充電予定の変更を行うことができます。
詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■タイマー設定が無効になるとき

タイマー充電の待機中に次の操作を行ったときは、タイマー充電を一時的にキャンセルして、充電を開始します。

●リモートエアコンシステム（→P.328）を作動させたとき

●マイルームモード（→P.117）を開始したとき

●“今すぐ充電” を ON にしたとき（→P.108, 115）

●タイマー充電を一時的にキャンセルする操作を行ったとき（→P.92）

■外気温の影響について

充電モードを “出発” に設定したときは、外気温の影響によりタイマー設定が無効になり、充電が開始される場合があります。

■駆動用電池冷却（→P.84）について

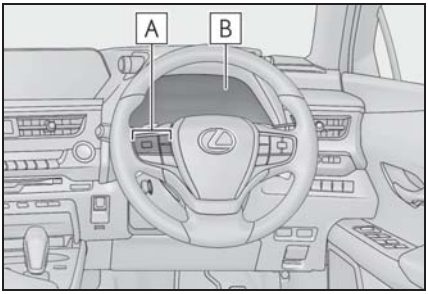
タイマー充電時、駆動用電池の温度によっては駆動用電池冷却機能が作動する場合があります。

●充電モードを “開始” に設定したときは、充電開始時刻に作動します。

●充電モードを “出発” に設定したときは、システムが算出した充電開始時刻の約 30 分前に作動します。ただし、現在時刻から充電完了時刻までに十分な余裕がないタイマー設定のときは、駆動用電池冷却時間が短くなったり、駆動用電池冷却が作動しなかったりする場合があります。

## マルチインフォメーションディスプレイでの設定操作

タイマー設定操作を行うときは、メーター操作スイッチを使用します。




A メーター操作スイッチ（→P.142）

B マルチインフォメーションディスプレイ

■ 充電スケジュールを登録するには

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “タイマー充電” を選択し、“OK” を押す

“タイマー充電” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、“充電スケジュール” を選択し、“OK” を押す

“充電スケジュール” 画面が表示されます。

6 “追加” を選択し、“OK” を押す

“充電モード” 画面が表示されます。

**7** メーター操作スイッチの＜または＞を押して変更する項目にカーソルを合わせ、∧または∨を押して設定を変更する

ご希望の充電モード、および充電開始（または出発）時刻を設定します。

充電モードが “ 開始 ” のときは普通充電を開始する時刻を、“ 出発 ” のときは普通充電を完了させておきたい時刻を設定します。

ご希望の設定に変更したら、“OK” を押します。

充電モードを “ 出発 ” に設定したときは “ エアコン連動 ” 画面が表示され、“ 開始 ” に設定したときは “ 繰り返し ” 画面（手順 **9**）が表示されます。

**8** エアコンを作動させる場合は、メーター操作スイッチの∧または∨を押して “ はい ” を選択し、“OK” を押します。

“ 繰り返し ” 画面が表示されます。

**9** 繰り返し設定を有効にしたいときは、メーター操作スイッチの∧または∨を押して、繰り返し設定を有効にしたい曜日を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに、繰り返し設定の ON ／ OFF が切りかわります。

設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施されます。複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

いずれの曜日も ON に設定していない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

ご希望の設定に変更したら、“ 完了 ” を選択し、“OK” を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

**10** 設定を保存するには、“ 保存 ” を選択し、“OK” を押す

設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は を押して設定操作をやり直します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。

## ■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

登録済み充電スケジュールの登録内容を変更したり、削除したりすることができます。

1 メーター操作スイッチの < または > を押して を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “タイマー充電” を選択し、“OK” を押す

“タイマー充電” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、“充電スケジュール” を選択し、“OK” を押す

“充電スケジュール” 画面を表示する

登録済みの充電スケジュールが一覧表示されます。

**6** メーター操作スイッチの∧または∨を押して、内容を変更したい設定の行を選択し、“OK” を押し続ける

“ スケジュール変更 ” 画面が表示されます。

**7** メーター操作スイッチの∧または∨を押して操作したい項目を選択し、“OK” を押して、それぞれ必要な操作を行う

● ON ／ OFF 切替え

“ 充電スケジュール ” 画面で、メーター操作スイッチの “OK” を押すたびに、選択した充電スケジュールの ON ／ OFF が切りかわります。

OFF に設定すると充電スケジュールが無効になり、タイマー充電が実施されなくなります。

スイッチを押すと、設定が終了します。

● 変更

“ 充電スケジュールを登録するには ”（→P.105）の手順 **6** 以降の操作要領で、ご希望の設定内容に変更します。

を押すと、前の画面にもどります。

● 削除

削除を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの∧または∨を押して “ はい ” を選択し、“OK” を押すと、選択した充電スケジュールが削除されます。

登録内容の削除を中止するときは、“ いいえ ” を選択して “OK” を押します。

を押すと、前の画面にもどります。

## ■ “今すぐ充電” を ON にするには

次の 2 つのうち、いずれかの方法で “ 今すぐ充電 ” の設定を変更できます。

▶ “タイマー充電” 画面での操作

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “タイマー充電” を選択し、“OK” を押す

“タイマー充電” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して、“今すぐ充電” を選択し、“OK” を押す

“OK” を押すたびに、“今すぐ充電” の ON ／ OFF が切りかわります。

▶ エンディング画面での操作

1 パワースイッチを OFF にする

マルチインフォメーションディスプレイにエンディング画面が表示されます。

2 “OK” を押して、“今すぐ充電” を ON にする

“OK” を押すたびに、“今すぐ充電” の ON ／ OFF が切りかわります。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。（→P.90）

■ **“次回充電予定” を変更するには ※**

※ “今すぐ充電” を ON にしたときや、マイルームモード（→P.117）の使用中などは、次回充電予定の登録内容を変更できません。

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “充電設定” を選択し、“OK” を押す

“充電設定” 画面が表示されます。

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “タイマー充電” を選択し、“OK” を押す

“タイマー充電” 画面が表示されます。

5 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“次回充電予定”を選択し、“OK”を押す

“次回充電予定”画面が表示されます。

6 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“はい”を選択し、“OK”を押す

変更の確認画面が表示されます。

“OK”を押すと、“充電モード”画面が表示されます。

を押すと、前の画面にもどります。

7 メーター操作スイッチの∧または∨を押して、“OK”を選択し、“OK”を押す

“充電モード”画面が表示されます。

を押すと、前の画面にもどります。

8 メーター操作スイッチの<または>を押して変更する項目にカーソルを合わせ、∧または∨を押す

次の表に従って、登録内容を変更します。

| 設定項目 | 操作 |
|---|---|
| 充電モード・時刻 | メーター操作スイッチの ∧ または ∨: ＜ または ＞、を操作して、充電モード（“開始” または “出発”）と充電開始（または出発）時刻を設定します。ご希望の設定に変更したら、“OK” を押します。 |
| エアコン連動 | 充電モードが “出発” のときに設定できます。エアコンを作動させる場合は、メーター操作スイッチの ∧ または ∨: を押して “はい” を選択し、“OK” を押します。 |
| 曜日 | メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を操作して、タイマー充電を実施する曜日を選択します。<br>ご希望の設定に変更したら、“OK” を押します。 |

**9** すべての設定が終了したら、“OK” を押す

設定の保存を確認する画面が表示されます。

メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “保存” を選択し、“OK” を押すと、設定した内容が保存されます。

設定内容を変更したい場合は、ス

イッチを押して設定操作をやり直します。

知識

**■タイマー設定操作が中断されるとき**

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

- 設定を確定する前にパワースイッチを操作したとき
- 車両が走行し始めたとき
- タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

**■ “次回充電予定” について**

“次回充電予定” の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、マルチインフォメーションディスプレイに表示される “次回充電予定” の設定内容は変化しません。

**■ “次回充電予定” の変更後にもとの設定にもどしたいとき**

“今すぐ充電” をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、“次回充電予定” を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

**■充電中に “次回充電予定” を変更したとき**

- 充電モードが “出発” のときは、充電完了までに必要な時間に応じて、現在の充電が中断、または継続されます。
- 充電モードが “開始” のときは、設定

した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

■パワースイッチを OFF にしたとき

パワースイッチを OFF にすると、エンディング画面に次回のタイマー充電予定が表示され、登録内容を確認できます。充電中など、エンディング画面が表示されない場合があります。

⚠注意

■設定操作を行うとき

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

## センターディスプレイでの設定操作

タイマー充電に関する設定操作は、センターディスプレイのメニュー画面上で行います。

■ “充電スケジュール” 画面を表示するには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押してメニュー画面を表示する

2 ⓘを選択する

“充電スケジュール” 画面が表示されます。

■ “充電スケジュール” 画面の見方

A 充電スケジュール（カレンダー表示）

本日を起点とした 1 週間の範囲で、登録済みの充電スケジュールがアイコンの形で一覧表示されます。

B 追加ボタン

充電スケジュールを新規登録するときに選択します。（→P.112）

C 変更ボタン

登録済みの充電スケジュールの内容を変更・削除したいときに選択します。（→P.113, 114）

D “今すぐ充電” ボタン

選択すると “今すぐ充電” が ON になります。（→P.115）

● カレンダー上に表示される主な内容

| 表示 | 内容 |
|---|---|
| 赤色の線 | 現在時刻 |
| 橙色のアイコン | “次回充電予定” に該当する充電スケジュール |
| 緑色のアイコン | 充電モードが “出発” の充電スケジュール |
| 青色のアイコン | 充電モードが “開始” の充電スケジュール |

■ 充電スケジュールを登録するには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.112）

2 “追加” を選択する

“タイマー設定” 画面が表示されます。

**3** 充電モードを選択

“開始” または “出発” を選択すると、選択した側の充電モードに設定されます。

**4** “＋” または “－” を選択して、ご希望の時刻を設定する

充電モードが “開始” のときは普通充電を開始する時刻（開始時刻）を、“出発” のときは普通充電を完了させておきたい時刻（出発時刻）を設定します。

**5** 設定を ON にすると、選択した曜日にタイマー充電が繰り返し実施する

複数の曜日に対して、繰り返し設定を ON にすることも可能です。

ボタンを選択するたびに、選択した曜日の繰り返し設定の ON ／ OFF が切りかわります。

いずれのボタンも ON にしていない場合は、現在時刻から 24 時間以内の設定時刻に、一度だけタイマー充電が実施されます。

**6** 充電モードを “出発” に設定した場合は、“エアコン連動” （→P.102）を選択して機能を ON にします。

スイッチを選択するたびに、機能の ON ／ OFF が切りかわります。

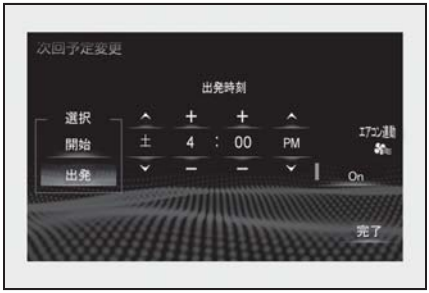
**7** すべての設定が終了したら、“完了” を選択する

充電スケジュールが登録され、カレンダー上にアイコンが追加されます。

タイマー設定の登録を中止するときは、

を選択します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、設定内容に従ってタイマー充電が実施されます。




## ■ 充電スケジュールの ON ／ OFF を切りかえるには

**1** “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.112）

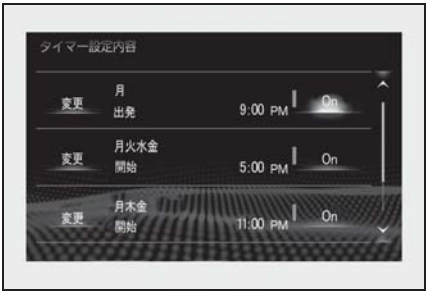
**2** “変更” を選択する

“タイマー設定内容” 画面が表示されます。

**3** 画面に表示されているリストの中から、ON ／ OFF を切りかえたい充電スケジュールの行の “On” または “Off” を選択する

ON ／ OFF を切りかえたい充電スケジュールが画面上に表示されていないときは、リスト表示を上下にスクロールして、対象の充電スケジュールを表示させます。

ボタンを選択するたびに充電スケジュールの ON ／ OFF が切りかわります。




### ■ 充電スケジュールの登録内容を変更するには

**1** “ 充電スケジュール ” 画面を表示する（→P.112）

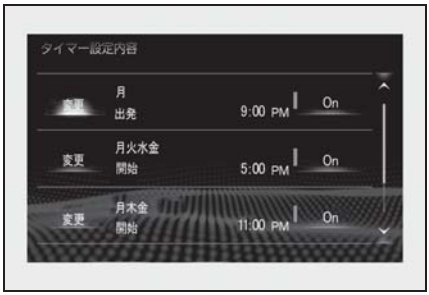
**2** “ 変更 ” を選択する

“ タイマー設定内容 ” 画面が表示されます。

**3** 画面に表示されているリストの中から、登録内容を変更したい充電スケジュールの行の “ 変更 ” を選択する

“ タイマー設定 ” 画面が表示されます。

カレンダー上に表示されている中から、登録内容を変更したい充電スケジュールのアイコンを選択することでも、“ タイマー設定 ” 画面を表示できます。




● 登録内容を変更するときは：

“ 充電スケジュールを登録するには ”（→P.112）の手順 **3** ～ **7** の操作要領で、ご希望の設定内容に変更する

設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示もかわります。

● 登録内容を削除するときは：

“ 削除 ” を選択する

削除を確認するメッセージが表示されます。

“ はい ” を選択すると、選択した充電スケジュールが削除されます。

削除を中止する場合は、“ いいえ ” または を選択します。

充電スケジュールを削除すると、カレンダー上のアイコンも削除されます。

■ “今すぐ充電” をONにするには

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.112）

2 “今すぐ充電” を選択する

ボタンを選択するたびに、“今すぐ充電” のON／OFFが切りかわり、ボタン上のインジケーターが点灯・消灯します。

設定の終了後、車両に普通充電ケーブルを接続すると、普通充電が開始されます。→P.90

■ “次回充電予定” を変更するには※

※ “今すぐ充電” をONにしたときや、マイルームモード（→P.117）の使用中などは、“次回充電予定” の登録内容を変更できません。

1 “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.112）

“次回充電予定” は、カレンダー上に橙色のアイコンで表示されます。

2 橙色のアイコン※を選択し、“次回充電予定” を変更する

※ 設定を変更すると、カレンダー上のアイコンの表示も変化します。（→P.112）

変更の確認画面が表示されます。

3 “はい” を選択する

“タイマー設定” 画面が表示されます。

変更を中止する場合は “いいえ” または を選択します。

4 充電モードを選択

“開始” または “出発” を選択すると、選択した側の充電モードに設定されます。

5 “∧” または “∨” “＋” または “－” を選択して、ご希望の曜日・時刻を設定する

充電モードが “開始” のときは普通充電を開始する時刻（開始時刻）を、“出発” のときは普通充電を完了させておきたい時刻（出発時刻）を設定します。

6 充電モードを “出発” に設定した場合は、“エアコン連動”（→P.102）を選択して機能をONにします。

スイッチを選択するたびに、機能のON／OFFが切りかわります。

7 すべての設定が終了したら、“完了” を選択する

充電スケジュールが登録され、カレンダー上にアイコンが追加されます。

“次回充電予定” 設定の登録を中止するときは、 を選択します。

知識

■タイマー設定操作が中断されるとき

車両が次の状態になると、タイマー設定操作が中断されます。

●タイマー充電設定よりも優先度が高い画面が表示されたとき

●設定を確定する前にパワースイッチをOFF にしたとき

●車両が走行し始めたとき

■ **“ 次回充電予定 ” について**

“ 次回充電予定 ” の設定内容に従って充電が実施されても、充電完了後に普通充電ケーブルを取りはずすまで、ディスプレイに表示される “ 次回充電予定 ” の設定内容は変化しません。

■ **“ 次回充電予定 ” の変更後にもとの設定にもどしたいとき**

“ 今すぐ充電 ” をいったん ON にしてから再度 OFF にすることで、“ 次回充電予定 ” を現在時刻から最も近い充電スケジュールに設定することができます。

■ **充電中に “ 次回充電予定 ” を変更したとき**

●充電モードが “ 出発 ” のときは、充電完了までに必要な時間により、現在の充電が中断、または継続されます。

●充電モードが “ 開始 ” のときは、設定した時刻から次回の充電が開始されるため、現在の充電は中断されます。

■ **充電スケジュール設定に関するアドバイス表示**

“ タイマー設定 ” 画面（→P.112）で “ ? ” を押すと、“ タイマー設定 ” 画面上の設定項目に関する説明が表示されます。

⚠ 注意

■ **設定操作を行うとき**

EV システムが停止した状態で設定操作を行うときは、補機バッテリーあがりにご注意ください。

## マイルームモードを使う

**車両に充電ケーブルを接続した状態のとき、外部電源からの電力により、エアコンやオーディオなどの電装品を使用することができます。**

### マイルームモードを開始するには

1 車両に充電ケーブルを接続して充電を開始する
普通充電するとき：→P.90
急速充電するとき：→P.97

2 充電の実施中にパワースイッチをONにする

マルチインフォメーションディスプレイにマイルームモードの設定画面が自動表示されます。

3 メーター操作スイッチの∧または∨を押して“はい”を選択し、“OK”を押す

マイルームモードが開始され、車内でエアコンやオーディオなどが利用可能になります。

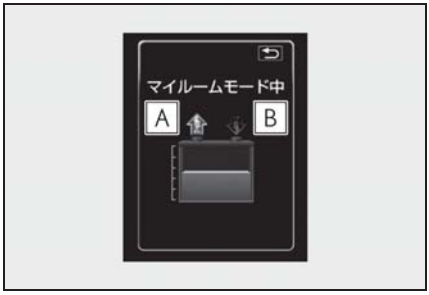
マイルームモードを使用しないときは、“いいえ”を選択して“OK”を押します。

マイルームモードを停止するときは、パワースイッチをOFFにします。

急速充電が完了すると、マイルームモードは自動的に停止する。

### マイルームモード使用中の電力収支に関する情報の表示

マイルームモードを開始すると、マルチインフォメーションディスプレイに駆動用電池の残量表示画面が自動的に表示され、矢印の大きさで、マイルームモード使用中の電力収支（電気供給量と電力消費量とのバランス）の目安を確認することができます。




A 放電状況

B 充電状況

充電ケーブルからの電気供給量が車内の消費電力より多いときはBが大きくなり、電気供給量より消費電力が大きいときは、Aが大きくなります。

電気供給量と電力消費量の釣り合いがとれているとき（電力の収支がゼロと判断されたとき）は、AとBが同じ大きさで表示されます。

知識

■充電中のメーター表示について

充電中にパワースイッチを ON にしたあと、マイルームモードを選択しない状態が約 100 秒間続くと、パワースイッチが自動で OFF になります。

■マイルームモードの使用中は

次のようなことが起こる場合があります。

●駆動用電池の残量が下限に達すると、エアコンが自動的に停止する

その場合は、駆動用電池の残量が増えるまでエアコンを操作できなくなります。いったんパワースイッチを OFF にし、駆動用電池の残量が回復したあとで、マイルームモードを使用してください。

●駆動用電池の充電時間が長くなる

●電波の状況によっては、ラジオに雑音が入る

●床下からファンの音が聞こえる

●充電中・充電完了後は、車載充電器が搭載されているモータールーム周辺が温かくなることがあります。

●パワーステアリング警告灯（黄色）が点灯することがありますが、異常ではありません。

■充電スケジュール（→P.102）が登録されているとき

タイマー充電の待機中にマイルームモードを開始すると、タイマー設定が無効になり、充電が開始されます。

■駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用するとき

駆動用電池が満充電、かつ電力が供給されている普通充電コネクターが接続された状態で、パワースイッチを ON にすると、“充電リッドが開いています” というメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メーター操作スイッチの を押すことで、マイルームモードの設定画面が表示され、“マイルームモード” を選択することができます。

駆動用電池が満充電の状態でマイルームモードを使用すると、駆動用電池量の電力が消費されることがあります。その場合は、再度充電を行うことがあります。

■マイルームモードに関するメッセージが表示されたとき

マイルームモードを開始しようとしたとき、またはマイルームモードの使用中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、それぞれ次のように対処してください。

●“駆動用電池残量不足 マイルームモード起動不可”

マイルームモードの開始に必要な駆動用電池の残量がない状態です。
駆動用電池の残量が増えるまでしばらく待ってから、マイルームモードを開始してください。

●“駆動用電池残量不足 マイルームモードを終了します”

駆動用電池の残量が不足しています。
マイルームモードの使用を中止して、駆動用電池を充電してください。

●“駆動用電池残量低下 使用電力抑制下さい”

駆動用電池への充電量よりも車内の電力消費量が多く、駆動用電池の残量が低下しています。※

・車内の電力消費状況が改善されない場合は、マイルームモードが終了します。
・マイルームモードを継続したいときは、エアコンやオーディオなどの電源を OFF にして、駆動用電池の残量を増やしてください。

※マルチインフォメーションディスプレイに表示される駆動用電池の残量表示

画面で、マイルームモード中の電力収支の状況を確認できます。（→P.117）

**警告**

**■マイルームモードの使用上の警告**

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。システムの自動停止等により車室内が高温または低温になり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。また、ワイパーなどが使用できる状態になるため、誤操作による事故につながるおそれもあります。
- 車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

## 正常に充電できないときは

**正しい手順に従って作業しても充電が開始されない場合は、それぞれ次の事項をご確認ください。**

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示された場合は、P.127 も併せて参照してください。

### 正常に普通充電できないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

#### ■ 電源プラグを外部電源に接続してもコントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 電源プラグがコンセントに正しく接続されていない | 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。 |
| 停電している | 停電の解消後、再度充電してください。 |
| 手元スイッチが OFF になっている | 手元スイッチが設置されている場合は、スイッチを ON にしてください。 |
| 建物側のブレーカーが作動して電気が遮断されている | ブレーカーの接続状態を確認し、異常がない場合はほかのコンセントで充電可能かご確認ください。<br>充電できた場合、最初に接続したコンセントの異常が考えられます。建物・設備の管理者、または電気工事業者にご連絡ください。 |
| コントロールユニットから電源プラグまでのあいだに断線が発生している | ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。 |

## ■ コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 漏電検知機能、または自己診断機能が作動して電気が遮断された | 電圧が不足している場合や、ノイズの影響を受けた場合などに、エラーインジケーターが点滅することがあります。リセット操作を行い、正常な電源に接続してください。（→P.74）<br>充電が開始されない場合は、ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。 |

## ■ 普通充電コネクターを接続しても普通充電ポートの充電インジケーターが点灯しない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 電源プラグがコンセントに確実に接続されていない | 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか確認してください。 |
| 普通充電コネクターが普通充電インレットに確実に接続されていない | 普通充電コネクターの接続状態を確認してください。<br>・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ”と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。<br>・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。<br>普通充電コネクターが確実に接続されているのに充電ポートの充電インジケーターが点灯しない場合は、システムに異常があるおそれがあります。ただちに充電を中止して、レクサス販売店にご連絡ください。 |
| すでに駆動用電池が満充電になっている | 駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。 |
| 普通充電器（スタンド）が作動しない | 普通充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。 |

### ■ 普通充電ポートの充電インジケーターが点滅して充電できない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 普通充電ポートの充電インジケーターが点滅（通常）しているとき※：充電スケジュールが登録されている | タイマー充電を実施したい場合は、設定した時刻になるまでそのままお待ちください。<br>充電を開始したい場合は、“今すぐ充電”をONにしてください。（→P.108, 115） |
| 普通充電ポートの充電インジケーターが速い点滅をしているとき※：外部電源、または車両に異常が発生している | マルチインフォメーションディスプレイに表示されたメッセージの指示に従って、それぞれ対処してください。（→P.127） |

※ 普通充電ポートの充電インジケーターの点灯・点滅については、P.70を参照してください。

## 正常に急速充電できないとき

### ■ 急速充電が開始しない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電コネクターが車両に正しく接続されていない | 急速充電コネクターの接続状態を確認し、コネクターを確実にロックしてください。 |
| 急速充電コネクターが確実にロックされていない | 接続状態に異常がないのに急速充電が開始されないときは、急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。 |

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された | 急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。<br>・EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください |
| 急速充電器（スタンド）の電源が OFF になっている | 急速充電器（スタンド）の管理者に連絡して、電源状態をご確認ください。 |
| すでに駆動用電池が満充電になっている | 駆動用電池が満充電の場合、充電は行われません。 |
| 普通充電コネクターも接続している | 普通充電と急速充電を同時に行うことはできません。 |
| EV システムが始動している | EV システムが始動していると、急速充電を開始できません。また、シフトポジションが P でないと急速充電システムを使用できません。 |

## ■ 急速充電が途中で停止する

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電器（スタンド）のタイマーが作動した | 急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するようにタイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。 |
| 急速充電器（スタンド）の電源が OFF になった | 急速充電器（スタンド）の電源状態を確認してください。電源の状態が不明な場合は、急速充電器（スタンド）の管理者にご連絡ください。 |
| 駆動用電池の温度が極端に高い、または極端に低い | 極端な高温、または極低温の環境下では、急速充電できない場合があります。気温が安定してから急速充電を実施してください。 |

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電器（スタンド）または車両のセルフチェック機能でエラーが検出された | 急速充電器（スタンド）または充電システムに異常がある可能性があります。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がある場合は、設備の管理者にご連絡ください。<br>・急速充電器（スタンド）に問題がない場合は、充電システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店にご連絡ください。<br>・EV システムを始動できなくなった場合は、レクサス販売店にご連絡ください。 |
| 満充電付近で車両のエアコンや電装品の使用を停止した | 車両のエアコンや電装品が OFF の状態で、再度充電してください。 |

### ■ 急速充電後にシステムが始動できなくなった

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 充電後のシステムチェックが正常に終了しなかった | P.99 の手順でシステムチェックを実施してください。再試行してもシステムチェックが正常に終了しない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。 |
| 急速充電コネクターが接続されたままになっている | 急速充電コネクターが接続されているときは、安全のため、EV システムを始動することができません。（→P.87）急速充電終了後は、すみやかに急速充電コネクターを取りはずしてください。 |
| 急速充電システムが故障した | ・故障の原因によっては、充電リッドを閉めることで、EV システムを始動できる場合があります。<br>・始動できない場合は、レクサス販売店にご連絡ください。 |

## タイマー充電機能が正常に作動しないとき

次の記載を参照して、それぞれ必要な処置を行ってください。

## ■ 希望の時刻に充電できない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 車両の時計の時刻や曜日がずれていないこと | 時計の設定を確認し、正しい時刻に調整してください。※（→P.139） |
| 車両に普通充電ケーブルが接続されていない | タイマー充電を使用する際は、あらかじめ普通充電ケーブルを接続しておいてください。 |
| 誤った充電モードを選択している | 充電モードの設定をご確認ください。（→P.102）<br>充電モードが“開始”のときは設定した時刻に充電が開始されますが、“出発”に設定したときは、設定した時刻に充電が完了するように充電が実施されます。（充電開始時刻は、システムにより自動制御されます） |

※ 時計の GPS 補正設定が“する”になっていること

GPS 信号を受信できない場所で時刻を変更した場合、一度 GPS 信号を受信できる場所で GPS 補正を“する”に設定してください。

GPS について詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■ スマートフォンのアプリケーション※ から次回充電予定の変更ができない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| スマートフォンが通信圏外にある | 電波状態を確認し、通信圏外になっている場合は電波の状況がよい場所へ移動してください。 |

※ ご利用するには G-Link サービスのご契約が必要です。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■ 充電スケジュールを登録してあるのに充電が開始される

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| “今すぐ充電”が ON になっている | タイマー充電する際は、“今すぐ充電”を OFF に設定してください。（→P.108, 115） |
| 充電スケジュールが OFF になっている | 充電スケジュールが OFF に設定されていないか確認してください。（→P.107, 113） |

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 充電モードが “出発” に設定されており、かつ出発予定時刻が現在時刻に近い時刻に設定されている | 車両のシステムにより、設定した出発時刻までに充電が完了できないと判断された場合は、充電が開始されます。充電スケジュールを確認してください。 |
| 普通充電ポートの充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しした | 普通充電インジケーターが通常の速さで点滅しているときに普通充電ケーブルを抜き挿しすると、タイマー充電がキャンセルされます（→P.92）。いったん普通充電ケーブルを取りはずして、再度、接続し直してください。 |
| マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させた | マイルームモード、またはリモートエアコンシステムを作動させると、充電スケジュールが登録されていても、充電が開始されます。タイマー充電を実施したい場合は、それぞれの機能を停止してから、接続し直してください。 |
| 駆動用電池ヒーター（→P.84）が作動した | 充電モードが “出発” のときは、充電前に駆動用電池ヒーターが作動する場合があります。普通充電ポートの充電インジケーターの状態を確認してください。（→P.70） |
| 外気温が低い、駆動用電池の温度調整システム（→P.84）が作動した | 駆動用電池の温度調整システムが作動すると、充電スケジュール設定が無効になり、充電が開始されます。この場合、駆動用電池を保護ために、充電を継続します。 |

### ■ “出発” に設定した時刻よりも早く充電が終了する

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた | 充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測よりも早く充電が終了する場合があります。 |

### ■ “出発” に設定した時刻になっても充電が完了しない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| エアコン連動機能を使用している | エアコン連動機能を使用すると、“出発” に設定した時刻までエアコンが作動するため、充電状態によっては、設定時刻になっても充電が完了しない場合があります。その場合は、満充電になるまで充電が継続されるため、充電を続けるときはそのままお待ちください。 |
| 電源環境や気温などの影響により、システムが予測した充電完了時刻にずれが生じた | 充電中に急激な気温変化が発生したり、電源の状況に変化が生じたりした場合は、システムの予測どおりに充電が完了しない場合があります。 |

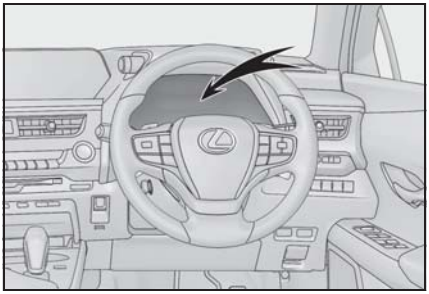
### ■ “開始” に設定した時刻になっても充電が開始されない

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 設定した時刻が過ぎてから普通充電ケーブルを接続した | 普通充電ケーブルは、“開始” に設定した時刻になる前に接続してください。 |

## 充電に関するメッセージが表示されたときは

充電後にパワースイッチが OFF の状態でドアを開けると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。



## ■ “充電コネクタ操作により充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 普通充電中に普通充電コネクターを取りはずした | 満充電にしたい場合は再度、普通充電コネクターを接続してください。 |
| 普通充電で満充電になったあと、電力を消費する機能※が作動したことで低下した駆動用電池残量を補うための再充電時に、普通充電コネクターを取りはずした | |
| 普通充電コネクターが確実に接続されていない | 普通充電コネクターの接続状態を確認してください。<br>・普通充電コネクターを接続するときは、ロック解除ボタンにふれないように注意し、“カチッ” と音がするまで挿し込んでください。ロック解除ボタンを押しながら挿し込むと、正しく接続されないおそれがあります。<br>・普通充電コネクターの接続後は、ロック解除ボタンが押し込まれておらず、普通充電ポートの充電インジケーターが点灯していることを確認してください。<br>正しい作業手順に従っても充電できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。 |
| 普通充電中に普通充電コネクターのロック解除ボタンを押した | 充電中にロック解除ボタンを押し続けると、充電が停止します。充電を続ける場合は、普通充電コネクターを接続し直してください。 |

※ 駆動用電池ヒーター（→P.84）・エアコン連動機能（→P.102）・リモートエアコンシステム（→P.328）が作動すると、電力が消費されます。また、マイルームモード（→P.117）の使用も、電力を消費します。

## ■ “充電完了しました（駆動用電池温度による制限）” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 駆動用電池が高温の状態が続いたため、駆動用電池の保護のために充電が終了した | ご希望の充電量に到達していないときは、駆動用電池が冷えてから再度、充電を行ってください。 |

## ■ “停電または電源プラグ抜けにより充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 外部電源からの電源供給に問題がある | 次の点をご確認ください。<br>・電源プラグがしっかりと挿し込まれているか<br>・延長コードを使用したり、タコ足配線になったりしていないか<br>・専用回線に接続されているか<br>・停電が発生していないか<br>・手元スイッチが OFF になっていないか<br>・コントロールユニット上の電源インジケーターが点灯しているか<br>・ブレーカーが落ちていないか<br>以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください）<br>電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。<br>なお、コントロールユニット上のエラーインジケーターが点滅している場合は、漏電の可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。 |

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 普通充電器（スタンド）が充電を停止した | ●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。<br>・普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した<br>・普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある<br>・普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない<br>●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。 |

■ “充電設備の要因により充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 普通充電器（スタンド）が車両に適合していない | ●普通充電器（スタンド）の仕様により、電源供給が停止されることで充電中止となることがあります。例えば、次のような場合があります。普通充電器（スタンド）の取り扱い説明をご確認ください。<br>・普通充電器（スタンド）の停止ボタンを押した<br>・普通充電器（スタンド）にタイマー充電機能がある<br>・普通充電器（スタンド）が車両のタイマー充電機能に対応していない<br>●この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。 |
| 普通充電器（スタンド）が充電を停止した | |

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電器（スタンド）が故障している | 本メッセージが表示された場合は、急速充電器（スタンド）が故障しているおそれがあるため、その急速充電器（スタンド）は使用しないでください。他の急速充電器（スタンド）での充電が可能かご確認ください。<br>他の急速充電器（スタンド）で充電しても本メッセージが表示されて充電ができない場合は、数 km 走行してから別の急速充電器（スタンド）で充電してください。 |
| 急速充電器（スタンド）が車両に適合していない | |

■ “AC 供給電源の要因により充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 外部電源からの電源供給に問題がある | 次の点をご確認ください。<br>・電源プラグがしっかりと挿し込まれているか<br>・延長コードを使用したり、タコ足配線になったりしていないか<br>・専用回線に接続されているか<br>・停電が発生していないか<br>以上の点に問題がない場合は、建物のコンセントなどに問題がある可能性があります。電気工事業者に点検を依頼してください。（充電設備のご利用時に問題が生じた場合は、設備の管理者にご連絡ください）<br>電源経路に問題がないのに充電できない場合は、システムの異常が考えられます。レクサス販売店で点検を受けてください。 |
| 普通充電器（スタンド）が充電を停止した | この車両に装備されている普通充電ケーブルでの充電が可能かご確認ください。<br>レクサス純正の普通充電ケーブルを使用しても充電できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。 |

### ■ “電装品の電力消費大のため充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 車両の電装品によって電力が消費されている | 次の点をご確認の上、再度充電してください。<br>・ヘッドランプやオーディオなどが ON になっている場合は、OFF にしてください。<br>・パワースイッチを OFF にしてください。<br>以上を実施しても充電できない場合は、補機バッテリーの充電不足が考えられます。EV システムを約 15 分以上作動させて、補機バッテリーを充電してください。 |

### ■ “システムの要因により充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 充電システムに異常が発生した | レクサス販売店で点検を受けてください。 |

### ■ “駆動用電池が低温になりました 電池保護のため充電を優先しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 駆動用電池の温度調整システムが作動する | 駆動用電池の温度調整システムが作動すると、充電スケジュール設定が無効になり、充電が開始されます。この場合、駆動用電池の保護機能が働きますが、故障ではありません。 |

### ■ “充電システム確認のため充電リッドを閉めてください 取扱書を確認” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電時のシステムチェックが正常に終了しなかった | この場合は、システムチェックが正常に終了するまで、システムを始動できなくなります。P.99 の記載に従って、充電システムのチェックを実施してください。 |

## ■ “充電終了時間に達したため充電停止しました” と表示されたとき

| 考えられる原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 急速充電器（スタンド）の制限時間内に急速充電が完了しなかった | ・急速充電器（スタンド）によっては、一定時間で充電が停止するように、タイマーが設定されている場合があります。急速充電器（スタンド）の管理者に確認してください。 |
| | 車両の状態によっては、充電時間が長くなり、制限時間内に急速充電が完了しない場合があります。<br>・エアコンやヘッドランプ、オーディオなどの電源が ON のため、消費電力が大きい可能性があります。電装品の電源を OFF にしてから、急速充電を行って下さい。<br>・駆動用電池の温度が低い可能性があります。駆動用電池が温まってから急速充電を行って下さい。 |

# 走行に関する情報表示

3

## 3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯..... 136
計器類 ..... 139
マルチインフォメーションディスプレイ ..... 141
ヘッドアップディスプレイ ..... 146

# 警告灯／表示灯

**メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。**

## メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

### 警告灯一覧

システム異常などを警告します。

（赤色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.412）

補機バッテリー充電警告灯 ※2
（→P.412）

タイヤ空気圧警告灯 ※1
（→P.412）

（黄色）
ブレーキ警告灯 ※1
（→P.413）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.413）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.413）

（赤色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.413）

（黄色）
パワーステアリング警告灯 ※1
（→P.413）

スリップ表示灯 ※1
（→P.413）

（点滅）
パーキングブレーキ表示灯
（→P.414）

（点滅）
ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.414）

（点滅）
クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1（→P.414）

RCTA OFF 表示灯★ ※1（→P.414）
（点滅）

PKSB OFF 表示灯 ※1（→P.415）
（点滅）

駆動用電池充電警告灯（→P.415）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（→P.415）

リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※2（→P.415）

ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／PKSB 警告灯 ※2（→P.416）

LTA 表示灯 ※2（→P.416）
（橙色）

PCS 警告灯 ※1（→P.417）
（点滅または点灯）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

**警告**

**■安全装置の警告灯が点灯しないとき**

ABS や SRS エアバッグなど安全装置の警告灯がパワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

## 表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.211）

尾灯表示灯（→P.218）

ハイビーム表示灯（→P.220）

AHS 表示灯★ ※1（→P.221）

オートマチックハイビーム表示灯★ ※1（→P.225）

フロントフォグランプ表示灯（→P.227）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.227）

PCS 警告灯 ※1, 2（→P.238）

クルーズコントロール表示灯 ※3（→P.257）

レーダークルーズコントロール表示灯 ※3（→P.257）

クルーズコントロールセット表示灯 ※3（→P.257）

LTA 表示灯 ※3, 4（→P.250）
（白色）

（緑色）
LTA 表示灯 ※3, 4（→P.250）

（橙色点滅）
LTA 表示灯 ※3, 4（→P.250）

BSM ドアミラーインジケーター★ ※1, 5（→P.277）

BSM 表示灯★（→P.277）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※1, 2（→P.283）

RCTA OFF 表示灯★ ※1, 2（→P.291）

PKSB OFF 表示灯 ※1, 2（→P.295）

（点滅）
スリップ表示灯 ※1（→P.304）

VSC OFF 表示灯 ※1, 2（→P.304）

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※3（→P.202）

READY インジケーター（→P.202）

パーキングブレーキ表示灯（→P.212）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※1（→P.215）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.215）

低温表示灯 ※3, 6（→P.139）

セキュリティ表示灯 ※7（→P.52, 53）

ITS Connect アイコン★ ※3（→P.271）

ITS Connect アイコン★ ※3（→P.271）

ITS Connect アイコン★ ※3（→P.271）

● 走行モード表示

エコドライブモード表示灯（→P.302）

スポーツモード表示灯（→P.302）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または EV システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

※2 システムが OFF のときに点灯します。

※3 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※4 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※5 ドアミラーに表示されます。

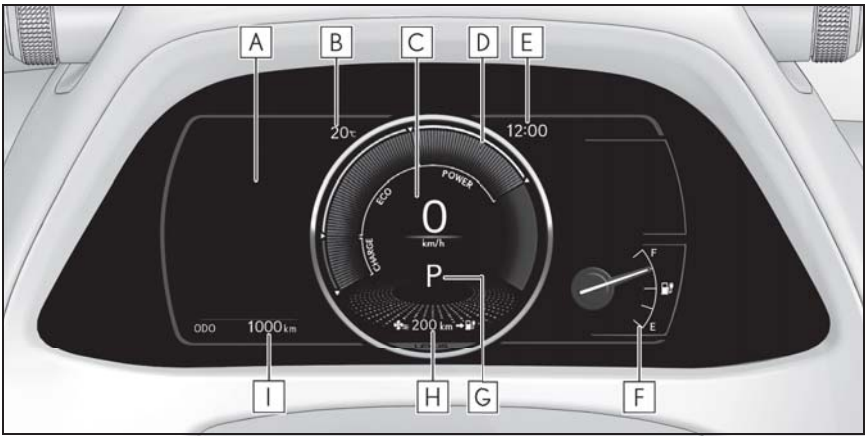
※6 外気温が約 3°C 以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※7 センターパネルに表示されます。

# 計器類

## メーターの表示について

### ■ 計器類の位置




A マルチインフォメーションディスプレイ

車両に関するさまざまな情報を表示します。(→P.141)
車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。(→P.419)

B 外気温

外気温度を -40°C ～ 50°C のあいだで表示します。外気温が約 3 ℃以下のときは、低温表示灯が点灯します。

C スピードメーター

D EV システムインジケーター

EV システムの出力や回生レベルを示します。(→P.140)

E 時計

表示される時刻は、センターパネルのアナログ時計と連動しています。(→P.345)

F 駆動用電池残量計

駆動用電池の残量を示します。

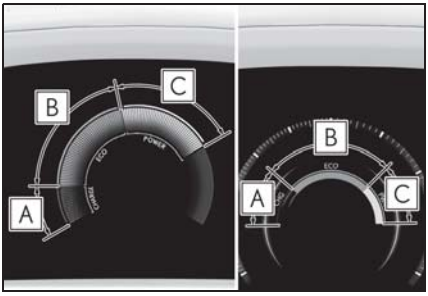
G シフトポジション・回生ブレーキ力インジケーター (→P.206, 210)

H 走行可能距離

駆動用電池残量による走行可能な距離を示します。(→P.67) エアコンの作動中は、アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。

I オドメーター／トリップメーターディスプレイ（→P.140）

■ EV システムインジケーター




A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。

回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲を超えている状態を示します。

※ ここでの回生の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

知識

■外気温表示について

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

・停車しているときや、低速走行（約20km/h 以下）のとき

・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.142

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの⚙で、計器類の表示を変更できます。（→P.450）

警告

■低温時の画面表示について

画面の温度が極めて低いときは、画面表示の切りかえが遅れる場合がありますので、車室内を暖めてからご使用ください。

例えば回生ブレーキカインジケーターを使用した場合、シフト操作をしてもすぐに回生ブレーキカインジケーターが切りかわらないことで運転者がダウンシフトしなかったと誤解し、再度ダウンシフトすることによって急激に過度の回生ブレーキがかかり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

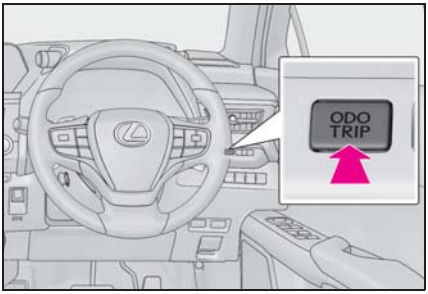
走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

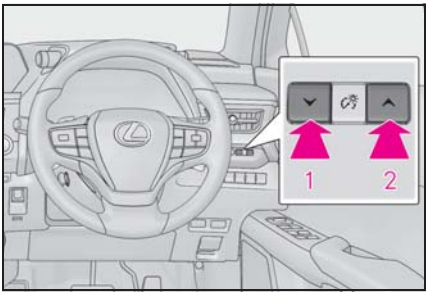
■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。




## インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。




1 暗くする

2 明るくする

知識

■インストルメントパネルの照度調整について

周囲が明るいとき（昼間など）と暗いとき（夜間など）それぞれの明るさのレベルを調節することができます。

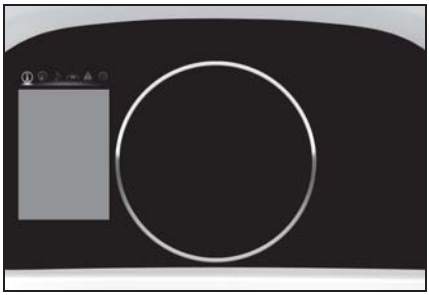
# マルチインフォメーションディスプレイ

## ディスプレイの表示／メニューアイコン一覧

■ ディスプレイの表示

メニューアイコンを選択し、走行に関するさまざまな情報を表示したり、車両設定を変更することができます。

また、状況に応じて注意喚起やアドバイスなどを割り込み表示します。



■ メニューアイコン

メーター操作スイッチ（→P.142）の < または > を押すとメニューアイコンが表示されます。

ドライブインフォメーション（→P.142）

ナビゲーションシステム連携表示（→P.143）

オーディオシステム連携表示（→P.143）

運転支援機能情報（→P.144）

警告メッセージ（→P.419）

設定（→P.144）

知識

■オープニング画面の表示について

パワースイッチを ACC または ON にしたとき、マルチインフォメーションディスプレイにオープニング画面が表示されます。
オープニング画面表示中は、ドライブモード（→P.302）を切りかえてもメーター画面の表示は切りかわりません。
オープニング表示が終了すると、そのとき選択されているドライブモードのメーター画面が表示されます。

■液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

警告

■運転中の使用について

● マルチインフォメーションディスプレイを操作する時は、周囲の安全に十分注意してください。

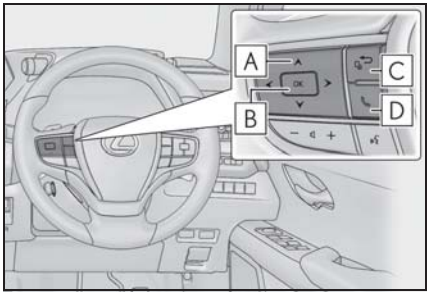
● マルチインフォメーションディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

■低温時の画面表示について

→P.140

## 表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。




A ＜／＞：メニューの切りかえ
∧／∨：表示項目の切りかえ・ページ送り・カーソル移動

B 短押し：決定
長押し：リセット

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。
ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ドライブインフォメーションについて

■ 表示項目

メーター操作スイッチの＜または＞を押して ⓘ を選択し、∧または∨を押すことで次の項目を表示することができます。

● ドライブインフォメーション 1
● ドライブインフォメーション 2
● タイヤ空気圧
● 表示 OFF

■ ドライブインフォメーション 1 ／ 2

次の項目から 1 画面につき 2 項目ずつ表示します。

表示する項目は、メニューアイコンの⚙から変更することができます。（→P.141）

表示される数値は参考として利用してください。

● 瞬間電費

現在の瞬間電費を表示します。

● 平均電費

リセット間：リセット後の平均電費を表示 ※1

● 平均車速

リセット間：リセット後の平均車速を表示 ※1

始動後：EV システム始動後の平均車速を表示

● 走行距離

EV システム始動後の走行距離を表示

● 走行時間

リセット間：リセット後の経過時間を表示 ※1

始動後：EV システム始動後の経過時間を表示

● 走行可能距離

駆動用電池残量による走行可能な距離を表示 ※2

エアコンの作動中は、アイコンとエアコンを使用した場合の走行可能距離が表示されます。※3

● その他

非表示

※1 リセットするには、リセットしたい項目を表示中にメーター操作スイッチの“OK”を長押しします。

※2 現在の駆動用電池残量から算出した走行可能な距離を表示します。（→P.67）

※3 エアコン使用時は、エアコンを使用していないときよりも航続可能距離が少なく表示されます。

■ タイヤ空気圧

→P.380

■ 表示 OFF

画面表示が OFF になります。

## ナビゲーションシステム連携表示について

ナビゲーションシステムと連携して、次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス

知識

■目的地案内について

ヘッドアップディスプレイ★の目的地案内表示を ON にしている場合、メーター側の目的地案内は非表示になります。（→P.147）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## オーディオシステム連携表示について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

## 運転支援機能情報について

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.245）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.257）

● RSA（ロードサインアシスト）（→P.254）

● ITS Connect★（→P.269）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 警告メッセージについて

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.419）

## 設定について

### ■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

表示される言語を選択することができます。

● 単位

電費表示の単位を選択することができます。

● 車速表示

スピードメーターの表示を、デジタル／アナログから選択することができます。

● ドライブインフォ 1 ／ドライブインフォ 2

ドライブインフォメーションに表示させる項目をドライブインフォ 1、ドライブインフォ 2 それぞれに 2 項目ずつ選択することができます。（→P.143）

● 時計

12 時間表示／ 24 時間表示を切りかえることができます。

● 割り込み表示

一部の割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● テーマカラー

カーソルの色などを変更することができます。

● 初期化

メーターの表示設定をもとにもどすことができます。

知識

**■設定画面の操作について**

●一部の項目を除き、車両走行中は設定画面を操作することができません。設定を変更するときは、安全な場所に停車して操作してください。

●警告メッセージが表示されたときは、設定画面の操作が一時中断されます。

注意

**■ディスプレイの設定を変更するとき**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

## 提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ パワーバックドア機能★の ON 切り替え提案

パワーバックドアメインスイッチが OFF（⚙でパワーバックドアの機能を OFF に設定しているとき）の状態で運転席のパワーバックドアスイッチを操作したときに、メインスイッチを ON に変更する提案メッセージを表示します。このとき “ はい ” を選択すると、メインスイッチが ON に変更されます。

メインスイッチが ON に変更されてから再度パワーバックドアスイッチを操作すると、バックドアを開閉することができます。

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが≡Dまたは AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

このとき “ はい ” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席または助手席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。

このとき “ はい ” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

知識

■ カスタマイズ機能

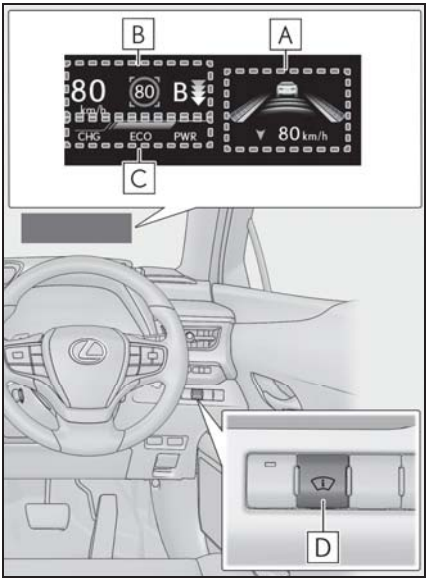
機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.450）

# ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。**

## システムの構成部品




イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 運転支援システム表示エリア（→P.148）
ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。
・交差点名
・目的地案内
・レーン（車線）案内

B 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。
・スピードメーター
・シフトポジション・回生ブレーキカインジケーター（→P.206）
・RSA（ロードサインアシスト）表示（→P.254）

C EV システムインジケーター表示エリア（→P.150）

D ヘッドアップディスプレイスイッチ

### 知識

**■ヘッドアップディスプレイの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

**■交差点名表示について**

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

**■レーン（車線）表示について**

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

**■外気温表示について**

●次の場合、外気温が表示されます。
・外気温が約 3°C 以下のとき（この場合、外気温が約 10 秒間表示され、同時に低温表示灯が点滅します）

・オープニング画面（→P.142）が表示されたあと（外気温が約 10 秒間表示されます）

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

**警告**

**■ヘッドアップディスプレイを使用するときは**

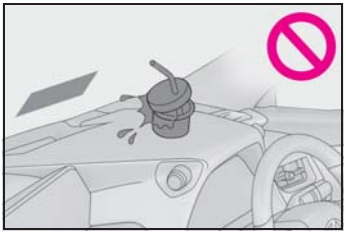
●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

**注意**

**■ヘッドアップディスプレイ映写部について**

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。



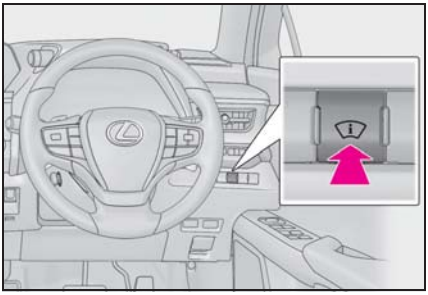
●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

## ヘッドアップディスプレイの使い方

### ■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

ヘッドアップディスプレイスイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。



■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、次の設定を変更することができます。(→P.451)

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● EV システムインジケーター ※

EV システムインジケーター／表示なしのいずれかから表示内容を選択することができます。

※ マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。

● 表示内容 ※1

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

- 目的地案内
- レーン表示
- 運転支援システム表示 ※2
- オーディオ表示

※1 マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。

※2 運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

● 表示の傾き ※

表示の傾きを調整することができます。

※ マルチインフォメーションディスプレイの⚙から、“車両設定”を選択し、“HUD”を選択すると設定することができます。

知識

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■ 表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの⚙による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動で調整されます。

■ 補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

注意

■ ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが始動している状態で実施してください。

## 運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.245）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.257）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

## 割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

### ■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

● PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.238）

● 先行車発進告知機能（→P.267）

● ITS Connect★（→P.269）

● クリアランスソナー（P.282）

● パーキングサポートブレーキ（静止物）（→P.299）

● ブレーキオーバーライドシステム（→P.195）

● ドライブスタートコントロール（→P.194）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■ ⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディスプレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

⚠：マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（P.419）

ⓘ：インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス（→P.144）や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

### ■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

● 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

● ETC に関する通知

### ■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

### ■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

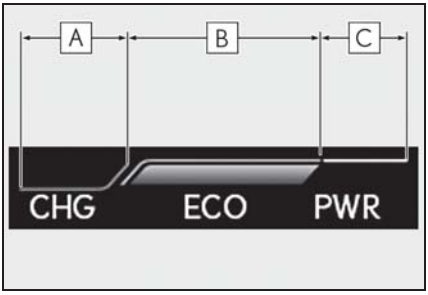
知識

**■割り込み表示について**

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

## EV システムインジケーター表示エリア

### ■ EV システムインジケーター




A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

表示される内容はメーターの EV システムインジケーターと同様です。詳しくは、P.140 を参照してください。

# 運転する前に

4


## 4-1. キー

キー ..... 152

## 4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア ..... 156

バックドア ..... 160

スマートエントリー＆スタートシステム ..... 173

## 4-3. シートの調整

フロントシート..... 178

リヤシート ..... 179

ヘッドレスト ..... 180

## 4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル ..... 182

インナーミラー..... 183

ドアミラー ..... 184

## 4-5. ドアガラス・ムーンルーフの開閉

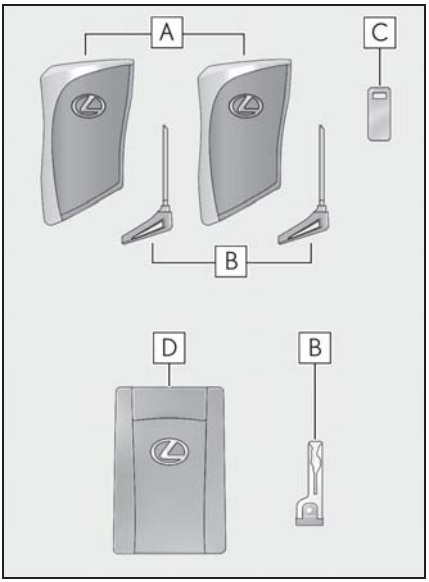
パワーウインドウ..... 186

ムーンルーフ ..... 189

# キー

## キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。




A 電子キー

・スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.173）
・ワイヤレス機能の作動
・リモートエアコンシステムの作動（→P.328）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー

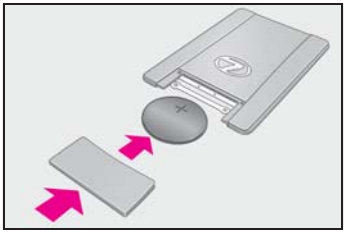
スマートエントリー＆スタートシステムの作動（→P.173）

知識

■カードキー

●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をレクサスエンブレム面側にして取り付けてください。



●カードキーは非防水です。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーの電池は 1 ～ 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、EV システムを停止した際に車内から警告音が鳴ります。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにすることで電池の消耗を抑えることができます。（→P.174）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。（→P.393）

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない

・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池はお客様自身で交換することができます（→P.393）が、交換の際にキーが破損するおそれがあるため、レクサス販売店での交換をおすすめします。

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。
・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.393

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはレクサス販売店へご相談ください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください”と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをレクサス販売店で確認してください。

注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●湿度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ、電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは 10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.436

注意

■電子キーを紛失したときは

→P.434

■カードキーの取り扱いについて

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、レクサス販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

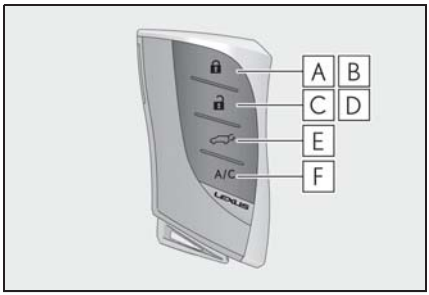
・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

## ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が装備されています。




A 全ドアを施錠する（→P.156）

B ドアガラスとムーンルーフ★を閉める※（→P.156）

C 全ドアを解錠する（→P.156）

D ドアガラスとムーンルーフ★を開く※（→P.156）

E パワーバックドア★を開閉する（→P.163）

F リモートエアコンシステムを作動・停止する（→P.328）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

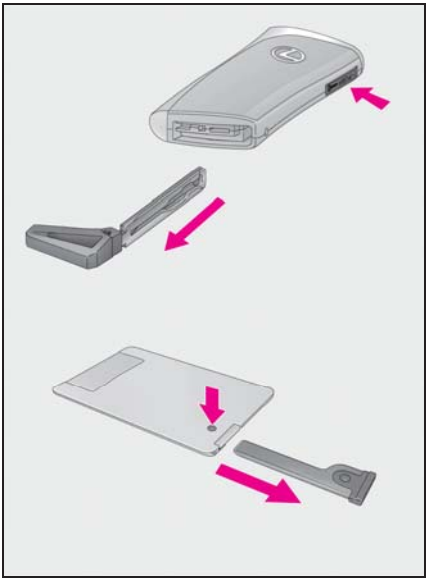
※ レクサス販売店での設定が必要です。

## メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。
（→P.436）



知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてグローブボックスを施錠（→P.338）します。メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.434

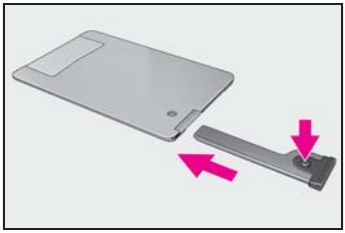
■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

■カードキーについて

● メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などで解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

● メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。



注意

■カードキーの取り扱いについて

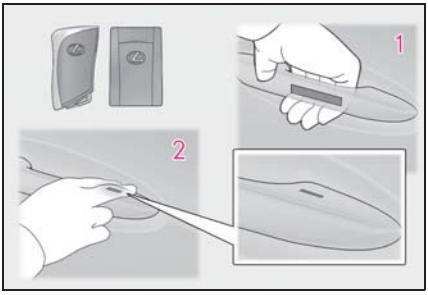
メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

# ドア

## 車外から解錠／施錠するには

### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。




**1** フロント席のハンドルを握って解錠する

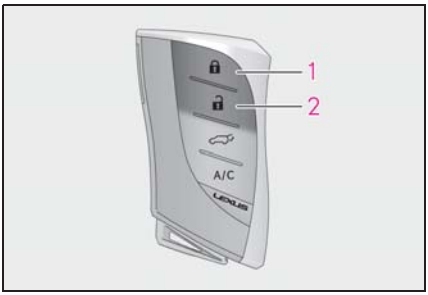
ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

**2** フロント席のドアハンドル上側のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

### ■ ワイヤレス機能を使用する




**1** 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が閉まります。※

**2** 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスとムーンルーフ★が開きます。※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ レクサス販売店での設定が必要です。

知識

**■解錠するドアを切りかえるには**

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

**1** パワースイッチを OFF にする

**2** オートアラームの侵入センサーを停止する

（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.55）

**3** キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

| マルチインフォメーションディスプレイ表示 / ブザー音 | 解錠できるドア |
|---|---|
| <br>車外：“ピピッ”（3 回）<br>車内：“ポーン”（1 回） | 運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠 |
| | 助手席のドアハンドルを握ると全席解錠 |
| <br>車外：“ピピッ”（2 回）<br>車内：“ポーン”（1 回） | 運転席または助手席のドアハンドルを握ると全席解錠 |

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。

（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）
オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.53）

### ■キーを使わずに車外からフロント席を施錠をするときは

1 ドアロックボタンを押し下げる（→P.159）

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

### ■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

### ■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

### ■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

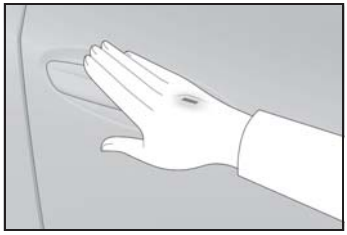
### ■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

### ■ドアハンドル上部のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル上部のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。



### ■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.53）

### ■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.174

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

●メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.436）

●電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.393）

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.436）

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物などの置き忘れを防ぐために、次のいずれかの操作を行ったあとにパワースイッチを OFF にすると、ブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内に EV システムを始動した

・EV システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しない可能性があります。

●リヤシートリマインダーは、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断する機能です。そのため、状況によっては、リヤシートリマインダー機能が作動せず、リヤシートに荷物などを置き忘れたり、正しく作動しなくなったりする可能性があります。

●リヤシートリマインダーの作動・非作動を切りかえることができます。（→P.450）

■カスタマイズ機能

キー操作によって解錠されるドアの設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.451）

**警告**

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときは

傾斜した場所・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

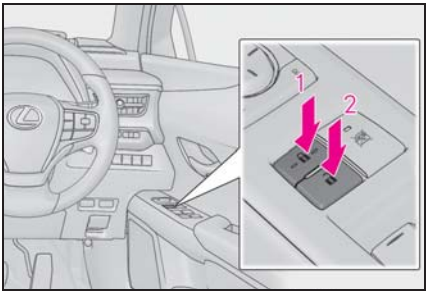
■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 車内から施錠／解錠するには

### ■ ドアロックスイッチを使用する

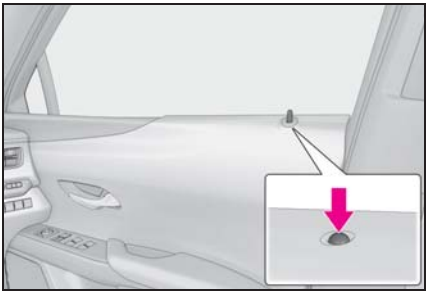



**1** 全ドアを施錠する

**2** 全ドアを解錠する

### ■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する



### ■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

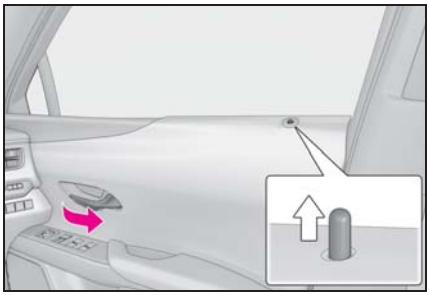
ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。



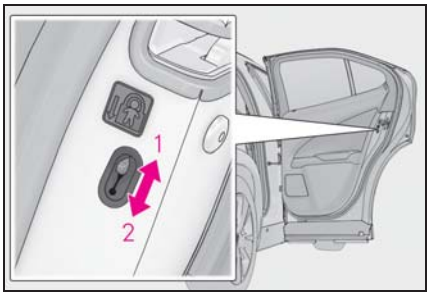
知識

**■半ドア走行時警告ブザー**

ボンネットまたはいずれかのドアが確実に閉まっていません。マルチインフォメーションディスプレイに開いているドアが表示されます。ドアが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえると警告ブザーが鳴ります。
ボンネットおよび全ドアを確実に閉めてください。

## チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。




**1** 解錠

**2** 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

## オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.449 を参照してください。

| 機能 | 作動内容 |
|---|---|
| 車速感応オートドアロック | 速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。 |
| シフト操作連動ドアロック | EV システムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。 |
| シフト操作連動アンロック | シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。 |
| 運転席ドア開連動アンロック | パワースイッチを OFF にしてから約 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。 |

# バックドア

**バックドアは次の方法で施錠・解錠および開閉することができます。**

警告

■走行する前に

走行前にバックドアが完全に閉まっていることを確認してください。

バックドアが完全に閉まっていないと、走行中にバックドアが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■走行中の留意事項

●走行中はバックドアを閉めてください。
開けたまま走行すると、バックドアが車外のものにあたったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ラゲージルームには絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまを乗せているときは

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ラゲージルームでお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはバックドアの開閉操作をさせないでください。
不意にバックドアが動いたり、閉めるときに手・腕・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

**警告**

**■バックドアの使用にあたって**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

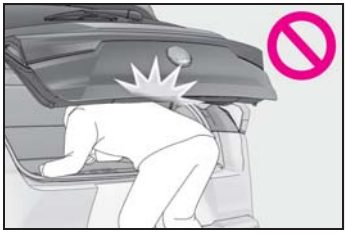
●バックドアを開ける前に、バックドアに貼り付いた雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでバックドアが突然閉じるおそれがあります。

●バックドアを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。

●人がいるときは、安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●強風時の開閉には十分注意してください。
バックドアが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

●パワーバックドア非装着車：半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特に傾斜した場所では、平坦な場所よりもバックドアの開閉がしにくく、急にバックドアが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずバックドアが全開で静止していることを確認して使用してください。



●パワーバックドア装着車：傾斜が急な場所で半開状態で使用すると、バックドアが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。必ずバックドアが静止していることを確認して使用してください。

●バックドアを閉めるときは、指などを挟まないよう十分注意してください。

●バックドアは必ず外から軽く押して閉めてください。バックドアハンドルを持ったままバックドアを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。

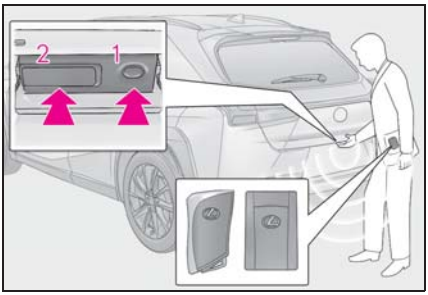
●バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）（→P.163）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）（→P.170）を持ってバックドアを閉めたり、ぶら下がったりしないでください。手を挟んだり、バックドアダンパーステー（パワーバックドア非装着車）または、スピンドルユニット（パワーバックドア装着車）が破損したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、開けたあとにドアが突然閉じて、手・腕・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

## 車外から施錠／解錠するには

### ■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。




**1** 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

**2** 全ドアを解錠する

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

### ■ ワイヤレス機能を使用する

→P.154

## 車内から施錠／解錠するには

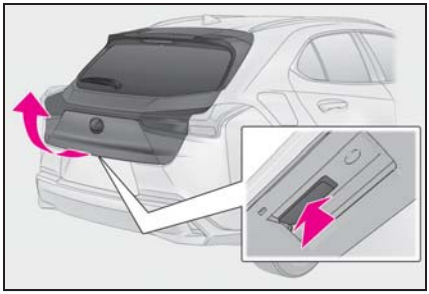
### ■ ドアロックスイッチを使用する

→P.159

## バックドアを開閉するには（パワーバックドア非装着車）

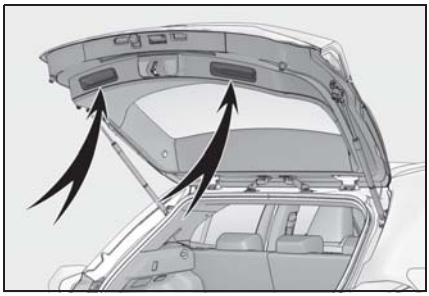
### ■ 開ける

バックドア解錠時に、バックドアオープンスイッチを押したまま、バックドアを持ち上げる



### ■ 閉める

バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げ、必ず外から押して閉めてください。



知識

**■ラゲージルームランプ**

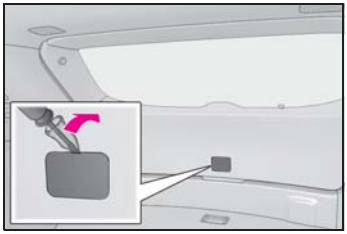
- バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。
- パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

**■バックドアが開かないときは**

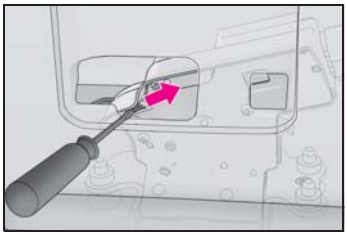
バックドアを内側から開けることができます。

**1** カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



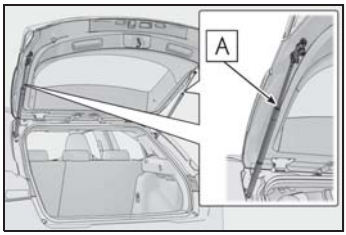
2 レバーを押す



注意

■ダンパーステーについて

バックドアにはバックドアを支えるためのダンパーステーA が取り付けられています。ダンパーステーA の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。




- ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない
- ロッド部を軍手などでふれない
- バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品をつけない
- ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

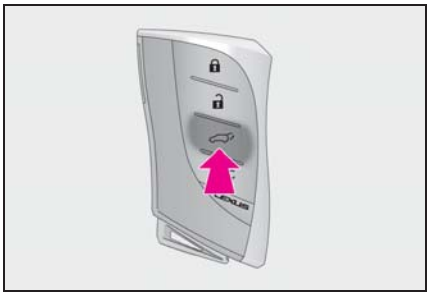
## バックドアを開閉するには（パワーバックドア装着車）

### ■ ワイヤレス機能を使用して開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

バックドア解錠時※ に作動させることができます。

※ カスタマイズ機能により、施錠時からでも作動できるように設定できます。



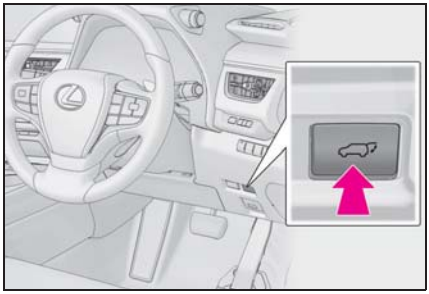
### ■ 車内からスイッチ操作で開閉する

スイッチを約 1 秒押し続ける

ブザーが鳴りバックドアが自動で開閉します。

開閉作動中にスイッチを押すと、作動を停止します。

作動を停止した状態から再度、スイッチを約 1 秒間押し続けると、バックドアは反転作動します。



### ■ 車外からスイッチ操作で開閉する

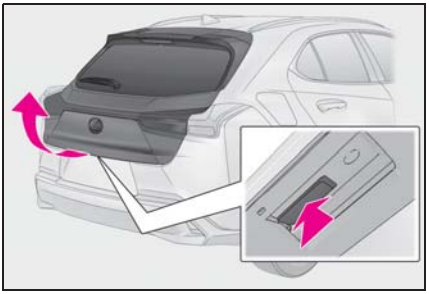
● 開ける

バックドア解錠時：バックドアオープンスイッチを押す

バックドア施錠時：電子キーを携帯して、バックドアオープンスイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で開きます。

バックドアが開く途中でスイッチを押すと、作動を停止します。



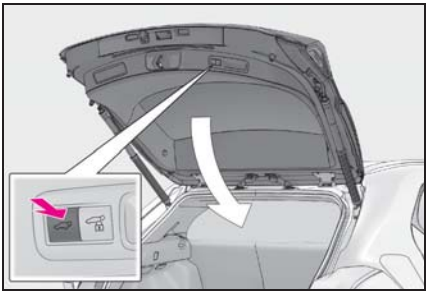
● 閉じる

スイッチを押す

ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。

バックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。

再度スイッチを押すと、バックドアは自動で開きます。

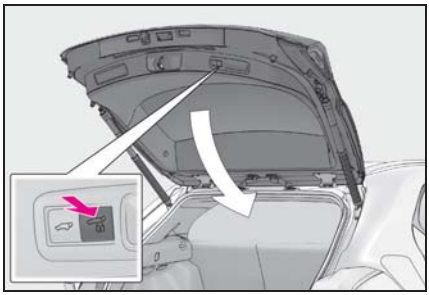


● 閉じると同時に全ドアの施錠をする（クローズ＆ロック機能）

スイッチを押す

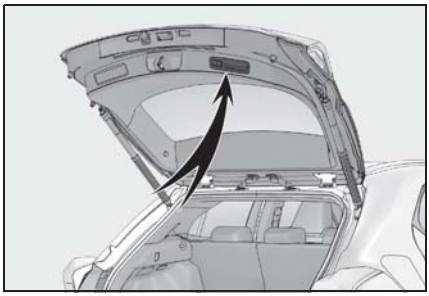
通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが自動で閉まります。閉まると同時にすべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

パワーバックドアが閉まる途中でスイッチを押すと、作動を停止します。
再度スイッチを押すと、バックドアは自動で閉まります。



■ **バックドアグリップを使用して閉じる**

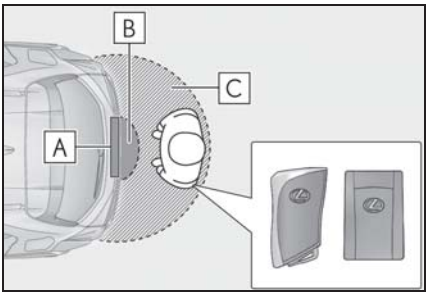
バックドアグリップを持ってバックドアを引き下げると、ブザーが鳴りバックドアが自動で閉まります。



■ **ハンズフリーパワーバックドアを使用して開閉する**

1 電子キーを携帯し、スマートエントリー＆スタートシステムの作動

範囲内でリヤバンパーから約 50 ～ 70cm 離れた位置に立つ



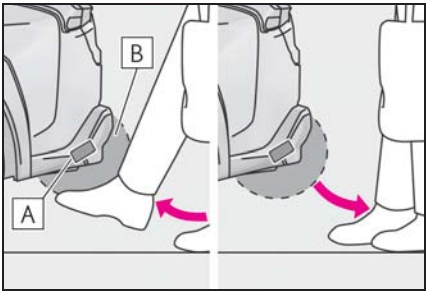

A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

C スマートエントリー＆スタートシステム作動検知エリア
（→P.173）

**2** 足をリヤバンパーから約 10cm の距離になるまで近づけて引く

・ 足を近づけて引く動作を 1 秒以内に行ってください。
・ 足先をリヤバンパーの下に入れたままでは作動しません。
・ リヤバンパーに足先をあてずに非接触で操作してください。
・ 車室内またはラゲージルーム内に他の電子キーがあると、作動までの時間が少し長くなることがあります。




A キックセンサー

B ハンズフリーパワーバックドア作動検知エリア

**3** 足を引く動作をキックセンサーが検知するとブザーが鳴り、その後バックドアが自動で全開・全閉します。

バックドアの作動中に再度操作をすると、作動を停止します。

知識

**■ラゲージルームランプ**

●バックドアを開けたとき、ラゲージルームランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、ラゲージルームランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

**■パワーバックドアの作動可能条件**

パワーバックドアの作動が ON で、次のときに自動で開閉できます。

●バックドアが解錠されているとき、ただし次のときはバックドアが施錠されていてもパワーバックドアは作動します。
・ 電子キーを携帯してバックドアオープンスイッチを押したとき
・ ワイヤレスリモコン使用時では、カスタマイズ機能により施錠時からでも作動できるように設定したとき

●パワースイッチが ON のとき開作動するには、上記に加え、次のいずれかの条件で作動します。
・ パーキングブレーキがかかっている
・ ブレーキペダルを踏んでいる
・ シフトポジションが P にある

**■ハンズフリーパワーバックドアの作動条件**

●ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定が ON のとき

●電子キーを携帯して作動範囲内にあるとき（→P.173）

■バックドアイージークローザー

バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが作動し、バックドアが自動で完全に閉まります。

パワースイッチがどの状態であっても、バックドアイージークローザーは作動します。

■パワーバックドアの作動について

●作動開始時にブザーが鳴り、非常点滅灯が 2 回点滅します。

●パワーバックドアの作動が OFF のときは、パワーバックドアは作動しませんが手動で開閉できます。

●パワーバックドアが自動で開いているときに、人や異物などにより異常を感知すると、作動が停止します。

■予約ロック機能について

パワーバックドアの自動閉作動中に、あらかじめ全ドアの施錠を予約する機能です。

次の操作をすると、パワーバックドア以外のすべてのドアが施錠され、パワーバックドアも閉まると同時に施錠されます。

1 バックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 パワーバックドアの自動閉作動中にスマートエントリー＆スタートシステムによる施錠操作を行う（→P.156）またはワイヤレスリモコンによる施錠操作を行う（→P.154）

すべてのドアが閉まり施錠されると、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。

車から離れるときは、すべてのドアが閉まり施錠されたことを確認してください。挟み込み防止機能やキー閉じ込み防止機能により施錠されない場合があります。

■クローズ＆ロック機能について

パワーバックドアが開いている状態で、パワーバックドアを閉じると同時に全ドアを施錠する機能です。

自車のもう 1 つの電子キーを車室内に置いていない状態で次の操作をすると、パワーバックドアが閉まると同時に全ドアも施錠されます。

1 パワーバックドア以外のすべてのドアを閉じる

2 電子キーを携帯した状態で、パワーバックドア下部の スイッチ（→P.163）を短押しする

通常ブザーと異なるブザー音が鳴り、パワーバックドアが閉じると同時にすべてのドアが施錠したことをドアロックアンサーバックでお知らせします。

■クローズ＆ロック機能が正常に作動しない状況

クローズ＆ロック機能は、次のような状況では作動しないことがあります。

●電子キーを持った手でパワーバックドア下部の スイッチ（→P.163）を押したとき

●地面に置いたかばんなどに電子キーを入れたままパワーバックドア下部の スイッチ（→P.163）を押したとき

●パワーバックドア下部の スイッチ（→P.163）から離れた位置から押したとき

■ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しない状況

ハンズフリーパワーバックドアは、次のような状況では作動しないことがあります。

●足先をリヤバンパーの下に入れたまま

のとき

●リヤバンパーに足先が強くあたったときや、一定時間触れたとき
リヤバンパーに一定時間触れた場合は、少し時間をおいてから再度操作してください。

●人がリヤバンパーに近すぎる位置で操作したとき

●電子キーと車両間の通信をさまたげる電波があるとき（→P.174）

●外部電源からの充電中、もしくは充電ケーブルを車両に接続しているとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯・鉄板の上などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波・ノイズ・金属がある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの表面に泥・雪・氷などが付着したとき

●リヤバンパーに草木などの動くものがふれる状態が長時間続いたとき

●リヤバンパーにアクセサリー用品を付けたとき
アクセサリー用品を取り付けた場合は、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

### ■ハンズフリーパワーバックドアの誤作動を防ぐために

ハンズフリーパワーバックドアは、電子キーが作動範囲内にあるときに誤作動するおそれがありますので、以下のことにご注意ください。

●洗車や大雨などでリヤバンパーに大量の水がかかっているとき

●リヤバンパーの汚れを拭き取る動作をしたとき

●小動物やボールなどがリヤバンパーの下を横切ったとき

●リヤバンパーの下のものを取る動作をしたとき

●リヤバンパーに腰かけて、足を動かしたとき

●リヤバンパーに足や体を触れながら車両を横切ったとき

●コインパーキング・ガソリンスタンド・ロードヒーター・蛍光灯などハンズフリーパワーバックドアの感度をさまたげる電波やノイズがある場所に駐車したとき

●近くにテレビ塔や発電所・ラジオ放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●リヤバンパーの近くに草木などがある場所に駐車したとき

●リヤバンパーの近くで荷物などの積み降ろしをしたとき

●リヤバンパーの近くでアクセサリー用品やカーカバーの着脱作業したとき

●けん引されるとき

誤作動を防ぐときは、ハンズフリーパワーバックドアの作動の設定を OFF にしてください。

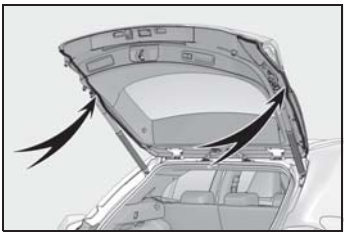
### ■補機バッテリーを再接続したときは

パワーバックドアを適切に作動させるために、初期設定としてバックドアを手動で一度全閉にしてください。

### ■挟み込み防止機能

パワーバックドアの左右端部には、センサーが付いています。ドアを自動で閉めているときに、挟み込みなどによりセンサーが押されると挟み込み防止機能が作動し、その位置からドアは自動的に反対

方向に少し動き、作動が停止します。

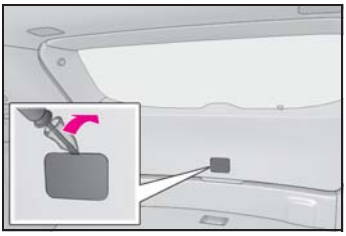


■バックドアが開かないときは

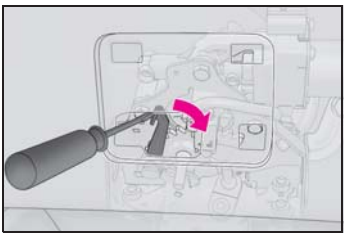
バックドアを内側から開けることができます。

1 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバーを押す



■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.452）

**警告**

■バックドアイージークローザーについて

●バックドアが半ドア状態になったとき、バックドアイージークローザーが動き自動で完全に閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などを挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあります。

●バックドアイージークローザーは、パワーバックドアの作動が OFF のときにも作動するため、指などの挟み込みには十分注意してください。

■パワーバックドアについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●人がいるときは、作動させる前に安全を確認し、動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。

●自動開閉中にパワーバックドアの作動を OFF にすると、作動が停止し手動操作に切りかわります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

**警告**

●自動開閉中に作動可能条件（→P.165）を満たさなくなったときは、ブザーが鳴り、作動が停止し手動操作に切りかわる場合があります。この場合、傾斜した場所ではバックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので十分注意してください。

●傾斜した場所では、開いたあとにドアが突然閉じる場合があります。必ずドアが全開で静止していることを確認してください。

●次のような場合、システムが異常と判断して自動作動が停止し、手動操作に切りかわることがあります。この場合、バックドアが急に開いたり閉じたりするおそれがあるので、十分注意してください。

・自動作動中、障害物に干渉したとき

・EV システム停止時でパワーバックドアが自動作動しているときに、パワースイッチを ON にしたり EV システムを始動したりして、補機バッテリー電圧が急に低下したとき

●バックドアにキャリアなどの重いものを取り付けると、自動で作動できずにパワーバックドアが故障したり、開いたあとにドアが突然閉じて、手・頭・首などを挟むおそれがあります。バックドアへのアクセサリー用品の取り付けは、レクサス純正品を使用することをおすすめします。

**■挟み込み防止機能**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、体の一部を挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、バックドアが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

●挟み込み防止機能は、挟まれるものの形状や挟まれかたによっては作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

**■ハンズフリーパワーバックドアについて**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

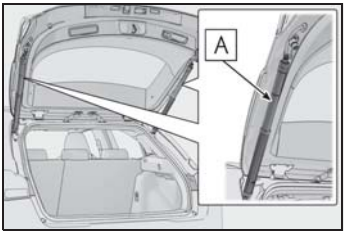
●周辺の安全を確かめ、障害物がないか、身のまわりの品が挟み込まれる危険がないか確認してください。

●リヤバンパーの下のスペースが狭い場合は、操作しないでください。

注意

■スピンドルユニットについて

バックドアにはバックドアを支えるためのスピンドルユニット A が取り付けられています。スピンドルユニット A の損傷や作動不良を防ぐため次のことをお守りください。




●ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をスピンドルユニットに付着させない

●ロッド部を軍手などでふれない

●バックドアにレクサス純正品以外のアクセサリー用品を付けない

●スピンドルユニットに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

■バックドアイージークローザーの故障を防ぐために

バックドアイージークローザーの作動中は無理な力をかけないでください。無理な力をかけると、バックドアイージークローザーの故障の原因となります。

■パワーバックドアの故障を防ぐために

●パワーバックドアを作動させる前に、凍結によるバックドアの貼り付きがないことを確認してください。バックドアに無理な力がかかっている状態で作動させると、故障の原因になります。

●パワーバックドアの作動中は、バックドアに無理に力をかけないでください。

●パワーバックドア左右端部のセンサー（→P.167）を刃物などの鋭利なもので傷付けないように注意してください。センサーが切断されると自動で閉めることができなくなります。

■クローズ＆ロック機能について

クローズ＆ロック機能でパワーバックドアを閉じると、通常ブザーと異なるブザー音が鳴り作動します。
正常に作動開始したことを確認するため、通常ブザーと異なるブザー音が鳴ったことを確認してください。
またパワーバックドアが完全に閉じ施錠されると、すべてのドアが施錠されたことをドアロックアンサーバックでお知らせします。
車から離れるときは、ドアロックアンサーバックを確認し、全ドアが施錠されたことを確認してください。

■ハンズフリーパワーバックドアについて

ハンズフリーパワーバックドアを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●リヤバンパーに親水性コーティングなどの液体を塗らない

注意

- リヤバンパーへの強い衝撃を避ける
  リヤバンパーが強い衝撃を受けると、ハンズフリーパワーバックドアが正常に作動しなくなるおそれがあります。次のような場合にハンズフリーパワーバックドアが作動しないときは、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。
  - キックセンサーやその周辺に強い衝撃を受けた
  - リヤバンパーに傷や破損がある
- リヤバンパーを分解しない
- リヤバンパーにステッカーを貼らない
- リヤバンパーを塗装しない

## パワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには（パワーバックドア装着車）

マルチインフォメーションディスプレイで ON ／ OFF の切りかえができます。（→P.141）

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押し、“車両設定” を選択し “OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して を選択し “OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して “機能” を選択する

5 メーター操作スイッチの “OK” を押すごとに ON ／ OFF が切りかわる

OFF を選択して、パワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとパワーバックドアの作動は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

## ハンズフリーパワーバックドアの作動を ON ／ OFF するには

マルチインフォメーションディスプレイでハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）の ON ／ OFF の切りかえができます。（→P.141）

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押し、“車両設定” を選択し “OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して を選択し “OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または、∨ を押して “キックセンサー” を選択する

5 メーター操作スイッチの “OK” を押すごとに ON ／ OFF が切りかわる

OFF を選択して、ハンズフリーパワーバックドアの作動を停止させた場合、再度、ON にしないとハンズフリーパワーバックドアの作動は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

## バックドア自動開停止位置調整について（パワーバックドア装着車）

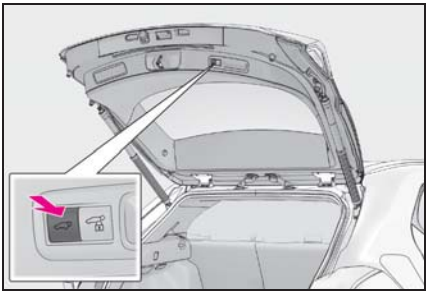
パワーバックドアを自動で開けたときに、開く位置を調整できます。

1 バックドアをお好みの位置で停止させる（→P.163）

2 バックドア下部のスイッチを約 2 秒間押し続ける

・ 設定が完了するとブザーが 4 回鳴ります。

・ 次回パワーバックドアを開けると、その位置でバックドアが停止します。

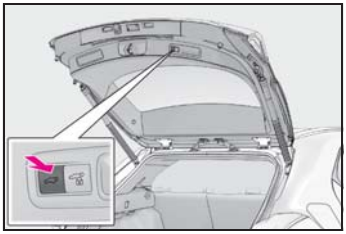


知識

■ **バックドア自動開停止位置を初期状態の位置にもどすには**

バックドア下部のスイッチを約 7 秒間押し続ける。

ブザーが 4 回鳴ったあと、さらに 2 回鳴ります。次回パワーバックドアを開ける操作をすると、初期状態の位置までバックドアが開きます。



■ **カスタマイズ機能**

ナビゲーションシステムからもパワーバックドアの自動開停止位置の変更ができます。

スイッチまたはナビゲーションシステムのうち、最後に設定した方の停止位置が優先されます。

（カスタマイズ一覧：→P.452）

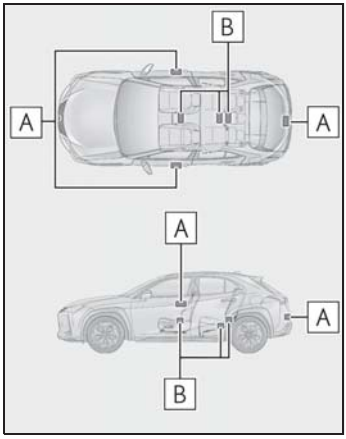
## スマートエントリー＆スタートシステム

**電子キー（カードキー含む）をポケットなどに携帯していると、次の操作が行えます。必ず運転者が携帯してください。**

- ドアを施錠・解錠する（→P.156）
- バックドアを施錠・解錠する（→P.160）
- EV システムを始動する（→P.202）

知識

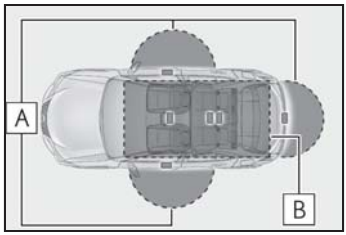
### ■アンテナの位置




A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

### ■作動範囲（電子キーの検知エリア）




A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B EV システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

### ■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。（→P.419）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次のようになります。

●車外から “ピー” と 5 秒間鳴る

| 状況 | 対処方法 |
|---|---|
| いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムで施錠しようとした | 全ドアを閉めたあと、再度施錠してください。 |

●車内から “ ポーン、ポーン ” と鳴り続ける

| 状況 | 対処方法 |
|---|---|
| 運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをACC にした（ACC のとき運転席ドアを開いた） | パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉めてください。 |
| 運転席ドアが開いている状態でパワースイッチをOFF にした | 運転席ドアを閉めてください。 |

■**マルチインフォメーションディスプレイに “ 車室内にキーがあります ” と表示されたとき**

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■**節電機能**

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した
・5 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった

●14 日間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■**電子キーを節電モードにするには**

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの 🔒 を押しながら、🔓 を 2 回押し、電子キーのインジケーターが 4 回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー＆スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長期間使用しない電子キーは、節電モードにしておくことをおすすめします。

■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

スマートエントリー＆スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。（対処方法：→P.436）

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしている

とき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CD や DVD などのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の車の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末（PDA など）
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いた場合

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内（検知エリア内）にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・EV システム始動時またはパワースイッチの切りかえ時に、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・ラゲージルーム・ドアポケット・またはグローブボックス内などに置かれていた

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、EV システムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から約 2m 以上離れた場所に置く（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.174）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” が表示されることがあります。すべてのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

### ■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.174）

### ■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります）

### ■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき

●ドアの施錠・解錠ができないときは、次の方法を行ってください。
・電子キーをドアハンドルに近づけて施錠・解錠の操作をする
・ワイヤレスリモコンを使用する

上記の方法で施錠・解錠できないときは、メカニカルキーを使って操作してください。（→P.436）

なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.53）

●EV システムの始動ができないときは、次の方法を行ってください。（→P.437）

### ■カスタマイズ機能

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P.453）

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、次の操作の説明を参照してください。

●ドアの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.156, 160, 436）

●EV システムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.437

●EV システムの停止：→P.204

**警告**

**■電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

●植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器を装着されている方は、アンテナ（→P.173）から約 22cm 以内に近付かないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

**警告**

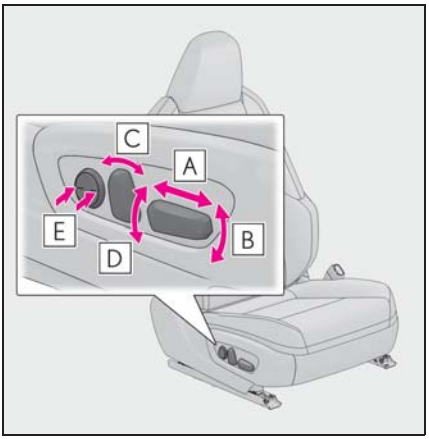
- 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

## フロントシート

**スイッチ操作により、シートの前後・上下位置などの調整ができます。正しい運転姿勢がとれるよう調整してください。****（→P.25）**

### 調整するには




A 前後位置調整

B クッション前端の上下調整

C リクライニング調整

D シート全体の上下調整

E 腰部調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

知識

**■シートを調整するときは**

●周囲の人やものがシートに挟まれないよう注意してください。

●ヘッドレストが天井にあたらないように注意してください。

**警告**

**■シートを調整するとき**

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

**■リクライニング調整について**

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## リヤシート

**レバー操作により、リヤシートの背もたれを倒すことができます。**

### 背もたれを倒すには

■ **操作する前に**

**1** 車を安全な場所に駐車する

しっかりとパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にします。（→P.212）

**2** フロントシートの位置・背もたれの角度を調整する（→P.178）

フロントシートの位置によっては、背もたれが後方に倒れていると、リヤシートの操作時にあたる場合があります。

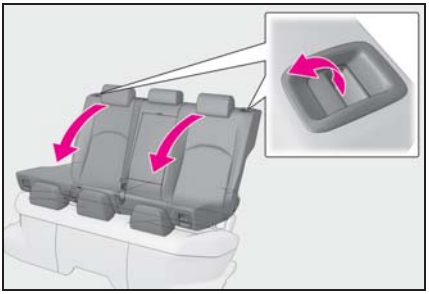
**3** リヤシートのヘッドレストを下げる（→P.180）

**4** リヤシートのアームレストを引き出している場合は、格納する（→P.351）

助手席側のシートのみを操作する場合、この手順は不要です。

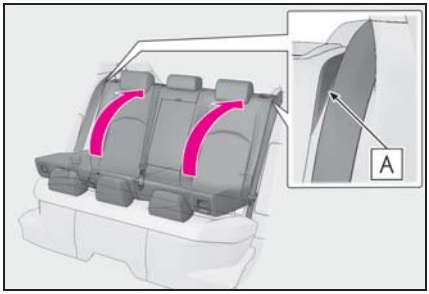
■ **前に倒すときは**

ロック解除レバーを引きながら、背もたれを倒す



■ **背もたれをもとにもどすときは**

シートベルトをシートベルトガイド A にかけて、シートとボデーのあいだに挟まれないように操作してください。また、背もたれがロックされるまで確実にもどしてください。




**警告**

■**背もたれを前倒しするときや、前倒ししたあとは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所で確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にする
- 倒した背もたれの上やラゲージルームに人を乗せて走行しない
- お子さまがラゲージルームに入らないよう注意する
- シートに人が乗っている状態で背もたれを操作しない
- 操作中は、可動部や結合部に手足を挟まないように注意する
- お子さまに操作させない

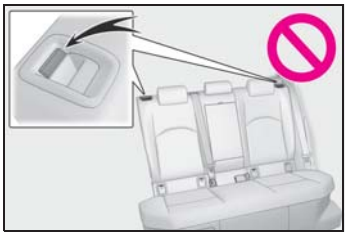
**警告**

**■背もたれをもとの位置にもどしたあとは**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する

背もたれが確実に固定されていないときは、レバーに赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。



●シートベルトがねじれたり、挟み込まれていないか確認する

# ヘッドレスト

**ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。**

**警告**

**■ヘッドレストについて**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する

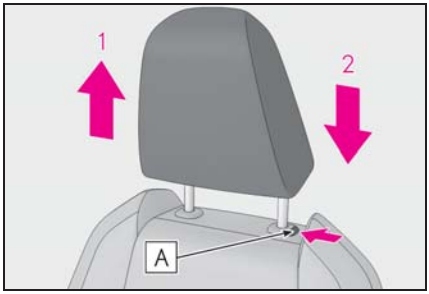
●ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する

●ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する

●ヘッドレストをはずしたまま走行しない

## 上下調整するには

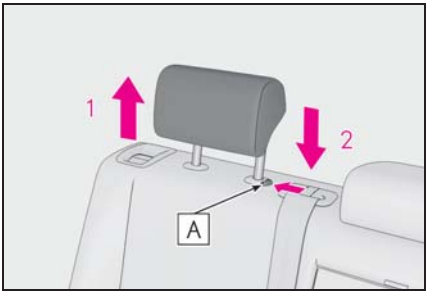
### ■ フロント席




**1** 上げる
**2** 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

■ リヤ席



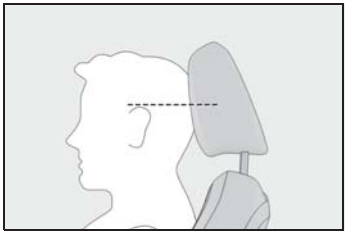

1 上げる
2 下げる

下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作します。

知識

■ ヘッドレストの高さについて（フロント席）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。



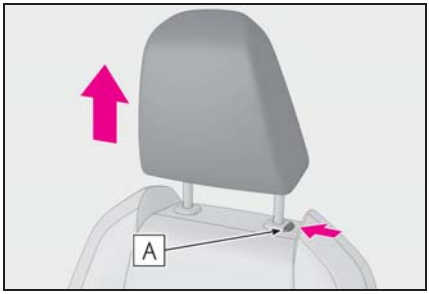
■ リヤ席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

## ヘッドレストを取りはずすには

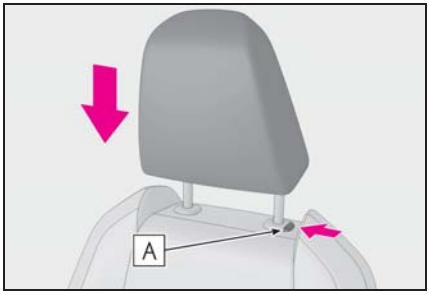
解除ボタン A を押しながらヘッドレストを引き上げます。
ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。

（→P.178, 179）




## ヘッドレストを取り付けるには

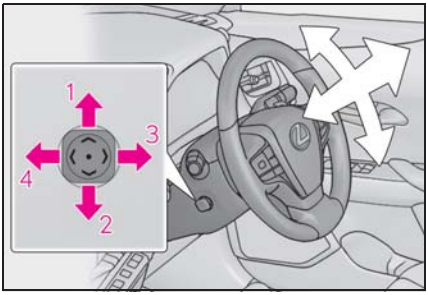
ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。
さらに下げるときは、解除ボタン A を押しながら操作してください。



# ハンドル

## 調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。




**1** 上方へ
**2** 下方へ
**3** 手前へ
**4** 前方へ

知識

**■ハンドル位置調整の作動条件**

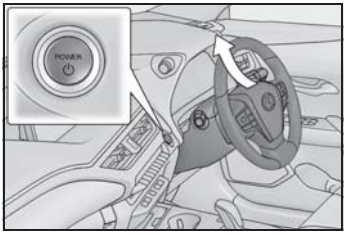
パワースイッチが ACC、または ON のとき ※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

**■運転席への乗降をしやすくする（オートアウェイ＆オートリターン機構）**

パワースイッチを OFF にすると、乗降がしやすくなるように、ハンドルが動きます。

パワースイッチを ACC または ON にすると、もとの位置にもどります。




**■カスタマイズ機能**

オートアウェイ＆オートリターン機構の設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.453）

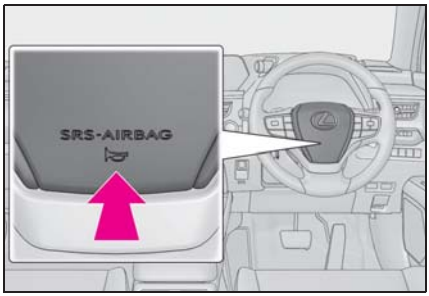
**警告**

**■走行中の留意事項**

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すとホーンが鳴ります。



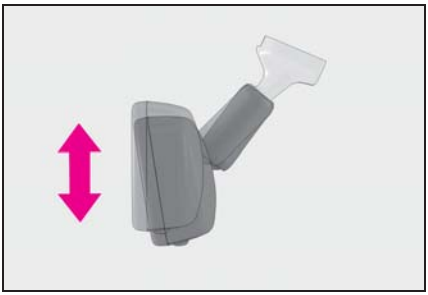
## インナーミラー

**後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。**

### 上下調整するには

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する



**警告**

**■走行中の留意事項**

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

### 防眩機能を使うには

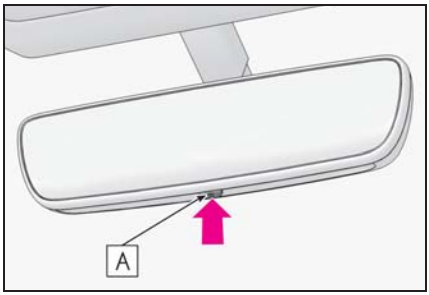
後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON ／ OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。

パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。




知識

**■センサーの誤作動防止**

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

## ドアミラー

**安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。**

**警告**

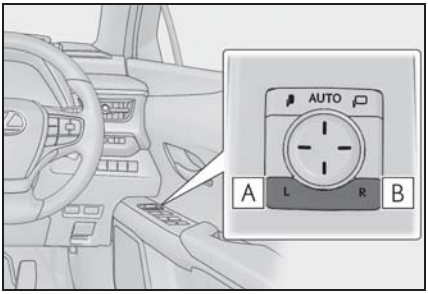
**■走行中の留意事項**

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

### 調整するには

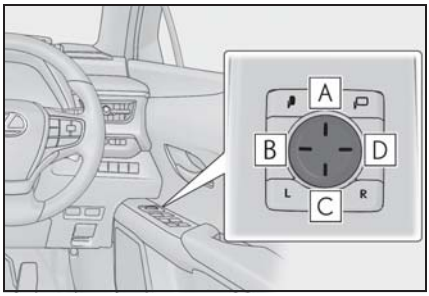
1 調整するミラーを選ぶ




A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを押す




A 上

B 左

C 下

D 右

知識

**■鏡面調整の作動条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

**■ミラーが曇ったとき**

リヤウインドウデフォッガーを作動させると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.320)

**■自動防眩機能**

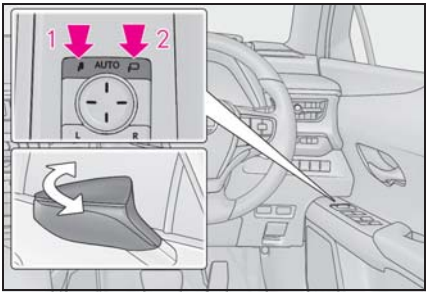
インナーミラーを自動モードにしておくと、運転席側のドアミラーも連動して防眩機能が作動します。(→P.183)

**警告**

**■ミラーヒーターが作動しているとき**

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

## ドアミラーを格納するには




**1** 格納する

**2** もとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（“AUTO”）にすると自動モードに切りかわり、ドアの施錠・解錠と連動します。

知識

**■寒冷時に使用するとき**

寒冷時に「オート作動」で使用しているとき、ドアミラーが凍結すると、自動で格納・復帰ができないことがあります。この場合、ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いたあと、格納スイッチを押すか、手で動かしてください。

**■カスタマイズ機能**

オート電動格納の設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.453）

**警告**

**■ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

## リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。
この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチを中立の位置（L・Rともに選択していない状態）にしてください。

**■ 後退時に下向きになる角度を調整するときは**

シフトポジションをRにした状態で、鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

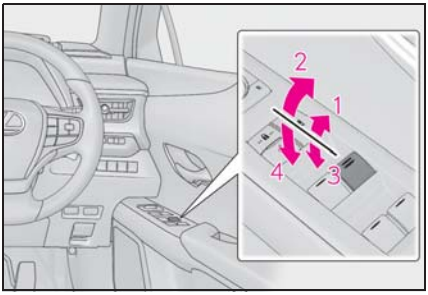
次回からシフトポジションをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

# パワーウインドウ

## ドアガラスを開閉するには

スイッチを操作し、ドアガラスを開閉できます。




1 閉める

2 自動全開 ※

3 開ける

4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■EV システム停止後の作動**

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

**■挟み込み防止機能**

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

**■巻き込み防止機能**

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

**■ドアガラスを開閉することができないときは**

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続ける。または、「自動全開」の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする

2 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする

3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で約 6 秒以上引き続ける

4 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける

5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で約 4 秒以上押し続ける

6 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切ら

ない、または全開にならない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.437）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.156）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.53）

※ レクサス販売店での設定が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ 窓が開いています ” が表示されます。

■カスタマイズ機能

ドアロック連動ドアガラス開閉機能などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P.454）

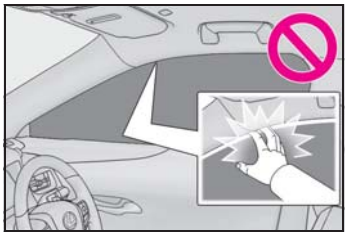
**警告**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するときは

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.188）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。



●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**警告**

■**挟み込み防止機能**

●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■**巻き込み防止機能**

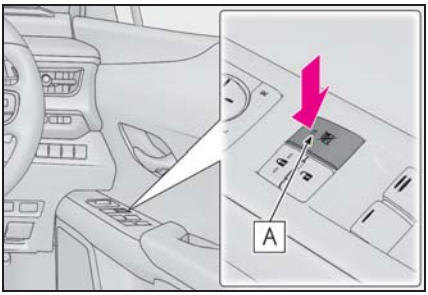
●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

## 誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。




知識

■**作動条件**

パワースイッチが ON のとき

■**補機バッテリーをはずしたとき**

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

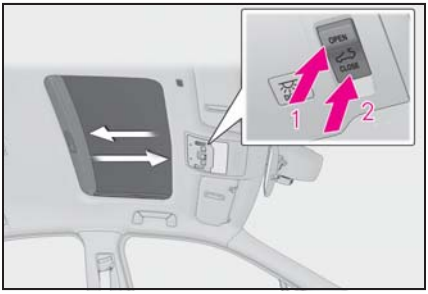
# ムーンルーフ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**頭上のスイッチでムーンルーフを開閉・チルトアップ／ダウンできます。**

## ムーンルーフを操作するには

### ■ ムーンルーフを開閉するには



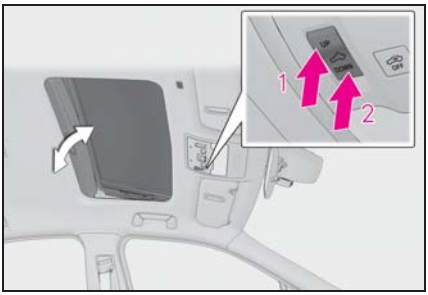

**1** 開ける※

チルトアップしてから開きます。

**2** 閉める※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

### ■ チルトアップ／ダウンするには




**1** チルトアップする※

**2** チルトダウンする※

※ 途中で停止するときは、ムーンルーフスイッチを軽く押します。

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■EV システム停止後の作動**

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間は操作できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

**■挟み込み防止機能**

ムーンルーフを閉めるとき、またはチルトダウンするときに、ムーンルーフが異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

**■サンシェード**

手動で開閉できます。また、ムーンルーフが開くと連動して開きます。

**■ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能**

- メカニカルキーでムーンルーフを開閉できます。※（→P.437）
- ワイヤレスリモコンでムーンルーフを開閉できます。※（→P.154）
- オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能でムーンルーフを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.53）

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

**■ムーンルーフが正常に閉まらないとき**

次の操作を行ってください。

**1** 車を停止する

**2** スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける※

ムーンルーフが閉じ、再び開き、10

秒間停止します。その後再び閉じ、全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ムーンルーフが正常に働かないとき

ムーンルーフの開閉操作や自動全開機能が正常に働かないときは、次の手順で初期化を行ってください。

1 車を停止する

2 スイッチの “DOWN” 側を押し続ける※

ムーンルーフがチルトアップ位置で停止します。その後開いて閉じ、チルトアップしたあとチルトダウンして全閉位置で停止します。

3 ムーンルーフが完全に閉まったことを確認し、スイッチから手を離す

※ 途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても開閉操作や自動全開機能が正常に働かない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■ムーンルーフ開警告ブザー

パワースイッチが OFF でムーンルーフが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイに “ムーンルーフが開いています” が表示されます。

### ■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.454)

**警告**

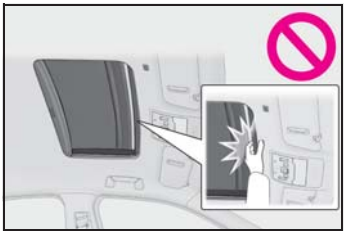
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

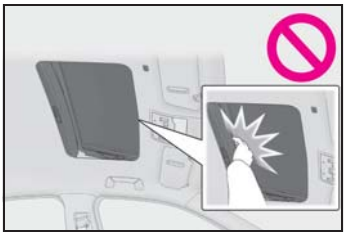
### ■ムーンルーフを開けているときは

- 走行中はルーフから手や顔を出さない
- 開口部に腰かけない

### ■ムーンルーフを開閉するときは

- 運転者は、ムーンルーフの開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはムーンルーフの操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- ムーンルーフを開閉や、チルトダウンするときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。





**警告**

- ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってムーンルーフを操作するときは、ムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。
  またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
- 車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。
  いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**■挟み込み防止機能**

- 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。
- 挟み込み防止機能は、ムーンルーフが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

# 運転 5


## 5-1. 運転にあたって

運転にあたって..... 194

荷物を積むときの注意..... 200

## 5-2. 運転のしかた

パワー（イグニッション）スイッチ ..... 202

トランスミッション..... 206

方向指示レバー..... 211

パーキングブレーキ..... 212

ブレーキホールド..... 215

ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 217

## 5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ..... 218

AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 221

AHB（オートマチックハイビーム） ..... 225

フォグランプスイッチ..... 227

ワイパー＆ウォッシャー（フロント）..... 229

ワイパー＆ウォッシャー（リヤ） ..... 232

## 5-4. 運転支援装置について

Lexus Safety System + ..... 234

PCS（プリクラッシュセーフティ） ..... 238

LTA（レーントレーシングアシスト） ..... 245

RSA（ロードサインアシスト）. 254

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 257

先行車発進告知機能..... 267

ITS Connect..... 269

BSM（ブラインドスポットモニター）.....277

PKSA（パーキングサポートアラート）.....281

クリアランスソナー.....282

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....290

PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....294

パーキングサポートブレーキ（静止物）.....299

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....301

ドライブモードセレクトスイッチ .....302

運転を補助する装置.....303

## 5-5. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 .....309

# 運転にあたって

**安全運転を心がけて、手順に従って走行してください。**

## 安全に走行するには

### ■ 乗車前の確認事項

充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する（→P.90, 97）

### ■ EV システムを始動する

→P.202

### ■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.212）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

### ■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.207）

### ■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.212）

3 シフトポジションを P にする（→P.207）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押して EV システムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め※を使用してください。

※ 輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

### ■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.212）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.212）

### ■ 急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

● 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、シフトポジションを切りかえた（R から D、D から R、N から R、P から D※、P から R※）ときのような通常と異なる操作が行われると、EV システム出力を抑制することがありま

す。

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

● 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように EV システムの出力を抑制※します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに“速度抑制中”が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■上り坂発進について

ヒルスタートアシストコントロールを使用することができます。(→P.304)

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■EV システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、EV システム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.304）すると、急発進の抑制制御も停止※します。急発進の抑制制御が作動してぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。

※ TRC の作動を停止しても、後退速度の抑制制御は作動します。

●タイヤがスリップ（空転）していると、所定の速度をこえなくても後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。後退時にアクセルペダルを踏みすぎたときなどに、EV システム出力を抑制することがあります。

■運転標識の取り付けについて

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミボデー部に取り付けることはできません。

■カスタマイズ機能

後退速度の抑制制御の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.457）

**警告**

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■発進するとき**

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

**■運転するとき**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●電気自動車は電気モーターで走行するためエンジン音がありません。そのため、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が装備されていても、周囲の騒音などが大きい場合は、車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●通常走行時は、走行中に EV システムを停止しないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.404 を参照してください。

●急な下り坂では、回生ブレーキを使用してスピードを下げてください。フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。（→P.206）

●マルチインフォメーションディスプレイに “回生ブレーキ制限中 減速時は ブレーキを踏んでください” が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。（→P.421）

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

●渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートや EV システムの破損など、重大な車両故障の原因になるおそれがあります。

**■すべりやすい路面を運転するとき**

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

**警告**

●急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキで車が横すべりするなどのおそれがあります。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

**■シフトポジションを変更するとき**

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因になるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションを N にすると、EV システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

**■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき**

できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

**■停車するとき**

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションが P または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READY インジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

**警告**

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶・炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライターやスプレー缶からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●フロントウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやドアガラスを開けたまま放置しないでください。直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にして、EV システムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■仮眠するとき

必ず EV システムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりもブレーキペダルを強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

**警告**

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

**注意**

**■運転しているとき**

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、EV システム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

**■部品の損傷を防ぐために**

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

**■走行中にタイヤがパンクしたら**

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.423 をご覧ください。

**■冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●電装品がショートする

●水の侵入による駆動用電池の破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずレクサス販売店で次の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

●トランスミッションフルードなどの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

●駆動用電池に接続されている構成部品

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はレクサス販売店へご連絡ください。

**■駐車するとき**

必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

**■事故にあったとき**

駆動用電池や周辺部品が損傷すると、誤作動の原因になる可能性があります。軽度の事故であっても、レクサス販売店で点検を受けてください。

## 荷物を積むときの注意

**安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。**

**警告**

**■積んではいけないもの**

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

**■荷物を積むとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はラゲージルームに積んでください。

●シート背もたれより高いものをラゲージルームに積まないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで荷物を積むときは、荷物を積み重ねないでください。

●後席のシート背もたれを折りたたんで、寸法が長い荷物を積むときは、できるだけ前席シート背もたれの真うしろには積まないでください。

●ラゲージルームに人を乗せないでください。乗員用には設計されていません。乗員は、適切にシートベルトを着用させ、座席に座らせてください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・トノカバー★

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

・センターディスプレイの前

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

●ルーフレール装着車：ルーフレールには直接荷物を置かないでください。荷くずれを起こしたりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■荷物の重量・荷重のかけ方について**

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ルーフレール★を使用するときは**

ルーフレールをルーフラゲージキャリアとして使用するときは、2 つ以上のレクサス純正キャリアを装着してください。レクサス純正品以外を装着される場合は、レクサス純正品に相当するものを装着してください。

ルーフラゲージキャリアに荷物を積むときは、次のことをお守りください。

●車両に荷重が均等になるように荷物を積んでください。

●車両の大きさ（全長、全幅）をこえる荷物を積まないでください。

**警告**

- 走行する前に、荷物が確実に固定されていることを確認してください。
- ルーフラゲージキャリアに荷物を積むと、車両の重心が高くなります。高速走行、急加速、急旋回、急ブレーキなどは避けてください。車両を適切に操作することができなくなることで横転し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 長距離走行、荷物が固定した位置にあることを確認してください。
- 80kg 以上の荷物を積まないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**注意**

**■荷物を積むとき**

ムーンルーフ★に荷物がふれないようにしてください。お守りいただかないと傷が付いたり割れたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## パワー（イグニッション）スイッチ

**電子キーを携帯して次の操作を行うことで、EV システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。**

### EV システムを始動するには

**1** 充電ケーブルが車両に接続されていないことを確認する（→P.90, 97）

**2** パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを押す（→P.212）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

**3** ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、EV システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、EV システムを始動できません。EV システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.207）

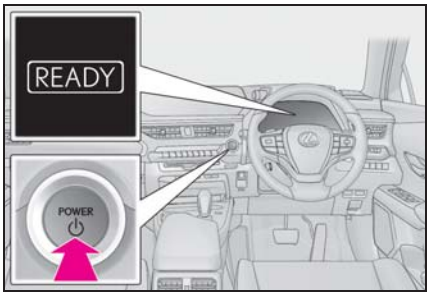
**4** パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、EV システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも EV システムを始動できます。




**5** READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

知識

**■パワースイッチ照明**

状況に応じて、次のようにパワースイッチ照明が切りかわります。

- 運転席または、助手席のドアが開いているとき、もしくはパワースイッチを ACC または ON から OFF にしたときは、パワースイッチ照明が遅く点滅します。
- 電子キーを携帯したままブレーキペダルを踏むと、パワースイッチ照明が速く点滅します。
- パワースイッチがACCまたはONのときは、パワースイッチ照明が点灯します。

**■EV システムが始動しないときは**

- イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.52）レクサス販売店へご連絡ください。
- 車両に充電ケーブルが接続されているときは、EV システムを始動することはできません。（→P.87）
- 始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に

従ってください。

●スマートエントリ&スタートシステムが正常に作動していない場合があります。(→P.174)

●メカニカルキーを使ってドアを解錠した場合は、スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.437 を参照してください。または、乗車中に電子キーを携帯し、施錠した場合（→P.159）は EV システムを始動できます。

■外気温が低いときは

●EVシステム始動時にREADYインジケーターの点滅時間が長くなることがあります。READY インジケーターが点灯すれば走行可能になりますので点灯するまでそのままお待ちください。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ－30 ℃以下）、EV システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■EV 車特有の音と振動について

→P.59

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー&スタートシステムで EV システムを始動することができません。EV システムを始動するには、P.438 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.152

■電子キーが正常に働かないとき

→P.174

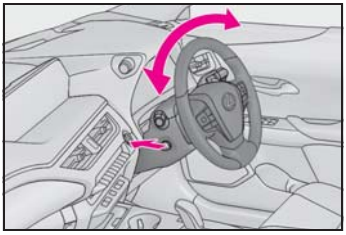
■ご留意いただきたいこと

→P.175

■ステアリングロック機能

●パワースイッチを OFF にしたあとにドアを開閉すると、ステアリングロック機能によりハンドルが固定されます。パワースイッチを操作すると、ステアリングロックは自動で解除されます。

●ステアリングロックが解除できないときは、マルチインフォメーションディスプレイに “ハンドルを左右に回しながらパワースイッチを押してください” が表示されます。シフトポジションが P の位置にあることを確認して、ハンドルを左右にまわしながらパワースイッチを短く確実に押してください。



●短時間に EV システムの始動・停止をくり返すと、モーターのオーバーヒート防止のために作動制限することがあります。その場合は操作を控えてください。10 秒程度でもとの状態にもどります。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

■EV システムに異常があるときは

→P.64

■電池キーの電池交換

→P.393

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せてない場合は、モードの切りかえや EV システムの

始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、EV システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.436 を参照してください

**警告**

■EV システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。

思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行中の警告

EV システムの停止などで車両滑走状態になったときは、車両が安全な状態で停止するまでドアを開けたり、ロック操作をしたりしないでください。ステアリングロック機能が作動し、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■EV システムを始動するとき

もし EV システムが始動しにくい場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにレクサス販売店にご連絡ください。

## EV システムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキがマニュアルモードのときは、パーキングブレーキをかける（→P.212）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.207）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

EV システムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの “アクセサリー” や “イグニッション ON” の表示が消灯していることを確認する

**知識**

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしてもアクセサリーモードになることがあります。その場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。システムが故障した場合は、すみやかにお近くのレクサス販売店で点検を受けてください。

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.208

**警告**

■緊急時の EV システム停止方法

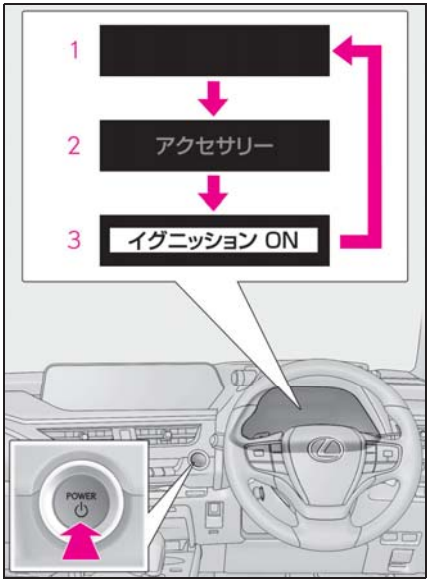
●走行中に EV システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.404）ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。走行中に EV システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中に EV システムの緊急停止したあと、走行中に EV システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

## パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）




**1** OFF

非常点滅灯が使用できます。

**2** ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。

メーターに “アクセサリー” が表示されます。

**3** ON

すべての電装品が使用できます。

メーターに “イグニッション ON” が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（EV システムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。EV システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●EV システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●EV システム停止中に、マルチインフォメーションディスプレイの “アクセサリー” または “イグニッション ON” の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

## トランスミッション

**目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。**

### シフトポジションの使用目的について

| シフトポジション | 目的および状態 |
|---|---|
| P | 駐車または EV システムの始動 |
| R | 後退 |
| N | 動力が伝わらない状態 |
| D | 通常走行 |
| B | 回生ブレーキ力選択モード走行 |

知識

■急発進の抑制について（ドライブスタートコントロール）

→P.194

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

■補機バッテリーを脱着したとき

→P.440

**警告**

**■すべりやすい路面を走行するとき**

急なアクセル操作を行わないでください。横すべりやスピンの原因になりますので注意してください。

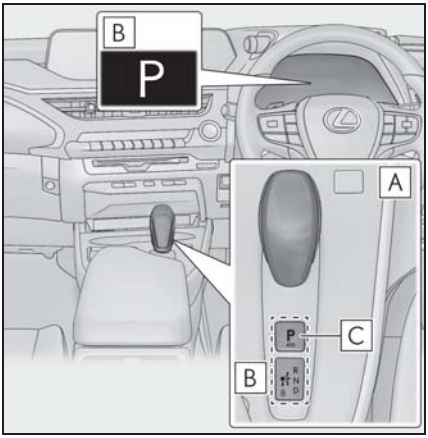
**注意**

**■シフト制御システムの異常が考えられるとき**

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、レクサス販売店にご連絡ください。

- マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.419）
- シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

## シフトポジションの切りかえ方法と表示について




A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に従って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

B への切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・B・R から P へ、または D・B から R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが表示されます。

シフトレバー表示：

現在のシフトポジションが点灯表示されます。

シフトレバーを操作したあとは、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

**知識**

**■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ**

- パワースイッチが OFF または ACC のと

きはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READY インジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■P から他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを B に切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、B を選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した
極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときに R を選択した
低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した
低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から B を選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止

させパワースイッチを押したとき（シフトポジションがPに切りかわったあと、パワースイッチがOFFになります）※

●シフトポジションがP以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
・パワースイッチがON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがPに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中にEVシステムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがP以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※ 停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションがPに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.438を参照してください。

**警告**

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Pポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Pポジションスイッチにふれないでください。
停車直前など、極低速走行中にPポジションスイッチを押すと、シフトポジションがPに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はPポジションスイッチにふれないでください。

**注意**

■シフトポジションの切りかえ操作について

PからP以外、およびP以外からPへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Pからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がPであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

## シフトポジションをNに保持したままパワースイッチをACCにするときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションをNに保持したままパワースイッチをACCにすることができます

1 EV システムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N で ACC になります。※
ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

● シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押してシフトポジションを P に切りかえます

● EV システムが停止しているときに、N ポジションを保持したまま ACC にする操作を行うと、シフトポジションが N で ACC になる場合がありますが、必ず EV システムが始動している状態で行ってください。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

## 走行モードの選択

■ ドライブモード

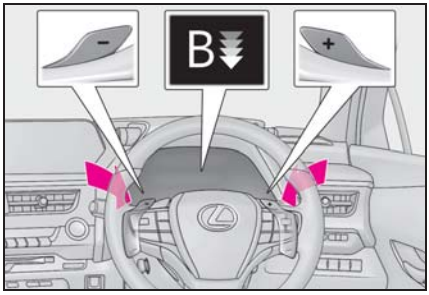
→P.302

## 回生ブレーキ力選択モードでの操作方法

シフトポジションを B にして、パドルシフトスイッチを操作することで、アクセルペダルを離したときまたは、ブレーキペダルを踏んだときの回生ブレーキ力を固定した走行ができます。

回生ブレーキ力は 4 段階から選択できます。

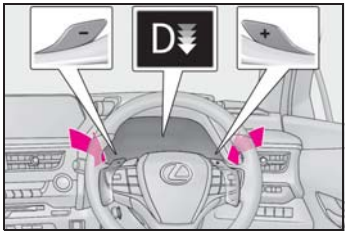
メーター内の（回生ブレーキカインジケーター）の の数が多いほど回生ブレーキ力が強くなります。




知識

■ 一時的に強い回生ブレーキ力にするには

シフトポジションが D で走行中、パドルシフトスイッチの “－” 側を操作することにより、現状より強い回生ブレーキ力にすることができます。このとき、メーター内に回生ブレーキカインジケーターが表示されます。




次のとき、一時的に強い回生ブレーキ力は、自動的に解除されます。

- 停車したとき
- アクセルペダルを一定時間以上踏み続けたとき
- シフトポジションを D 以外にしたとき
- パドルシフトスイッチの “＋” 側を長押ししたとき

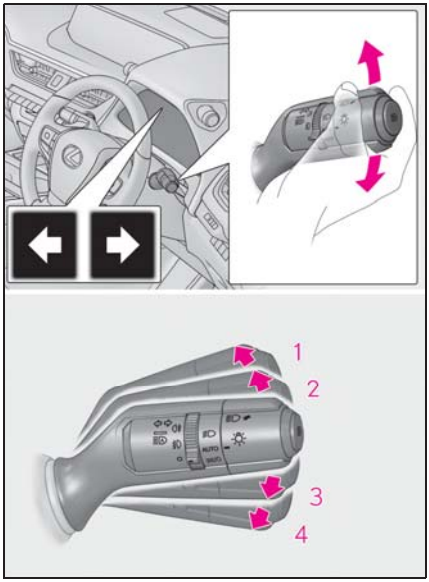
■回生ブレーキについて

- 高速走行時は、通常の車にくらべて回生ブレーキによる減速感が小さくなります。
- マルチインフォメーションディスプレイに “回生ブレーキ制限中　減速時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは、ブレーキペダルをしっかり踏んで減速してください。（→P.421）

# 方向指示レバー

## 操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。




**1** 左折

**2** 左側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、左側方向指示灯が点滅します。

**3** 右側へ車線変更（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで、右側方向指示灯が点滅します。

**4** 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

## パーキングブレーキ

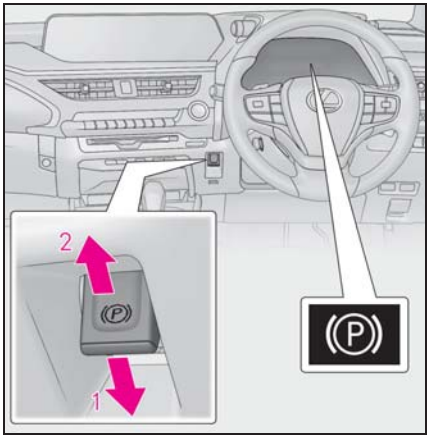
**自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。**

**オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。**

### 操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。




**1** スイッチを押し、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。(→P.214)

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを押し続けてください。

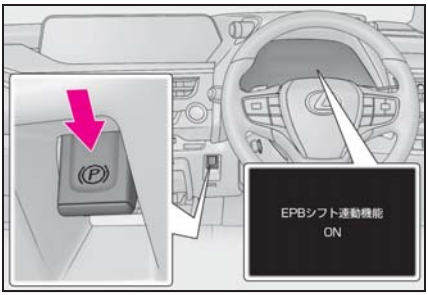
**2** スイッチを引き、パーキングブレーキを解除する

・ ブレーキペダルを踏みながら操作してください。
・ パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

### ■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける




オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

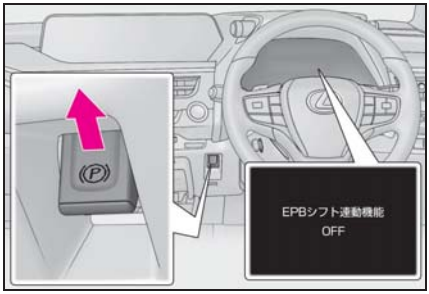
● シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

● シフトポジションを P 以外から P にすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

### ■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける




知識

**■ パーキングブレーキの作動**

● パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

● パワースイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

**■ パーキングブレーキ自動解除について**

オートモード：

シフトポジションを P から P 以外 にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

● 運転席ドアが閉まっているとき

● 運転席シートベルトを着用しているとき

● シフトポジションが D、B または R のとき

**■ マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは**

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあり

ます。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.194

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■ブレーキ警告灯が点灯したとき

→P.412

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.310

**警告**

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**注意**

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでかかったままになったとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

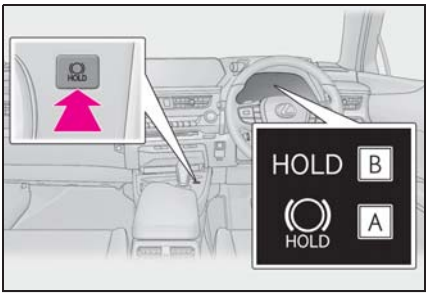
## ブレーキホールド

**シフトポジションがD・BまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDまたはBのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。**

### システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。




知識

**■システムの作動条件**

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

**■ブレーキ保持について**

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

**■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき**

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.212）

**■レクサス販売店で点検が必要なとき**

ブレーキホールドシステムの作動条件を満たしているときに、ブレーキホールド

スイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.414

**警告**

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

**注意**

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

# ASC（アクティブサウンドコントロール）

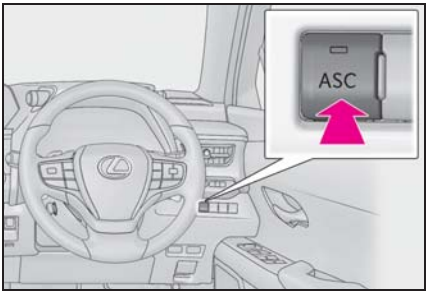
**ASC は、車室の前方から車内に向けて特殊な音を付加し、実際の電気モーター音などと協調させることで、運転者が加速感を、より実感しやすくするためのシステムです。**

## 設定のしかた

ASC スイッチを押す

ON のときはスイッチ上のインジケーターが点灯します。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

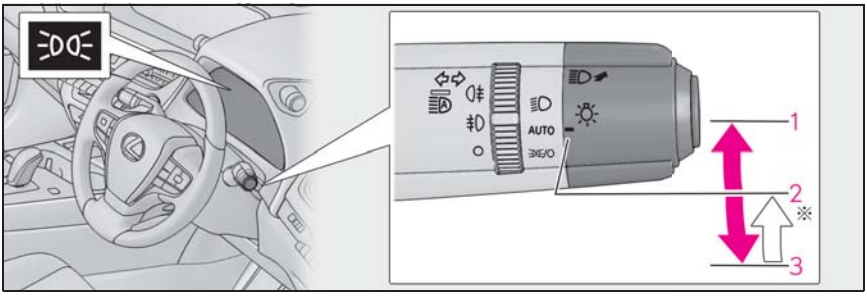


# ランプスイッチ

**自動または手動でヘッドランプなどを点灯・消灯できます。**

## 点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。




※ スイッチを 3の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

| ポジション | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| 1 | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 | |
| 2AUTO※1 | LED デイライト（→P.219）が点灯 | ヘッドランプ・スモールランプが点灯 |
| 3/C※1 | スモールランプが点灯 | スモールランプが点灯 ※2 |

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

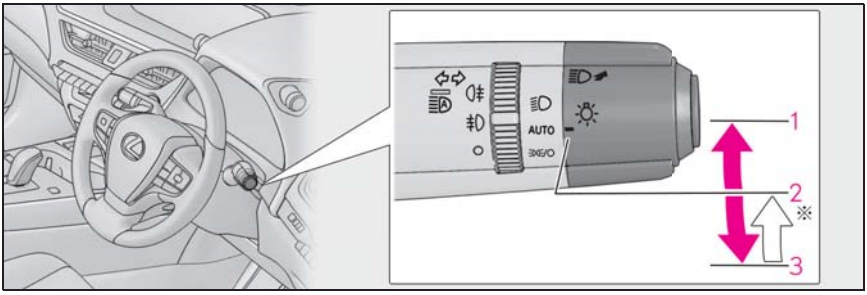
※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

## 消灯のしかた

スイッチを 3の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 か 3 の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。




※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTO の位置へ戻ります。

| ポジション | 点灯状態 | |
|---|---|---|
| | 周囲が明るいとき | 周囲が暗いとき |
| 3 | ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.219）が消灯 | ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※ |

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

**■AUTO モードの作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■LED デイライト機能**

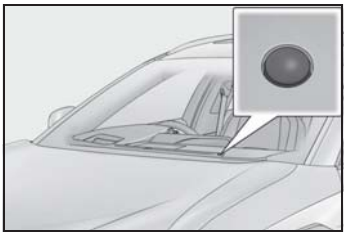
日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、EV システム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチを AUTO にすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します）
LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

**■自動で点灯 / 消灯する明るさについて**

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

**■ライトセンサーについて**

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをフロントウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。



**■ランプ消し忘れ防止機能**

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプス

イッチを AUTO にしてから⇒DEF/O または

⇒の位置にします。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

パワースイッチを ON にすると節電機能は解除されます。

次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

● ランプスイッチを操作したとき

● ドアを開閉したとき

■おもてなし照明

ランプスイッチが AUTO の位置で車両周辺が暗いとき、スマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンでドアを解錠すると、車幅灯が自動で点灯します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチが AUTO でワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。

■カスタマイズ機能

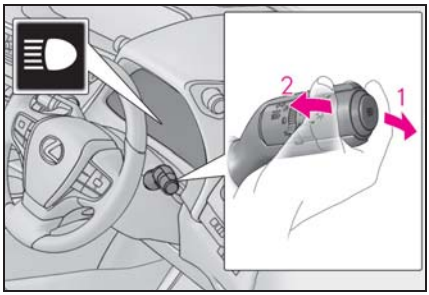
ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.454）

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

## ハイビームにするには




**1** ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

**2** レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

## コーナリングランプ

ヘッドランプ（ロービーム）点灯時に次のいずれかの条件を満たしたとき、夜間走行時の交差点や駐車時に優れた視認性を確保するため、コーナリングランプが追加点灯し車両進行方向を照射します。

● ハンドルを操作したとき

● 方向指示レバーを操作したとき

● シフトポジションが R のとき（左右両側のコーナリングランプが点

灯）

知識

■コーナリングランプ制御について

●車速が約 30 km/h 以下のときに点灯します。ただし、約 35 km/h 以上になると消灯します。

●点灯した状態で 30 分間経過すると、自動で消灯します。

## AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。**

**警告**

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

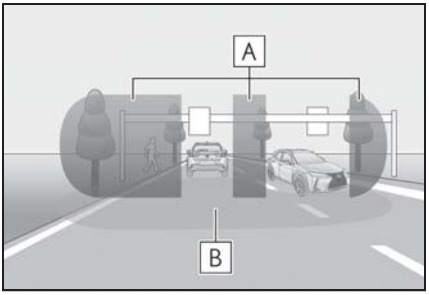
### システムの制御

● 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。

● カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。

● 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。




A ハイビームで照らす範囲

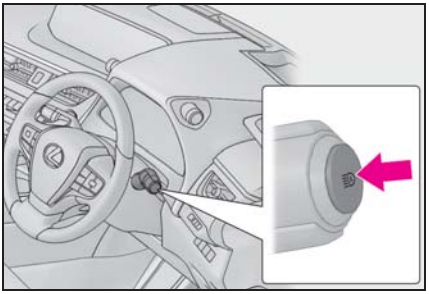
B ロービームで照らす範囲

● 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

● 低速で走行しているとき、両側のコーナリングランプで車両側方を照らします。

## アダプティブハイビームシステムを使うには

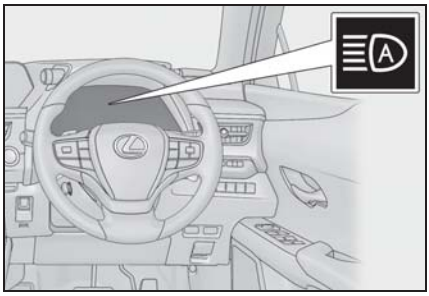
1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す



2 ランプスイッチを≡Dまたは

AUTOの位置にする

アダプティブハイビームシステムが作動すると、AHS 表示灯が点灯します。



知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。

・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。

・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。

・車速が約 15km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い

●車速が約 3 ～ 15km/h のとき、両側のコーナリングランプが点灯します。

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。

・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき

・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

### ■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.455）

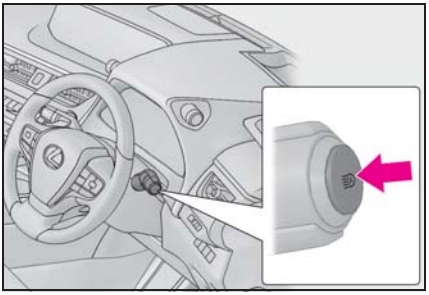
## 手動制御に切りかえるには

### ■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度アダプティブハイビームシステムスイッチを押します。

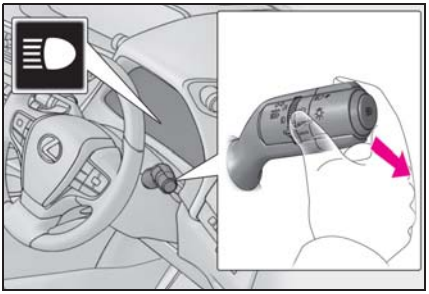


■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

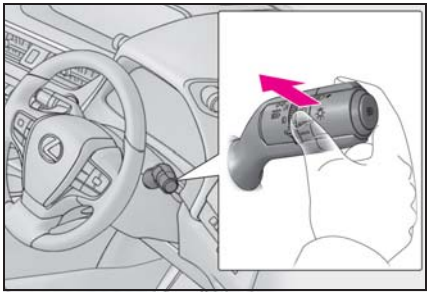
アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

## AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。**

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

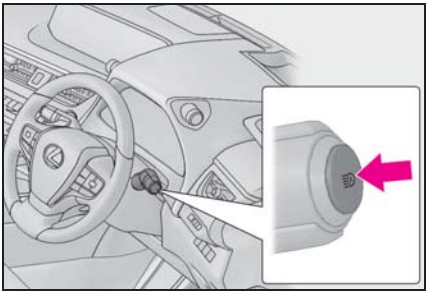
オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

**■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために**

荷物を積み過ぎないでください。

### オートマチックハイビームを使うには

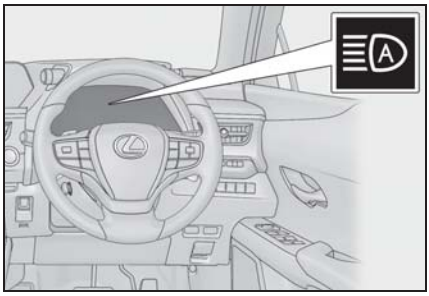
**1** オートマチックハイビームスイッチを押す



**2** ランプスイッチを⇒または

AUTOの位置にする

オートマチックハイビームが作動すると、オートマチックハイビーム表示灯が点灯します。



知識

**■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件**

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
- 車速が約 30km/h 以上
- 車両前方が暗い
- 前方にランプを点灯した車両がいない
- 前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
- 車速が約 25km/h 以下
- 車両前方が明るい
- 前方車両がランプを点灯している
- 前方の道路沿いの街路灯の光が多い

**■前方カメラの検知について**

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
- 見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
- 他車が前方を横切ったとき
- 連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
- 前方車両が離れた車線から接近してきたとき
- 前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイ

ビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

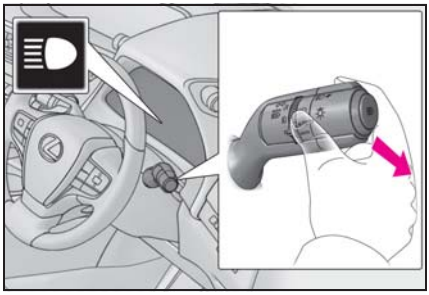
## 手動制御に切りかえるには

### ■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度レバーをもとの位置にもどします。



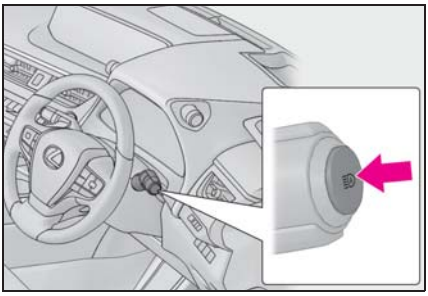
### ■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

オートマチックハイビーム表示灯が消灯

します。

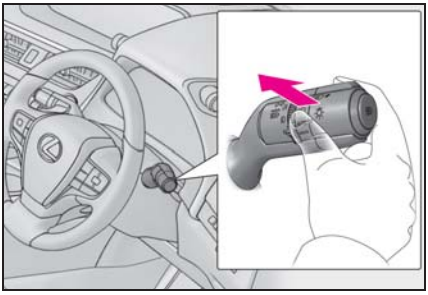
オートマチックハイビームにもどすには、再度オートマチックハイビームスイッチを押します。



■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだは、ハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。



知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

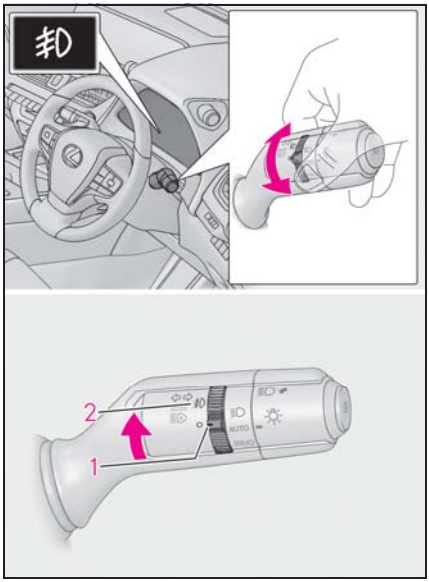
## フォグランプスイッチ

**雨や霧などの悪天候下では、前方の視界を確保するためにフロントフォグランプを、後続車に自車の存在を知らせるためにリヤフォグランプ★を点灯させます。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 操作のしかた

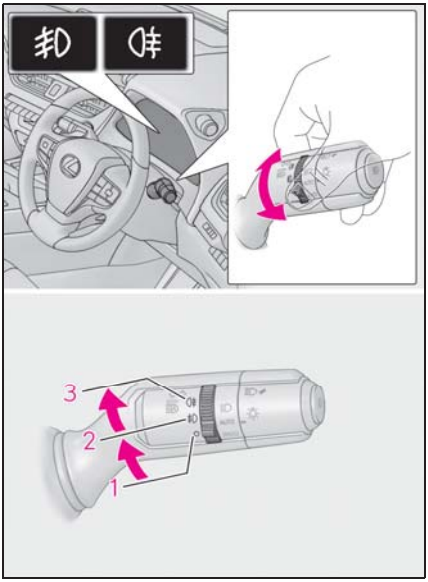
▶ フロントフォグランプ装着車




1 ○ 消灯する

2 点灯する

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車




1 ○ 消灯する

2 フロントフォグランプを点灯する

3 フロント＆リヤフォグランプを点灯する

手を離すとの位置までもどります。

再度操作すると、リヤフォグランプのみ消灯します。

知識

■ **点灯条件**

▶ フロントフォグランプ装着車

ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

▶ フロント＆リヤフォグランプ装着車

フロントフォグランプ：ヘッドランプまたは車幅灯が点灯しているときに使用できます。

リヤフォグランプ：フロントフォグランプが点灯しているときのみ使用できます。

■ **リヤフォグランプ★について**

● リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

● 雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

EV システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

## ワイパー＆ウォッシャー（フロント）

**レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。**

注意

**■フロントウインドウガラスが乾いているときは**

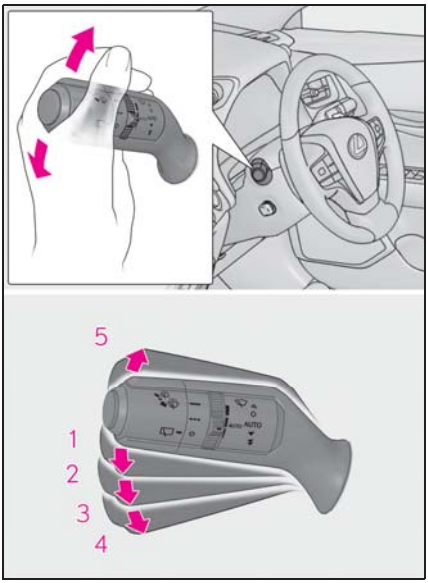
ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

### 操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。

AUTO を選択しているとき、雨滴量と車速に応じてワイパーが作動します。




1 ○停止

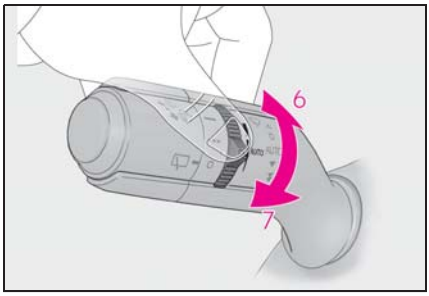
2 AUTOAUTO モード

3 ▼低速作動

4 ▼▼高速作動

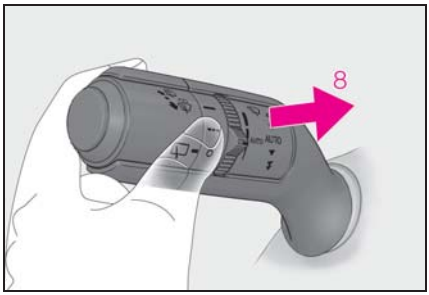
5 ▲一時作動

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整できます。




6 雨滴センサーの感度調整（高）

7 雨滴センサーの感度調整（低）




8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は働きません。）

ヘッドランプクリーナー装着車：
ヘッドランプが点灯しているときに 5 回

連続で手前に引くとヘッドランプクリーナーが作動します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

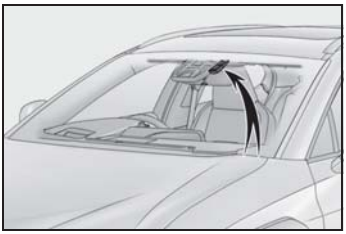
■車速による作動への影響

車速によってワイパー作動の間欠時間への影響があります。

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。

光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。



●パワースイッチが ON のときにワイパースイッチを AUTO にすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 90 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO 以外でワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

シフトポジションが P の状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

警告

■AUTO モード時のワイパー作動について

AUTO モードでは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが作動するおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャーを使用するとき

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったときは

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

## ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。

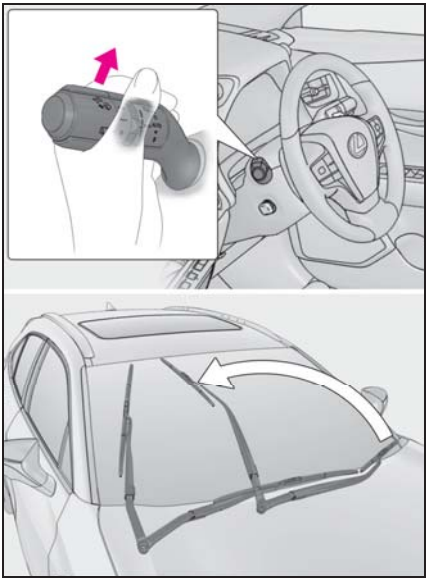
寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに切りかえた上でワイパーを立ててください。

### ■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを

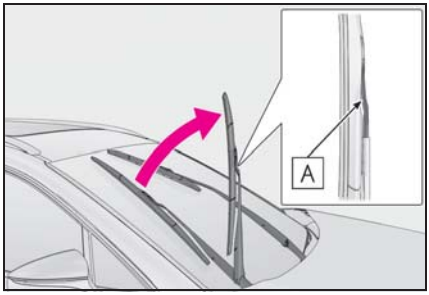
△ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。



### ■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 A を持ってガラス面から引き上げる




知識

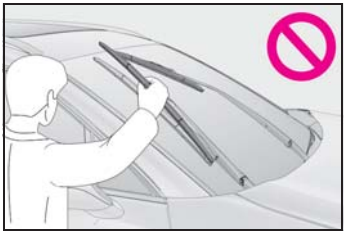
**■ ワイパーを格納位置にもどすには**

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。パワースイッチが OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

注意

**■ ワイパーを立てるときは**

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。



- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

## ワイパー & ウォッシャー（リヤ）

**レバー・スイッチ操作でリヤワイパーやウォッシャーを作動させることができます。**

⚠ 注意

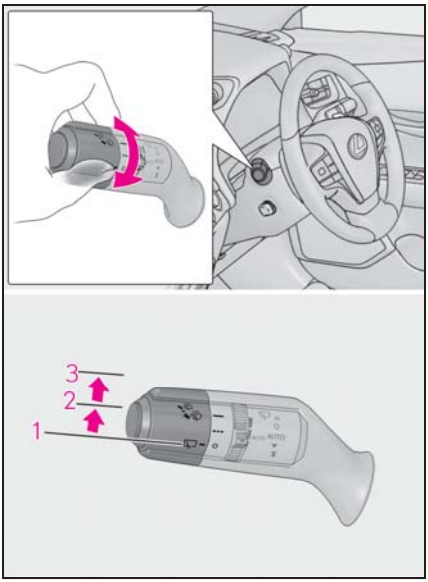
**■リヤウインドウガラスが乾いているときは**

ワイパーを使わないでください。

ガラスを傷付けるおそれがあります。

### 操作のしかた

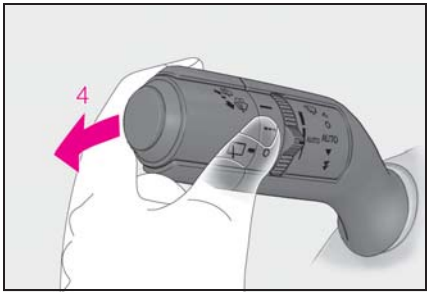
次のように スイッチを操作すると、リヤワイパーが作動します。




1 ○ 停止

2 - - - 間欠作動

3 ━━ 通常作動




4 ウォッシャー液を出す

レバーを前方へ押すとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

**■リバース連動機能**

フロントワイパーが作動中、シフトポジションを R にするとリヤワイパーが 1 回作動します。

**■バックドア開連動リヤワイパー停止機能**

停車状態でリヤワイパーが作動しているときにバックドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。バックドアを閉めると作動を再開します。※

※ レクサス販売店での設定変更が必要です。

**■カスタマイズ機能**

リバース連動機能などの設定を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.454）

注意

■ **ウォッシャー液が出ないときは**

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。

ポンプが故障するおそれがあります。

■ **ノズルがつまったときは**

ノズルがつまったときはレクサス販売店へご連絡ください。

ピンなどで取り除かないでください。

ノズルが損傷するおそれがあります。

■ **補機バッテリーあがりを防止するために**

EV システムを停止した状態でワイパーを長時間作動しないでください。

## Lexus Safety System +

**Lexus Safety System + は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。**

### 運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.238

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.245

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.221

■ AHB（オートマチックハイビーム）★

→P.225

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.254

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.257

■ 先行車発進告知機能

→P.267

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

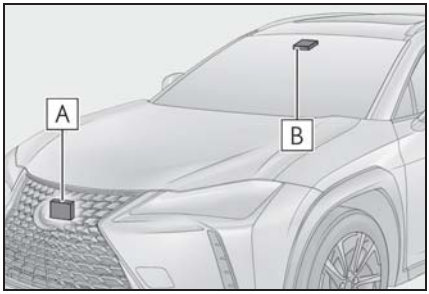
■ **Lexus Safety System + について**

Lexus Safety System + は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

### 前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。




A レーダー

B 前方カメラ

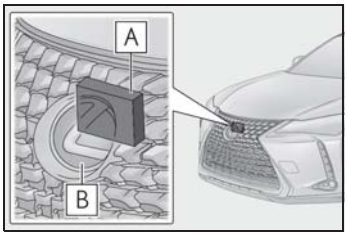
**警告**

■ **レーダーの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく




A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける
レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずレクサス販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

**■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために**

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

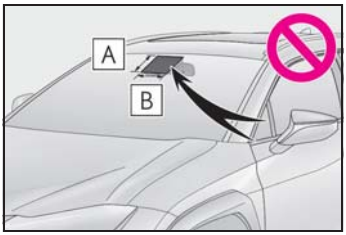
●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、レクサス販売店にご相談ください。

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない




A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

**警告**

- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.320）
- 前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する
- フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない
- フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する
  フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに液体をかけない
- 前方カメラに強い光を照射しない
- 前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない
  フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。
  レンズに汚れ・傷がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。
- 前方カメラに強い衝撃を加えない
- 前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない
- 前方カメラを分解しない
- インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない
- ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない
  詳しくはレクサス販売店にご相談ください。
- ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする
- ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

| 状況 | 対処法 |
|---|---|
| 前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき | ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.320） |
| 炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき | 炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる<br>特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。 |
| | 極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる |
| ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき | ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする |
| “プリクラッシュセーフティ 現在使用できません” が表示されたとき | レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く |

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。

周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はレクサス販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき
・暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
　その場合には “プリクラッシュセーフティ 現在使用できません” が表示されます。

## PCS（プリクラッシュセーフティ）

**進路上の作動対象（→P.238）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。**

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.240）

### システムの作動対象

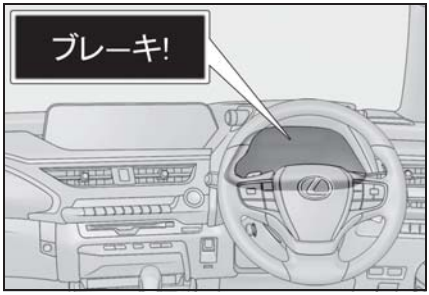
システムは次のものを作動対象として検出しています。

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

### 機能一覧

■ **衝突警報**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。




■ **プリクラッシュブレーキアシスト**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ **プリクラッシュブレーキ**

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

**警告**

■**安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
  プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**警告**

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：→P.242

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：→P.243

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

**■プリクラッシュブレーキについて**

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

**■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき**

次のときは、システムを OFF にしてください。
システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●けん引されるとき

●けん引するとき

●トラック・船舶・列車などに積載するとき

●車両をリフトで上げ、EV システムを始動しタイヤを空転させるとき

●点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき

●事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●オフロード走行やスポーツ走行をするとき

●タイヤの空気圧が適正でないとき

●著しく摩耗したタイヤを装着しているとき

**警告**

- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

## プリクラッシュセーフティの設定変更

### ■ プリクラッシュセーフティの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.141）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

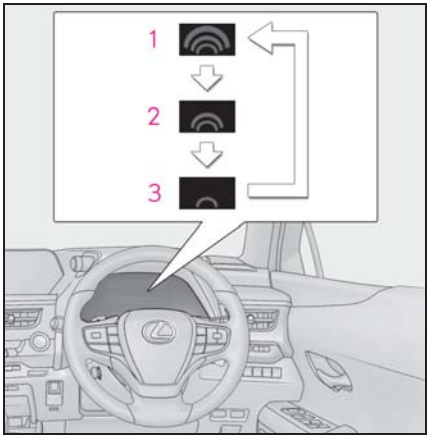
パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

### ■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.141）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリクラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。




**1** 早い

**2** 中間

初期設定

**3** 遅い

知識

■システムの作動条件

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。
各機能の作動速度は次のとおりです。

●衝突警報

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 車両 | 約 10 ～ 180km/h | 約 10 ～ 180km/h |
| 自転車運転者・歩行者 | 約 10 ～ 80km/h | 約 10 ～ 80km/h |

●プリクラッシュブレーキアシスト

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 車両 | 約 30 ～ 180km/h | 約 30 ～ 180km/h |
| 自転車運転者・歩行者 | 約 30 ～ 80km/h | 約 30 ～ 80km/h |

●プリクラッシュブレーキ

| 作動対象 | 自車速度 | 相対速度 |
|---|---|---|
| 車両 | 約 10 ～ 180km/h | 約 10 ～ 180km/h |
| 自転車運転者・歩行者 | 約 10 ～ 80km/h | 約 10 ～ 80km/h |

ただし、次のときシステムは作動しません。

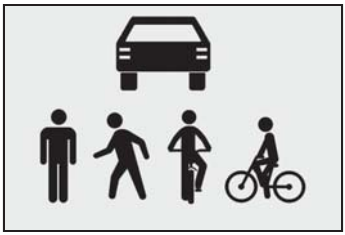
●補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

●シフトポジションが R のとき

●VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

■作動対象の検出

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。
周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.243）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。



■プリクラッシュブレーキの作動解除

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

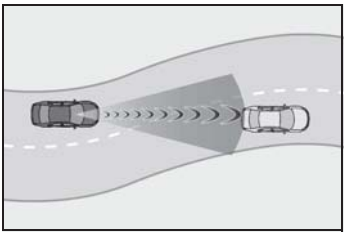
●アクセルペダルを強く踏み込む

●ハンドルを大きくきる、またはすばやく操作する

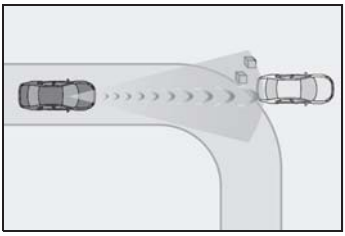
■**衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

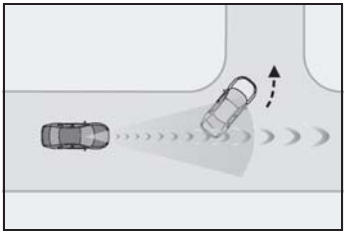
・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき



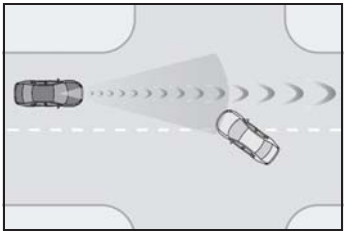
・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき



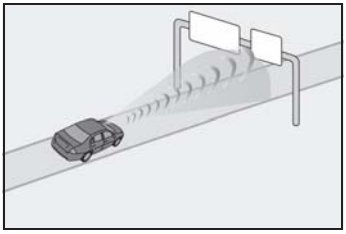
・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき



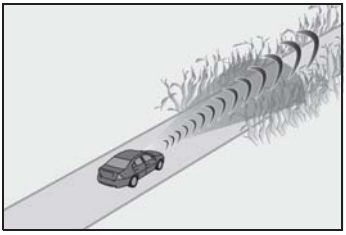
・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき



・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき



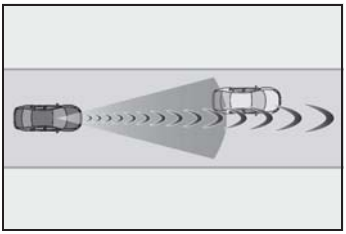
・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき



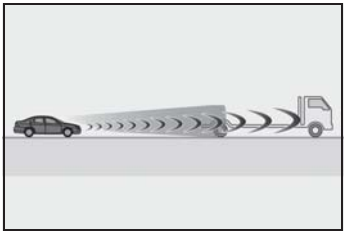
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき

■**システムが正常に作動しないおそれがあるとき**

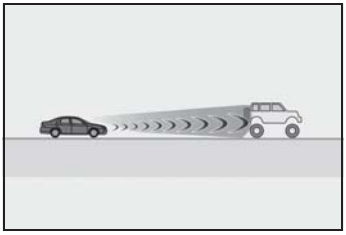
●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき



・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

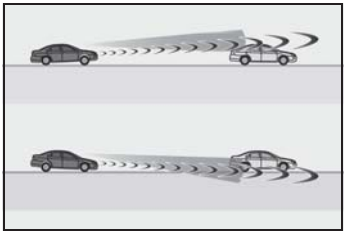


・前方車両の最低地上高が極端に高いとき



・前方車両の荷台から荷物がはみ出して

いるとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロングスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・EV システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき



・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき

●例えば次のような状況では、制動力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき
・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.304）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

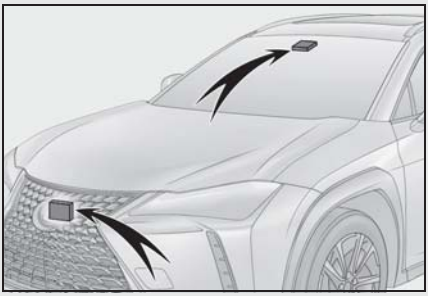
●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のためプリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

## LTA（レーントレーシングアシスト）

**白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路※からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路※からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.257）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。**

**白（黄）線または走路※を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。**

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



### 警告

**■LTA をお使いになる前に**

- LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。
- 適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- LTA を使用しないときは、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。

**■LTA を使用してはいけない状況**

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。
思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき
- 雪道を走行しているとき
- 水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき
- 工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき
- 工事区間を走行しているとき
- 応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき
- タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき
- 車両けん引時

**警告**

**■LTA の故障、または誤作動を防ぐために**

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

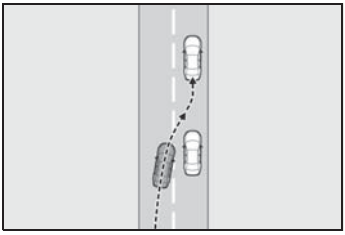
●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

**■機能が正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.250）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）



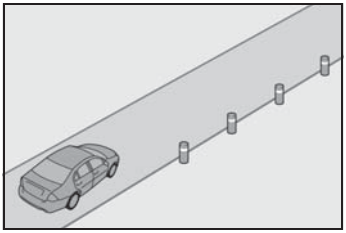
●先行車追従表示中（→P.250）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車追従表示中（→P.250）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

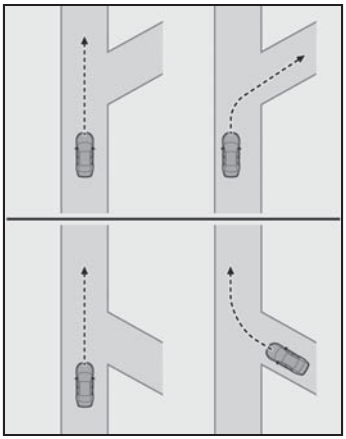
●先行車追従表示中（→P.250）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●急カーブを走行しているとき

●路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

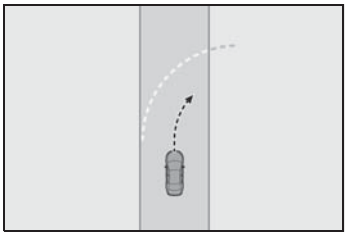


●分岐・合流路などを走行するとき



**警告**

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき



- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき
- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

## LTA に含まれる機能

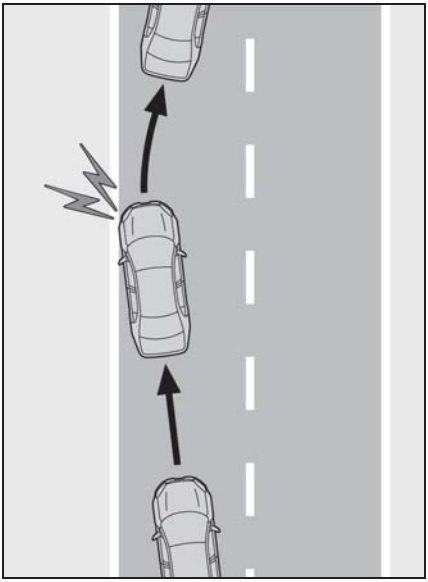
### ■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



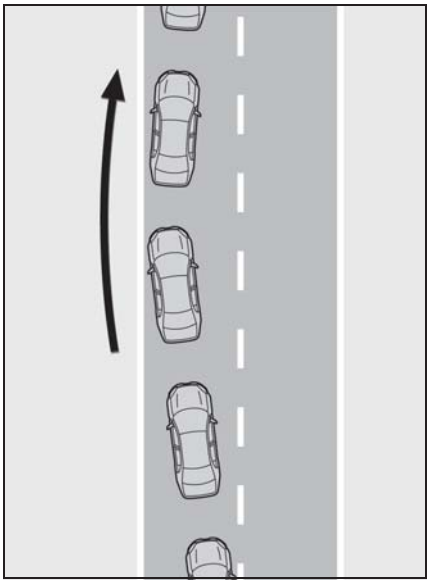
### ■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

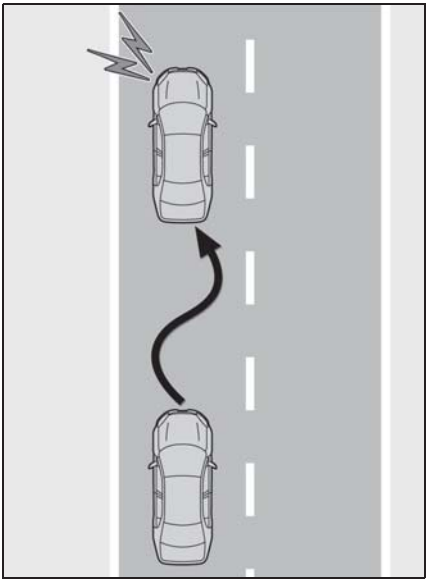
BSM 装着車：車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

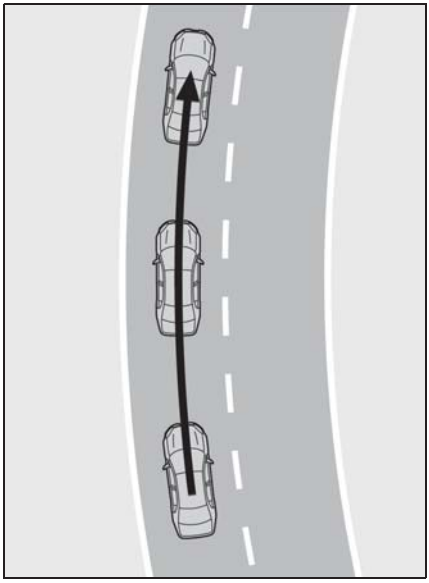
※ アスファルトと草・土・縁石等の境界



### ■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。





■ **車線維持支援機能**

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

一定時間ハンドル操作をしなかったり、ハンドルをしっかり握っていない状態での運転が続いたりしたときは、マルチインフォメーションディスプレイの表示により注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。

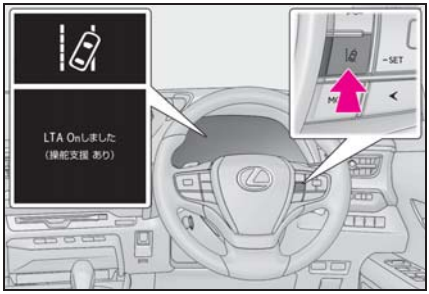
## 設定のしかた

LTA を ON にするには LTA スイッチを押す

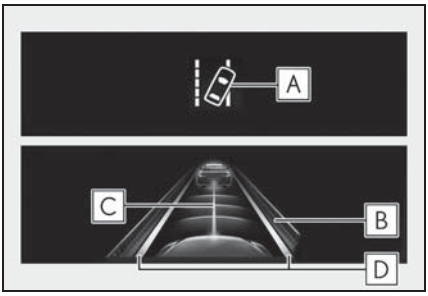
LTA 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

OFF にするには、再度スイッチを押します。

いったん LTA を ON ／ OFF すると、次回 EV システムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。



## マルチインフォメーションディスプレイ表示




A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。
車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

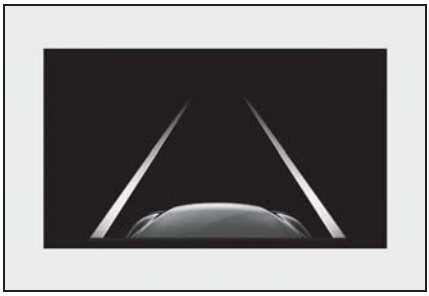
車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

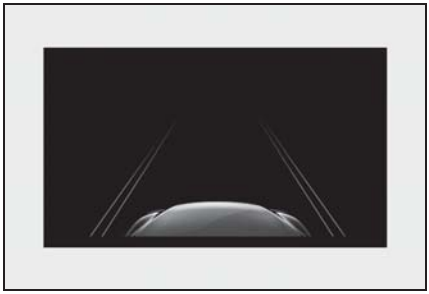
マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき



システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを

示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ 車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・ システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白 [ 黄 ] 線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき（BSM 装着車：方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.253）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙で “ 操舵支援 ” を “On” に設定しているとき（→P.141）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.252）が行われていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙で “ ふらつき検知 ” を “On” に設定しているとき（→P.141）
・ 車速が約 50km/h 以上のとき
・ 車線の幅が約 3m 以上のとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.253）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・ LTA を ON にしているとき
・ マルチインフォメーションディスプレイの⚙で “ 操舵支援 ” を “On” かつ “ センタートレース ” を “On” に設定しているとき（→P.141）
・ システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・ 車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・ 方向指示レバーを操作していないとき
・ 急カーブを走行していないとき
・ システムの異常が検知されていないとき（→P.253）
・ 一定以上の加減速がないとき
・ 車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・ TRC または VSC を OFF にしていないとき
・ 手放し運転に対する注意喚起（→P.252）が行われていないとき
・ 車線中央付近を走行しているとき
・ 車線逸脱抑制機能が作動していないと

き

■ **機能の一時解除**

● 作動条件（→P.251）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

● 車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.251）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または “ピピッ” とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定でハンドル振動を On に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■ **車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について**

● 車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

● これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

● 車線逸脱抑制機能の作動テストを行わないでください。

■ **車線逸脱警報機能について**

● 外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

● 走路※ がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

● BSM 装着車：となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

● 車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ **手放し運転に対する注意喚起について**

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

● システムの作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、警報手段をハンドル振動に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

● 車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

● 車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、警報手段をハンドル振動に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

### ■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

### ■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

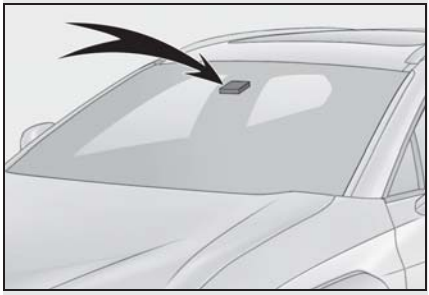
### ■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。

（カスタマイズ一覧：→P.455）

## RSA（ロードサインアシスト）

**前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。**



**認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。**

**警告**

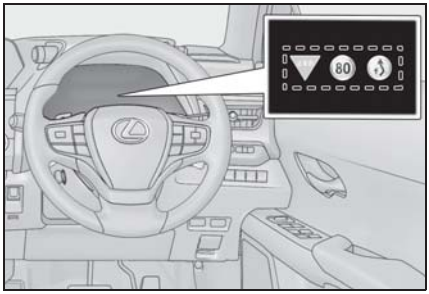
**■RSA をお使いになる前に**

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

### マルチインフォメーションディスプレイ表示

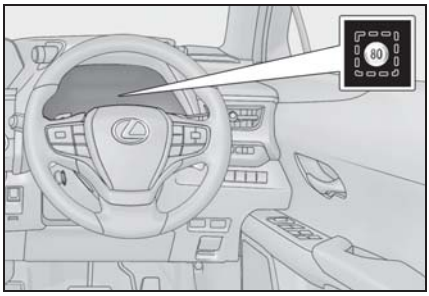
前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。（→P.141）




● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

- 最高速度標識
- 車両進入禁止標識（告知時のみ）




速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

### 認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

：最高速度

：車両進入禁止

：一時停止

：はみ出し通行禁止

※：終わり

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

## 告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

### ■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “車両設定” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して を選択し、“OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、“OK” を押す

### ■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

### ■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に

標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき
- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

### ■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次回パワースイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

### ■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.456）

# レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

**アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。**

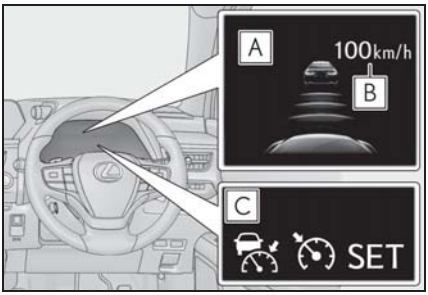
**通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。**

**高速道路や自動車専用道路で使用してください。**

- 車間制御モード（→P.259）
- 定速制御モード（→P.262）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車のみ）（→P.263）

## システムの構成部品

### ■ メーター表示

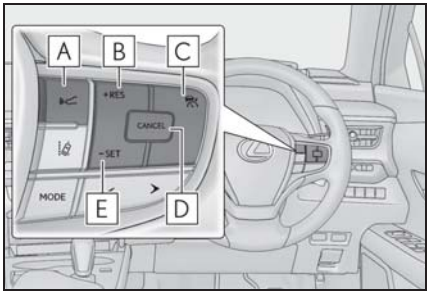



A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

### ■ 操作スイッチ




A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。

次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・ センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.266

・ 車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.266

**警告**

- 設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。
- システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

**■システムの支援内容に関する注意点**

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 運転者が見る過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
  運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。
- 運転者が判断する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。
- 運転者が操作する過程での支援内容
  レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

**■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況**

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 歩行者や自転車等が混在している道
- 交通量の多い道
- 急カーブのある道
- 曲がりくねった道
- 雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面
- 急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
  急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。
- 高速道路や自動車専用道路の出入り口
- センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

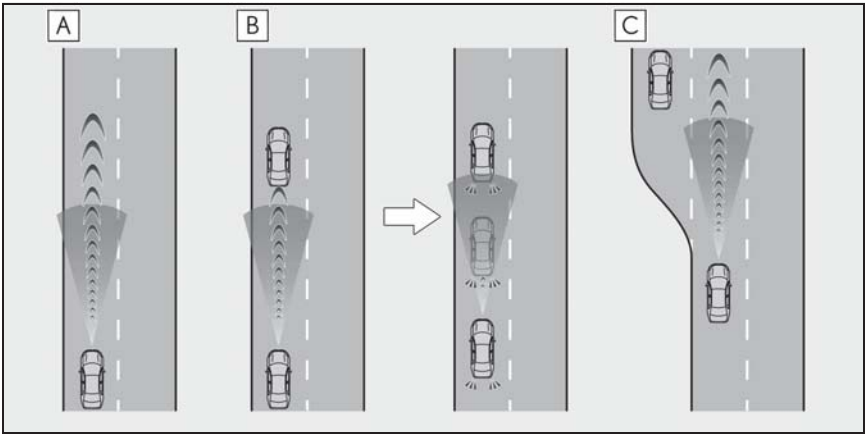
**警告**

- レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき
- ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき
- 車両けん引時
- 接近警報がひんぱんに鳴るとき

## 車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。




A 定速走行：
　先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：
　設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

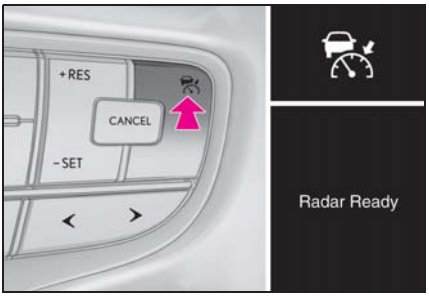
設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

## 速度を設定する（車間制御モード）

**1** クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムを ON にする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFF にするには再度スイッチを押します。

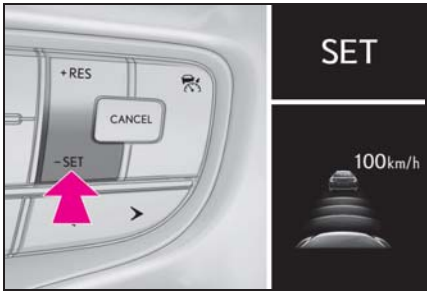
クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続けると定速制御モードでシステムが ON します。（→P.262）




**2** 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

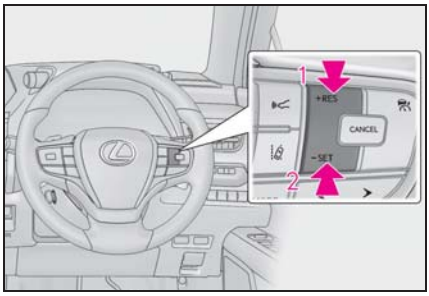
スイッチを離したときの車速で定速走行できます。




## 設定速度をかえる

● スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで “+RES” スイッチまたは “-SET” スイッチを押します。




**1** 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

**2** 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/h ずつ

定速制御モード（→P.262）では、設定速度は、次のとおりに増減されます

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

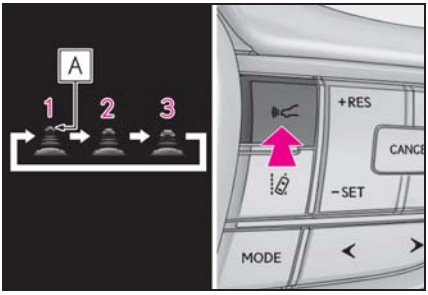
● アクセルペダルで設定速度を上げる

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET” スイッチを押す

## 車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。




1 長い

2 中間

3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

## 車間距離選択の目安（車間制御モード）

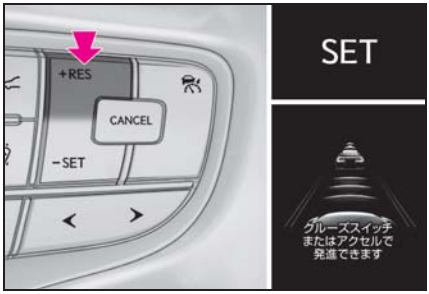
次の目安を参考に車間距離を選択してください。
（車速 80km/h で走行している場合）
なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

| 車間距離選択 | 車間距離 |
|---|---|
| 長い | 約 50m |
| 中間 | 約 40m |
| 短い | 約 30m |

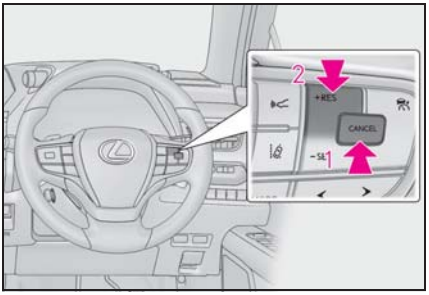
## 制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。



## 制御を解除する・復帰させる



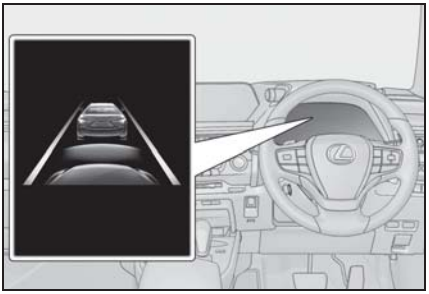

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

## 接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。



### ■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

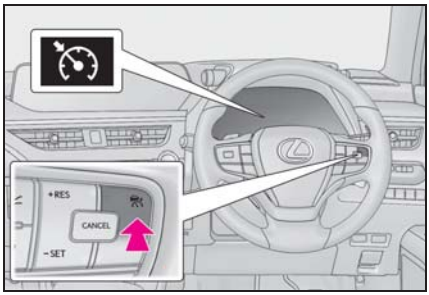
## 定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。




2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／

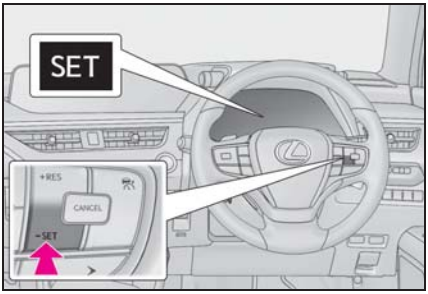
減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる
(→P.260)

制御を解除する・復帰させる
(→P.262)



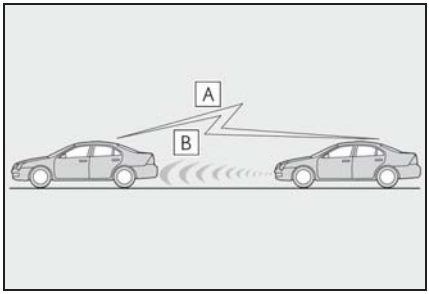

## 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.269 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

### ■ 情報取得




A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

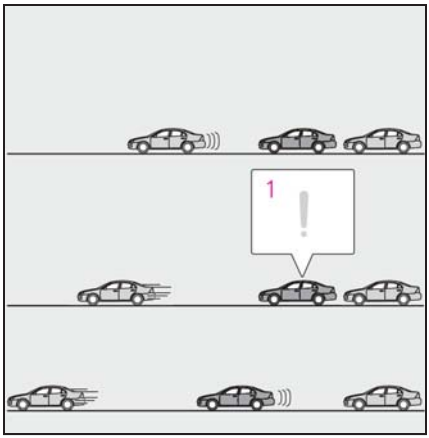
車間距離情報などを取得します。

### ■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

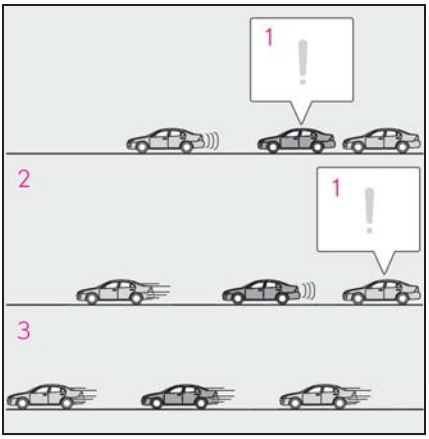
車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード



1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール




1 先行車の発進に素早く気づく

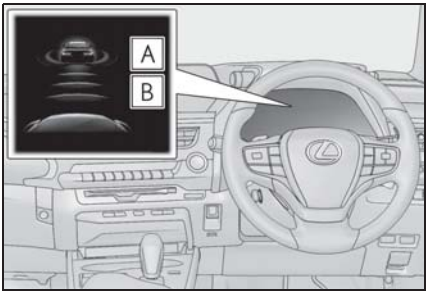
2 スムーズな加速で追従

3 短時間で渋滞解消

### ■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON ／ OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの⚙画面（→P.141）から、通信利用型クルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

### ■ システム作動時の表示




A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

### ■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて本機能の作動レベルがかわります。（→P.261）

| 車間距離設定 | 作動目安 |
|---|---|
| 長い | ゆったりとした加減速による追従走行 |
| 中間 | 中間の追従走行 |
| 短い | きびきびとした加減速による追従走行 |

知識

**■設定条件について**

●シフトポジションがDのとき設定できます。

●車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

**■車速設定後の加速について**

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

**■追従走行中の停車制御について**

●制御停車中に“+RES”スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。

●先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

**■車間制御モードの自動解除**

次のとき、自動的に車間制御モードが解

除されます。

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

●急坂路で制御停車したとき

●制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

**■定速制御モードの自動解除**

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

●設定速度より車速が約16km/h以上低下したとき

●車速が約 30km/h 未満になったとき

●VSC が作動したとき

●TRC が一定時間作動したとき

●TRC または VSC を OFF にしたとき

●運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）

●パーキングブレーキが作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。レクサス販売店にご相談ください。

**■通信利用型レーダークルーズコントロールについて**

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

**■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況**

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

**■ブレーキが作動したとき**

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりするこ

とがありますが異常ではありません。

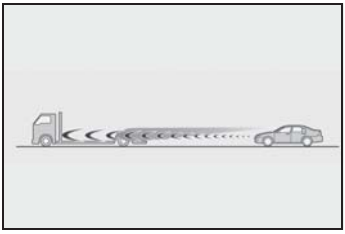
### ■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.237，419）

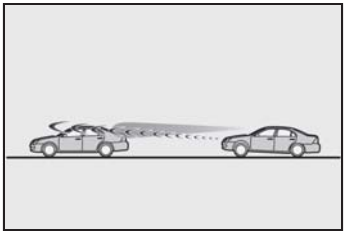
### ■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。
センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.262）も作動しないおそれがあります。

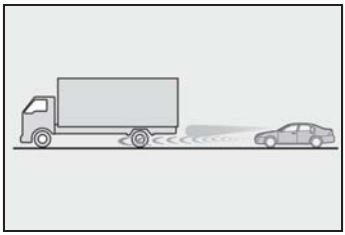
- 先行車が急に割り込んできたとき
- 先行車が低速で走行中のとき
- 同じ車線に停車中の車がいるとき
- 先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）



- 同じ車線を二輪車が走行中のとき
- 周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合
- 自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）



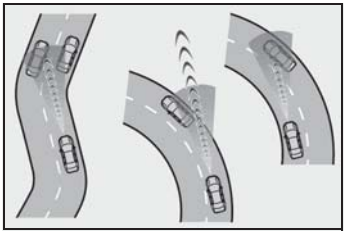
- 先行車の車高が極端に高いとき



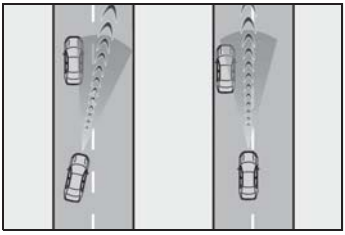
### ■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。
センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

- カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合



- ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合



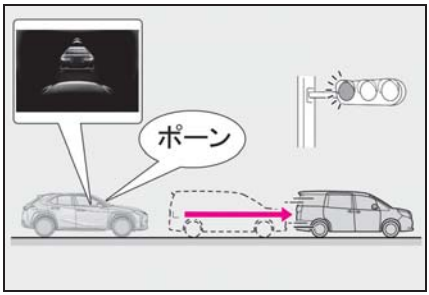
- 先行車が急ブレーキをかけた場合
- 道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合
- アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

## 先行車発進告知機能

**先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。**

### 先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。




知識

**■作動条件**

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

**■先行車が発進していても告知しない場合があるとき**

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システ

ムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS 警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

### ■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発進したと判断し、システムが作動する場合があります。

- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき
- 先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき
- 自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

### ■先行車発進告知機能の設定を変更するには

- 先行車発進告知機能の ON ／ OFF

システムの ON ／ OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、“OK” を押す

- 先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、“OK” を押す

3 ∧または∨を押して“先行車発進告知”を選択し、“OK”を押す

4 ∧または∨を押して“告知タイミング”を選択し、“OK”を押す

# ITS Connect★

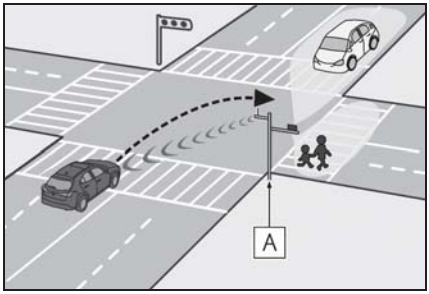
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。**

## ITS Connect の概要

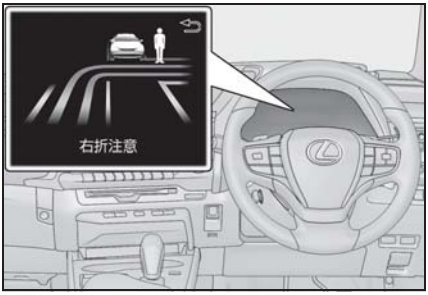
### ■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置されたDSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。




A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意をうながすことにより安全運転を支援します。




※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

## ■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細はP.263 を参照してください。

知識

### ■ITS Connect 機器に関する情報

●本システムは、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。

●本システムは、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
機種名：DTU-1010
型式認定番号：10005

●本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

### ■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はレクサスオーナーズデスクにお問い合わせください。

レクサスオーナーズデスクについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

**警告**

### ■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.275）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

### ■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

**警告**

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

**■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について**

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.271）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

**■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について**

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

**注意**

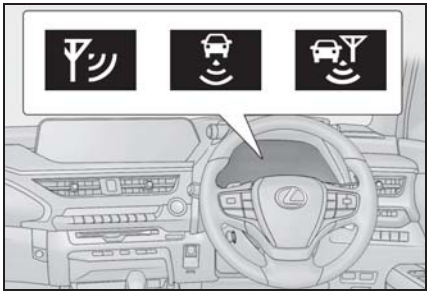
**■ITS Connect 機器取り扱いの注意**

●ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

●ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

## ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。



| アイコン | 接続状態 |
|---|---|
| | 道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている |
| | 通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている |
| | 道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている |

## 割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、一時停止注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

**■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）**

交差点で右側方向指示灯を点滅させ

て右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）**

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **出会い頭注意喚起**

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ **赤信号注意喚起**

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ **信号待ち発進準備案内**

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ **緊急車両存在通知**

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

■ **一時停止注意喚起** ※

一時停止の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、一時停止を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ **前方停止車両存在案内** ※

見通しが悪いカーブの先などで、渋滞などによって先行車両が停止または低速で走行しているときに、ブザーと表示でお知らせします。

■ **わき道車両存在案内** ※

見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるときに、ブザーと表示でお知らせします。

※ 一時停止注意喚起・前方停止車両存在案内・わき道車両存在案内について、正常に作動しないおそれがある状況など、詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書／ナビゲーション／地図の基本操作／ DSSS（Driving Safety Support Systems）運転支援機能について」を参照してください。

## 通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

■ **通信車両接近通知の使い方**

● マルチインフォメーションディスプレイで専用の通知画面を表示しているときに使用することができます。
ハンドルのメーター操作スイッチの < または > を押して を選択し、∧ または ∨ を押して、通知画面を表示してください。

● 車両が停止しているときに表示が有効になります。車両が完全に停止していないときは通知されません。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されているDSSS用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・EVシステムを始動してから、しばらく走行するまでのあいだ

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信がさえぎられたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS用路側装置の向きがかわってしまっているとき
・DSSS用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS

路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

## 各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙(→P.141)で、機能の設定を変更することができます。

### ● 信号情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- 赤信号注意喚起
- 信号待ち発進準備案内

### ● 道路環境情報

次の機能の作動・非作動を変更することができます。

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起
- 一時停止注意喚起
- 前方停止車両存在案内
- わき道車両存在案内

### ● 支援タイミング

次の機能の表示タイミングを変更することができます。

- 右折時注意喚起
- 出会い頭注意喚起
- 赤信号注意喚起
- 一時停止注意喚起

### ● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の作動・非作動を変更することができます。

### ● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの作動・非作動を変更することができます。

## BSM（ブラインドスポットモニター）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。**

### 警告

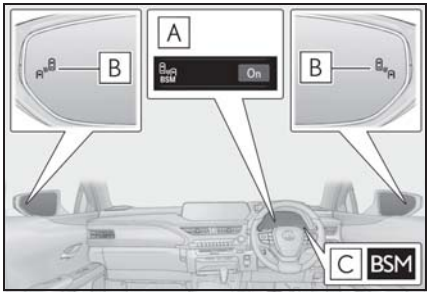
**■安全にお使いいただくために**

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

## システムの構成部品




A マルチインフォメーションディスプレイ

ブラインドスポットモニターの ON／OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

C BSM 表示灯

ブラインドスポットモニターが ON のときに点灯します。

### 知識

**■ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

**■マルチインフォメーションディスプレイに“BSM 現在使用できません”が表示されたときは**

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.278）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復

帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.457）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

D04 JP ja 01

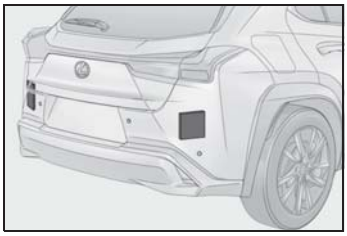
**警告**

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.277）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.280）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はレクサス販売店にて点検を受けてください。



●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにステッカーを貼らない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける

センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずレクサス販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●リヤバンパーの塗装修理の際にはレクサス設定色以外への変更は行わないでください

## ブラインドスポットモニターの ON ／ OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。
（→P.141）

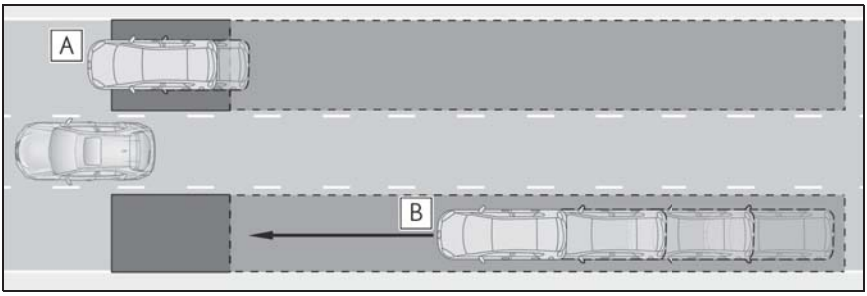
1 ＜または＞を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押してBSMを選択し、“OK” を押す

## ブラインドスポットモニターの作動

### ■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

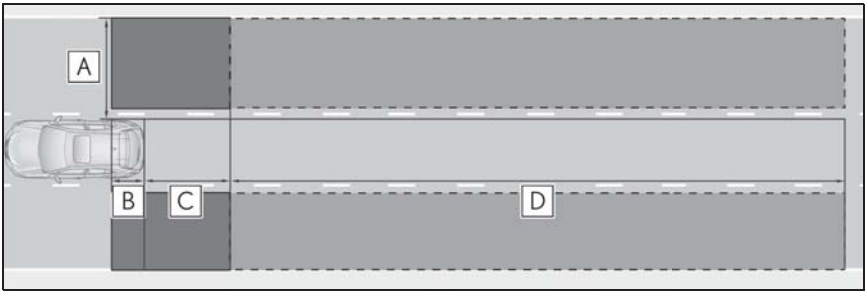



A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

### ■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。




検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターが ON のとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - ・自車と他車の速度差に変化があるとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
  - ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
  - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
  - ・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
  - ・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
  - ・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
  - ・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

## PKSA（パーキングサポートアラート）

**PKSA（パーキングサポートアラート）は、ソナーで壁などの静止物を検知しお知らせするクリアランスソナー、レーダーで後方接近車両を検知しお知らせするRCTA（リヤクロストラフィックアラート）★機能により、駐車時に運転者に注意喚起を行います。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 駐車支援機能

#### ■ クリアランスソナー

→P.282

#### ■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

→P.290

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 警報ブザー

#### ■ ブザー音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。
クリアランスソナー、RCTA のブザー音を一括で調整します。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.142）

1 ＜または＞を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す

3 ∧または∨を押して 🔊を選択し、“OK” を押す

押すごとに 1,2,3 の間で音量が切りかわります。

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。
“OK” を押すとクリアランスソナー、RCTA のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

- シフトポジションを切りかえたとき
- 車速が一定値以上になったとき
- センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき
- 使用中の機能を OFF にしたとき
- パワースイッチを OFF にしたとき

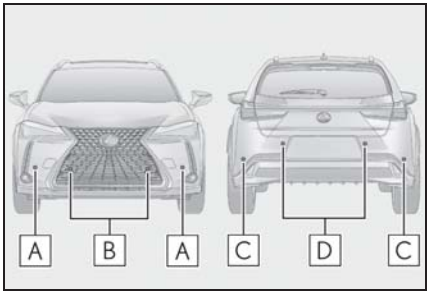
## クリアランスソナー

**クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★およびセンターディスプレイの距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### システムの構成部品

■ **センサーの種類**




A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

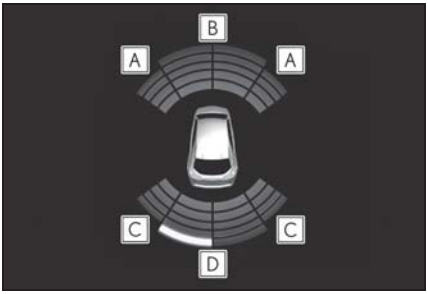
C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

■ **クリアランスソナーの表示のしかた**

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイ、ヘッドアップディスプレイ★、またはセンターディスプレイに表示されます。

● マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★の表示




A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

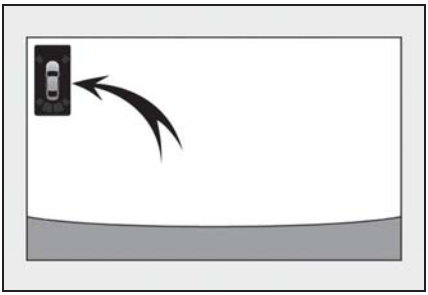
C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

● センターディスプレイの表示

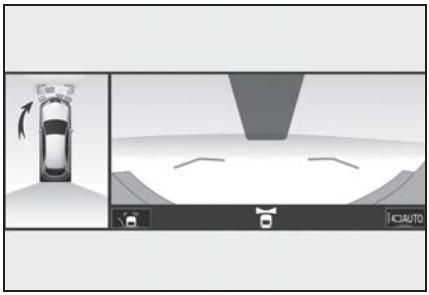
作動対象を検知するとセンターディスプレイ上に自動表示されます。

・ シフトポジションが R のとき



・ シフトポジションが N、B または D のとき

作動対象を検知するとパノラミックビューモニター★画面上に自動表示されます。




★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。（→P.141）

1 < または > を押して ⚙ を選択する

2 ∧ または ∨ を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す

3 ∧ または ∨ を押して P を選択し、“OK” を押す

クリアランスソナー機能が OFF のときは、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.137）が表示されます。

いったんクリアランスソナー機能を

ON ／ OFF すると、次回 EV システムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

**■システムを正しく作動させるために**

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はレクサス販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はレクサス販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

**■クリアランスソナーを OFF にするとき**

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- レクサス純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

**■洗車時の注意**

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

**■作動条件**

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

**■ブザーの音量調整について**

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→P.281）

**■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは**

クリアランスソナーのセンサーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに“クリアランスソナー使用できません”が表示されたときは

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

●補機バッテリーを脱着したあとに、初期化がされていないことが考えられます。システムの初期化を行ってください。初期化を行っても表示が消えない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

■センサーの検知について

●センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●次のような状況では、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。
・オーディオ使用時
・エアコン使用時
・他システムのブザー音吹鳴時

■システムが正しく検知できないことがある静止物

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

特に人は衣類の種類によっても検知できない場合がありますので、常に目視で確認してください。

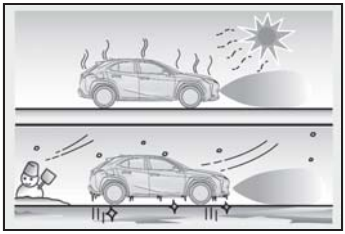
■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時



●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進

行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

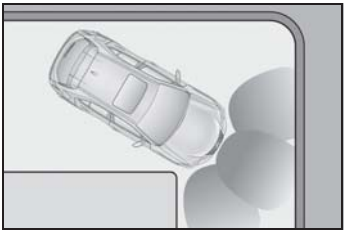
●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき



●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

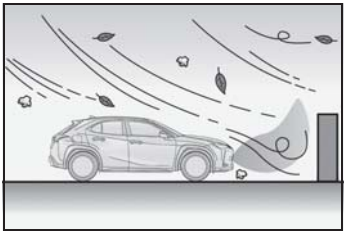
●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき



●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

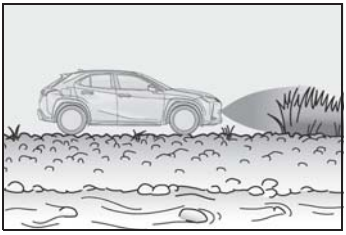
●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

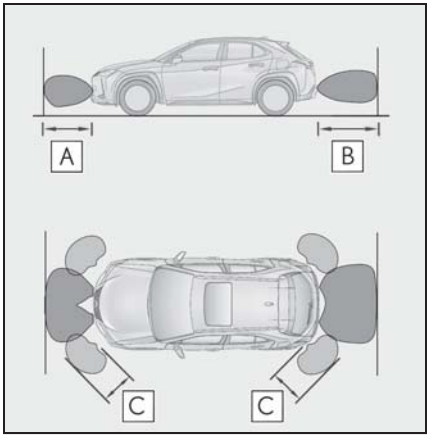
●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など



●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

## 距離表示の見方

### ■ 静止物を検知できる範囲




A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

### ■ 画面表示

静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプレイおよびセンターディスプレイ、またはヘッドアップディスプレイ★の作動表示が点灯（一部、枠が点滅）します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● 静止物までのおおよその距離：150cm ～ 60cm※（リヤセンターセンサー）

| マルチインフォメーションディスプレイ | センターディスプレイ | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.289）

● 静止物までのおおよその距離：100cm ～ 60cm※（フロントセンターセンサー）

| マルチインフォメーションディスプレイ | センターディスプレイ | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.289）

● 静止物までのおおよその距離：60cm ～ 45cm※

| マルチインフォメーションディスプレイ | センターディスプレイ | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.289）

● 静止物までのおおよその距離：45cm ～ 30cm※

| マルチインフォメーションディスプレイ | センターディスプレイ | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※ 自動ミュート機能あり（→P.289）

● 静止物までのおおよその距離：30cm ～ 15cm※1

| マルチインフォメーションディスプレイ ※2 | センターディスプレイ ※2 | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※1自動ミュート機能なし（→P.289）

※2点灯および枠が遅い点滅

● 静止物までのおおよその距離：15cm 以下 ※1

| マルチインフォメーションディスプレイ ※2 | センターディスプレイ ※2 | ヘッドアップディスプレイ |
|---|---|---|
| | | |

※1自動ミュート機能なし（→P.289）

※2点灯および枠が早い点滅

### ■ 音声案内とブザー音

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

● 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

## RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。**

### 警告

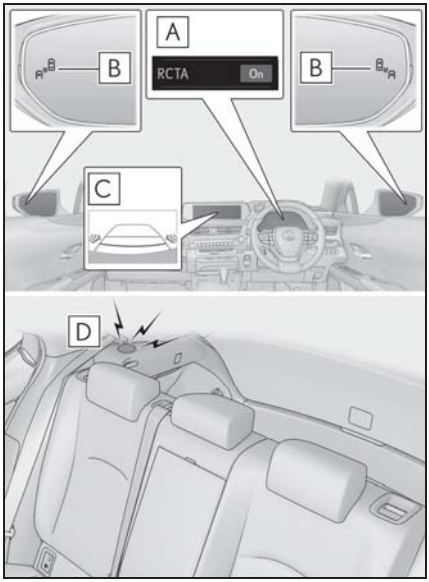
**■安全にお使いいただくために**

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.277）

**■システムを正しく作動させるために**

→P.278

### システムの構成部品




**A** マルチインフォメーションディスプレイ

RCTA 機能の ON ／ OFF を切りかえます。

RCTA 機能を OFF にすると、RCTA OFF 表示灯が点灯します。

**B** ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

**C** センターディスプレイ

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイに検知した側の RCTA アイコン（→P.291）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

**D** RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴

ります。

## 設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。
（→P.141）

1 ＜または＞を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して “PKSA” を選択し、“OK” を押す

3 ∧または∨を押して “RCTA” を選択し、“OK” を押す

パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ **ドアミラーインジケーターの視認性について**

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ **RCTA ブザー音の聞こえ方について**

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ **マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは**

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

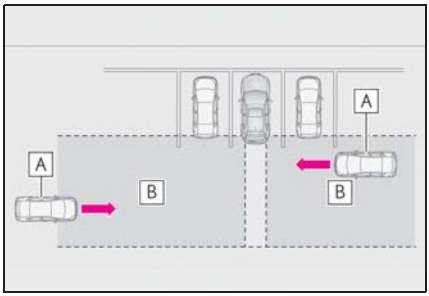
■ **後側方レーダーセンサーについて**

→P.278

## RCTA 機能

■ **RCTA 機能の作動**

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。



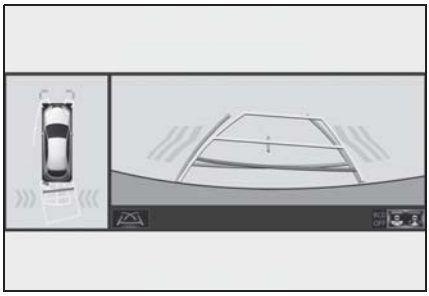

A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ **RCTA アイコンの表示**

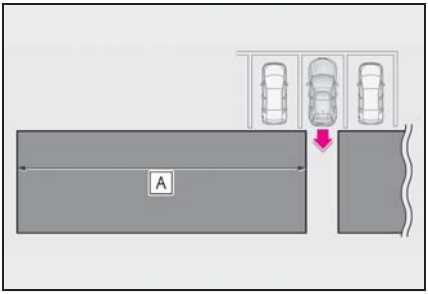
自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、センターディスプレイ上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき



■ **RCTA 機能で検知できる範囲**

次の範囲に入った車両を検知します。




速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

| 接近車両の速度 | A 警報距離（概算） |
|---|---|
| 28km/h（速い） | 20m |
| 8km/h（遅い） | 5.5m |

知識

■ **作動条件**

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- パワースイッチが ON のとき
- RCTA 機能が ON のとき
- シフトポジションが R のとき
- 自車の車速が約 8km/h 以下のとき
- 接近する他車の車速が約 8km/h ～ 28km/h のあいだのとき

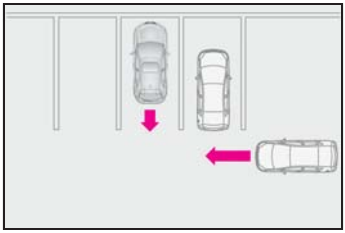
■ **ブザーの音量調整について**

マルチインフォメーションディスプレイの⚙からブザー音量を変更することができます。（→P.281）

■ **システムが検知しない車両について**

次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 真後ろから接近する車両
- 自車の隣の駐車スペースで後退する車両
- 障害物のためにセンサーが検知できない車両



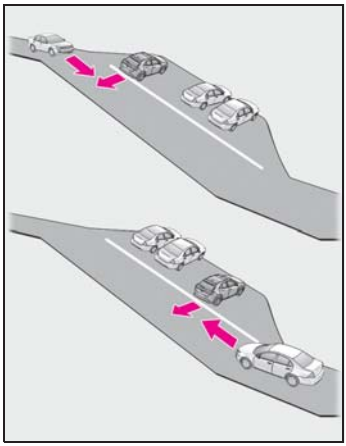
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物
- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など
- 自車から遠ざかる車両
- 自車の隣の駐車スペースから接近する車両
- センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

■ **システムが正常に作動しないおそれのある状況**

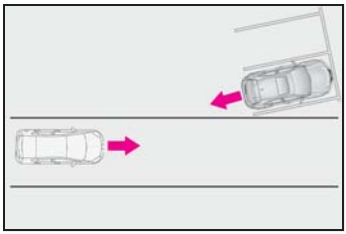
RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

- センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
- 大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき
- 複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
- 車両が高速で接近するとき
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき



●斜めの駐車場から出庫するとき



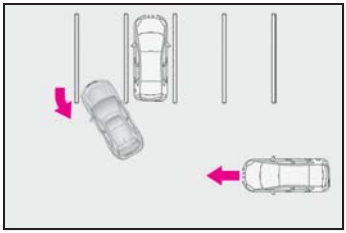
●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

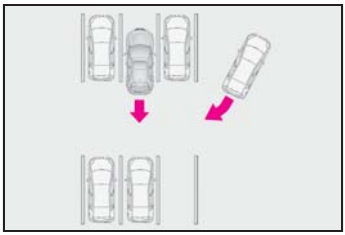
●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき



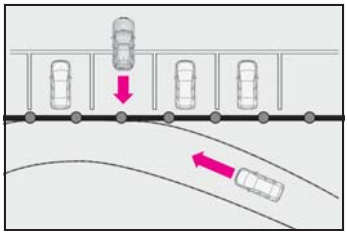
●旋回しながら車両が近づいてきたとき



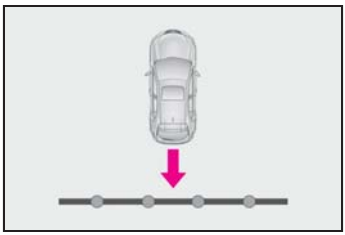
■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

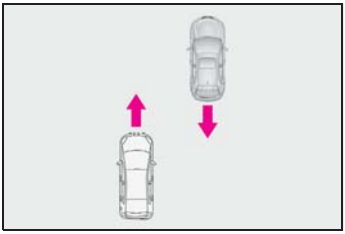


●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

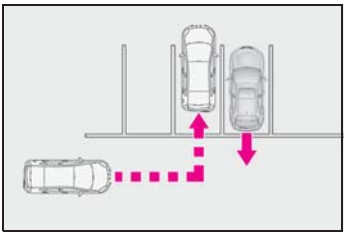


●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき



●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき



●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）

**PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★があります。**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### 駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（静止物）**

→P.299

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★**

→P.301

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

■**安全にお使いいただくために**

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**警告**

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

**■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき**

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

**注意**

**■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ 現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは**

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

## 設定のしかた

パーキングサポートブレーキ（静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）を一括で ON ／ OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON ／ OFF を切りかえます。
（→P.141）

1 ＜または＞を押して⚙を選択する

2 ∧または∨を押して 🚗を選択し、“OK” を押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.137）が点灯します。

いったん PKSB システムを ON ／ OFF すると、次回 EV システムを始動したときにも、そのままの状態が続きます。

## EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

EV システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、センターディスプレイ、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

EV システム出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。

● EV システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

センターディスプレイ表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ 加速抑制中です ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● EV システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキ！ ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキ！ ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ ブレーキ！ ”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ポーン（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

センターディスプレイ表示（パノラミックビューモニター装着車）：“ ブレーキを踏んでください ”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“ アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください ”
アクセルが踏まれていない場合は “ ブレーキを踏んでください ” が表示されます。

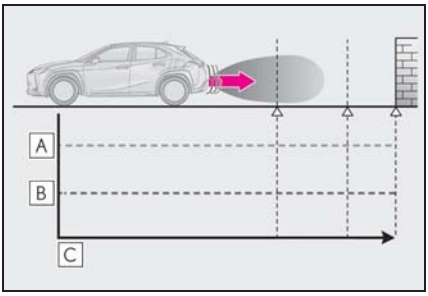
PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ポーン（単発音）

## PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両）を検知したとき、EV システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（EV システム出力抑制制御：下記図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：下記図 3）

● 図 1（PKSB[ パーキングサポートブレーキ ] 非作動時）

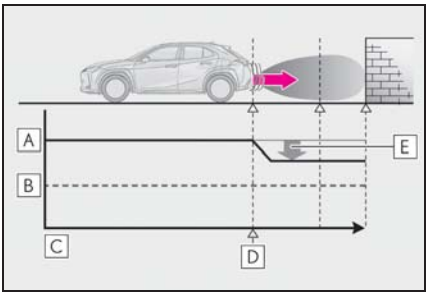



A EV システム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（EV システム出力抑制制御時）




A EV システム出力

B 制動力

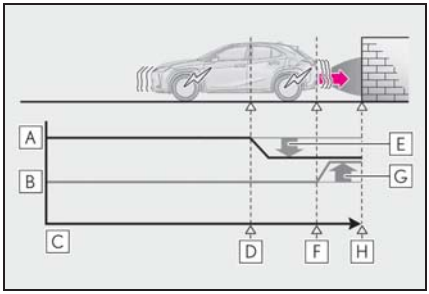
C 時間

D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

マルチインフォメーションディスプレイに “ ブレーキ！ ” が表示されます。

E EV システム出力を抑える

● 図 3（EV システム出力抑制制御かつブレーキ制御時）




A EV システム出力

B 制動力

C 時間

D EV システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

マルチインフォメーションディスプレイに “ ブレーキ！ ” が表示されます。

E EV システム出力を抑える

F ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

G ブレーキ制御を上げる

H マルチインフォメーションディス

プレイに “アクセルが踏まれています ブレーキを踏み直してください” が表示される

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）作動後の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止した場合に、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、再度、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON に（→P.295）するか、パワースイッチ をいったん OFF にしてから再度、ON にしてください。また、進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させたとき、または車両の進行方向が入れ替わった（前進から後退、または後退から前進に切りかえた）ときはシステムが自動的に復帰します。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅したときは

クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺に汚れが付着していることが考えられます。バンパー周辺の汚れを取り除いてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “パーキングサポートブレーキ現在使用できません” と “クリアランスソナー使用できませんソナーの汚れを除去してください” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点滅しているときは

●センサー部に氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、またはセンサーが汚れていなくても表示が出るときはレクサス販売店で点検を受けてください。

●センサーが凍結している可能性があります。氷が解ければ正常に復帰します。

●大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■補機バッテリーを脱着したときは

システムを初期化する必要があります。約 35km/h 以上の車速で 5 秒以上直進走行することで初期化できます。

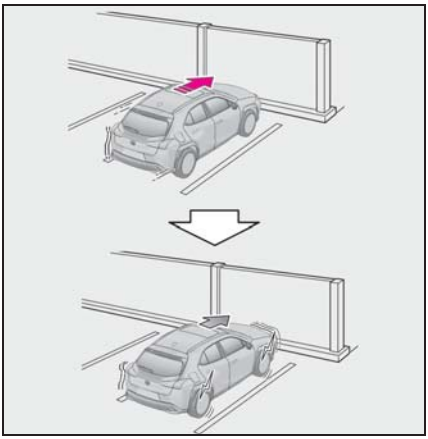
## パーキングサポートブレーキ（静止物）

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤っての発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

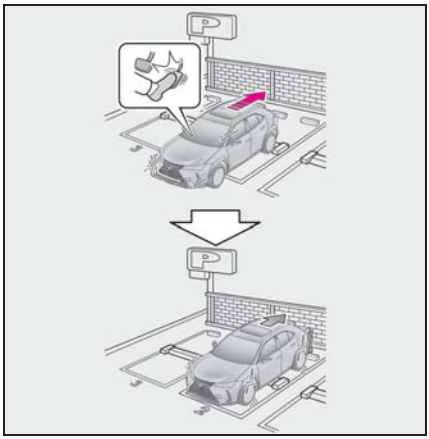
### システム作動例

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

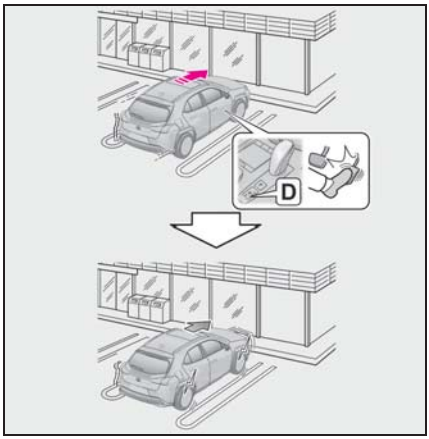
■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき



■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき



■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき




### センサーの種類

→P.282

**警告**

■ システムを正しく作動させるために

→P.284

**警告**

**■万一、踏切内などでパーキングサポートブレーキ（静止物）が誤って作動したときは**

→P.298

**■洗車時の注意**

→P.284

知識

**■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.136, 137）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・EV システム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

**■パーキングサポートブレーキ（静止物）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●EV システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

**■パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲について**

パーキングサポートブレーキ（静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.287）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（静止物）は作動を開始していない場合があります。

**■システムが正常に作動しないおそれのある状況**

→P.285

**■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

→P.286

## パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）★

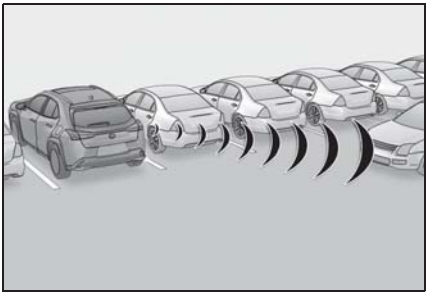
★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。**

### システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**



### センサーの種類

→P.278

**警告**

■ **システムを正しく作動させるために**

→P.278

知識

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件**

PKSB OFF 表示灯が点灯・点滅（→P.136, 137）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●EV システム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
- 車速が約 15km/h 以下
- 後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
- シフトポジションが R のとき
- 接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
- EV システム出力抑制制御作動中
- 接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件**

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●EV システム出力抑制制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- 通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
- 自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
- ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
- ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
- 自車後側方への接近車両がなくなった

とき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.291）とは異なります。そのため、RCTA が後方接近車両をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.292

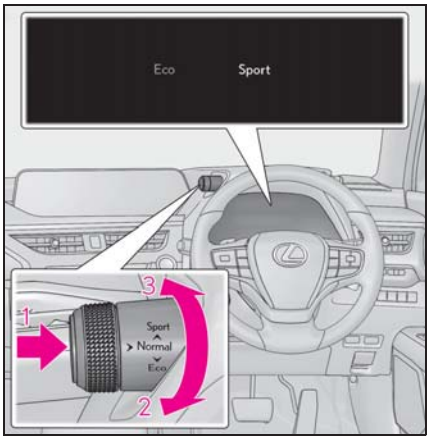
■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.293

# ドライブモードセレクトスイッチ

**走行・使用状況に合わせて走行モードを選択できます。**

## 走行モードを選択するには




**1** ノーマルモード

電費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、市街地を走行する場合に適しています。

ノーマルモード以外のときにスイッチを押すと、ノーマルモードにもどります。

**2** エコドライブモード

スロットル特性をおだやかに設計することで、エコ運転中の運転者のアクセル操作をアシストします。またエアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、電費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード以外のときにスイッチを手前にまわすと、エコドライブモードに切りかわり、“Eco” 表示灯が点灯します。

**3** スポーツモード

ステアリングの応答性、および EV システムの制御によるアクセルレスポンスな

どがスポーツ走行に適した制御にかわります。山岳路などで、きびきびとした走りを楽しみたいときに適しています。

スポーツ モード以外のときにスイッチを奥側へまわすとスポーツ モードに切りかわり、“Sport” 表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、電費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

・エコ空調モードを OFF にする（→P.323）

・風量を調整する（→P.319, 321）

・エコドライブモードを解除する

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON にした場合は、自動でノーマルモードにもどります。

■サイド画面の割り込み表示

モードを切りかえるごとに、選択したモードがサイド画面に表示されます。（→P.317）

## 運転を補助する装置

**走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。**

### 運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ S-VSC（ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール）

ABS ・TRC ・VSC ・EPS を協調して制御します。
すべりやすい路面などの走行で急なハンドル操作をした際に、ハンドル操作力を制御することで、車両の方向安定性確保に貢献します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に制動灯を自動的に点滅させることにより、後続車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

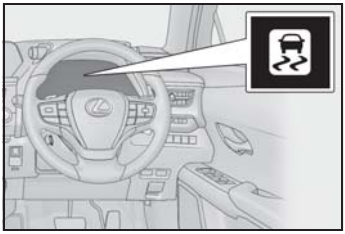
■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC ・ABS が作動しているとき

TRC・VSC ・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。



■TRC を停止するには

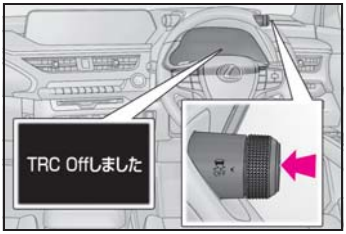
ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも EV システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF スイッチを押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。




■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF スイッチを押し 3 秒以上保持する

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました” と表示されます。※

もう一度 OFF スイッチを押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキも停止します。PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.244）

### ■ OFF スイッチを押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はレクサス販売店にご相談ください。

### ■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときシステムが作動します。

- ●シフトポジションが P または N 以外（前進または後退での上り坂発進時）
- ●車両停止状態
- ●アクセルペダルを踏んでいない
- ●パーキングブレーキがかかっていない
- ●パワースイッチが ON

### ■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

- ●シフトポジションを P または N にした
- ●アクセルペダルを踏んだ
- ●パーキングブレーキをかけた
- ●ブレーキペダルから足を離して最大 2 秒経過した
- ●パワースイッチが OFF

### ■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

- ●EV システム始動時や発進直後、ブレーキペダルをくり返し踏んだときなどに、モータールームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- ●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる

### ■ECB の作動音

次のような場合に ECB の作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

- ●ブレーキペダルを操作したときに、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）
- ●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音（“ジー” という音）
- ●EV システム停止後 1 ～ 2 分後経過時に、モータールームから聞こえる作動音（“カチ”、“シュー”、“ジー”という音）

### ■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

### ■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

### ■TRC や VSC の自動復帰について

TRC や VSC を作動停止にしたあと、以下のときはシステム作動可能状態にもどります。

- ●パワースイッチを OFF にしたとき

●（TRC のみを作動停止にしている場合）車速が高くなったとき
ただし、TRC と VSC の作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSC が作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドル操作が重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、EV システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●車速が約 10km/h 未満のとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの解除条件

次のいずれかのとき自動的にシステムが解除されます。

●車速が約 10km/h 未満になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

**警告**

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

**警告**

**■TRC や VSC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

**■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき**

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストがひんぱんに作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

**■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき**

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**■スリップ表示灯が点滅しているときは**

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

**■TRC や VSC を OFF にするときは**

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

**■タイヤまたはホイールを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、レクサス販売店に相談してください。

**■タイヤとサスペンションの取り扱い**

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

**警告**

■**セカンダリーコリジョンブレーキについて**

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

## 寒冷時の運転

**寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。**

### 冬を迎える前の準備について

● 次のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

- 冷却水
- ウォッシャー液

● 補機バッテリーの点検を受けてください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前 2 輪）を使用してください。タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。（タイヤについて：→P.378）

知識

**■タイヤチェーンについて**

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

●安全に作業できる場所で行う

●前 2 輪に取り付ける

●タイヤチェーンに付属の取り扱い説明書に従う

●取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

**警告**

**■冬用タイヤを装着するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●指定サイズのタイヤを使用する

●空気圧を推奨値に調整する

●装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない

●冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

**■タイヤチェーンを装着するとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない

●路面の凹凸や穴を避ける

●急加速・急ハンドル・急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける

●カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ

●LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

レクサス純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。

レクサス純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。

詳しくはレクサス販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するときは

レクサス販売店へご依頼ください。

タイヤの取り付け・取りはずしは、タイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。（タイヤについての詳しい説明は P.378 を参照してください）

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

## 運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を解かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。レクサス販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。

ガラスがひび割れるおそれがあります。

## 運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

## 駐車するとき

- パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションを P にして駐車し、必ず輪止め※ をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションを

Pにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。
（→P.212）

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結するおそれがあります。

※ 輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

## ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.231）

# 室内装備・機能

6


## 6-1. リモートタッチ

リモートタッチ..... 314

## 6-2. レクサスクライメイトコンシェルジュ

レクサスクライメイトコンシェルジュ ..... 318

## 6-3. エアコンの使い方

オートエアコン..... 319

リモートエアコンシステム ..... 328

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 330

## 6-4. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 ..... 334

## 6-5. 収納装備

収納装備一覧 ..... 337

ラゲージルーム内装備..... 340

## 6-6. その他の室内装備の使い方

その他の室内装備..... 345

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）..... 353

非常時給電システム..... 359

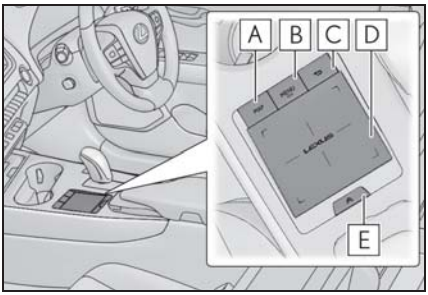
# リモートタッチ

**リモートタッチを使って、センターディスプレイの操作・設定ができます。**

**詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。**

## リモートタッチの操作について

### ■ 操作スイッチ




A “MAP” ボタン

センターディスプレイで現在地を表示します。

B “MENU” ボタン

メニュー画面を表示します。

C もどるボタン

1 つ前の画面にもどります。

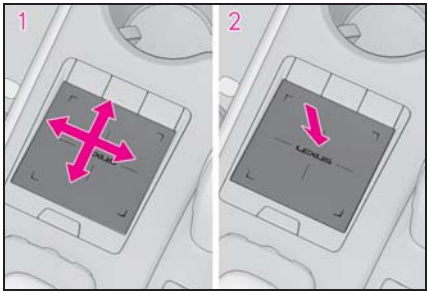
D タッチパッド

画面上のスイッチを選択または決定します。
また、リスト画面のスクロールや地図の拡大／縮小などもできます。

E サブファンクションボタン

画面に が表示されているときに、各画面ごとに割り当てられた機能画面を呼び出します。

### ■ タッチパッドの使い方




**1** 選択する：タッチパッドを操作して、ポインタ※ をスイッチに合わせる

※ ポインタとはタッチパッドの操作に合わせて画面上を動くマークです。

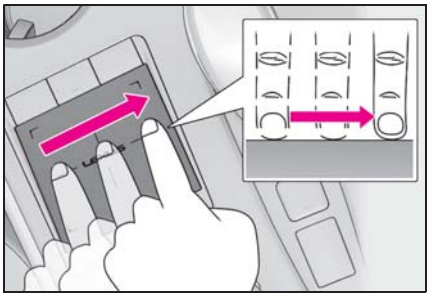
**2** 決定する：タッチパッドを押す、またはダブルタップする

### ■ タッチ操作

タッチパッドで次の操作が可能です。

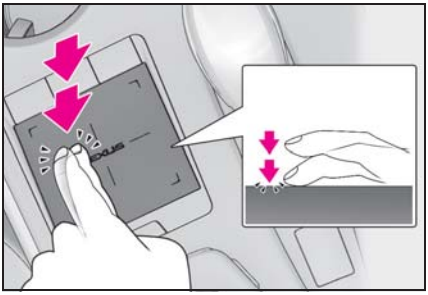
● なぞり操作

タッチパッドにふれた状態でパッド面をなぞります。カーソルやポインタを動かすことができます。



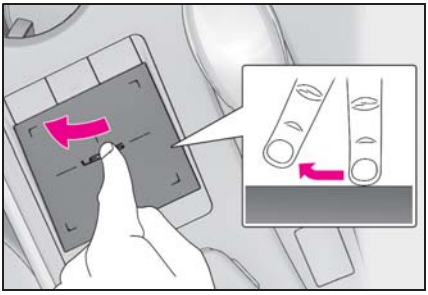
● ダブルタップ

タッチパッドを指先で素早く軽く 2 回叩きます。タッチパッドを押したときと同様に、ポインタで選んだ画面スイッチを決定することができます。



● フリック

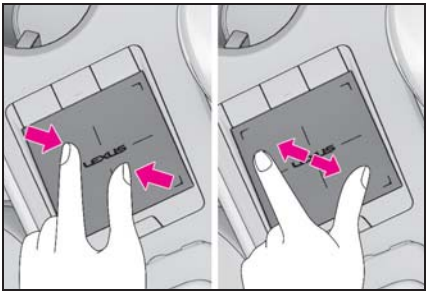
タッチパッドにふれた指先を素早く大きく払います。リスト画面のスクロールや地図（1 画面表示のみ）を動かすことができます。



● ピンチアウト／ピンチイン

タッチパッドにふれた 2 本の指を広げたり近付けたりします。

地図の拡大や縮小を行うことができます。



⚠ 注意

**■リモートタッチの故障を防ぐために**

●リモートタッチに飲料水や雨水などをかけないでください。変色や漏電の原因になります。

●リモートタッチの上に乗ったり、ものを上に置かないでください。故障の原因になります。

●タッチパッドを強く押したり、先のとがったもので操作したりしないでください。破損の原因になります。

## ディスプレイの見方

### ■ メニュー画面

リモートタッチの “MENU” ボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| | 目的地を設定する ※ |
| | オーディオ操作画面を表示する ※ |

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| / / | デジタルテレビ操作画面を表示する ※<br>AppleCarPlay/AndroidAuto を接続すると、TV の代わりに AppleCarPlay/AndroidAuto が表示されます。※ |
| | ハンズフリー操作画面を表示する ※ |
| | G-Link 画面を表示する ※<br>SmartDeviceLink ™ Apps 画面を表示する。※ |

| ボタン | 機能 |
|---|---|
| | “充電スケジュール” 画面を表示する（→P.112） |
| | 設定・編集画面を表示する ※ |
| | エアコン操作画面を表示する（→P.321） |

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

## ■ 分割画面表示

異なる情報を左右に並べて表示します。例えばエアコン画面を表示したまま、オーディオなどの画面を並べて表示したり操作したりすることができます。

画面左側の広い表示エリアをメイン画面、右側の狭い表示エリアをサイド画面と呼びます。

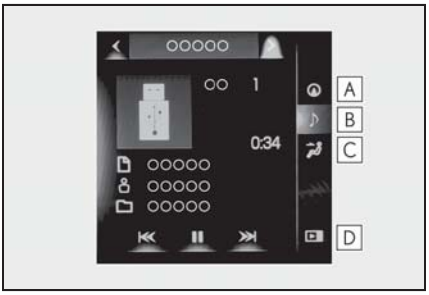
■ メイン画面

メイン画面の表示や操作、および各機能の詳細については、それぞれの項目および、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■ サイド画面

次の各画面をサイド画面に表示し操作することができます。

❮または❯を選択してお好みの画面を表示する




A ナビゲーションシステム ※

B オーディオ ※

C エアコン（→P.321）

D サイド画面を閉じる、または表示する

メイン画面に表示されている機能が全画面表示に対応している場合は、全画面で表示されます。

※ 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

知識

■ 低温時の画面表示について

外気温が極めて低いときは、リモートタッチを操作しても画面の反応が遅れることがあります。

# レクサスクライメイトコンシェルジュ

**エアコンの設定温度、外気温、車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやベンチレーター、ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。**
**各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。**

**リモートタッチの“MENU”ボタンを押して、“エアコン”を選択し、エアコン操作画面を表示します。その後、サブメニュー（→P.321）の を選択すると、クライメイトコンシェルジュ操作画面が表示されます。**

## クライメイトコンシェルジュを使用する

を選択する

画面上の作動表示灯が点灯し、エアコン・フロント席のシートヒーター／ベンチレーター・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

**■クライメイトコンシェルジュを使用するときは**

サブファンクションメニューやオプション操作画面からもクライメイトコンシェルジュを作動させることができます。（→P.321）

## 各システムの作動について

**■ エアコン（→P.319）**

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

**■ シートヒーター／ベンチレーター（フロント席）（→P.330）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。

助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

**■ ステアリングヒーター（→P.330）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

**■フロント席のシートヒーター／ベンチレーターの作動について**

フロント席のシートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

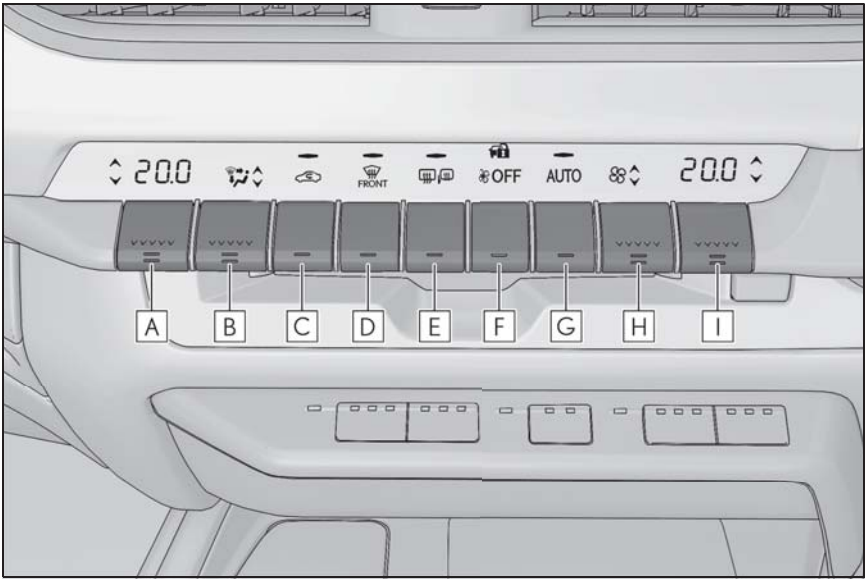
# オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リモートタッチの “MENU” ボタンを押して、“ エアコン ” を選択するとエアコン操作画面が表示されます。（→P.321）

また、サイド画面に表示し操作することもできます。

## エアコン操作スイッチについて




A 助手席側温度調整スイッチ

B 吹き出し口切りかえスイッチ

C 内外気切りかえスイッチ

D フロントデフロスタースイッチ

E リヤウインドウデフォッガー & ミラーヒータースイッチ

F OFF スイッチ

G AUTO スイッチ

H 風量調整スイッチ

I 運転席側温度調整スイッチ

■ 温度を調整する

設定温度を上げるときは温度調整スイッチを上に、下げるときは下に操作する

■ 風量を切りかえる

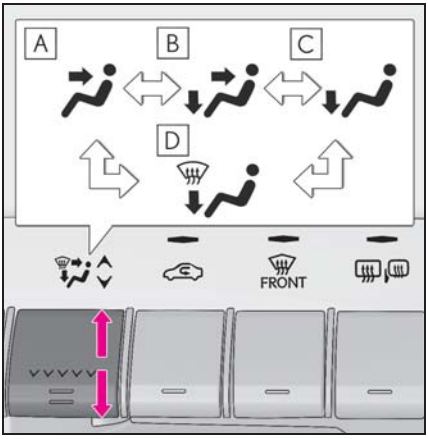
風量を増やすときは風量調整スイッチを上に、減らすときは下に操作する

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ 吹き出し口を切りかえる

吹き出し口切りかえスイッチを上下に操作する

スイッチを操作するたびに吹き出し口が切りかわります。




A 上半身に送風

B 上半身と足元に送風

C 足元に送風

D 足元に送風・ガラスの曇りを取る

■ 内気循環／外気導入を切りかえる

内外気切りかえスイッチを押す

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

■ フロントウインドウガラスの曇りを取る

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの霜を取るのに時間がかかる場合があります。

■ リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、しばらくすると自動的に OFF になります。

■ ウインドシールドデアイサー★

→P.323

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■ ガラスの曇りについて

● 車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、“A/C” を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

● “A/C” を ON から OFF にすると、ガラ

スが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、自動的に切りかわる場合があります。

■エコドライブモードのエアコン作動について

●エコドライブモードは電費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。
・モーター回転数やコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●空調の効きをより良くしたいときは、次の操作を行ってください。
・エコ空調モードを OFF にする（→P.323）
・風量を調整する。
・エコドライブモードを解除する。（→P.302）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

“A/C” を選択しても除湿機能が働かない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.391

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

**警告**

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが作動しているとき

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

**注意**

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

## エアコン操作画面について

■ メイン操作画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択しま

す。

B ～E は次の操作で調整することができます。

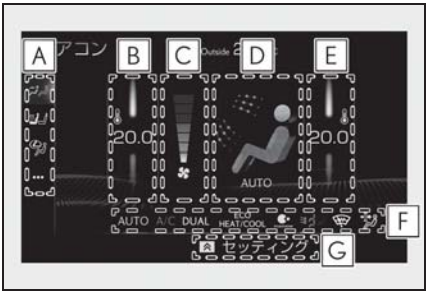
フリック操作：タッチパッドを上または下にフリックする

1 段階ずつ調整することができます。

なぞり操作：決定操作をしたあと、上または下になぞる

なぞった長さに応じて調整することができます。

走行中はなぞり操作ができません。




A サブメニュー

メイン操作画面を切りかえることができます。

: エアコン操作画面を表示する

: ステアリングヒーター／フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター操作画面を表示する

: クライメイトコンシェルジュ操作画面を表示する

: オプション操作画面を表示する

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 吹き出し口を切りかえる

: 上半身に送風

: 上半身と足元に送風

: 足元に送風

: 足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

E 運転席側の温度を調整する

F 各機能 ON ／ OFF 表示灯

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

G サブファンクションメニュー

リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、次の機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。

: クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.318）

“AUTO” ：吹き出し口と風量が自動的に調整される（→P.324）

“Off” ：ファンを停止する

“A/C” ：冷房・除湿する

“DUAL” ：運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.325）

ECO HEAT/COOL: エコ空調モードに設定する

■ **オプション操作画面**

サブメニューの を選択する。

各機能の ON ／ OFF を切りかえることができます。機能が ON のとき、画面上の作動表示灯が点灯します。

A クライメイトコンシェルジュを作動させる（→P.318）

B 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.325）

C エコ空調モードに設定する

電費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

D 冷房・除湿する

E「ナノイー X」※ を作動させる

「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

F フロント席集中送風モード（S-FLOW）を設定する（→P.326）

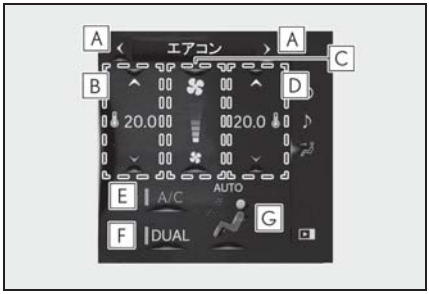
G フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐ（ウインドシールドデアイサー）★

H 花粉を除去する（花粉除去モード）

※「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ サイド画面




A ステアリングヒーター／フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター操作画面を表示する（→P.333）

B 助手席側の温度を調整する

C 風量を切りかえる

D 運転席側の温度を調整する

E 冷房・除湿する

F 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）（→P.325）

G 吹き出し口を切りかえる

知識

■ ウインドシールドデアイサー★

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

ウインドシールドデアイサーは、しばらくすると自動的に OFF になります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ エコ空調モード

ドライブモードセレクトスイッチのエコドライブモードを選択すると、エコ空調モードが ON になります。エコドライブ

モード以外を選択したときは、エコ空調モードが OFF になる場合があります。

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」※1 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置は運転席右側の吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます ※2。

- ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します ※3。
- 「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
  - ・吹き出し口が または のとき
  - ・運転席右側の吹き出し口が開いているとき
- 「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。
- 作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。

※1「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

※3「ナノイー X」が ON のとき。（→P.322）

**警告**

■ウインドシールドデアイサー★が作動しているとき

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■「ナノイー X」について

このシステムは高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、レクサス販売店にお問い合わせください。

**注意**

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

運転席右側の吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくなるおそれがあります。

## オート設定で使用する

1 エアコン操作スイッチの AUTO スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの “AUTO” を選択する（→P.321）

2 温度を設定する

3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す、またはサブファンクションメニューの “Off” を選択する（→P.321）

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■ オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、“AUTO” を ON にした直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

■ フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

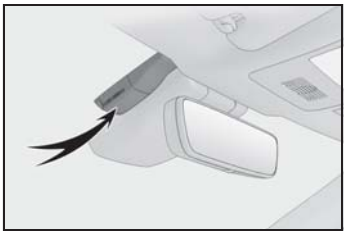
注意

■ 湿度センサーについて

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

・ 湿度センサーを分解しない
・ ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない
・ 湿度センサーにシールなどを貼らない



## 運転席と助手席の設定温度を別々に設定する（左右独立モード）

次のいずれかの操作をすると、左右独立モードが ON になります。

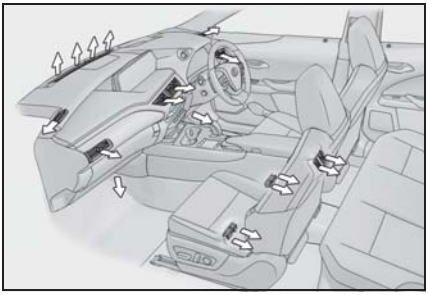
● サブファンクションメニューの “DUAL” を選択する（→P.321）
● オプション操作画面で “DUAL” を選択する
● 助手席の設定温度を変更する

左右独立モードになりメイン操作画面の表示灯が点灯します。

## 吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

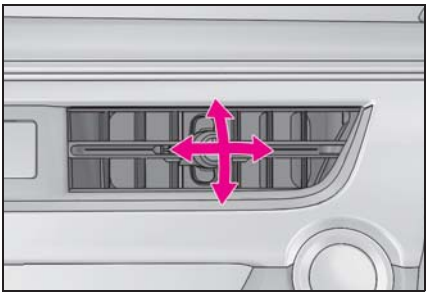
吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。



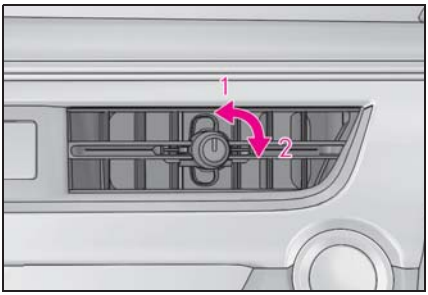
■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

風向きの調整



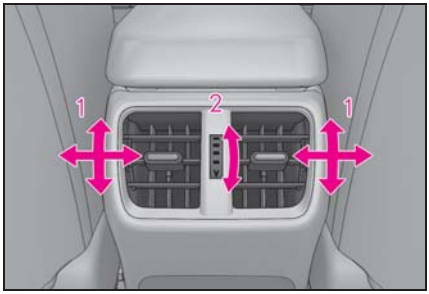
吹き出し口の開閉




1 開ける

2 閉じる

▶ リヤ



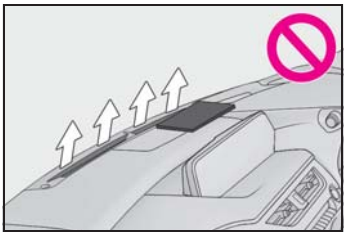

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

**警告**

■ フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために

吹き出し口を遮るようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。



## フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。無駄な冷暖房を抑えることで、電費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

● リヤ席に乗員を検知していない

● フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない

● 花粉除去モードが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ **手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる**

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

オプション操作画面（→P.322）の

を選択し、送風を切りかえます。

● 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風

● 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■ **送風の自動制御について**

● 車室内を快適に保つために、EV システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。

● EV システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■ **送風の手動制御について**

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■ **送風を自動制御にもどすには**

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。

2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

## リモートエアコンシステム

**駆動用電池に蓄えられた電力を使用して、乗車前に車外から冷房／暖房を作動させ、車内を空調することができます。**

**車両に充電ケーブルを接続した状態でリモートエアコンシステムを使用すると、外部電源からの電力を使用することができるため、駆動用電池の充電量の低下を抑えられます。**

リモートエアコンシステム停止後は自動的に充電を行います。

### 車を降りる前に

エアコンの設定温度を確認してください。（→P.320）

リモートエアコンシステムは、エアコンの設定温度に従って作動します。

### 作動させるには

電子キーの “A/C” を押したまま保持する

“A/C” を 2 回押して停止させることもできます。

知識

**■作動条件**

次の条件をすべて満たしていないと、リモートエアコンシステムは作動しません。

- パワースイッチが OFF になっている
- すべてのドアが閉じている（バックドアを含む）
- ボンネットが閉じている

**■リモートエアコンシステムの自動停止について**

次のとき、自動的に停止します。

- リモートエアコンシステムの作動開始から約 20 分後
- 作動条件がひとつでも満たされなくなったとき

駆動用電池の充電量が少ないときも、停止する場合があります。

**■リモートエアコンシステムの作動について**

次のような場合は、作動しないことがあります。

- 駆動用電池の充電量が少ないとき
- EV システムが低温のとき（低外気温下に長時間放置したあとなど）

**■フロントガラスの曇り取りについて**

リモートエアコンシステムでフロントガラスの曇りを取る場合、通常のエアコン使用時よりも電力が制限されているため、十分にフロントガラスの曇りが取れないことがあります。また、外気温や湿度、エアコンの設定温度などにより、フロントガラスの外側が曇る場合があります。

**■セキュリティ機能**

リモートエアコンシステムを作動するとき、盗難防止のため施錠されていないドアは自動的に施錠され、ブザーと非常点滅灯の点滅でお知らせします。

■スマートフォンでの操作について

G-Link サービスご契約のお客様は、smartG-Link アプリで、リモートエアコンシステムの操作をすることができます。アプリから操作する場合は、温度設定やタイマー予約などを行うことができます。詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

→P.174

■リモートエアコンシステムの作動中は

●リモートエアコンシステムの作動状態によっては、電動ファンが回転して作動音が発生しますが、異常ではありません。

●リモートエアコンシステム以外の電気負荷（シートヒーターなど）が作動しているときや、補機バッテリーの充電量が少ないときには、リモートエアコンシステムが停止することがあります。

●ワイパー・メーターなどは作動しません。

●侵入センサーが自動的に停止します。

■電子キーの電池の消耗について

→P.152

■電子キーの電池が切れたとき

→P.393

■カスタマイズ機能

リモートエアコンシステムの作動開始・停止時の、ワイヤレスリモコンの操作方法を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.458）

**警告**

■使用上の警告

●車室内に人がいるときは使用しないでください。
リモートエアコンシステムを使用していても、システムの自動停止等により車室内が高温、または低温になる場合があります。お子さまやペットを車室内に残したままにしておくと、熱中症や脱水症状や低体温症になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車両の周囲の安全を十分に確認してから使用してください。

●ボンネットが開いているときは、電子キーの “A/C” を操作しないでください。
意図せず冷房が作動して、冷却ファンに手や衣服などが巻き込まれるおそれがあります。

**注意**

■駆動用電池の消費を防ぐために

必要なとき以外、電子キーの “A/C” を操作しないでください。

## ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● シートヒーター

シートの表面を暖めることができます。

● シートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

リモートタッチの “MENU” を押して、“ エアコン ” を選択し、エアコン操作画面を表示します。その後、サブメニュー（→P.321）の を選択すると、ステアリングヒーター／フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター操作画面が表示されます。

**警告**

**■低温やけどについて**

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターに触れないようにご注意ください。

- 乳幼児・お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方
- 皮膚の弱い方
- 疲労の激しい方
- 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用された方

**注意**

**■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

**■補機バッテリーあがりを防ぐために**

EV システムが停止した状態で使用しないでください。

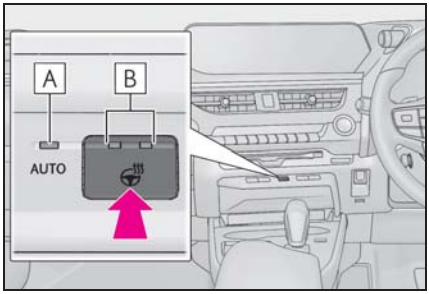
### ステアリングヒーター

システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF（消灯）

作動中は AUTO インジケーター A 、またはレベルインジケーター B のいずれか、または両方が点灯します。




**知識**

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■カスタマイズ機能**

ステアリングヒーター AUTO モード時の温度を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.459）

## シートヒーター

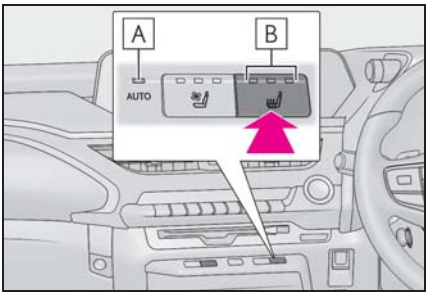
### ■ フロント席

システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

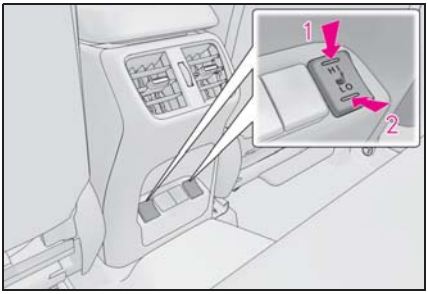
AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーターA 、またはレベルインジケーターB のいずれか、または両方が点灯します。




### ■ リヤ外側席

スイッチを押してシートヒーターを作動させる




**1** HI（強）

**2** LO（弱）

作動中は作動表示灯が点灯します。

作動を停止するときは、押した側と反対側のスイッチを軽く押してください。スイッチが中立の位置にもどり、作動表示灯が消灯します。

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ON のとき

**■カスタマイズ機能**

シートヒーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.459）

**警告**

**■異常加熱や低温やけどを防ぐために**

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

- 長時間連続使用しない
- 毛布・クッションなどを使用しない

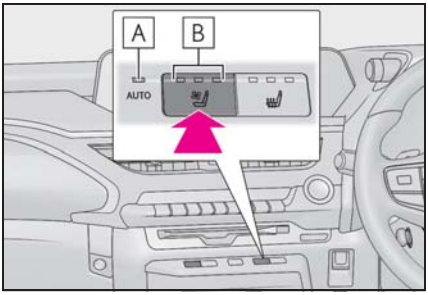
## シートベンチレーター（フロント席）

システムの ON ／ OFF を切りかえる

スイッチを押すたびに、作動状態が次のように切りかわります。

AUTO（点灯）→ 強（3 個点灯）→ 中（2 個点灯）→ 弱（1 個点灯）→OFF

作動中は AUTO インジケーターA 、またはレベルインジケーターB のいずれか、または両方が点灯します。




知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■カスタマイズ機能

シートベンチレーターのオート設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.459）

## 操作画面について

### ■ メイン画面

リモートタッチのタッチパッドを操作して画面上のスイッチを選択します。

A ～C は次の操作で調整することができます。

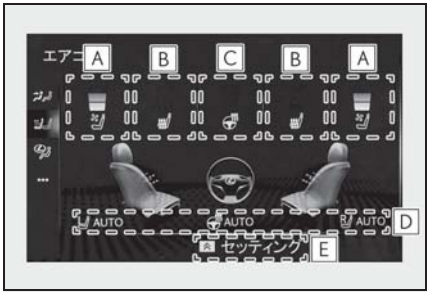
フリック操作：タッチパッドを上または下にフリックする

1 段階ずつ調整することができます。

なぞり操作：決定操作をしたあと、上または下になぞる

なぞった長さに応じて調整することができます。

走行中はなぞり操作ができません。




A シートベンチレーターの風量を切りかえる

3 段階に調整できます。

作動中は風量の強弱が表示されます。

B フロント席のシートヒーターの温度を調整する

3 段階に調整できます。

作動中は温度の強弱が表示されます。

C ステアリングヒーターの温度を調整する

2 段階に調整できます。

作動中は温度の強弱が表示されます。

D AUTO モード ON ／ OFF 表示灯

AUTO モードが ON のとき、表示灯が点灯します。

E サブファンクションメニュー

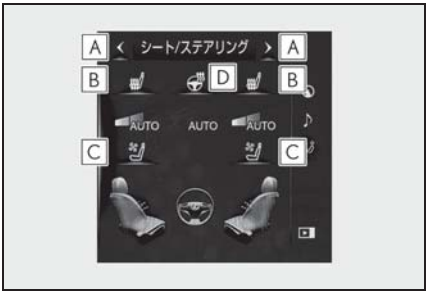
リモートタッチのサブファンクションボタンを押すと、次の機能をオート設定に切りかえることができます。

AUTO: 助手席のシートヒーター／ベンチレーター

AUTO: ステアリングヒーター

AUTO: 運転席のシートヒーター／ベンチレーター

■ サイド画面




A エアコン操作画面を表示する（→P.323）

B フロント席のシートヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（橙）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

C シートベンチレーターの風量を切りかえる

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーター（青）が次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 中 → 弱 →OFF

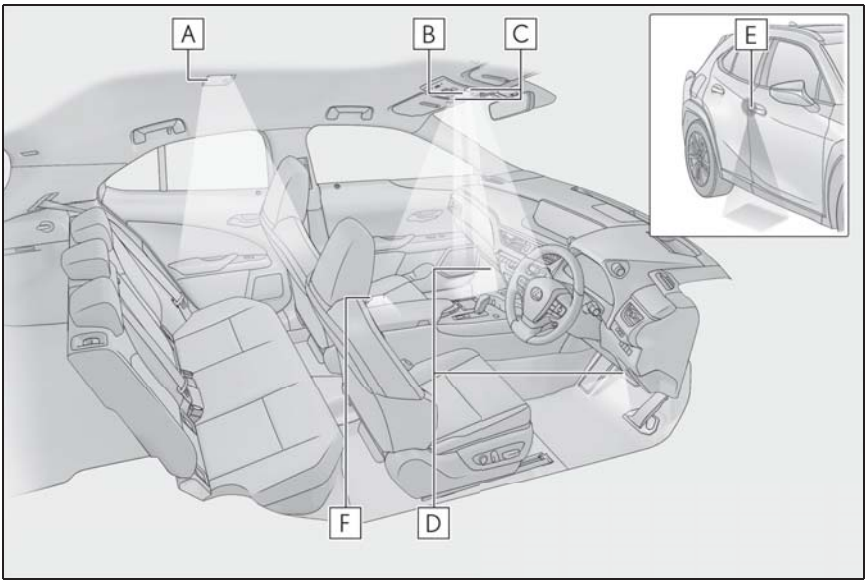
D ステアリングヒーターの温度を調整する

スイッチを選択するたびに、作動状態とレベルインジケーターが次のように切りかわります。

AUTO→ 強 → 弱 →OFF

# 室内灯一覧

## 室内灯の位置




A リヤインテリアランプ（→P.335）

B フロントインテリアランプ（→P.335）

C パーソナルランプ（→P.336）

D 足元照明 ※1, 2

E アウトサイドドアハンドル照明

F ドアカーテシランプ

※1パワースイッチが ON のとき、足元照明が常時点灯します。ただし、インストルメントパネル照度を最も暗く調整すると、足元照明が消灯します。（→P.141）

※2シフトポジションが P 以外のとき、足元照明の明るさが暗くなります。

知識

■ **各部照明の自動点灯／消灯について**

● 電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。（イルミネーテッドエントリーシステム）

● パワースイッチが OFF の場合、室内灯が点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■ **フロントインテリアランプとパーソナルランプが正常に反応しない状況について**

● レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき

● 濡れた手で操作したとき

● 手袋などを装着しているとき

■ **室内灯の自動点灯について**

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■ **カスタマイズ機能**

室内灯の消灯までの時間などを設定できます。（→P.459）

⚠ 注意

■ **ランプのレンズの取り外しについて**

絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■ **補機バッテリーあがりを防ぐために**

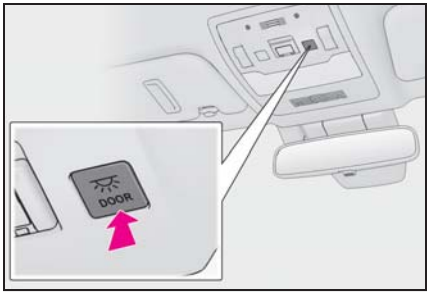
EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

## インテリアランプを操作するには

### ■ ドアポジション（ドア連動）を ON にする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

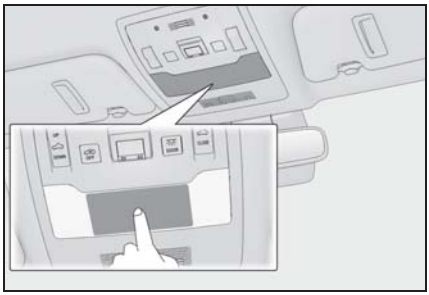



### ■ ランプを点灯・消灯する

▶ フロント

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）

ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。

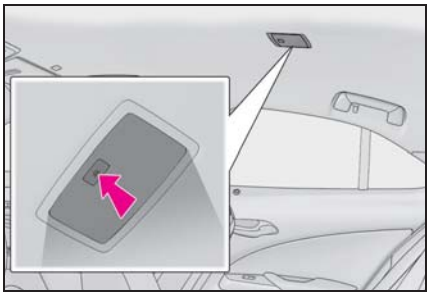


▶ リヤ

ランプを点灯・消灯する

フロントインテリアランプに連動しても点灯・消灯します。

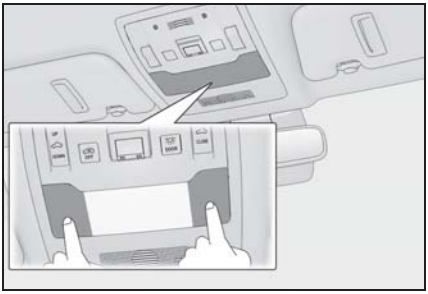
ドアポジション（ドア連動）が ON のときは、ドアが開くとランプが点灯します。



## パーソナルランプを操作するには

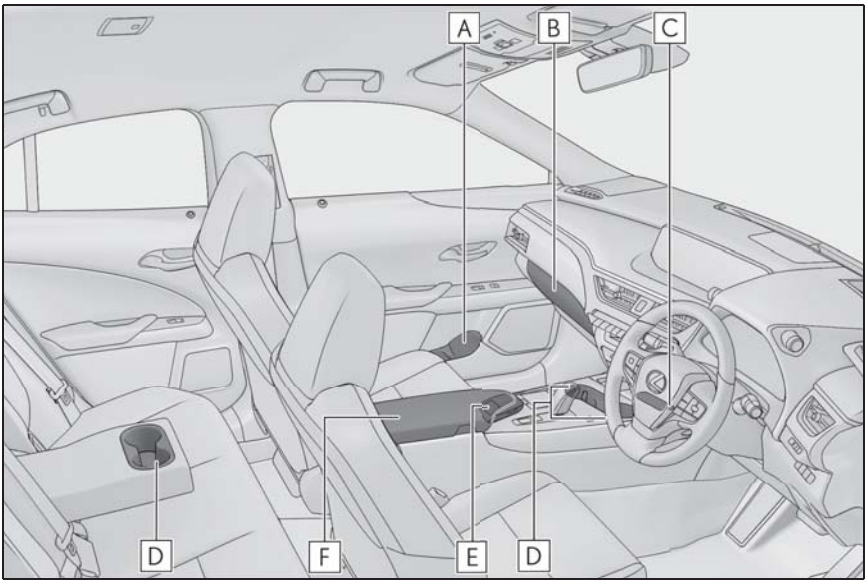
### ■ ランプを点灯・消灯する

ランプを点灯・消灯する（ランプにタッチする）



# 収納装備一覧

## 収納装備の位置




A ボトルホルダー（→P.339）

B グローブボックス（→P.338）

C 小物入れ／ワイヤレス充電器★（→P.347）

D カップホルダー（→P.339）

E コインホルダー（→P.339）

F コンソールボックス（→P.338）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**警告**

**■収納装備に放置してはいけないもの**

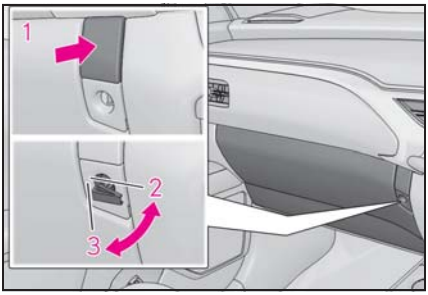
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

**■収納装備を使わないときは**

グローブボックスまたはコンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたグローブボックスやコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。

## グローブボックスを使うには




1 開ける
2 メカニカルキーで解錠
3 メカニカルキーで施錠

知識

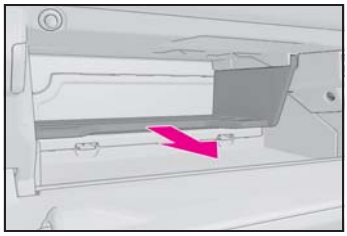
**■グローブボックスランプ**

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

**■仕切り板について**

グローブボックス内の仕切り板を取りはずして使用することができます。

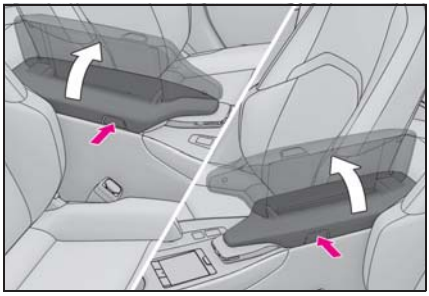
仕切り板を引き抜く



## コンソールボックスを使うには

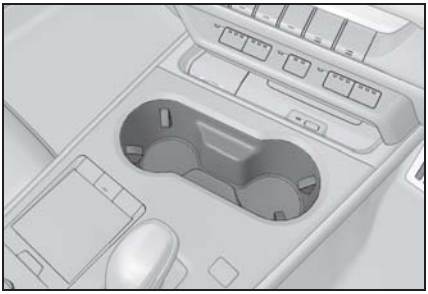
ボタンを押しながらフタを持ち上げて開く

両側から開けることができます。



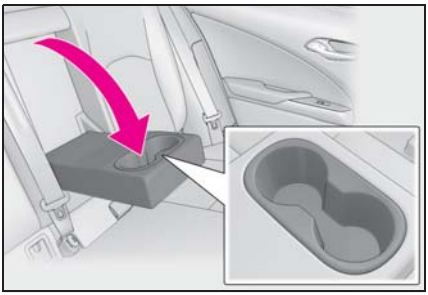
## カップホルダーを使うには

■ フロント



■ リヤ

リヤアームレストを手前に倒す



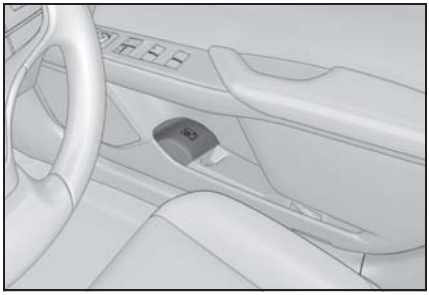
**警告**

**■収納してはいけないもの**

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。

急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

## ボトルホルダー



知識

**■ボトルホルダーについて**

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

●ペットボトルの大きさ・形によっては収納できないことがあります。

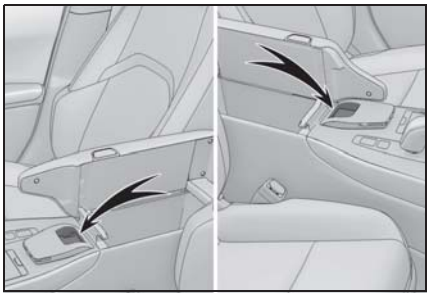
**注意**

**■収納してはいけないもの**

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップ・ガラス製のコップなどを収納しないでください。
ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

## コインホルダー

コンソールボックスを開ける
(→P.338)



注意

■コインホルダーについて

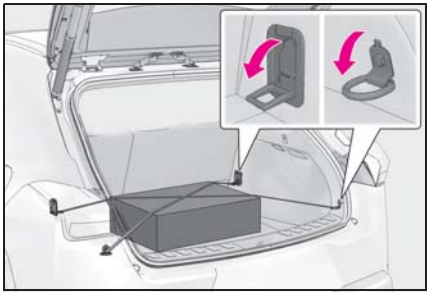
トレイの高さ以上にコインを入れないでください。ふたの開閉の妨げになるおそれがあります。

# ラゲージルーム内装備

## デッキフックを使うには

フックを起こして使用する

フックを使って荷物を固定することができます。



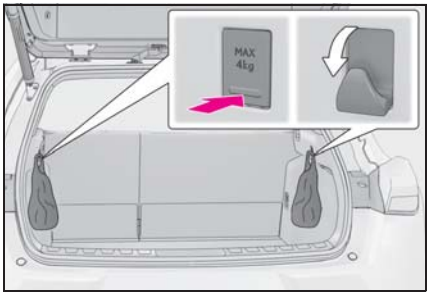
警告

■デッキフックを使用しないときは

けがをしないように、必ずもとの位置にもどしておいてください。

## 買い物フックを使うには

下側を押してフックを起こす



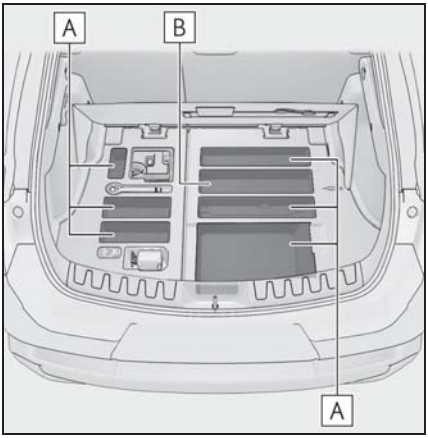

注意

■買い物フックの破損を防ぐには

4kg 以上のものや大きいものを買い物フックに吊り下げないでください。

## デッキアンダートレイを使うには

デッキボードを持ち上げて留めひもで固定し（→P.341）、次のものを収納することができます。




A 小物など

B 停止表示板※

※ 停止表示板は、レクサス販売店で購入することができます。

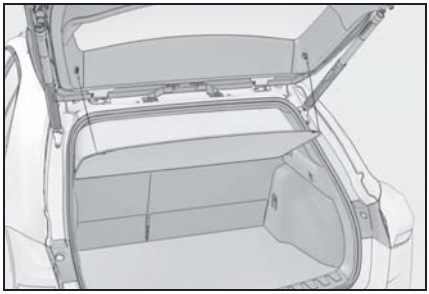
知識

■停止表示板について

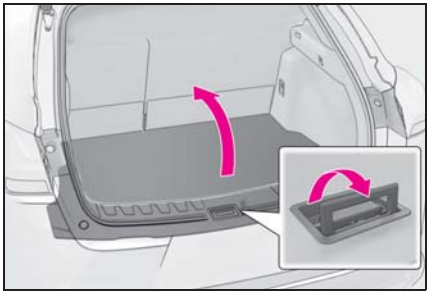
ケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります。

## デッキボードを開けるには

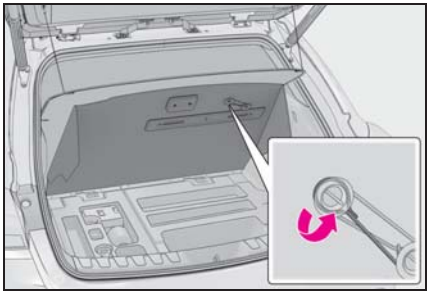
1 バックドアを開ける



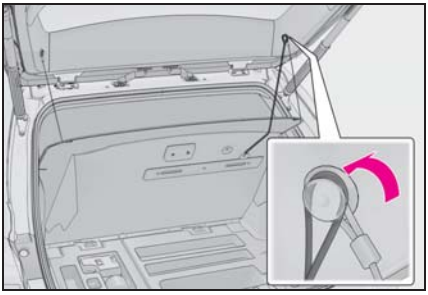
2 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



3 裏面の留めひもをはずす



4 留めひもをバックドアにあるフックに引っかけて固定する



**警告**

**■デッキボードを開けたり取りはずしたときは**

走行前に必ずもとどおりに取り付けてください。そのまま走行すると、急ブレーキをかけたときなどにデッキボードや収納していたものが飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意**

**■デッキボードの損傷を防ぐために**

バックドアを閉めるときは、デッキボードの留めひもをフックにかけたままにしないでください。

## トノカバー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

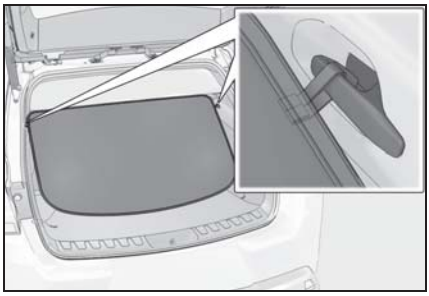
### ■ トノカバーを取り付けるときは

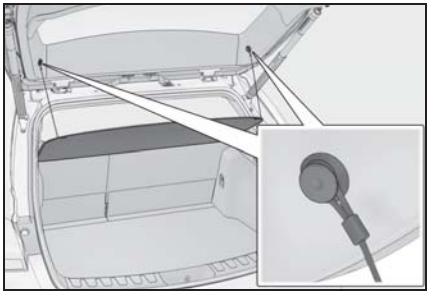
1 袋からトノカバーを取り出す

2 トノカバーをゆっくり広げる

3 留めひもをトノカバーフックにかける

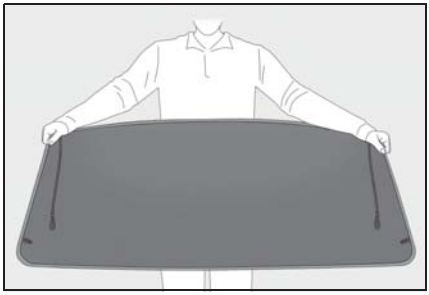
ひもが縫い付けられている面を下にして取り付けてください。



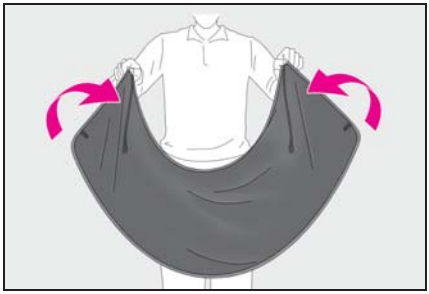


### ■ トノカバーを収納するときは

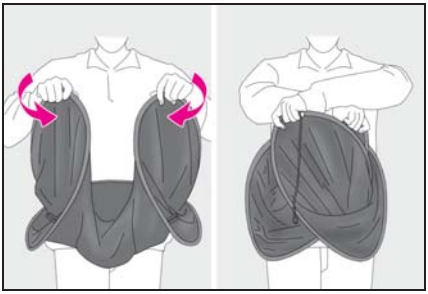
1 長い留めひもがある側の角を持つ



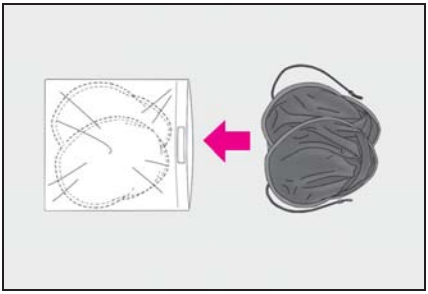
2 半分に曲げる



**3** 手首をひねりながらたたむ



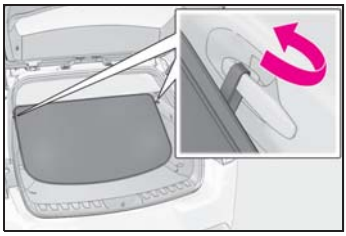
**4** トノカバーを袋に入れる



知識

**■トノカバーを取りはずすときは**

短い留めひもは、いったん手前に引いてから取りはずしてください。



**警告**

**■トノカバーを取り出したり広げたりするときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、トノカバーが急に広がり、けがをするおそれがあります。

- 袋から取り出すときは、トノカバーの縁を手でしっかりと押さえながら、ゆっくり取り出してください。
- トノカバーを広げるときは両手でしっかり持ってゆっくり広げてください。
- 顔の近くでトノカバーを広げないでください。
- トノカバーを広げているときに手を離さないでください。
- 近くに人がいるときはトノカバーを広げないでください。

**■トノカバーを取り付けるときは**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 視界のさまたげにならないよう、トノカバーの後端部を水平にして取り付けてください。
- 留めひもを正しく取り付けてください。

**注意**

**■トノカバーを使用するときは**

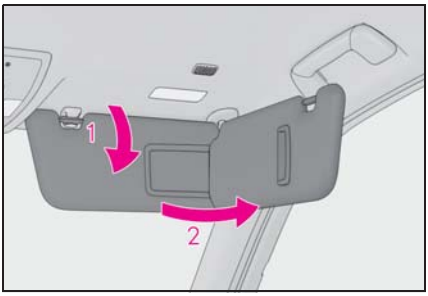
- トノカバーの上に物を置かないでください。トノカバーが変形するおそれがあります。
- 留めひもがはずれた状態でバックドアの開閉をしないでください。トノカバーが破損するおそれがあります。

注意

- トノカバーフックにトノカバーとデッキボードの留めひも以外のものを掛けないでください。フックやバックドアが破損するおそれがあります。

# その他の室内装備

## サンバイザーを使うには



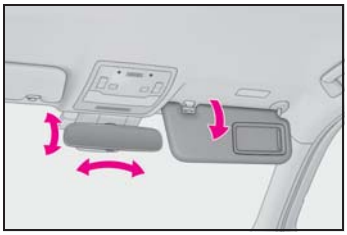

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

知識

■インナーミラーを調整するときは

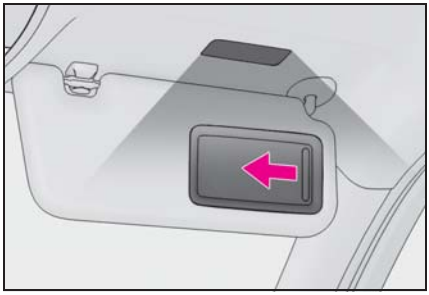
サンバイザー使用時に干渉しない範囲で、後方を十分に確認できるように調整してください。



## バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

カバーを開けるとバニティミラーランプが点灯します。



知識

■自動消灯について

パワースイッチが OFF の場合、バニティーランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

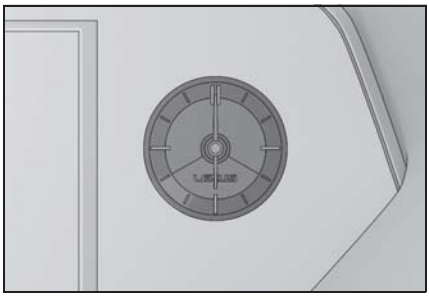
注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

## 時計

GPS の時刻情報（GPS 時計）を利用して、時刻を自動で調整します。詳しくは別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」を参照してください。

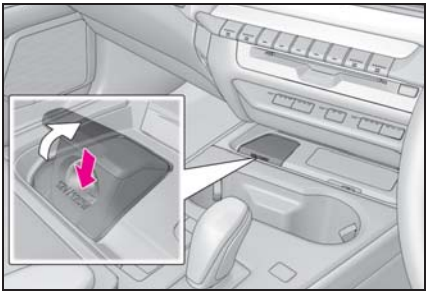


## アクセサリーソケットを使うには

DC12 V/10A（消費電力 120W）未満の電気製品を使用するときの電源としてお使いください。

電気製品を使用するときは、すべてのアクセサリーソケットに接続されている電気製品の消費電力合計を120W 未満にしてください。

フタを押して開ける



知識

■アクセサリーソケットを使用するとき

パワースイッチが ACC または ON のとき

■EV システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、EV システムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■アクセサリーソケットを使用しないときは

異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、アクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

■誤作動を防ぐために

パワースイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

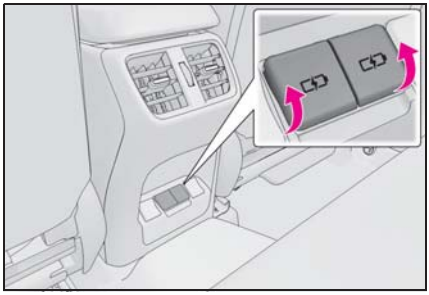
- ドアが施錠できない
- メーターのオープニング画面が表示される
- 室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

## 充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。
ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。

### ■ 充電用 USB Type-C 端子を使用するには

フタを開けて使用する



知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

EV システムが停止した状態で、充電用 USB Type-C 端子を長時間使用しないでください。

## おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取扱説明書もお読みください。

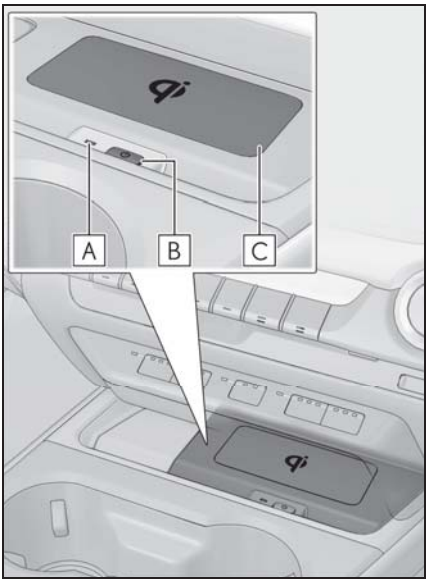
■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴ は、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称




A 作動表示灯

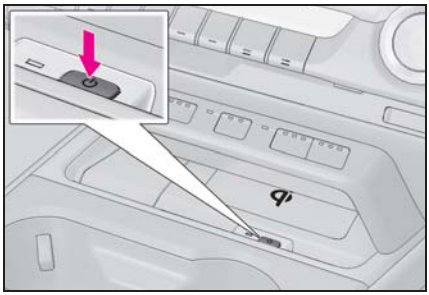
B 電源スイッチ

C 充電エリア

■ 充電する

1 電源スイッチを押す

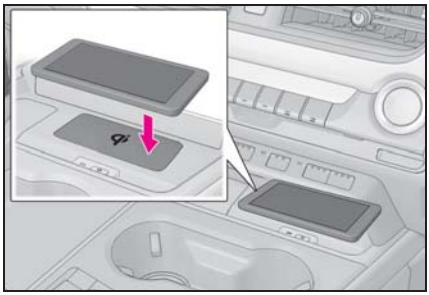
押すごとに ON と OFF が切りかわります。
ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。
ワイヤレス充電器の電源の状態（ON ／ OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。



2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面が下になるように置いてください。
充電中は作動表示灯が橙色に点灯します。
充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。



■ 再充電機能

● 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。

● 携帯機器が移動すると、いったん充電が停止しますが、ただちに充電を再開します。

### ■ 作動表示灯の点灯状況

| 作動表示灯 | 状況 |
|---|---|
| 消灯 | ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき |
| 緑（点灯） | 待機中（充電可能状態） |
| | 充電完了時 ※ |
| 橙（点灯） | 充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中） |
| | 充電中 |

※ 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

### ■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次の通りです。

● 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

| 想定される原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 車両とワイヤレス充電器の通信不良 | パワースイッチが ACC のとき：ON に切りかえてください。<br>パワースイッチが ON のとき：いったん OFF にしてから再度、ON にしてください。<br>上記の方法でも作動表示灯が点滅したままのときは、レクサス販売店へお問い合わせください。 |

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

| 想定される原因 | 対処方法 |
|---|---|
| 異物検知：携帯機器と充電エリアのあいだに異物がある | 携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。 |
| 携帯機器のずれ：置かれた場所から携帯機器がずれている | 携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。 |

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

| 想定される原因 | 対処方法 |
|---|---|
| ワイヤレス充電器内の温度上昇 | いったん充電を停止し、しばらく待ってから充電を開始してください。 |

知識

**■作動条件**

パワースイッチが ACC または ON のとき

**■使用できる携帯機器について**

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

**■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは**

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。カバーやアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。
ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。
また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中について留意事項

●車室内に電子キーを検出できない場合は、充電することができません。ドアの開閉時は、一時的に充電が停止することがあります。

●充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

●携帯機器の使用状況により満充電にならないことがありますが、故障ではありません。

■作動中の音について

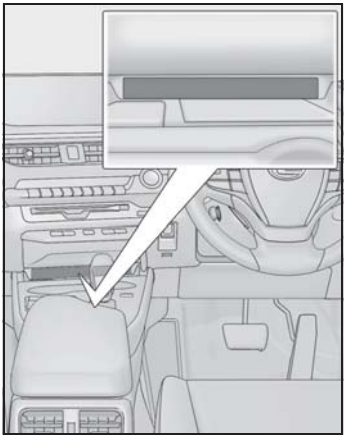
電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、携帯機器を検出中は “ ジー ” と作動音がしますが、異常ではありません。

■清掃について

→P.372

■取り扱い上の注意を記載したラベルについて

ワイヤレス充電器の車両前方側にラベルが貼付してありますので、ラベルの指示に従って正しい取り扱いをしてください。



**警告**

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■電波がおよぼす影響について

心臓用ペースメーカーをお使いの方は、ワイヤレス充電器を心臓用ペースメーカーの装着部位から 22cm 以上離してご使用ください。電磁波の影響により、ペースメーカーの動作に影響を与えることがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

●充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない

●飲用水などが入った容器をワイヤレス充電器の上に置かない

●充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない

●布などをかぶせて充電しない

**警告**

- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 強い力や衝撃をかけない

**注意**

**■機能が正常に働かないおそれのある状況**

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器の置き場所が充電エリアからずれている
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
  - ・アルミ箔などの金属の貼られたカード
  - ・アルミ箔を使用したタバコの箱
  - ・金属製の財布やかばん
  - ・小銭
  - ・カイロ
  - ・CD や DVD などのメディア
- 近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。レクサス販売店へお問い合わせください。

**■故障やデータ破損を防止するために**

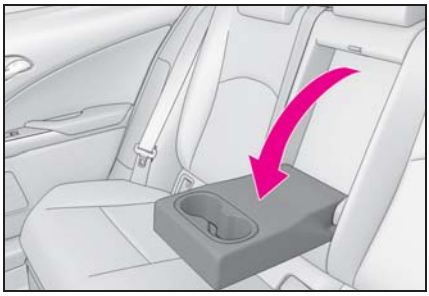
- 充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや非接触型 IC カード、磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。
- 携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因となります。

**■補機バッテリーあがりを防止するために**

EV システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

## リヤアームレストを使うには

手前に倒して使用します。



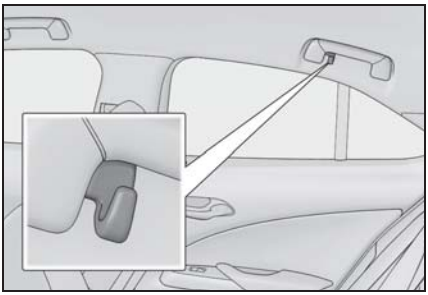
注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

## コートフックを使うには

コートフックは、リヤのアシストグリップに付いています。



警告

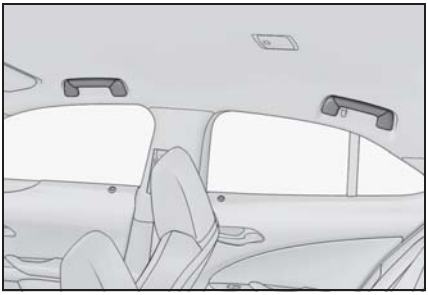
■コートフックへかけてはいけないもの

コートフックにハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。

SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

## アシストグリップを使うには

天井に取り付けられているアシストグリップは、走行中にシートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。



警告

■アシストグリップについて

乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。

注意

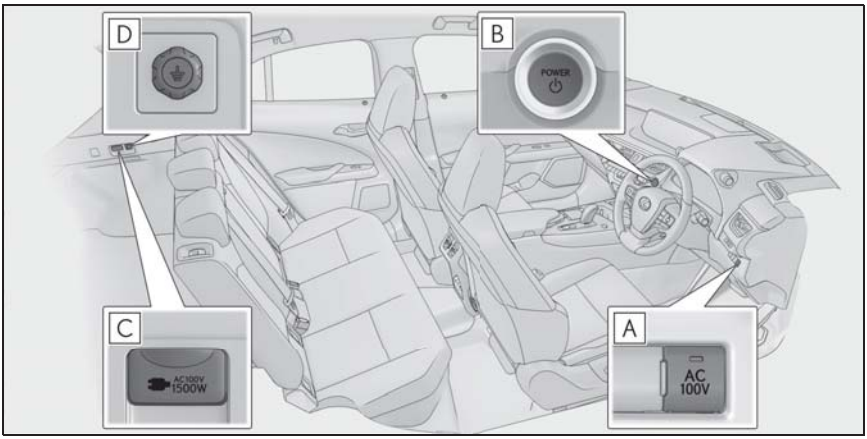
■アシストグリップの破損を防ぐために

破損を防ぐために、アシストグリップに過度の負荷をかけないでください。

# アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）

**車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。**

## 各部の名称




A AC100V スイッチ

B パワースイッチ（→P.202）

C ラゲージルーム内コンセント

D アース端子

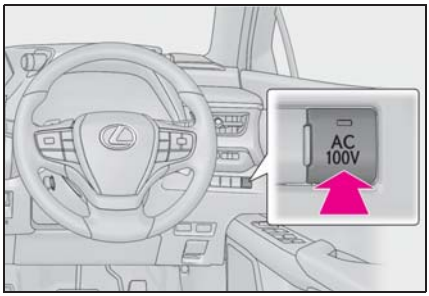
## コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.202）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON ／ OFF が切りかわります。

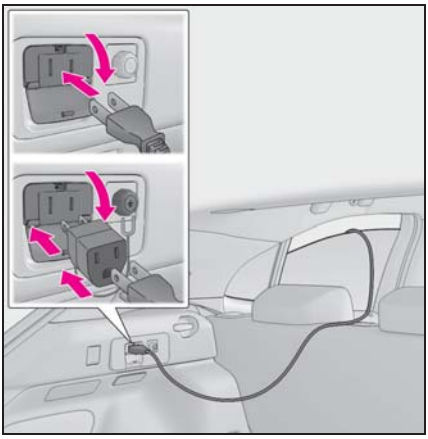


## 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

コンセントはラゲージルーム内にあります。

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。



## コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

READY インジケーターが点灯しているとき

■アクセサリーコンセントについて

●全コンセントの使用電力合計が AC100V で最大 1500W 以下となるよう電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。
この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●定格消費電力が 1500W 以下であっても、定格消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品があり、その場合は正常に作動しないおそれがあります。

●定格消費電力が大きな電気製品 ( ホットプレートなど ) の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しな

いおそれがあります。

- 起動時の電力が大きい電気製品
- 精密なデータ処理をする計測機器
- きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品
- タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

### ■コンセントが使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

- 電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 駆動用電池の残量を確認してください。駆動用電池充電警告灯点灯時は、駆動用電池を充電後、再度 AC100V スイッチを押してください。
- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、エアコンを使用するなどして車内を十分に換気し車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。
- 特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するためコンセントを使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

**警告**

### ■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。
  - ・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）
  - ・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）
  - ・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

**警告**

- 窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。
- 故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。
- ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。
- アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。
- コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをする
  プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。
- 電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込む
  電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。
- コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。
- お子さまにコンセントをさわらせないでください。
- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。

**■駐車中または停車中に使用するとき**

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

- パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしていることを確認してください。
- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  また、モータールーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。

**警告**

- 車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。
- 災害などによる非常時に電力が必要なときは非常時給電システムのご使用をおすすめします。（→P.359）

**■接続する電気製品について**

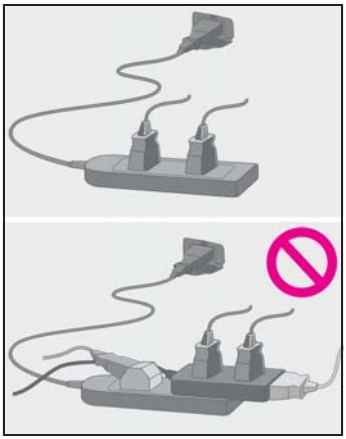
- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください

**注意**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

**■ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。
熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



注意

- コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。
- 電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

**■特に外気温が高いとき**

- 炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFF にし、はじめから操作をやり直してください。
- 給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰などへ移動したりエアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。

**■特に外気温が低いとき**

駆動用電池を保護するため、給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

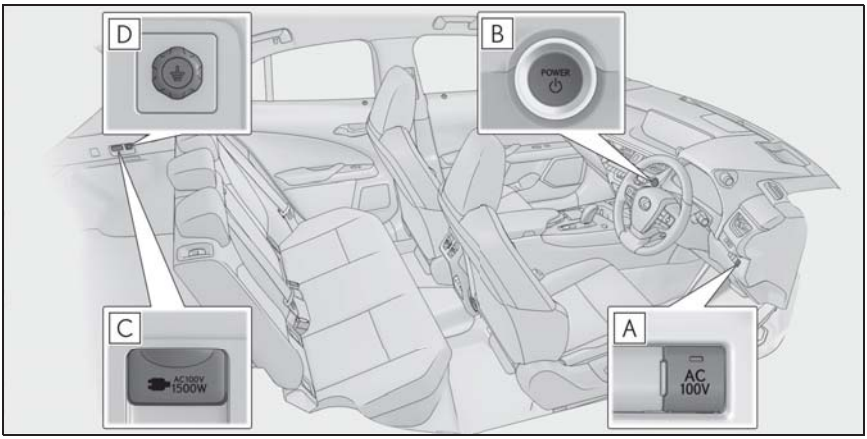
**■電気製品の電源プラグをコンセントに接続するとき**

電源プラグの電源が OFF になっていることを確認してください。

# 非常時給電システム

**災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。**

## システムの構成部品




A AC100V スイッチ

B パワースイッチ（→P.202）

C ラゲージルーム内コンセント

D アース端子

### ■ 給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- パーキングブレーキがかかっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- 普通充電 / 急速充電を行っていないこと
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

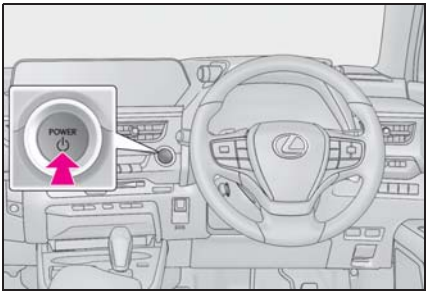
輪止めの使用をおすすめします。輪止めはレクサス販売店で購入することができます。

- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やラゲージルーム内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON にする

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

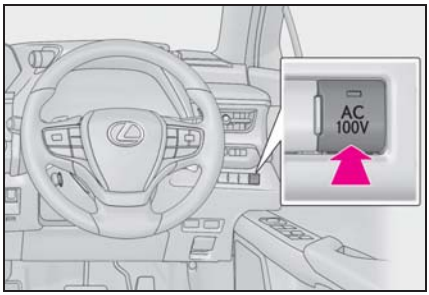



2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、起動が完了します。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯しないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。




■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

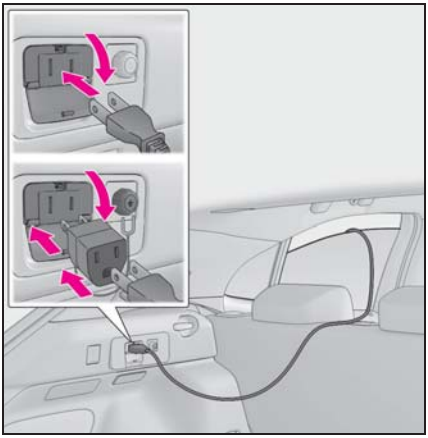
フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

コンセントはラゲージルーム内にあります。

電気製品が接続されていることがわかるように窓からコードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。

アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

窓ガラスを上昇させるときはパワーウインドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。(→P.186)



■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源をOFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

知識

■非常時給電システムについて

●AC100V で最大消費電力の合計が1500W 以下の電気製品を使用してください。規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●定格消費電力が 1500W 以下であっても、定格消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品があり、その場合は正常に作動しないおそれがあります。

●定格消費電力が大きな電気製品 ( ホットプレートなど ) の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

●長時間給電直後には、動力性能や電費などが一時的に悪化することがありますが、異常ではありません。

●非常時給電システム使用中は車両に充電出来ません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取り扱い説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていると考えられます。この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力の合計が 1500W 以下になっているかを確認してから、パワースイッチを OFF にして、はじめから操作をやり直してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認してから、パワースイッチを OFF にして、はじめから操作をやり直してください。
・駆動用電池の残量を確認してください。駆動用電池充電警告灯点灯時は、駆動用電池を充電後、はじめから操作をやり直してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するため給電システムが停止することがあります。その場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため、給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

●非常時給電システムが停止したとき

駆動用電池充電警告灯が点灯した場合、非常時給電システムは停止します。駆動用電池を充電後、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は、60Hz に設定されています。コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50 ／ 60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、レクサス販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは P.218 を参照ください。

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキーのみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに “キーが見つかりませんキーの所在を確認してください” と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

**警告**

**■安全にお使いいただくために**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。
また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、洗車は行わないでください。

●非常時給電システム使用中は、お子さまや介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。
また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●アース線のある電気製品を使用するときは、アース端子付きのコンセントを使用し、アース線をアース端子に接続してください。また、接地極付きプラグのある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線をアース端子に接続してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き差しをする
プラグの刃にふれないようにしてください。また、コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●電源プラグはコンセントにいっぱいまで確実に挿し込む
電源プラグが半挿しの状態にならないようにしてください。また、電源プラグに荷重がかからないようにしてください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはレクサス販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

**警告**

- コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。
- 電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはレクサス販売店にご相談ください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。また、モータールーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して、車中で泊まることはやめてください。
- 車外に電源コードを引き出して使用する場合は、誤って車両を発進させないようにご注意ください。

**■接続する電気製品について**

- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあるため、医療機器は使用しないでください

**注意**

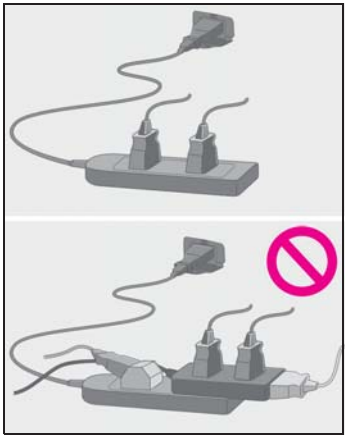
次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

**■ショートや故障を防ぐために**

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。
- 熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障したりするおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障やショートのおそれがあります。

注意

●コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続しないでください。コードが発熱する可能性があります。異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。



●コードリールを使う場合、コードが発熱する可能性がありますので、コードはリールからすべて引き出してご使用ください。

●電源コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

■特に外気温が高いとき

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は、車両を日陰などへ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから、パワースイッチをOFFにし、はじめから操作をやり直してください。

●給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰などへ移動したりエアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。

■特に外気温が低いとき

駆動用電池を保護するため、給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

■電気製品の電源プラグをコンセントに接続するとき

電源プラグの電源がOFFになっていることを確認してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してからEVシステムを始動してください。

# お手入れのしかた 7


## 7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ ..... 368

内装の手入れ ..... 372

## 7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット ..... 375

ガレージジャッキ..... 377

ウォッシャー液の補充..... 378

タイヤについて..... 378

タイヤの交換 ..... 386

タイヤ空気圧について ..... 390

エアコンフィルターの交換 ..... 391

電子キーの電池交換..... 393

ヒューズの点検・交換..... 395

電球（バルブ）の交換..... 398

# 外装の手入れ

**お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。**

## 手入れの作業要領

- 水を十分かけながら、車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける。（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、レクサスケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

知識

### ■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から 5 ～ 8 年のあいだ､効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を暖めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

### ■自動洗車機を使うときは

- お車を洗う前に：
  ・ドアミラーを格納する
  ・パワーバックドア★を停止する

走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。

- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- 洗車機によっては、リヤスポイラーが引っかかり洗車できない場合や傷付いたり、破損したりするおそれがあります。
- N ポジションに保持したままパワースイッチを ACC にする必要があるときは、P.209 を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

### ■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

### ■スマートエントリー＆スタートシステムについて

- 電子キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠・解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。
  ・電子キーを車両から 2m 以上離れた場所に保管する

（電子キーの盗難に注意してください）
・電子キーを節電モードに設定し、ス

マートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.174）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、車外のブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに“車室内にキーがあります”が表示されることがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

■ホイール・ホイールキャップについて

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

●水滴のはじきが悪くなったときは補修することができます。
詳しくはレクサス販売店にお問い合わせください。

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

**警告**

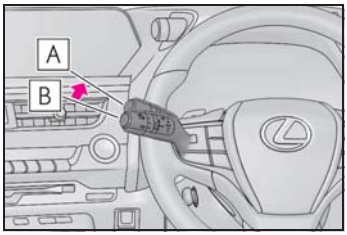
■洗車をするときは

モータールーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

**警告**

**■フロントウインドウガラスを清掃するときは**

ワイパースイッチを OFF にしてください。AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。




A OFF

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

**■リヤバンパーについて**

リヤバンパーの塗装に傷が付くと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。レクサス販売店にご相談ください。

- Lexus Safety System +
- BSM★
- RCTA★
- PKSB

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**注意**

**■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐためによごれを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

**■ランプの清掃**

- 注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
  ランプを損傷させるおそれがあります。
- ランプにワックスがけを行わないでください。
  レンズを損傷するおそれがあります。

注意

■自動洗車機を使用するときは

ワイパースイッチを OFF にしてください。(→P.229)
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品

・ステアリング部品

・サスペンション部品

・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部品は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。駆動用電池の中に水が侵入し、EV システムの不調や故障の原因になります。

# 内装の手入れ

**お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。**

## 車内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1% にうすめてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

**■カーペットの洗浄について**

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。

スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

**■シートベルトの取り扱いについて**

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

**■スーパー UV カットガラスについて**

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

**警告**

**■車両への水の浸入**

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や配線をぬらさないでください。（→P.30）電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- おくだけ充電（ワイヤレス充電器）★（→P.347）をぬらさないでください。

発熱によるやけど、または感電により重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

**■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）**

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート部分：シンナー・ベンジン・アルコール・その他のアルカリ性や酸性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因になったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.234)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■スーパー UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

## サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

## 革部分の手入れをするには

■ 本革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりや砂を取り除く

● うすめた洗剤をやわらかい布に含ませ、よごれをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5 % にうすめて使用してください。

● 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

■ 合成皮革部分の手入れ

● 掃除機などでほこりを取り除く

● 汚れがついた場合は、柔らかい布に水を含ませ固くしぼりふき取る

● 水拭きで取れない汚れは、本革シート用クリーナーを使用しふき取る

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

■合成皮革部分の汚れについて

長い間放置し染みついた汚れはふき取りにくくなるため、定期的にお手入れをおすすめします。

注意

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために次のことをお守りください。

● 革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

● 直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

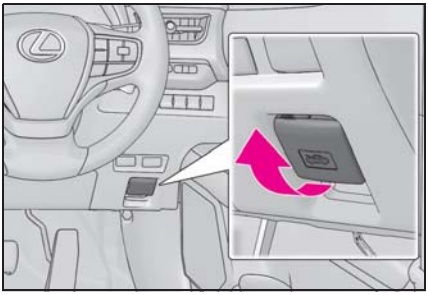
● ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

# ボンネット

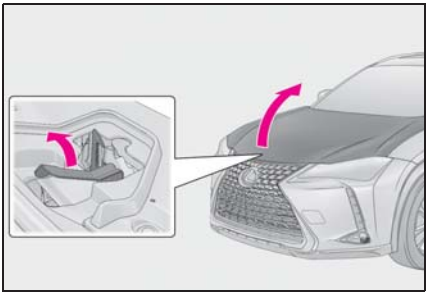
## ボンネットを開けるには

**1** ボンネット解除レバーを引く

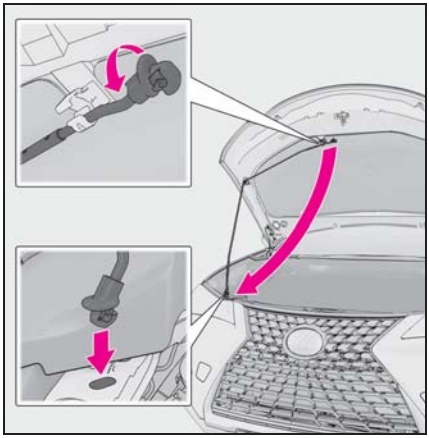
ボンネットが少し浮き上がります。



**2** レバーを引き上げてボンネットを開ける



**3** ボンネットステーをステー穴に挿し込む



**警告**

**■走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■修理・車検・整備点検をする場合は**

整備モードに切り替える必要がありますので、必ずレクサス販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■ボンネットを開けるときは**

ボンネットを開ける前にパワースイッチを OFF にしてください。作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に電動ファンは、パワースイッチを OFF にしたあとも最大 3 分間作動しますので注意してください。

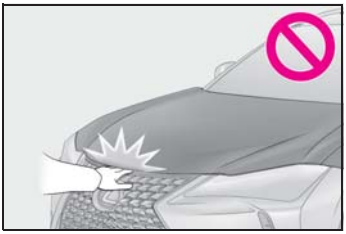
**警告**

**■モータールーム点検後の確認**

モータールーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などをモータールーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、モータールーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

**■ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。



**■ボンネットステーをステー穴に挿し込んだあとは**

ボンネットが頭や体の上に落ちてこないように、正しく挿し込まれているか確認してください。

**■補機バッテリーの取り扱いについて**

→P.441

**注意**

**■ボンネットへの損傷を防ぐために**

ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

**■ボンネットを閉めるときは**

ボンネットステーをステー穴から取りはずし、クリップに正しくもどしてください。

ステーを正しくもどさない状態でボンネットを閉めると、ボンネットやステーが損傷するおそれがあります。

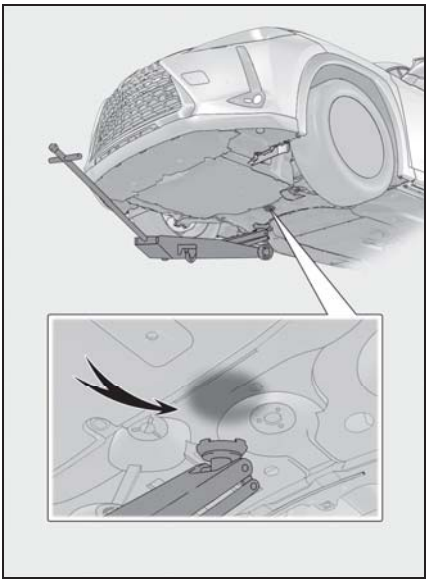
## ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取り扱い説明書に従って、安全に作業してください。

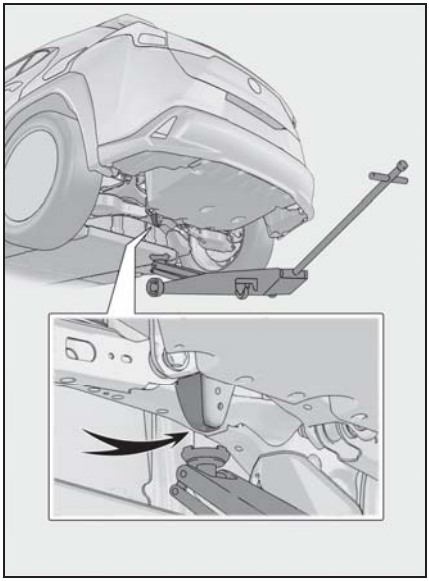
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをしたりするおそれがあります。

### ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側



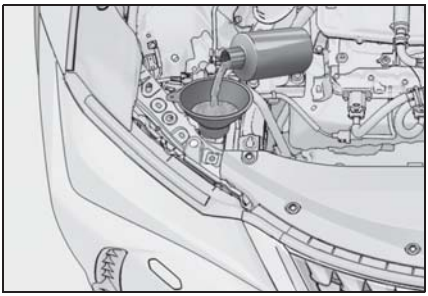
■ リヤ側



## ウォッシャー液の補充

### 補充するには

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに “ウォッシャー液を補充してください” が表示されたら、ウォッシャー液を補充する



**警告**

**■ウォッシャー液を補充するとき**

EV システムが熱いときや EV システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、EV システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

**注意**

**■ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

**■ウォッシャー液のうすめ方**

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

## タイヤについて

**タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。**
**タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を5,000km ごとに行ってください。**

### タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

- タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

- タイヤの亀裂・損傷の有無
- タイヤの溝の深さ
- タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

**知識**

**■タイヤ空気圧の数値**

▶215/60R17 96H

前輪：250kPa（2.5kg/cm$^2$）※

後輪：250kPa（2.5kg/cm$^2$）※

▶225/50R18 95V

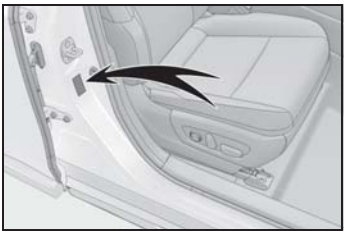
前輪：230kPa（2.3kg/cm$^2$）※

後輪：230kPa（2.3kg/cm$^2$）※

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができま

す。

※ タイヤが冷えているときの空気圧



■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、レクサス販売店にご相談ください。

■タイヤの交換について

お客様の車には、タイヤ交換に使用する次の工具とジャッキが搭載されていないことがあります。その場合、タイヤを交換するときは、工具とジャッキを購入してください。工具とジャッキはレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

**警告**

■点検・交換時に警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明のタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（電費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意**

■走行中に空気もれが起こったら

走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

注意

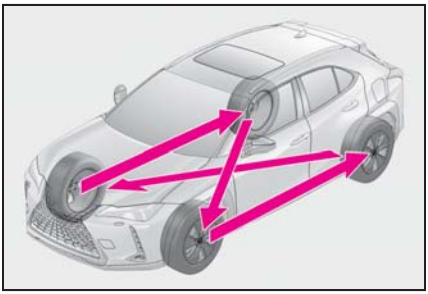
■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。

タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

## タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。



タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、レクサスは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

知識

■タイヤローテーションを行うとき

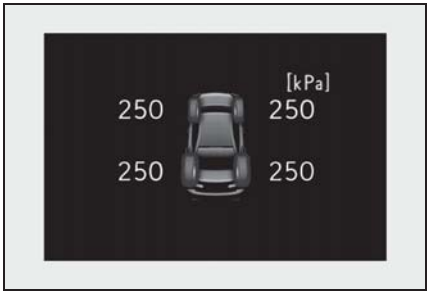
必ずパワースイッチが OFF の状態で行ってください。ON のままタイヤローテーションを行うと、タイヤ位置情報が更新されません。
誤ってそのような状態になってしまったときは、パワースイッチをいったん OFF にしてから再度 ON にするか、タイヤ空気圧が正しく調整されていることを確認した上で、初期化操作を行ってください。

## タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

- 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.412, 419）
- タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.141）

図の画面表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。




知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで約 3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで約 3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき
・中子式ランフラットタイヤを装着しているとき
・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

## 空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.384）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、レクサス販売店へご相談ください。

●レクサス指定の純正ホイールを使用してください。
レクサス指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

●バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが固着する場合があります。

●バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

■パンク修理剤を使用したとき

空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

## タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

### ■ 初期化が必要なとき

● タイヤローテーションを実施したとき

● 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき

● ID コードの登録を実施したとき (→P.384)

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

また、タイヤの位置判定を行います。

### ■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上 EV システムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 EV システムを始動する (→P.202)

4 メーター操作スイッチの < または > を押して ⚙ を選択する

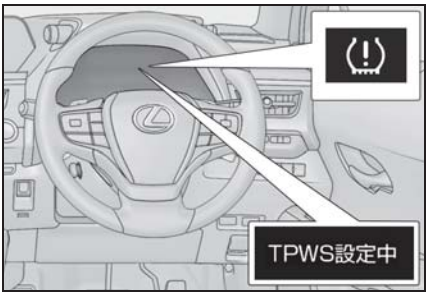
5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す

7 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“初期化”を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまで“OK”を押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タ

イヤ空気圧表示が “--” になり、タイヤの位置判定を開始します。




**8** 約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。

約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了しますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

知識

■ **初期化するときは**

- 通常は約 30 分以内の走行で初期化が完了します。
- 車速が約40km/h以上のときに行われます。
- 必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
  なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。
- タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで初期化されますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ **初期化操作について**

- 初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化操作をやり直す必要はありません。
- 初期化の必要がない状態で誤って初期化操作をしてしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。
- タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■ **初期化がうまくいかないとき**

- 次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
  - ・約 40km/h 以上を維持して走行していない
  - ・未舗装の場所を走行した
  - ・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない

  1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。
- 初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。
- 初期化操作時に警告灯が3回点滅しない場合、初期化されていないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
- 上記の方法でも初期化できない場合は、レクサス販売店にご相談ください。

**警告**

**■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき**

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

## ID コードを登録するには

### ■ ID コード登録が必要なとき

- 新しいバルブ／送信機を装着したとき
- すでにID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

### ■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 15 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

2 EV システムを始動する（→P.202）

3 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“車両設定”を選択して“OK”を押す

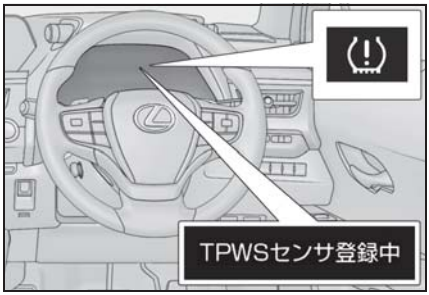
5 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“TPWS”を選択して“OK”を押す

6 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押し、“自動 ID 登録”を選択して“OK”をタイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまで押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が“--”になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。




7 約 2 分間待つ

すでに ID コードの登録がされている場合、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯した場合

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.382）

▶ タイヤ空気圧警告灯が消灯していない場合

8 約 40km/h 以上を維持しながらタイヤ空気圧警告灯が消灯するまで走行する

約 40km/h 以上を維持できない場合でも

時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。

**9** タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.382）

知識

■ID コードの登録をするときは

●通常は約 30 分以内の走行で登録が完了します。すでに ID コードの登録がされている場合は、通常より短い時間で完了します。

●ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。

●ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。

●ID コードはお客様自身で登録することができます。適度に右左折もしながら、直進走行をすることで登録されますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。
・走行前に約 15 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上を維持して走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●登録操作時に警告灯がゆっくり3回点滅しない場合、ID コードが登録されていないおそれがありますので、登録手順を最初からやり直してください。

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はレクサス販売店にご相談ください。

## タイヤの交換

**ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。**
**正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。**
**ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、レクサス販売店にご相談ください。**

### ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる (→P.403)

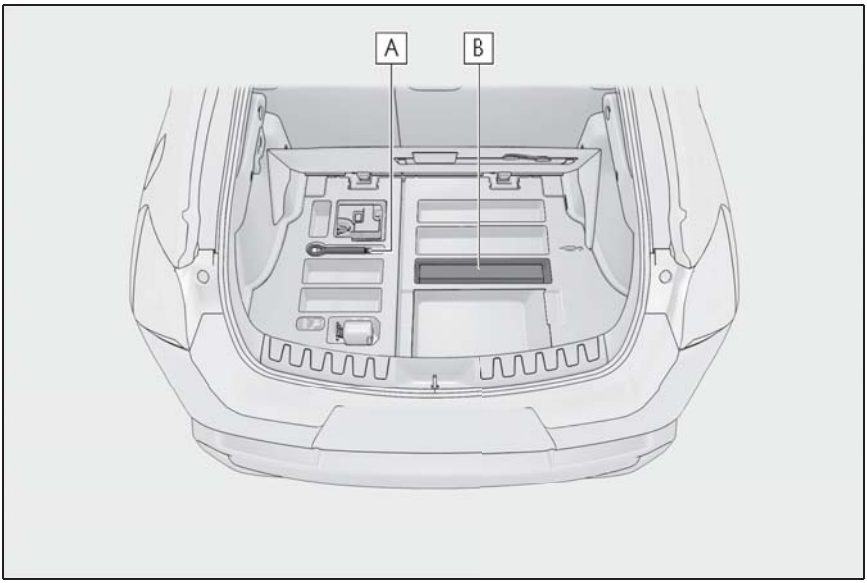
知識

**■工具について**

お客様の車にはタイヤパンク応急修理キットが標準装着のため、タイヤ交換に使用する以下の工具は搭載されていません。工具はレクサス販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

### 工具の位置




A けん引フック

B ジャッキ※／ジャッキハンドル※／ホイールナットレンチ※

※工具とジャッキは、レクサス販売店で購入することができます。

**警告**

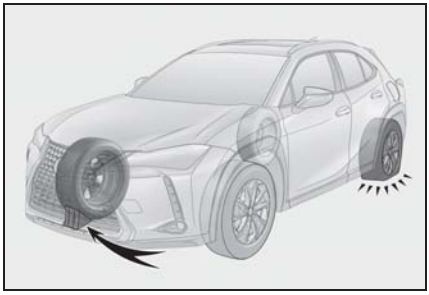
**■ジャッキの使用について**

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ●ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- ●他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ●ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ●ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ●車がジャッキで支えられている状態で、EV システムを始動したり車を走らせない
- ●車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- ●車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- ●車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- ●車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- ●車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

## タイヤの取りはずし

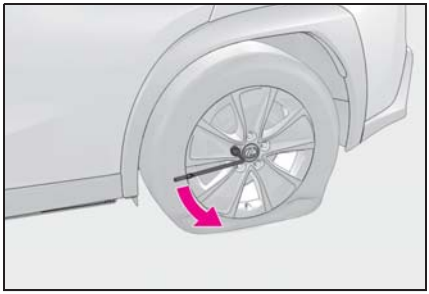
**1** 輪止め※をする



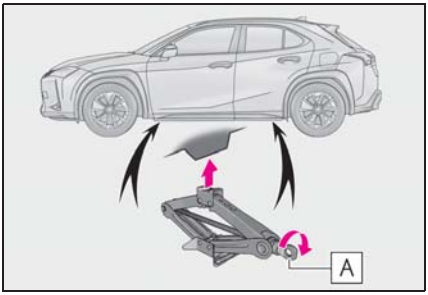
| 交換するタイヤ | 輪止めの位置 |
|---|---|
| 左前輪 | 右側後輪うしろ |
| 右前輪 | 左側後輪うしろ |
| 左後輪 | 右側前輪前 |
| 右後輪 | 左側前輪前 |

※輪止めは、レクサス販売店で購入することができます。

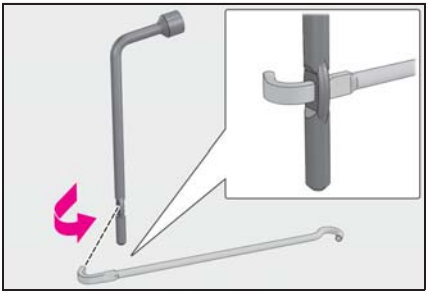
**2** ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる



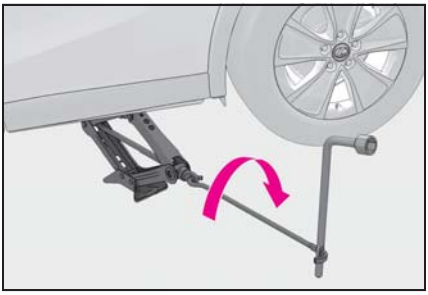
3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキの溝をジャッキセット位置にしっかりかける




4 ジャッキハンドルにホイールナットレンチを取り付ける

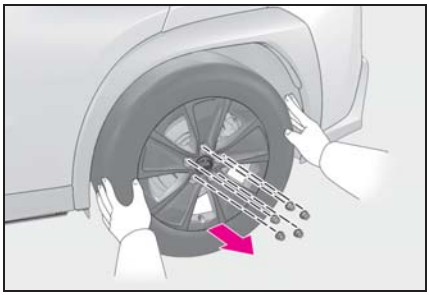


5 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる



6 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上にします。



**警告**

**■タイヤ交換について**

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているため、タイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

**警告**

●次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

・ホイールの交換後はすぐに 103N・m（1050kgf・cm）の力でナットを締める

・タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

・ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、レクサス販売店で点検を受ける

**■パワーバックドア装着車のタイヤ交換について**

タイヤ交換などをする際は、パワーバックドアの作動（→P.171）を停止してください。停止しないと、誤ってパワーバックドアを作動させたときにバックドアが動き、指や手を挟んでけがをするおそれがあります。

**注意**

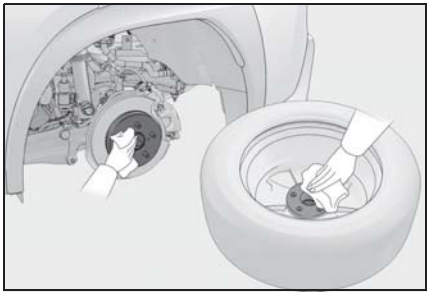
**■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換**

→P.382

## タイヤの取りつけ

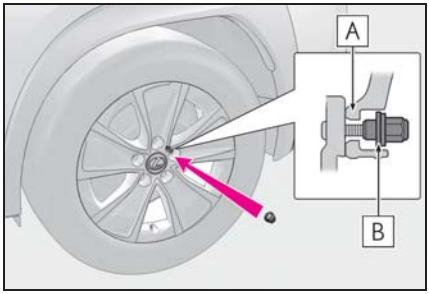
**1** ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。



**2** タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

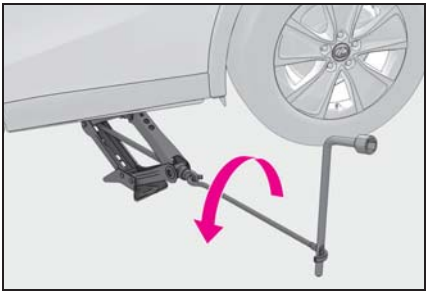
ナットの座金がホイールにあたるまでまわす




A ホイール

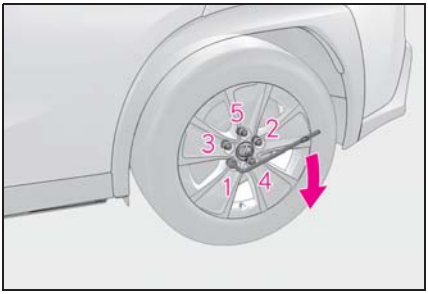
B 座金

**3** 車体を下げる



**4** 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
103N・m（1050kgf・cm）




**5** すべての工具を収納する

## タイヤ空気圧について

**タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。**

知識

### ■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

- 電費の悪化
- 乗り心地や操縦安定性の低下
- 摩耗によるタイヤ寿命の低下
- 安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、レクサス販売店でタイヤの点検を受けてください。

### ■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

- タイヤが冷えているときに点検する
- タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
  タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。
- 走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。
- 荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

**警告**

**■タイヤの性能を発揮するために**

適正なタイヤ空気圧を維持してください。

タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気もれ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大（路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

**注意**

**■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは**

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気がもれ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

## エアコンフィルターの交換

**エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。**

### 交換するには

**1** パワースイッチを OFF にする

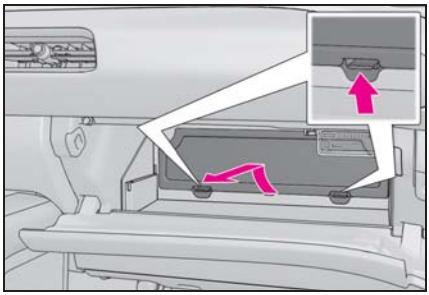
充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

**2** 助手席ドアを開ける

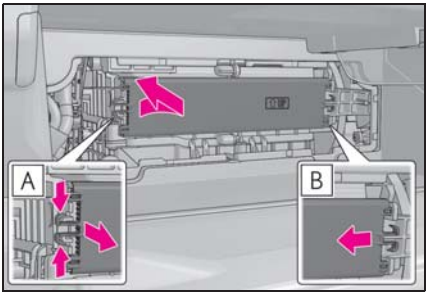
ドアを開けておくことで、リモートエアコンシステムの意図せぬ作動を防止できます。（→P.328）

**3** グローブボックスを開け、仕切り板をはずす（→P.338）

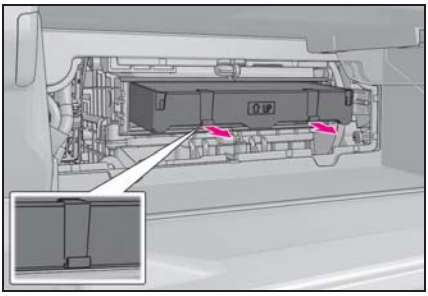
**4** パネルを取りはずす



5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

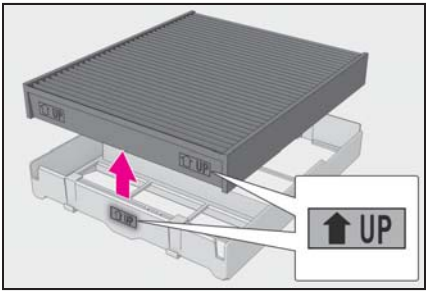



6 フィルターケースを取りはずす



7 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。




知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし12ヶ月をこえないこと※2

※1大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

警告

■エアコンフィルターを交換するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、作業中にエアコンが作動し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●充電コネクターが接続されていないことを確認する

エアコン連動設定（→P.102）や駆動用電池冷却（→P.84）などにより、エアコンが作動する場合があります。

●リモートエアコンシステムを使用しない

注意

■エアコンを使用するときの注意

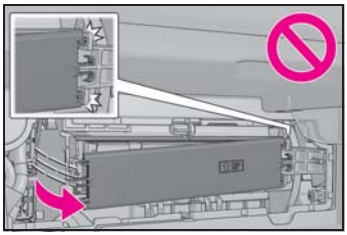
●フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。

注意

●フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。



## 電子キーの電池交換

**電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。**

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

●スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池は市販されていないため、レクサス販売店で交換してください。

### 事前に準備するもの

交換をするには、次のものを準備してください。

● マイナスドライバー

● 小さいマイナスドライバー

● リチウム電池：CR2032

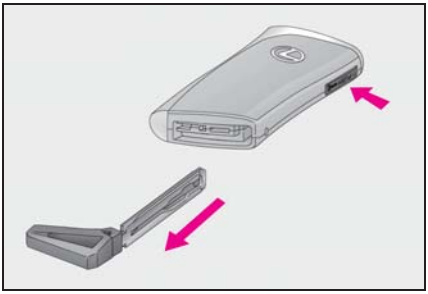
知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はレクサス販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

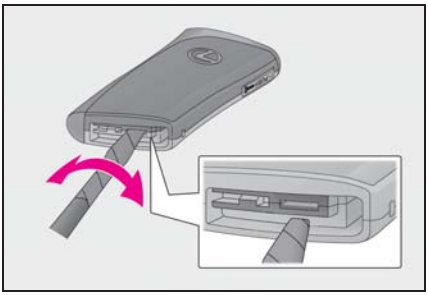
## 電池を交換するには

**1** メカニカルキーを抜く



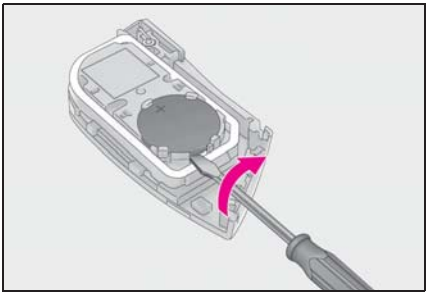
**2** カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



**3** 小さいマイナスドライバーを使って消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。



### 警告

**■電子キーの電池について**

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。
- 電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。
- カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、レクサス販売店で点検を受けてください。
- 誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

**■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために**

- 同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。
- 極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。
- 電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

## ヒューズの点検・交換

**ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。**

### ヒューズの点検・交換をするには

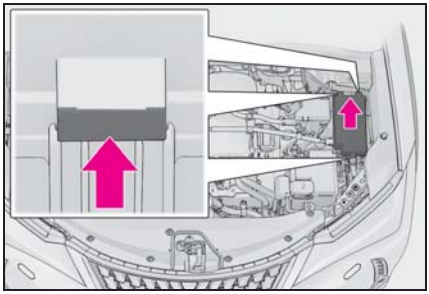
**1** パワースイッチを OFF にする

充電コネクターが接続されていないことを確認してください。また、作業中はリモートエアコンシステムを使用しないでください。

**2** ヒューズボックスを開ける

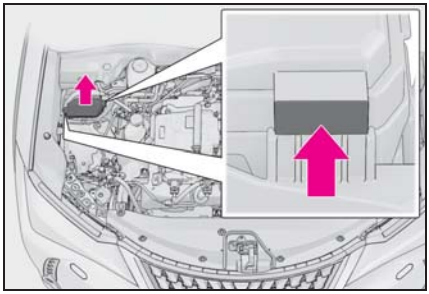
▶ モータールーム（1）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



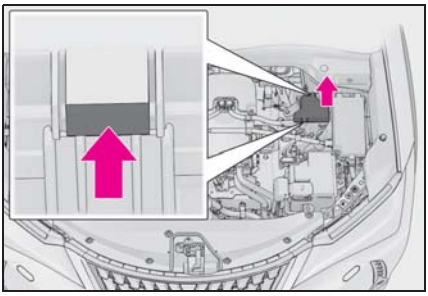
▶ モータールーム（2）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる



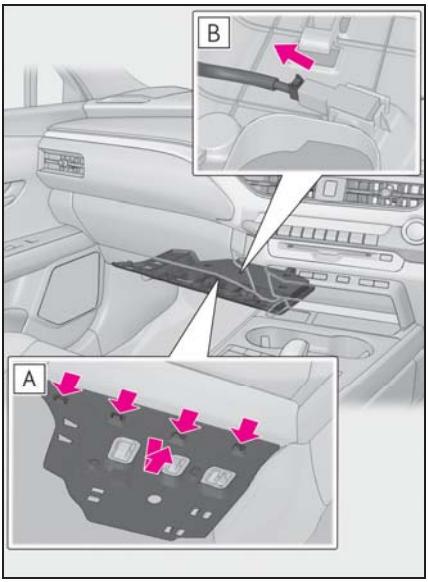
▶ モータールーム（3）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

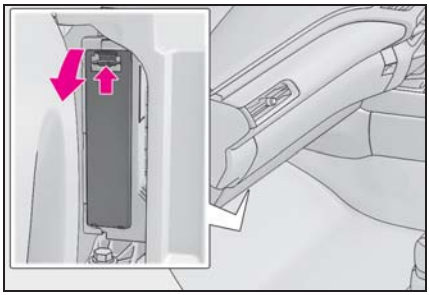


▶ 助手席足元

足元のカバー A を取りはずし、足元照明のコネクター B を取りはずす

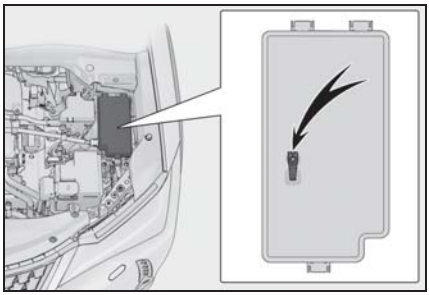



ヒューズボックスカバーを取りはずす



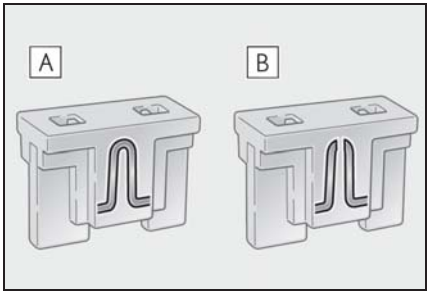
**3** ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くことができます。



**4** ヒューズが切れていないか点検する

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。




A 正常

B ヒューズ切れ

知識

■ヒューズを交換したあと

●カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。

●交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。

●交換しても再度ヒューズが切れる場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するとき

この車両に指定されているレクサス純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のレクサス純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●必ずレクサス純正ヒューズか同等品を使用してください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

■パワーコントロールユニット近くのヒューズボックスについて

高電圧部位・高電圧の配線が近くにあるため、絶対に点検・交換を行わないでください。
取り扱いを誤ると感電し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

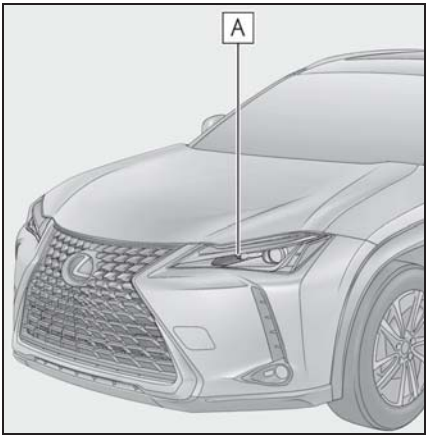
■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、レクサス販売店で点検を受けてください。

## 電球（バルブ）の交換

**次に記載する電球は、ご自身で交換できます。交換する前に、切れた電球の W（ワット）数を確認してください。部品が破損するおそれがあるので、レクサス販売店で交換することをおすすめします。**

### 電球の位置




A フロント方向指示灯／非常点滅灯（単眼ヘッドランプ装着車）

■ **レクサス販売店で交換が必要な電球**

次のランプが切れたときは、
レクサス販売店で交換してください。

- ヘッドランプ（前照灯）
- 車幅灯／ LED デイライト
- フロント方向指示灯／非常点滅灯（三眼ヘッドランプ装着車）
- フロントフォグランプ
- コーナリングランプ
- サイド方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- 尾灯／制動灯
- リヤ方向指示灯／非常点滅灯
- リヤフォグランプ★
- 後退灯
- ハイマウントストップランプ
- 番号灯

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■**LED ランプについて**

単眼ヘッドランプ装着車：

フロント方向指示灯／非常点滅灯以外のランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

三眼ヘッドランプ装着車：

すべてのランプは、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、レクサス販売店で交換してください。

■**レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、レクサス販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

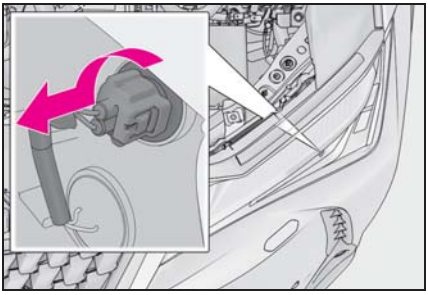
■**電球（バルブ）を交換するとき**

→P.397

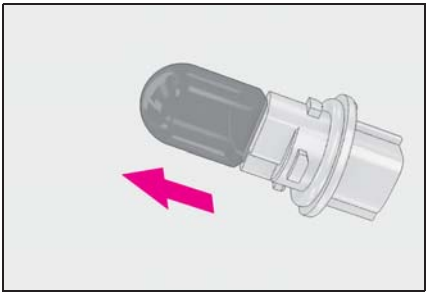
## 電球交換をするには

### ■ フロント方向指示灯／非常点滅灯（単眼ヘッドランプ装着車）

1 ソケットを左にまわして取りはずす



2 電球を取りはずす



3 取り付けるときは、取りはずしたときと逆の順序で取り付ける

**警告**

**■電球を交換するとき**

●ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

**■お車の故障や火災を防ぐために**

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

# 万一の場合には 8

## 8-1. まず初めに

故障したときは..... 402
非常点滅灯（ハザードランプ）. 403
発炎筒 ..... 403
車両を緊急停止するには..... 404
水没・冠水したときは..... 405

## 8-2. 緊急時の対処法

けん引について..... 407
警告灯がついたときは..... 412
警告メッセージが表示されたときは
..... 419
パンクしたときは..... 423
EV システムが始動できないときは
..... 433
キーをなくしたときは..... 434
充電リッドが開かないときは .. 435
電子キーが正常に働かないときは
..... 436
補機バッテリーがあがったときは
..... 438
オーバーヒートしたときは..... 442
スタックしたときは..... 443

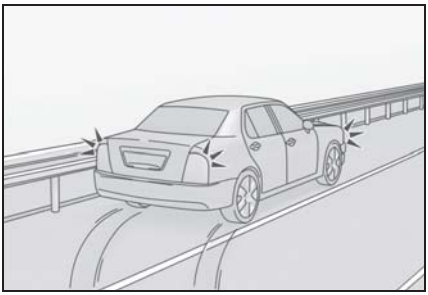
## 故障したときは

**故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。**

### 対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.403）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。



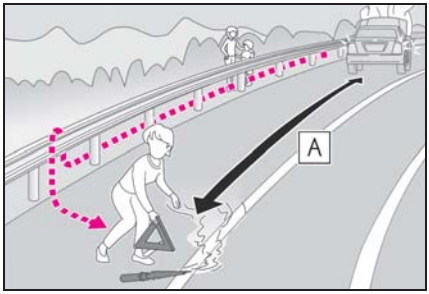
● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方 A に発炎筒（→P.403）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

・ 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

・ 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。



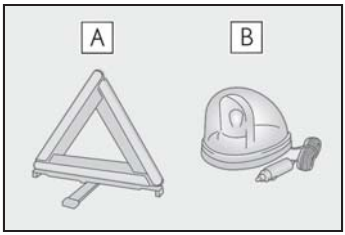

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

**■停止表示板・停止表示灯について**

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

●停止表示板・停止表示灯のご購入については、レクサス販売店にお問い合わせください。




A 停止表示板

B 停止表示灯

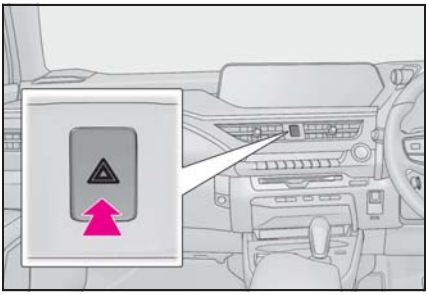
## 非常点滅灯（ハザードランプ）

**故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。**

### 点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。



知識

■非常点滅灯について

- EV システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。
- SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。

非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。

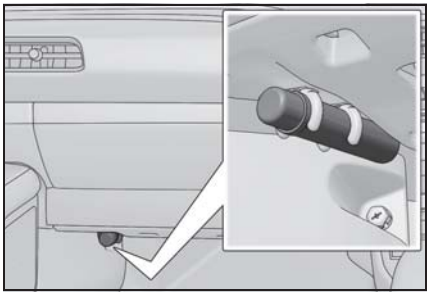
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

## 発炎筒

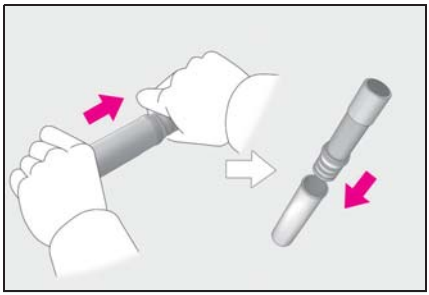
**高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）**
**発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。**

### 発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

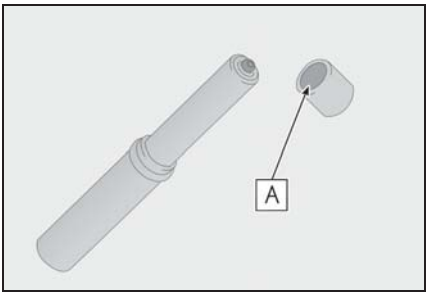


2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む



3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けないでください。




知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、レクサス販売店でお求めください。
有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

**警告**

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

## 車両を緊急停止するには

**万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。**

### 車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

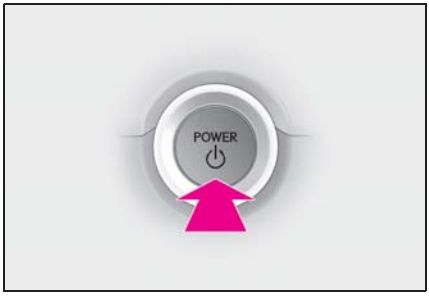
3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 EV システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して EV システムを停止する




5 車を安全な道路脇に停める

**警告**

■**走行中にやむを得ずEVシステムを停止するときは**

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。
EVシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

## 水没・冠水したときは

**この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。**

**車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。**
**落ち着いて次のように対処してください。**

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。
  車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■**水位がフロアを超えると**

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、モーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

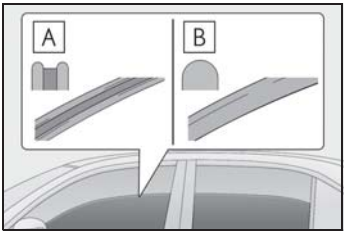
この車両のフロントウインドウガラスとドアガラスには合わせガラス★が使用されております。合わせガラスは、緊急脱出用ハンマー※で割ることができません。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※詳しくはレクサス販売店にお問合せください。

■合わせガラスの見分け方

ガラスの断面を上から見たとき、2 枚の板ガラスを貼り合わせてあるのが合わせガラスです。




A 合わせガラス

B 強化ガラス

**警告**

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

## けん引について

**けん引は、できるだけレクサス販売店または専門業者にご依頼ください。**

**その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。**

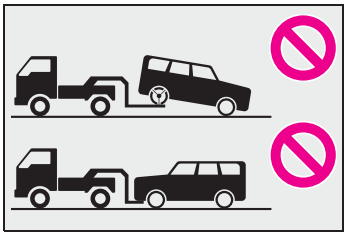
**やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。**

### 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■レッカー車でけん引するとき**

必ず前輪を持ち上げるか、4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。前輪が地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、モーターが回転することにより発電され、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。



**■他車にけん引してもらうときの運転について**

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パーキングロックにより前輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

**■けん引フックを車両に取り付けるとき**

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

### 注意

**■車両の損傷を防ぐために**

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

注意

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で前輪を持ち上げるか、4輪とも持ち上げた状態でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

- やむを得ない場合以外は使用しないでください。
- 緊急用フックで他車をけん引しないでください。

## 他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより前輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。レクサス販売店または専門業者にご依頼ください。

- シフト制御システムに異常があるとき（→P.204, 422）
- イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.52）
- スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.436）
- 補機バッテリーがあがったとき（→P.438）

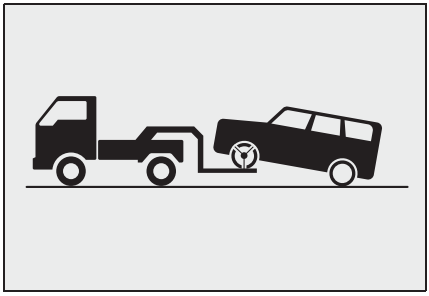
## けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、レクサス販売店または専門業者へご連絡ください。

- EVシステムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない
- 異常な音がする

## レッカー車でけん引するとき

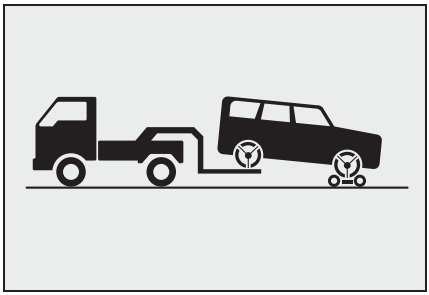
▶ 前向きにけん引するときは



パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.213）

▶ うしろ向きにけん引するときは

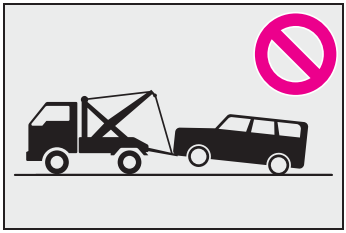


台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

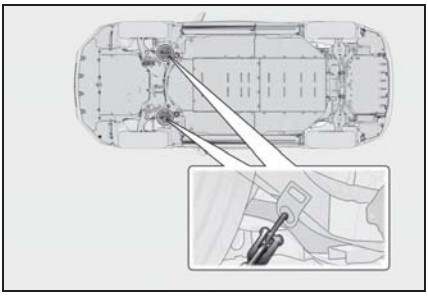


## 車両運搬車を使用するとき

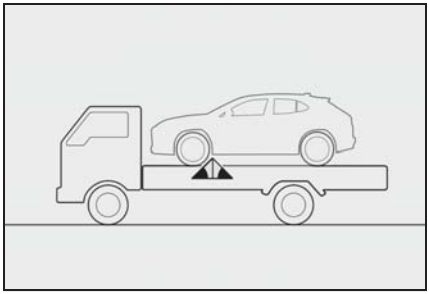
車両運搬車で輸送するときは、次の場所で固縛する

▶ フロント側

図の場所で固縛する



鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が45°になるように固縛する



▶ リヤ側

リヤタイヤをタイヤ固縛ベルトで固縛する

タイヤの固縛方法は、車両運搬車の取扱説明書を確認してください。

運搬中の車両の揺れを抑えるため、パーキングブレーキをかけ、パワースイッチを OFF にしてください。

注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

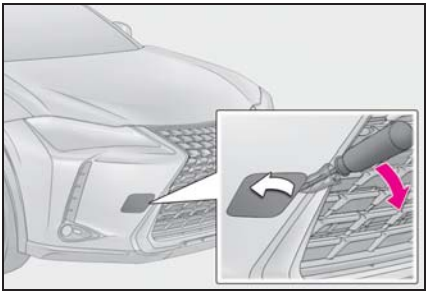
## 他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

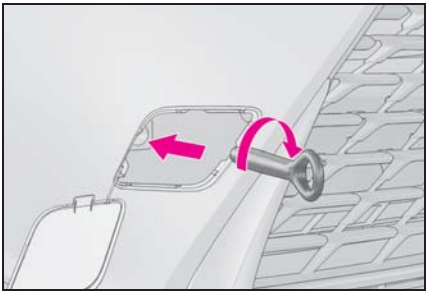
1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.424）

**2** マイナスドライバーを使ってフタをはずす

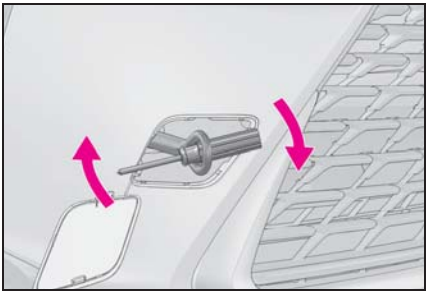
傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



**3** けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める



**4** 金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

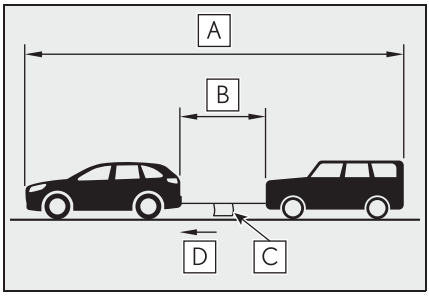


**5** 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

**6** ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：
0.3m 平方（30cm×30cm）以上




A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

**7** 運転者はけん引される車両に乗り、EV システムを始動する

EV システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

**8** けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください。（→P.213）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

**■けん引フックの使用目的**

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

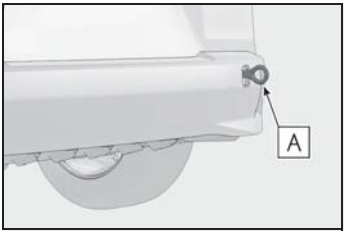
**■他車にけん引してもらうときに**

EV システムが停止しているとブレーキの

効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

### ■リヤ側けん引フックについて（輸送用フック／緊急用フック）

このフックは船舶固縛で車両を輸送するときに固定するために、または雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。



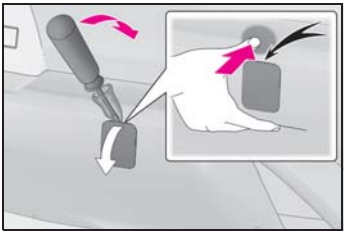

A 輸送用フック／緊急用フック

### ■リヤ側けん引フックを取り付けるには

輸送用フック、緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 ラゲージルーム内のけん引フックを取り出す（→P.424）
2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める
4 金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

# 警告灯がついたときは

**警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、レクサス販売店で点検を受けてください。**

## 警告灯・警告ブザーへの対応

### ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （赤色） | ●ブレーキ液の不足<br>●ブレーキ系統の異常<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。** |

### ■ 補機バッテリー充電警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 補機バッテリー充電系統の異常<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。** |

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

### ■ タイヤ空気圧警告灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合：<br>タイヤ空気圧警報システムの異常<br>**→ レクサス販売店で点検を受けてください。**<br>警告灯が点灯した場合：<br>次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。<br>●自然要因<br>●タイヤのパンク<br>**→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.417）に従ってください。** |

## ■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （黄色） | ●回生ブレーキシステムの異常<br>●電子制御ブレーキシステムの異常<br>●パーキングブレーキシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●SRS エアバッグシステムの異常<br>●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●ABS の異常<br>●ブレーキアシストの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| （赤色）<br>（黄色） | EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ スリップ表示灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常<br>●TRC（トラクションコントロール）システムの異常<br>●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ パーキングブレーキ表示灯

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| (点滅) | パーキングブレーキシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| HOLD<br>(点滅) | ブレーキホールドシステムの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。** |

## ■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| P OFF<br>(点滅) | ブザーが鳴った場合：<br>クリアランスソナーの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>ブザーが鳴らなかった場合：<br>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.284）** |

## ■ RCTA OFF 表示灯★（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| RCTA OFF<br>(点滅) | ブザーが鳴った場合：<br>RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>ブザーが鳴らなかった場合：<br>レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.278）に汚れや付着物がある<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.291）** |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| OFF（点滅） | ブザーが鳴った場合：<br>PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>ブザーが鳴らなかった場合：<br>センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.298, 419）** |

## ■ 駆動用電池充電警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 駆動用電池の残量や状態から充電が必要<br>低温時には、早めの充電を促すために早く点灯することがあります。<br>**→ 駆動用電池を充電する****（→P.82）** |

## ■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | 運転席・助手席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する**<br>**助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。** |

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

## ■ リヤ席シートベルト非着用警告灯 ※1（警告ブザー ※2）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| REAR | リヤ席シートベルトの非着用<br>**→ シートベルトを着用する** |

※1 マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。リヤ席の乗員の有無に関わらず、リヤ席シートベルト非着用の状態でパワースイッチを ON にした場合にも一定時間点灯します。

※2 リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブ

ザーが一定時間断続的に鳴ります。

## ■ ブレーキオーバーライドシステム／ドライブスタートコントロール／PKSB 警告灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| | ブザーが鳴った場合：<br>●ブレーキオーバーライドシステムの異常<br>●ドライブスタートコントロール作動時<br>●ドライブスタートコントロールの異常<br>●パーキングサポートブレーキ（静止物）作動時<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイやヘッドアップディスプレイ★に表示されているメッセージの指示に従ってください。**<br>ブザーが鳴らなかった場合：<br>ブレーキオーバーライドシステム作動時<br>**→ アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。** |

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ LTA 表示灯 ※（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| <br>（橙色） | LTA（レーントレーシングアシスト）の異常<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。****（→P.253）** |

※ マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

## ■ PCS 警告灯（警告ブザー）

| 警告灯 | 警告内容・対処方法 |
|---|---|
| OFF<br>（点滅または点灯） | 警告ブザーが鳴った場合：<br>プリクラッシュセーフティの異常<br>**→ ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。**<br>警告ブザーが鳴らない場合：<br>プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している<br>**→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.237, 421）**<br>プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。<br>**→ P.244** |

### 知識

**■警告ブザーについて**

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

**■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について**

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

**■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて**

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

**■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合**

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.423

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1. タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
2. 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.382）

**■自然要因によるタイヤ空気圧警報について**

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯しま

す。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.381

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、
レクサス販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●できる限り速やかに安全な場所に停車し、タイヤ空気圧を確認・調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。タイヤがパンクしている場合は、タイヤパンク応急修理キットで応急修理し、最寄りのレクサス販売店でタイヤの修理をしてください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

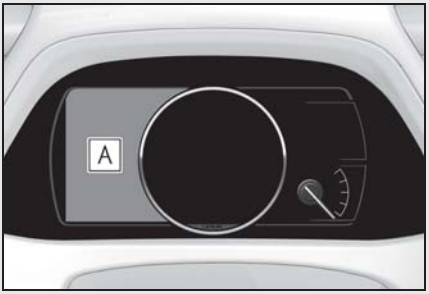
●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.382）では解除できません。

## 警告メッセージが表示されたときは

**マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。**




A マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイのメッセージに従ってください。

処置後に再度メッセージが表示されたときは、レクサス販売店へご連絡ください。

### メッセージと警告作動

メッセージの内容によって警告灯や警告ブザーの作動が次のように切りかわります。ディーラーで点検をするように表示されたときは、ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

| 警告灯 | 警告ブザー ※ | 警告内容 |
|---|---|---|
| ― | あり | ・走行にかかわるシステムの故障や、そのまま放置すると思わぬ危険を招くおそれがあるなどの重要なメッセージを意味します。<br>・車両への損傷や、思わぬ危険を招くおそれがあるなどのメッセージを意味します。 |
| 点灯または点滅 | あり | 表示されたシステムに故障のおそれがあるなどのメッセージを意味します。 |
| ― | なし | ・電装品の故障や状態、メンテナンスのお知らせなどのメッセージを意味します。<br>・車両を正しく操作していない場合や、操作方法のアドバイスなどを意味します。 |

※ メッセージを最初に表示したときに作動します。

知識

**■警告メッセージについて**

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

**■警告ブザーについて**

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

**■ “EV システム停止のためハンドルが重くなります ” が表示されたときは**

走行中に EV システムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

**■ “EVシステム高温 出力制限中です” が表示されたときは**

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

対処方法：→P.442

**■ “ シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車 ” または “ シフトシステム故障 走行を継続できません ” が表示されたときは**

シフト制御システムが故障しています。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

**■ “駐車時はPレンジに入れてください” が表示されたときは**

シフトポジションが P 以外でパワースイッチを OFF にせずに運転席ドアが開いたときにメッセージが表示されます。駐車時はシフトポジションを P にしてください。

**■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください ” が表示されたときは**

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “EV システムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けると EV システムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回 EV システム始動時に、約 5 分間 EV システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “回生ブレーキ制限中 減速時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

次のような状況では、回生ブレーキが制限されることがあります。ブレーキペダルをしっかり踏んで減速して下さい。

・ 満充電により、これ以上回生ができないとき

・ 駆動用電池の温度が極端に高いとき、または極端に低いとき

・ 電気モーターやパワーコントロールユニットの温度が極端に高いとき

■ “電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” が表示されたときは

不要な電装品をオフにし、電力消費を控えてください。電源状態が復帰するまでしばらくお待ちください。

■ “クルーズコントロール 一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.237）

■ “クルーズコントロール 現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.237, 412）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.237, 412）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

### ■販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

### ■シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

### ■取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

●次のメッセージが表示されたときは、対処方法に従ってください。
・“バッテリ充電不足” (→P.438)
・“充電システム確認のため 充電リッドを閉めてください” (→P.127)

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。
・“スマートエントリー＆スタートシステム故障”
・“バッテリ系故障”
・“アクセル系故障”
・“プラグイン充電システム故障”
・“EV システム故障”
・“シフトシステム故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“P スイッチ故障 駐車時は パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム不作動 駐車時 パーキングブレーキ をかけ 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 取扱書確認”
・“シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
・“バッテリ充電不足 シフト切りかえできません 取扱書確認”

●次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、レクサス販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。
・“故障のためブレーキ力が低下”
・“シフトシステム故障”

**注意**

### ■“電力消費が大きいため一部の空調・ヒータ作動を制限中です” がひんぱんに表示されるときは

充電系の異常や補機バッテリーが劣化している可能性があります。レクサス販売店で点検を受けてください。

### ■“バッテリ充電不足” がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、レクサス販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

### ■“駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったことをお知らせしています。すみやかにレクサス販売店で点検を受けてください。

●駆動用電池の点検を受けないまま車を使用し続けると、EV システムを始動することができなくなります。

●万一、EV システムが始動できなくなったときは、ただちにレクサス販売店へご連絡ください。

## パンクしたときは

**タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤが搭載されていません。**

**タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。**

**タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、レクサス販売店にご相談ください。**

### 警告

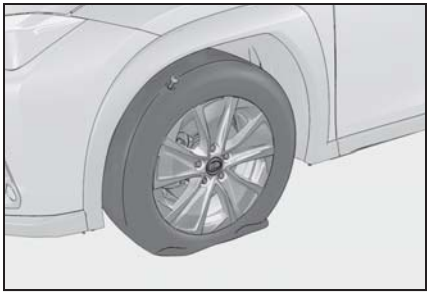
**■タイヤがパンクしたときは**

パンクしたまま走行しないでください。短い距離でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

### 応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- EV システムを停止する
- 非常点滅灯を点滅させる
- タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。



・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

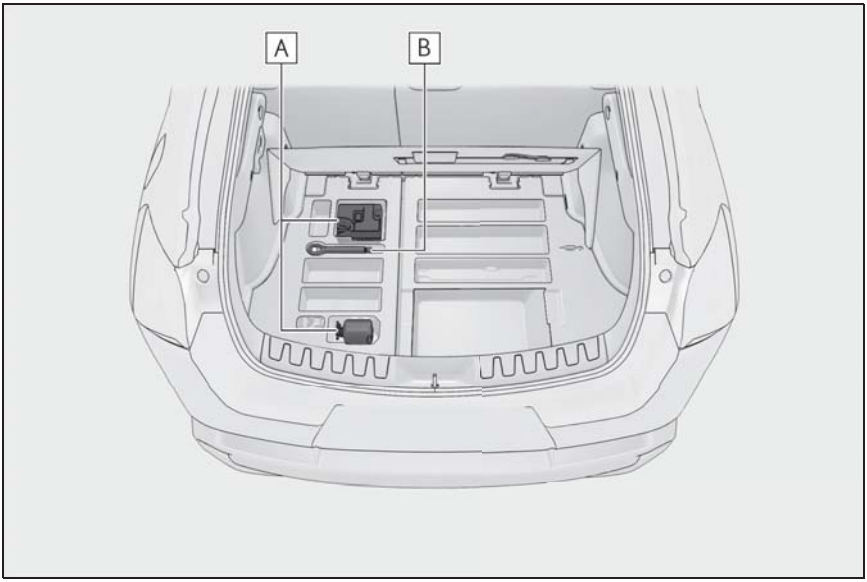
### 知識

**■応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

- タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
- タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
- タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
- タイヤに 4mm 以上の切り傷や刺し傷があるとき
- ホイールが破損しているとき
- 2 本以上のタイヤがパンクしているとき
- 1 本のタイヤに 2 箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

## タイヤパンク応急修理キット・工具の位置




A タイヤパンク応急修理キット

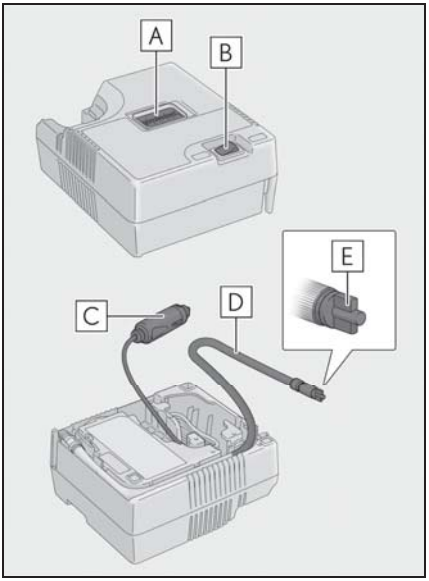
B けん引フック

## タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

■ ボトル

A 速度制限ラベル

■ コンプレッサー




A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル１本でタイヤ１本を１回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、レクサス販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が－30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、レクサス販売店にご相談ください。

■補修液を廃棄するときは

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、レクサス販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

**警告**

**■応急修理キットについて**

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。
急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。
パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

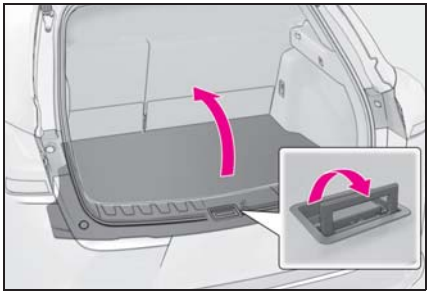
**■パンク補修液について**

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

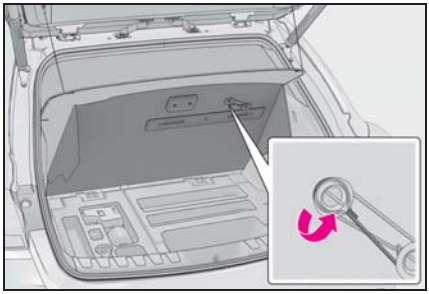
●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

## タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

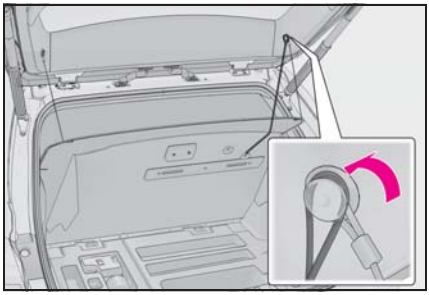
1 レバーを引き上げて、デッキボードを持ち上げる



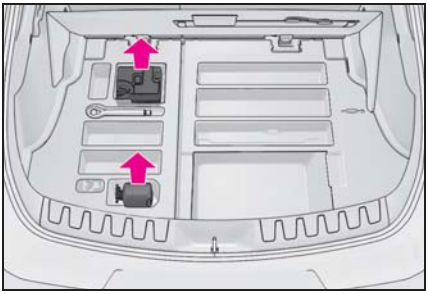
2 留めひもをはずす



3 留めひもをかける



**4** 応急修理キットを取り出す

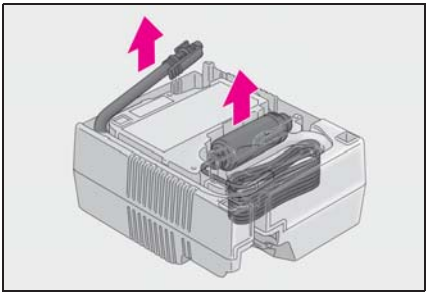


## 応急修理するときは

**1** 応急修理キットをビニール袋から取り出す

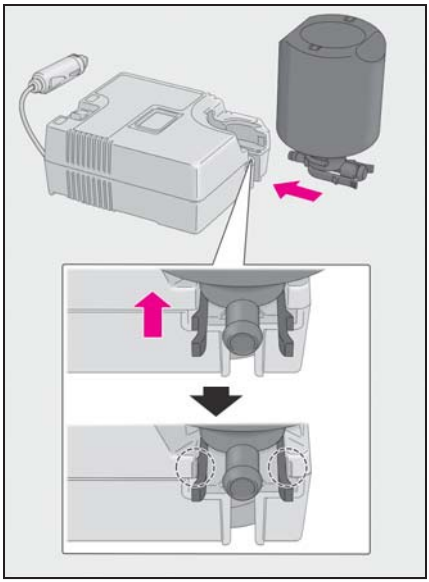
ボトルに同封されているラベルは指定の位置へ貼り付けます。（手順 **10** へ）

**2** コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す



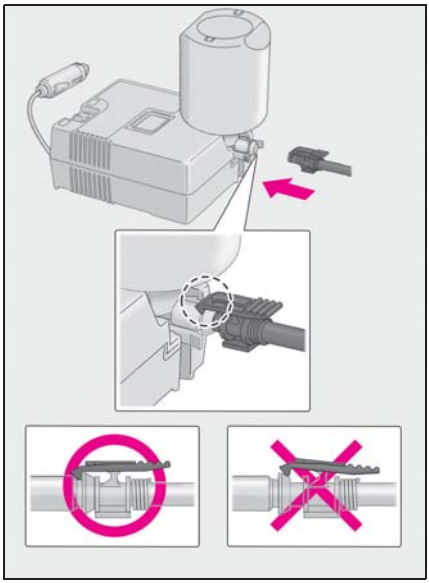
**3** ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

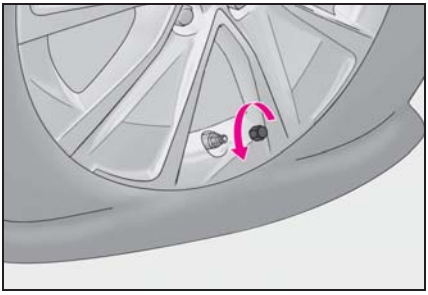


**4** ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

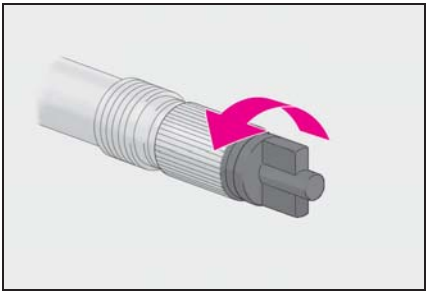


**5** パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす



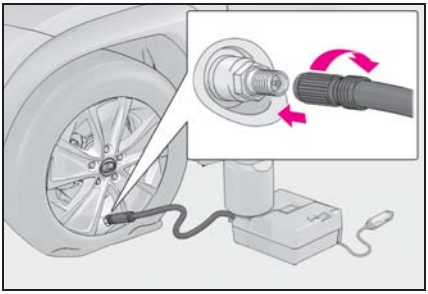
**6** ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

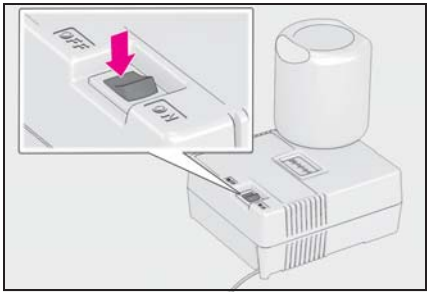


**7** ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

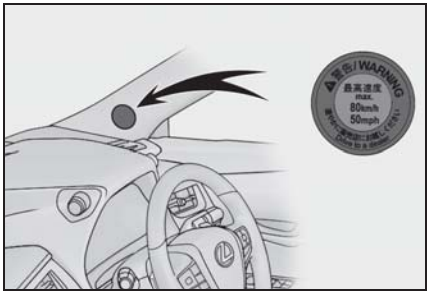


**8** コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する




**9** コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.346）

**10** 運転席から見やすい位置に、付属のラベルを貼り付ける

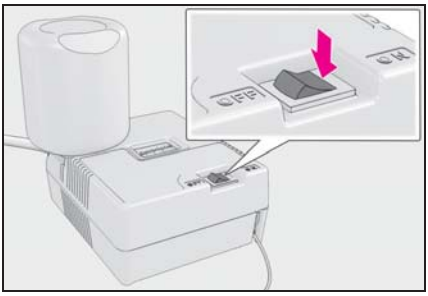



**11** タイヤの指定空気圧を確認する

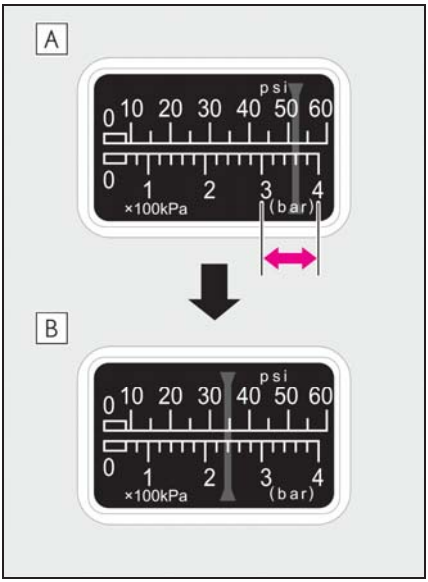
運転席側の空気圧ラベルで確認することができます。（→P.378）

**12** EV システムを始動する（→P.202）

**13** コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する



**14** 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する




**A** 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm$^2$）まで上昇し、徐々に減少します。

**B** スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。

空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、レクサス販売店にご連絡ください。
空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
（→P.378, 448）

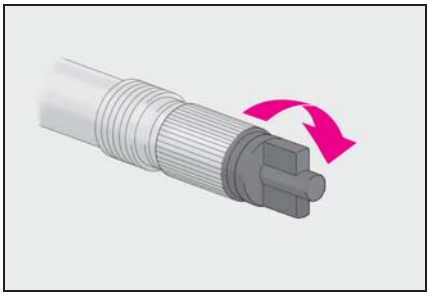
**15** コンプレッサーのスイッチが OFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

**16** バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

**17** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



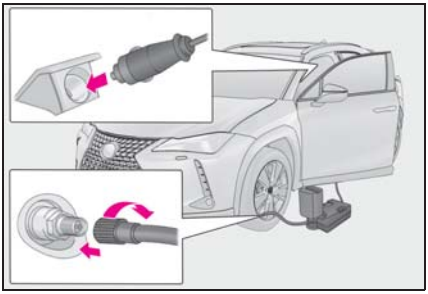
**18** いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

**19** タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約 5km、

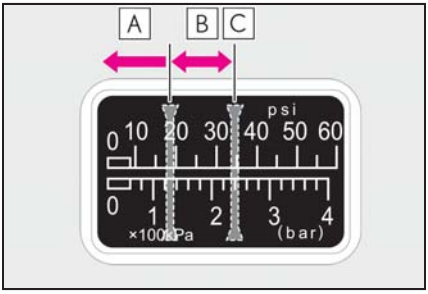
速度 80km/h 以下で安全に走行する

**20** 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください



**21** コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する




A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm$^2$）未満の場合：応急修理できません。レクサス販売店にご連絡ください。

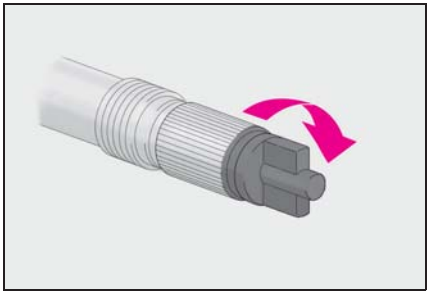
B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm$^2$）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **22** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.378）の場合：手順 **23** へ

**22** コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後にあらためて手順 **20** から実施する

**23** ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。



**24** ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルーム内に収納する

**25** 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、約 100km 以内、速度 80km/h 以以下でレクサス販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはレクサス売店にご相談ください。

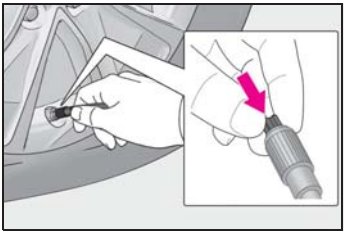
レクサス販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

**■空気を入れすぎてしまったとき**

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く



3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■応急（パンク）修理キットを使用したとき

●空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くレクサス販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。

●タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

**警告**

■パンクしたタイヤを応急修理するときは

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。
走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。
手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください。

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。
ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限ラベルは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

**警告**

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm$^2$）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

**注意**

**■応急修理をするときは**

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

**■応急修理キットについて**

●応急修理キットは DC12V 専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

## EV システムが始動できないときは

**EV システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものをご確認いただき、適切に対処してください。**

**対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。**

### 正しい EV システムの始動方法（→P.202）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 車両に充電ケーブルが接続している可能性があります。（→P.87）
- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。※（→P.436）
- 駆動用電池が電欠している可能性があります。駆動用電池を充電して下さい。（→P.82）
- イモビライザーシステム※に異常がある可能性があります。（→P.52）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.204, 422）
- ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、EV システムを一時的な処置で始動することができます。（→P.433）
- 駆動用電池の温度が極端に低い（およそ -30 ℃以下）可能性があります（→P.62, 203）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

### 室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.438）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。

### 室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.438）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても EV システムが始動できないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

### 緊急時の始動について

通常の EV システム始動操作で EV システムが始動しないときは、次の手順で EV システムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させ

ないでください。

1 パーキングブレーキをかける
2 パワースイッチを ACC にする
3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で EV システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにレクサス販売店で点検を受けてください。

## キーをなくしたときは

**キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、レクサス販売店でレクサス純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。**

**キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。**

注意

**■電子キーを紛失したとき**

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。車両に付属している残りの電子キーとカードキーをすべてお持ちのうえ、ただちにレクサス販売店にご相談ください。

# 充電リッドが開かないときは

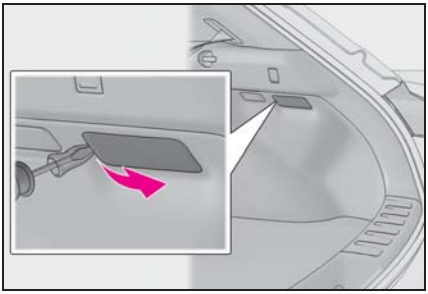
**充電リッドが通常の手順で開かないときは、次の手順で充電リッドを開けることができます。**

## 充電リッドを開けるには

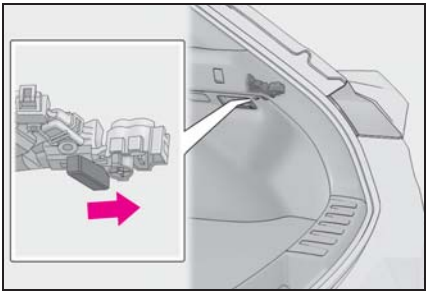
### ■ 普通充電リッド

1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



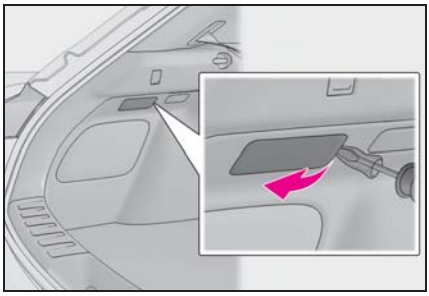
2 レバー（白）を引く



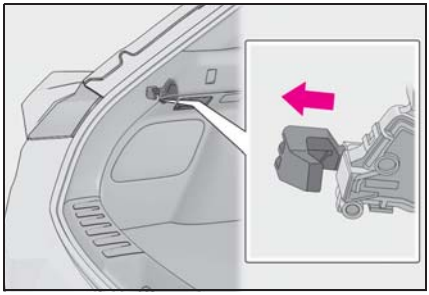
### ■ 急速充電リッド

1 ラゲージルーム内のカバーをマイナスドライバーを使って取りはずす

カバーを取りはずすときは、傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。



2 レバー（黒）を引く



## 電子キーが正常に働かないときは

**電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.174）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアを開けたり、EV システムを始動したりすることができます。**

知識

**■電子キーが正常に働かないときは**

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.174）

注意

**■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき**

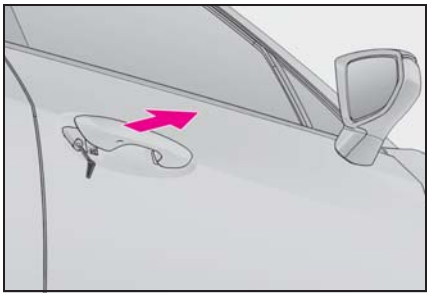
車両に付属しているすべての電子キー（カードキーを含む）をお持ちください。

## ドアを施錠・解錠するには

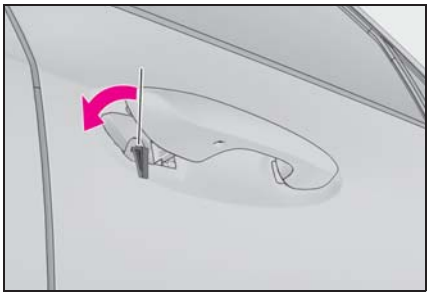
### ■ ドアの解錠

メカニカルキー（→P.154）を使って次の操作ができます。（運転席ドアのみ）

1 運転席側のドアハンドルを引いたまま、メカニカルキーを挿し込む



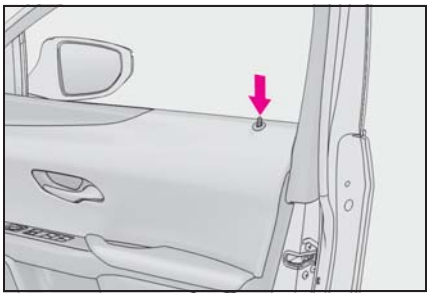
2 キーを回してドアを解錠する



3 メカニカルキーを抜いてドアハンドルをもとにもどしたあと、再度ドアハンドルを引く

### ■ ドアの施錠

1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる



▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

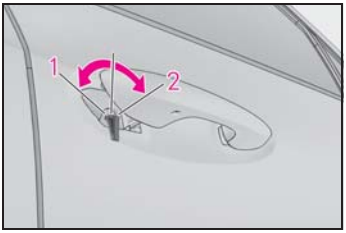
▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

知識

■キーと連動する機能について

カスタマイズの設定変更により、キーと連動してドアガラスとムーンルーフ★の開閉ができます。




1 ドアガラスとムーンルーフ★が開く（まわし続ける）

2 ドアガラスとムーンルーフ★が閉まる（まわし続ける）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■メカニカルキーを使ってドアガラスやムーンルーフ★を操作するとき

ドアガラスやムーンルーフに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスやムーンルーフに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

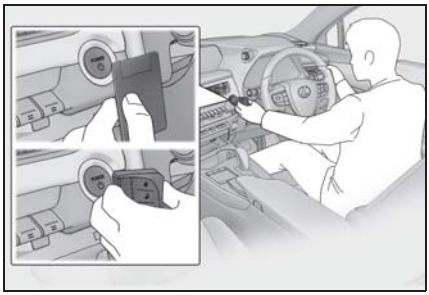
## EV システムを始動するには

1 ブレーキペダルを踏む

2 電子キーのレクサスエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。



3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する。

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、レクサス販売店にご連絡ください。

知識

■EV システムの停止のしかた

通常の EV システム停止のしかたと同様に、シフトポジションを P にし、パーキングブレーキをかけて、パワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明している EV システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.393）

■オートアラームについて

メカニカルキーで施錠した場合、オート

アラームが設定されません。

■パワースイッチのモードの切りかえ

EV システム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、EV システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.205）

## 補機バッテリーがあがったときは

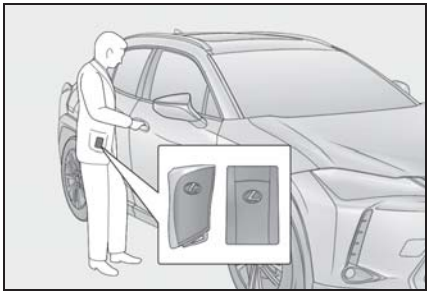
**補機バッテリーがあがった場合、次の手順で EV システムを始動することができます。**

### EV システムを再始動するには

ブースターケーブルと 12 V のバッテリー付き救援車があれば、手順に従って、EV システムを始動させることができます。

**1** 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.54）

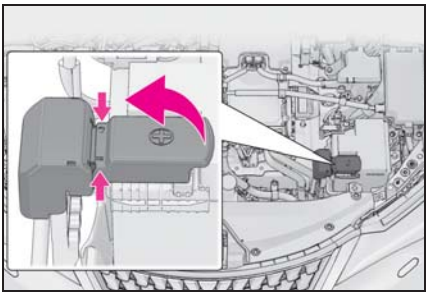


**2** ボンネットを開ける（→P.375）

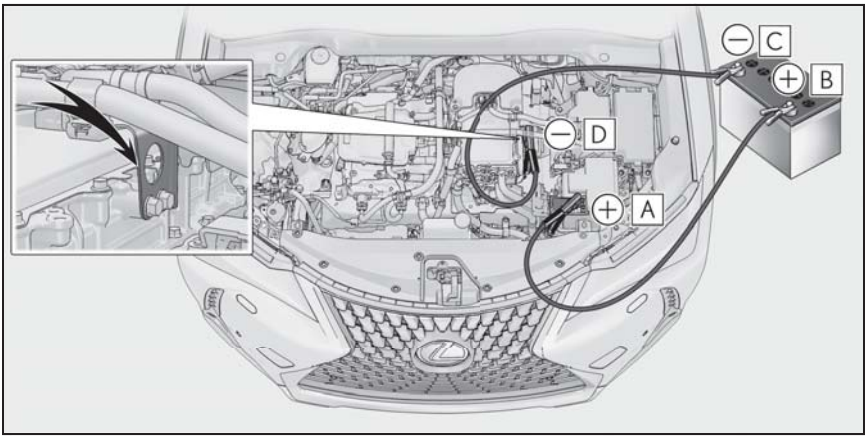
**3** バッテリーの＋端子のカバーを開ける

図のように、側面を押しながら、カバー

を開けます



4 赤色のブースターケーブルを自車の＋端子A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子C につなぎ、もう一方の端を未塗装の金属部D につなぐ




A バッテリーの＋端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから EV システムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はレクサス販売店にご連絡ください。

9 EV システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

EV システムが始動しても、早めにレクサス販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●EV システムが停止しているときは、ランプ、エアコンやオーディオなどの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長時間放置すると、補機バッテリーがあがって EV システムが始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは EV システムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時などは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはレクサス販売店で点検を受けてください。また、補機バッテリー端子をはずすときは、レクサス販売店にご相談ください。

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合は、ワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の EV システム始動は失敗することがあります。2 回目以降の EV システム始動は正常に動作しますので、問題ではありません。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に車両は復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーあがり前のパワースイッチの状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。その場合は、前輪が固定されているため、前輪を持ち上げないと車両の移動ができません。（→P.408）

●パワーバックドアシステムの初期化を行ってください。（→P.167）

■補機バッテリーを交換するときは

●欧州規格バッテリーを使用してください。

●交換前と同一のケースサイズ（LN0）、20 時間率容量（20HR）が同等（35Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（240A）以上の補機バッテリーを使用してください。

・ケースサイズが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。

・補機バッテリーの早期劣化や、最悪の場合には EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない期間が短い期間であっても

補機バッテリーがあがって、EV システムの始動ができなくなるおそれがあります。

詳しくは、レクサス販売店にご相談ください。

**警告**

**■補機バッテリー端子をはずすときは**

必ず－端子を先にはずしてください。＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがあるほか、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

**■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために**

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

- ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない
- ＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない
- ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない
- 補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

**■補機バッテリーの取り扱いについて**

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

- 補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする
- 必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない
- 誤ってバッテリー液（酸）が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液（酸）を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

**■補機バッテリーを交換するときは**

- 液栓がステーに近いと、バッテリー液（酸）がもれだすおそれがあります。
- バッテリーの交換については、レクサス販売店にご相談ください。

**注意**

**■ブースターケーブルの取り扱いについて**

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

## オーバーヒートしたときは

**マルチインフォメーションディスプレイに “EV システム高温 出力制限中です ” が表示される場合は、オーバーヒートの可能性があります。**

### 対処方法

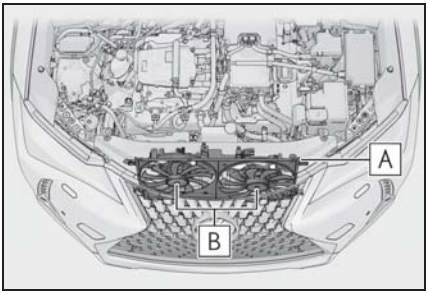
1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にする

2 EV システムが作動している状態で、ボンネットを開ける

3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているかを確認する
ファンが作動している場合：
“EV システム高温 出力制限中です ” 表示が消えるまで待ち、EV システムを停止する
ファンが作動していない場合：
すぐに EV システムを停止し、レクサス販売店に連絡する

4 EV システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

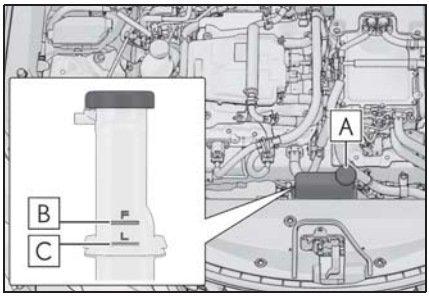
多量の冷却水もれがある場合は、ただちにレクサス販売店に連絡してください。




A ラジエーター

B ファン

5 冷却水の量がリザーバータンクの “F” （上限）と “L” （下限）のあいだにあるかを点検する



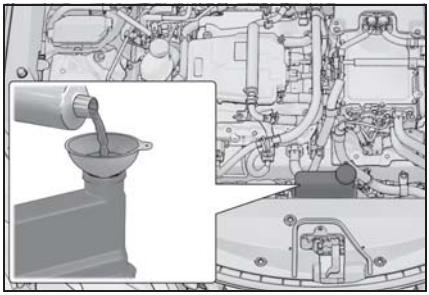

A リザーバータンク

B “F” （上限）

C “L” （下限）

6 冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。



できるだけ早く最寄りのレクサス販売店で点検を受けてください。

**警告**

**■モータールームを点検しているとき**

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- モータールームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。モータールーム内が高温になっています。
- 手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）をファンやベルトから離してください。手や着衣が巻き込まれ、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- EV システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップを開けないでください。高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

**注意**

**■冷却水を入れるとき**

EV システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
EV システムが熱いときに急に冷たい冷却水を入れると、EV システムが損傷するおそれがあります。

**■冷却系統の故障を防ぐために**

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- 市販の冷却水添加剤を使用しない

## スタックしたときは

**ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法で脱出してください。**

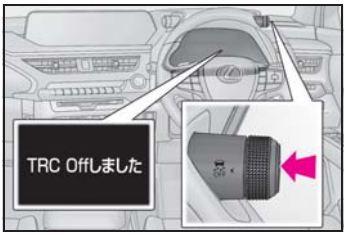
### 脱出するには

1. パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして EV システムを停止する
2. 前輪周辺の土や雪を取り除く
3. 前輪の下に木や石などをあてがう
4. EV システムを再始動する
5. シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

**知識**

**■脱出しにくいとき**

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。



**警告**

**■脱出するときは**

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車、ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

**■シフトレバーを操作するときは**

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進するおそれや、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

**注意**

**■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために**

- タイヤが空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

# 車両情報 9


## 9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ..... 446

## 9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能..... 449

## 9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 461

# メンテナンスデータ

**使用するオイルや液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。お車には、最も適した弊社純正オイル・液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。**

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

## ラジエーター（パワーコントロールユニット）

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| 弊社純正スーパーロングライフクーラント<br>凍結保証温度<br>濃度 30%　－ 12 ℃<br>濃度 50%　－ 35 ℃ | 2.5 |

## ヒーターシステム

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| 弊社純正スーパーロングライフクーラント<br>凍結保証温度<br>濃度 30%　－ 12 ℃<br>濃度 50%　－ 35 ℃ | 1.4 |

## トランスミッション

| 指定銘柄 | 容量 [L]（参考値） |
|---|---|
| 弊社純正オートフルード　WS※ | 4.3 |

※ 交換が必要な際はレクサス販売店にご相談ください。

注意

**■トランスミッションフルードについて**

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

## ブレーキ

### ■ ブレーキフルード

| 指定銘柄 |
|---|
| 弊社純正ブレーキフルード 2500H-A |

### ■ ブレーキペダル ※1

| 項目 | 基準値 [mm] |
|---|---|
| 遊び | 1 ～ 6 |
| 踏み込んだときの床板とのすき間 ※2 | 109 |

※1ブレーキペダルの点検に併せて、EV システムが作動している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。（警告灯が点灯した場合の対処については、P.412 を参照してください）

※2EV システムが作動している状態で、300N（31kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

### ■ パーキングブレーキ

| 項目 | パーキングブレーキ表示灯の状態 |
|---|---|
| パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で押したとき | 点灯 |
| パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 4 秒以内で引いたとき | 消灯 |

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.413 を参照してください）

## ウォッシャータンク

| 容量 [L]（参考値） |
|---|
| 4.8 |

## タイヤ・ホイール

| タイヤサイズ | ホイールサイズ | タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm$^2$） | |
|---|---|---|---|
| | | 前輪 | 後輪 |
| 215/60R17 96H | 17 × 6 1/2 J | 250（2.5） | |
| 225/50R18 95V | 18 × 7 J | 230（2.3） | |

## 電球（バルブ）※

| 電球 | | W（ワット）数 |
|---|---|---|
| 車外 | フロント方向指示灯／非常点滅灯（単眼ヘッドランプ装着車） | 21 |
| 車内 | バニティランプ | 8 |

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

## 車両仕様

| 名称 | 型式 | 電動機型式 | 駆動方式 |
|---|---|---|---|
| UX300e | KMA10 | 4KM | FF（前輪駆動） |

## ユーザーカスタマイズ機能

**お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてレクサス販売店で作動内容を変更することができます。また、センターディスプレイ・マルチインフォメーションディスプレイの操作により、設定を変更することができる機能もあります。**

G-Link サービスご契約のお客様は、G- カスタマイズ機能（レクサスオーナーズサイトのご利用またはレクサス販売店へのご依頼）により、遠隔で設定変更ができます。

遠隔での設定変更が可能な項目に関してはレクサスオーナーズサイトでご確認ください。

### 設定を変更するには

#### ■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して変更する項目を選択し、“OK” を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して設定したい項目を選択し、“OK” を押す

前の画面にもどったり、設定を終了したりする場合は、↩ スイッチを押します。

#### ■ センターディスプレイで設定するには

1 リモートタッチの “MENU” ボタンを押し、“設定・編集” を選択する

2 “設定・編集” 画面の “車両” を選択する

3 “車両カスタマイズ” を選択する

4 設定を変更したいカテゴリーを選択する

5 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

6 機能の作動内容を選択する

作動・非作動を変更できる機能では、“する”（作動）・“しない”（非作動）を選択します。

音量やセンサーの感度などを変更できる機能では、“+” または “－” を選択してレベルを調整します。

リモートタッチについて詳しくは、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をご覧ください。

知識

#### ■ センターディスプレイでカスタマイズ設定を行うとき

安全な場所に停車し、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。また、補機バッテリーあがりを防ぐため、EV システムが作動している状態で操作を行ってください。

注意

**■ カスタマイズを行うときは**

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に EV システムが作動している状態で実施してください。

## 車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはレクサス販売店へお問い合わせください。

A センターディスプレイの画面操作で設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C レクサス販売店で設定変更可能

### ■ EV システム（→P.76、85、93）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 充電電流 | MAX | 16A | — | ○ | — |
| | | 8A | | | |
| 充電量上限 | Full | 90% | — | ○ | — |
| コネクターロック | オートロック | OFF | — | ○ | — |
| | | オートロック＆アンロック | | | |
| 電池冷却 | あり | なし | — | ○ | — |

### ■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.139, 141）

| 機能の内容 ※1 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 言語 | 日本語 | 英語 | — | ○ | — |
| 単位 | km/kWh | kWh/100km | — | ○ | — |
| 車速表示 | デジタル | アナログ | — | ○ | — |
| ドライブインフォ 1 | 瞬間電費 | ※2 | — | ○ | — |
| | リセット間平均電費 | | | | |
| ドライブインフォ 2 | 航続可能距離 | ※2 | — | ○ | — |
| | リセット間平均車速 | | | | |
| 時計 | 12 時間表示 | 24 時間表示 | — | ○ | — |
| 割り込み表示 | あり | なし | — | ○ | — |
| テーマカラー | カラー 1 | カラー 2 | ○ | ○ | — |

| 機能の内容 ※1 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 提案サービス | あり | あり（停車中のみ） | ○ | — | ○ |
| | | なし | | | |
| リヤシートリマインダー | あり | なし | — | ○ | — |

※1 機能についての詳しい説明は P.144 を参照してください

※2 瞬間電費、リセット間平均電費、リセット間平均車速、始動後平均車速、リセット間走行時間、始動後走行時間、航続可能距離、始動後走行距離、ブランクから 2 項目を選択

## ■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.146）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| EV システム | EV システムインジケーター | 表示なし | — | ○ | — |
| ナビゲーション | あり | なし | — | ○ | — |
| レーン | あり | なし | — | ○ | — |
| 運転支援 | あり | なし | — | ○ | — |
| オーディオ | あり | なし | — | ○ | — |
| 傾き調整 | 水平位置 | 反時計回り / 時計回り方向へ回転 | — | ○ | — |

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ドアロック（→P.156, 436）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキーによる解錠 | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | — | — | ○ |
| 車速感応オートドアロック | あり | なし | ○ | — | ○ |
| シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック） | なし | あり | ○ | — | ○ |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック） | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック） | なし | あり | ○ | — | ○ |

## ■ パワーバックドア★（→P.163）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| パワーバックドア開度調節 | 開度 5 | 開度 1 ～ 4 | ○ | — | — |
| パワーバックドア機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| ブザー音量 | レベル 3 | レベル 1 | — | ○ | — |
| | | レベル 2 | | | |
| 作動ブザー | なし | あり | — | — | ○ |
| ハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）機能 | あり | なし | — | ○ | ○ |
| パワースイッチが ACC のときのハンズフリーパワーバックドアセンサー（キックセンサー）作動 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.154, 173）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 作動の合図（ブザー音量調整） | レベル 5 | OFF | ○ | — | ○ |
| | | レベル 1 ～ 7 | | | |
| 作動の合図（非常点滅灯） | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間 | 30 秒 | 60 秒 | — | — | ○ |
| | | 120 秒 | | | |
| 半ドア警告ブザー | あり | なし | — | — | ○ |

## ■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.173）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| スマートエントリー＆スタートシステム | あり | なし | ○ | — | ○ |
| 解錠されるドアの選択 | 全席解錠 | 運転席のみ解錠 | ○ | — | ○ |
| 全席解錠までのドアハンドル保持時間 | 2.0 秒 | 非作動 | — | — | ○ |
| | | 1.5 秒 | | | |
| | | 2.5 秒 | | | |
| 連続ロック操作の有効回数 | 2 回 | 無制限 | — | — | ○ |

## ■ ワイヤレスドアロック（→P.154）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ワイヤレス機能 | あり | なし | — | — | ○ |
| 解錠時の操作 | 1 回で全ドア解錠 | 1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠 | ○ | — | ○ |
| ドアが施錠されている状態で を操作したときのドアロック解錠作動（パワーバックドア装着車）（→P.163） | なし | あり（全ドア解錠） | — | — | ○ |
| | | あり（バックドアのみ解錠） | | | |

## ■ ハンドル（→P.182）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| オートアウェイ＆オートリターン機構 | チルトのみ | テレスコピックのみ | ○ | — | ○ |
| | | チルト＆テレスコピック | | | |
| | | なし | | | |

## ■ ドアミラー（→P.184）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| オート電動格納作動 | ドアの施錠・解錠と連動 | OFF | — | — | ○ |
| | | パワースイッチと連動 | | | |

## ■ パワーウインドウ、ムーンルーフ★共通（→P.186, 189）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| メカニカルキー連動開閉機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開閉機能 | なし | あり | — | — | ○ |
| ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー） | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.218）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ライトセンサーの感度調整 | -2 | -1 ～ 2 | ○ | — | ○ |
| ランプを点灯するまでの時間 | 標準 | 長め | — | — | ○ |
| ランプ消し忘れ防止機能 | パワースイッチを OFF にして運転席ドアを開ける | パワースイッチを OFF にする | — | — | ○ |
| ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能 | あり | なし | — | — | ○ |

## ■ ランプ（→P.218）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| LED デイライト | あり | なし | — | — | ○ |
| おもてなし照明の制御 | あり | なし | — | — | ○ |

## ■ リヤワイパー（→P.232）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| バックドアを開けたときのリヤワイパー停止 | なし | あり | — | — | ○ |
| ウォッシャー液を出したときのリヤワイパー作動 | あり | なし | — | — | ○ |
| シフトレバーを R にしたときのリヤワイパー作動 | 1 回作動 | なし<br>連続作動 | — | — | ○ |

## ■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→P.221）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| アダプティブハイビームシステム | あり | なし※ | — | — | ○ |
| 前方車両と遮光ハイビームとの間隔 | 広い | 狭い | — | — | ○ |
| | | 普通 | | | |
| 車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整 | 約 15km/h から作動 | 約 30km/h から作動 | — | — | ○ |
| | | 約 80km/h から作動 | | | |
| カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす | あり | なし | — | — | ○ |
| 先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整 | あり | なし | — | — | ○ |
| 発進時のコーナーリングランプ点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 雨天時用のハイビーム配光制御 | あり | なし | — | — | ○ |
| 市街地用の配光制御 | あり | なし | — | — | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ AHB（オートマチックハイビーム）として作動します。P.225）

## ■ PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.238）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| プリクラッシュセーフティ機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| 警報タイミング | 中間 | 遅い | — | ○ | — |
| | | 早い | | | |

## ■ LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.245）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ふらつき警報機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| ふらつき警報機能の感度 | 普通 | 高 | — | ○ | — |
| | | 低 | | | |
| 車線維持支援機能（センタートレース） | あり | なし | — | ○ | — |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 操舵支援機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| 警報手段 | ハンドルの振動 | 警報ブザー | — | ○ | — |
| 警報感度 | 高 | 普通 | — | ○ | — |

## ■ RSA（ロードサインアシスト）（→P.254）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| RSA（ロードサインアシスト）機能 | あり | なし | — | ○ | — |
| 制限速度超過告知 | なし | 告知表示のみ | — | ○ | — |
| | | 告知表示とブザー | | | |
| 制限速度超過の告知車速 | 2km/h | 10km/h | — | ○ | — |
| | | 5km/h | | | |
| 追い越し禁止告知 | 告知表示のみ | なし | — | ○ | — |
| | | 告知表示とハンドルの振動 | | | |
| その他の告知（進入禁止告知） | 告知表示のみ | なし | — | ○ | — |
| | | 告知表示とブザー | | | |

## ■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.257）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 通信利用型レーダークルーズコントロール機能★ | あり | なし | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ 先行車発進告知機能（→P.267）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 先行車発進告知 | あり | なし | — | ○ | — |
| 告知タイミング | 普通 | 早い | — | ○ | — |
| | | 遅い | | | |

## ■ ITS Connect★（→P.269）

| 機能の内容※ | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 信号情報の表示 | あり | なし | — | ○ | — |
| 道路環境情報の表示 | あり | なし | — | ○ | — |
| 緊急車両存在通知 | あり | なし | — | ○ | — |
| 支援タイミング | 早い | 遅い | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 機能についての詳しい説明は P.276 を参照してください

## ■ ドライブスタートコントロール（→P.194）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 後退速度抑制 | あり | なし※ | — | ○ | — |

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

## ■ BSM（ブラインドスポットモニター）★（→P.277）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ドアミラーインジケーターの明るさ | 明るい | 暗い | — | ○ | — |
| 接近車両を知らせるタイミング（感度） | 普通 | 早い | — | ○ | — |
| | | 遅い | | | |
| | | 死角領域の車両のみ検知 | | | |
| ブラインドスポットモニター機能 | あり | なし | — | ○ | — |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ クリアランスソナー（→P.282）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| クリアランスソナー機能 | あり | なし | — | ○ | ○ |

## ■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★（→P.290）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能 | あり | なし | — | ○ | ○ |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## ■ PKSA（パーキングサポートアラート）（→P.281）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ブザー音量 | レベル 2 | レベル 1 | — | ○ | ○ |
| | | レベル 3 | | | |

## ■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.294）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能 | あり | なし | — | ○ | ○ |

## ■ エアコン（→P.319）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる | する | しない | ○ | — | ○ |
| AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる | する | しない | ○ | — | ○ |

## ■ リモートエアコンシステム（→P.328）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 作動開始時のリモコンスイッチの操作 | 1 回<br>押し続ける（約 0.8 秒） | 1 回押し | — | — | ○ |
| | | 2 回押し | | | |
| | | 1 回<br>押し続ける（約 2.4 秒） | | | |
| | | 非作動 | | | |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 作動停止時のリモコンスイッチの操作 | 2 回押し | 1 回押し | — | — | ○ |
| | | 1 回押し続ける（約 0.8 秒） | | | |
| | | 1 回押し続ける（約 2.4 秒） | | | |
| | | 非作動 | | | |

## ■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.330）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 | 標準 | -2（涼しめ）～ +2（暖かめ） | ○ | — | ○ |
| 助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整 | 標準 | -2（涼しめ）～ +2（暖かめ） | ○ | — | ○ |

## ■ ステアリングヒーター（→P.330）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整 | 標準 | -2（低め）～ +2（高め） | ○ | — | ○ |

## ■ イルミネーション（→P.334）

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| 室内灯の消灯までの時間 | 15 秒 | OFF | ○ | — | ○ |
| | | 7.5 秒 | | | |
| | | 30 秒 | | | |
| パワースイッチ OFF 後の照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 解錠時の照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 接近時の照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| インテリアランプ、車室内足元照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |

| 機能の内容 | 初期設定 | 変更後 | A | B | C |
|---|---|---|---|---|---|
| アウトサイドドアハンドル照明の消灯までの時間 | 15 秒 | OFF | ○ | — | ○ |
| | | 7.5 秒 | | | |
| | | 30 秒 | | | |
| アウトサイドドアハンドル照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 接近時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| 解錠時のアウトサイドドアハンドル照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| ドアを開けたときのアウトサイドドアハンドル照明の点灯 | あり | なし | — | — | ○ |
| アウトサイドドアハンドル照明の消灯時のフェードアウト | 長い | 短い | — | — | ○ |

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
・シフトポジションを P 以外にすると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

●センターディスプレイ以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチを OFF にし、再度パワースイッチを ON にするまでセンターディスプレイには反映されません。

■時計の設定について

時計の設定を変更するときに時刻調整画面が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。レクサス販売店で点検を受けてください。

# 初期設定が必要な項目

**次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。**

## 設定が必要な項目

| 項目 | 初期設定が必要なとき | 参照先 |
|---|---|---|
| クリアランスソナー | ・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 | P.285 |
| PKSB（パーキングサポートブレーキ） | ・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時 | P.298 |
| タイヤ空気圧警報システム | ・タイヤローテーションを実施したとき<br>・タイヤサイズの変更などにより、タイヤの指定空気圧が変更になったとき（指定空気圧が複数ある場合）<br>・ID コードの登録を実施したとき | P.382 |
| バックガイドモニター★ | ・補機バッテリーの脱着中にハンドル操作を行ったとき<br>・補機バッテリーの電圧が低下したとき<br>・補機バッテリーを着脱したとき | 別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」 |
| パノラミックビューモニター★ | | |
| パワーバックドア★ | ・補機バッテリーの充電・交換後の再接続時<br>・ヒューズ交換時 | P.167 |
| パワーウインドウ | ・正常に働かないとき | P.186 |
| ムーンルーフ★ | | P.190 |

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

# さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
…… 464
車から音が鳴ったときは（音さくいん）…… 466
アルファベット順さくいん …. 469
五十音順さくいん …… 470

# こんなときは（症状別さくいん）

**お困りの際は、レクサス販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。**

## 施錠／解錠／ドアの開閉ができない

**キーをなくした**

- メカニカルキーをなくした場合、レクサス販売店でレクサス純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.434）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにレクサス販売店にご相談ください。（→P.434）

**施錠・解錠できない**

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.393）
- パワースイッチが ON になっていませんか？
  施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。
  （→P.205）
- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？
  施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。
- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。
  （→P.174）

**リヤドアが開かない**

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？
  チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。
  いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.159）

## 故障かな？と思ったら

**EV システムが始動できない**

- 充電ケーブルが接続されていませんか？（→P.87）
- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.202）
- シフトポジションは P になっていますか？（→202）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.173）
- ステアリングロックされていませんか？（→P.203）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？
  このときは、一時的な方法で EV システムを始動することができます。（→P.437）
- 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.438）

### EV システムを停止したあとにハンドルがまわせなくなった

● 盗難防止のため、自動的にロックされます。（→P.203）

### パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？
ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.188）

### パワースイッチが自動的に OFF になった

● 一定時間 ACC または ON（EV システムが作動していない状態）にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.205）

### 警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.466）をご確認ください。

### 警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.412, 419 をご確認ください。

## トラブルが発生した

### タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.423）

### 立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.443）

# 車から音が鳴ったときは（音さくいん）

**次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。**

## 車に乗るとき／降りるとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 解錠したとき | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※ | P.53 |
| ドアを開閉したとき | シフトポジションが P 以外になっている | P.419 |
| | 窓・ムーンルーフ★が開いている（EV システム停止中のみ） | P.187，190 |
| | 盗難防止装置（オートアラーム）が作動した ※ | P.53 |
| EV システムを停止したとき | 電子キーの電池残量が少なくなっている | P.152 |
| 施錠しようとしたとき（施錠できないとき） | いずれかのドアが確実に閉まっていない | P.173 |
| | 電子キーを車内に置き忘れている | P.419 |

※ ドアを解錠する、またはパワースイッチを ACC または ON にするか、EV システムを始動すると、警報を解除することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

## 走行しているとき

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 走り出したとき | いずれかのドア・バックドア・ボンネットが確実に閉まっていない | P.159 |
| | パーキングブレーキが解除されていない | P.214 |
| | シートベルトを着用していない ※ | P.415 |
| ブレーキペダルを踏んだとき（きしみやひっかき音） | ブレーキパッドが摩耗しているおそれがある | P.197 |
| 先行車に接近したとき | レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用している | P.262 |
| 前方の障害物と衝突しそうになったとき | PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した | P.238 |
| 車線から逸脱しそうになったとき | LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している | P.248 |
| 制限速度より一定の速度を超過したとき | RSA（ロードサインアシスト）が作動した | P.255 |
| はみ出し通行禁止の道路で追い越しをかけたとき | | |

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 障害物との距離が近付いたとき | クリアランスソナーが作動した | P.282 |
| 後退時に左右からの車を検知したとき | RCTA（リヤクロストラフィックアラート）★が作動した | P.291 |

| 状況 | 原因 | 詳細 |
|---|---|---|
| 対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき | ITS Connect★が作動した | P.271 |
| 左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき | | |
| 赤信号の交差点に進入しそうになったとき | | |
| 緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき | | |
| 一時停止の交差点に停止せず進入しそうになったとき | | |
| 見通しの悪いカーブの先などで先行車両が停止または低速で走行しているとき | | |
| 見通しが悪い交差点のわき道に車両がいるとき | | |

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、

装備の有無があります。

# アルファベット順さくいん

**A/C**
（エアコン）..... 319
**ABS**
（アンチロックブレーキシステム）
..... 303
**ACA**
（アクティブコーナリングアシスト）
..... 304
**AHS**
（アダプティブハイビームシステム）
..... 221
**ASC**
（アクティブサウンドコントロール）
..... 217
**BSM**
（ブラインドスポットモニター）277
**ECB**
（エレクトロニカリーコントロール
ドブレーキシステム）..... 303
**EDR**
（イベントデータレコーダー）..... 7
**EPS**
（エレクトリックパワーステアリン
グ）..... 304
**EV**
（エレクトリックビークル）..... 58
**HUD**
（ヘッドアップディスプレイ）.. 146
**ISOFIX**
（アイソフィックス／イソフィック
ス）..... 38
**ITS Connect..... 269**
通信利用型レーダークルーズコント
ロール..... 263
**LED**
（ライトエミッティングダイオード）
..... 398
**LED デイライト..... 219**
**Lexus Safety System +**
AHB（オートマチックハイビーム）
.....225
AHS（アダプティブハイビームシス
テム）.....221
LTA（レーントレーシングアシス
ト）.....245
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....238
RSA（ロードサインアシスト）.254
先行車発進告知機能.....267
レーダークルーズコントロール（全
車速追従付き）.....257
**LTA**
（レーントレーシングアシスト）245
**PCS**
（プリクラッシュセーフティ）..238
**PKSA .....281**
RCTA （リヤクロストラフィックア
ラート）.....290
クリアランスソナー.....282
**PKSB .....294**
警告メッセージ .....298
操作 .....295
**RCTA**
（リヤクロストラフィックアラート）
.....290
警告メッセージ .....291
**SRS**
（サプリメンタルレストレイントシ
ステム）.....30
**S-VSC**
（ステアリングアシステッドビーク
ルスタビリティコントロール）.303
**TRC**
（トラクションコントロール）..304
**VSC**
（ビークルスタビリティコントロー
ル）.....303

# 五十音順さくいん

## あ


アースポイント（バッテリーあがりの処置）..... 438
アームレスト..... 351
RSA ( ロードサインアシスト ) ..... 254
ITS Connect..... 269
アウターミラー（ドアミラー）
BSM（ブラインドスポットモニター）277
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 290
格納のしかた ..... 185
操作..... 184
ミラーヒーター ..... 320
リバース連動機能 ..... 185
アウトサイドドアハンドル照明 ..... 334
アクセサリーコンセント ..... 353
アクセサリーソケット ..... 346
アクティブコーナリングアシスト（ACA）..... 304
アクティブサウンドコントロール（ASC）..... 217
アシストグリップ..... 352
足元照明 ..... 334
アダプティブハイビームシステム... 221
アラーム
オートアラーム ..... 53
音さくいん ..... 466
警告ブザー ..... 412, 419
アンチロックブレーキシステム（ABS）..... 303
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）..... 173


## い


イージークローザー（バックドア）. 166
EV システム..... 58
EV システムインジケーター .... 140, 150
イモビライザーシステム .....52
運転のアドバイス .....65
オーバーヒート .....442
回生ブレーキ.....59
急速充電のしかた .....97
緊急始動機能.....433
緊急時の停止方法 .....404
緊急停止システム .....64
高電圧部位.....61
サービスプラグ.....61
事故が発生したとき .....63
始動できないときは .....433
始動方法.....202
車両接近通報装置 .....60
注意 .....61
電気モーター.....58
電欠になったとき .....64
特徴 .....58
特有の音と振動 .....59
ドライブスタートコントロール.....194
パワー（イグニッション）スイッチ...202
普通充電のしかた .....90
ブレーキオーバーライドシステム.....195
補機バッテリーがあがった .....438
ボンネット.....375
メンテナンス・修理・廃車するとき.....60
EV システムインジケーター ..140, 150
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....202
EV システムの始動のしかた.....202
自動電源 OFF 機能.....205
車両を緊急停止するには .....404
モード切りかえ .....205
位置交換（タイヤローテーション）..380
イベントデータレコーダー（EDR）.....7
イモビライザーシステム.....52
イルミネーテッドエントリーシステム .....334

インジケーター（表示灯）..... 137
EV システムインジケーター .... 140, 150
エラーインジケーター..... 73
充電インジケーター（普通充電ケーブル）
..... 73
電源インジケーター..... 73
表示灯 ..... 137
普通充電インジケーター（普通充電ポート）..... 70
普通充電ケーブル ..... 73
READY ..... 202
インストルメントパネル照度調整スイッチ ..... 141
インテリアランプ..... 334
インナーミラー..... 183

## う

ウインカー（方向指示灯）..... 211
電球（バルブ）の交換..... 398, 399
方向指示レバー ..... 211
ワット数 ..... 448
ウインドウ
ウインドシールドデアイサー ..... 323
ウォッシャー ..... 229, 232
パワーウインドウ ..... 186
リヤウインドウデフォッガー ..... 320
ウインドウロックスイッチ ..... 188
ウインドシールドデアイサー ..... 323
ウォッシャー
液の補充 ..... 378
スイッチ ..... 229, 232
タンク容量 ..... 447
冬の前の準備・点検..... 309
動けなくなったときは（スタック）. 443
雨滴感知式ワイパー ..... 229
運転 ..... 194
雨の日の運転 ..... 195
運転を補助する装置..... 303
寒冷時の運転.....309
走行可能距離.....67
正しい運転姿勢.....25
手順 .....194
電気自動車運転のアドバイス .....65
運転支援機能情報表示.....144
運転席シートベルト非着用警告灯 ...415

## え

エアコン .....319
「ナノイー」.....324
曇り取り（フロントガラス）.....320
フィルターの清掃.....391
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
.....326
マイルームモード.....117
リモートエアコンシステム .....328
エアコン・デフォッガー.....320
エアバッグ .....30
SRS エアバッグ警告灯.....413
改造・廃棄.....35
警告ブザー.....413
作動条件.....31
正しい姿勢.....25
配置 .....30
S-FLOW
フロント席集中送風モード .....326
エレクトリックパワーステアリング（EPS）
機能 .....304

## お

オーディオシステム連携表示.....143
オートアウェイ＆オートリターン機構
.....182
オートアラーム .....53
オートエアコン .....319

オートドアロック・アンロック機能 160
オートマチックハイビーム ..... 225
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）..... 220
オーバーヒート..... 442
オープナー
バックドア ..... 163
ボンネット ..... 375
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）. 347
お子さまを乗せるとき ..... 37
ウインドウロックスイッチ..... 188
お子さまの安全のために..... 37
シートベルトの着用..... 28
充電に関する警告 ..... 88
ステアリングヒーター／シートヒーターに関する警告 ..... 330
チャイルドシート ..... 38
チャイルドシートの取り付け ..... 38
チャイルドプロテクター..... 159
発炎筒の取り扱いに関する警告 ..... 404
バックドアに関する警告..... 160
バッテリーに関する警告..... 441
パワーウインドウに関する警告 ..... 187
ムーンルーフに関する警告..... 190
オドメーター／トリップメーターディスプレイ ..... 140
“ODO TRIP” スイッチ ..... 141
表示項目 ..... 140

## か

カーテンシールドエアバッグ ..... 30
カードキー..... 152
カーペット..... 372
洗浄 ..... 372
フロアマットの取り付け方 ..... 24
外気温度表示..... 139
回生ブレーキ..... 59
外装の電球（バルブ）.....398
交換要領.....398
ワット数.....448
買い物フック .....340
カスタマイズ機能 .....449
型式.....448
カップホルダー .....339
カメラ
前方カメラ.....234
ガラスの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー）.....320
ガレージジャッキ .....377
冠水路走行 .....199
寒冷時の運転 .....309

## き

キー.....152
EV システムが始動できない.....433
カードキー.....152
キーナンバープレート .....152
キーの構成.....152
キーレスエントリー .....154, 173
キーをなくした.....434
正常に働かない.....436
施錠・解錠ができない .....436
電子キー.....152
電池が切れた.....393, 436
メカニカルキー .....154
ワイヤレスリモコン .....154
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム .....173
ワイヤレスドアロック .....154
きしみやひっかき音が聞こえる（ブレーキパッドウェアインジケーター）...197
緊急時シートベルト固定機構.....28
緊急始動機能（EV システム）.....433

緊急時の対処
EV システムが始動できない ..... 433
オーバーヒートした..... 442
キーの電池が切れた..... 393, 436
キーをなくした ..... 434
警告灯がついた ..... 412
警告メッセージが表示された ..... 419
けん引 ..... 407
故障したときは ..... 402
車両を緊急停止する..... 404
水没・冠水したときは..... 405
スタックした ..... 443
電子キーが正常に働かない..... 436
発炎筒 ..... 403
パンクした ..... 423
補機バッテリーがあがった ..... 438
緊急停止システム..... 64
緊急ブレーキシグナル ..... 304

## く

空気圧（タイヤ）..... 448
タイヤ空気圧警報システム ..... 380
メンテナンスデータ..... 448
区間距離計（トリップメーター）.... 140
駆動用電池残量計..... 139
駆動用電池
駆動用電池残量計 ..... 139
駆動用電池充電警告灯..... 415
充電について ..... 68
搭載位置 ..... 58
曇り取り
フロントガラス ..... 320
ミラーヒーター ..... 320
リヤウインドウデフォッガー ..... 320
クラクション（ホーン）..... 182
クリアランスソナー..... 282
警告メッセージ ..... 284
操作 ..... 283
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ.....218
電球（バルブ）の交換 .....398
クリップ
フロアマット .....24
クルーズコントロール
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....257
グローブボックス .....338
グローブボックスランプ.....338

## け

警音器（ホーン）.....182
計器類（メーター）.....139
警告灯.....412
RCTA OFF 表示灯 .....414
ABS & ブレーキアシスト .....413
SRS エアバッグ .....413
LTA 表示灯 .....416
駆動用電池充電.....415
クリアランスソナー OFF 表示灯 .....414
シートベルト非着用 .....415
スリップ表示灯 .....413
タイヤ空気圧.....412
ドライブスタートコントロール.....416
パーキングブレーキ表示灯 .....414
パワーステアリング .....413
PKSB OFF 表示灯 .....415
PCS .....417
ブレーキ.....412
ブレーキオーバーライドシステム.....416
ブレーキホールド作動表示灯 .....414
警告ブザー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....414
ABS & ブレーキアシスト .....413
SRS エアバッグ .....413
LTA（レーントレーシングアシスト）..416

クリアランスソナー..... 414
シートベルト非着用..... 415
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 262
手放し運転警告（LTA)..... 252
ドライブスタートコントロール..... 416
パワーステアリング..... 413
半ドア..... 157, 173
半ドア走行..... 159
PKSB（パーキングサポートブレーキ）415
プリクラッシュセーフティ..... 417
プリクラッシュブレーキ..... 238
ブレーキ..... 412
ブレーキオーバーライドシステム..... 416
ブレーキホールド..... 414
ボンネット開..... 159
窓開..... 187
ムーンルーフ開..... 190
警告メッセージ..... 419
警告ラベル（EV システム）..... 61
化粧ミラー（バニティミラー）..... 345
けん引
けん引のしかた..... 407
フック..... 409

## こ

交換
キーの電池..... 393
タイヤ..... 386
電球（バルブ）..... 398
ヒューズ..... 395
工具（ツール）..... 386
航続可能距離（走行可能距離）..... 143
後退速度の抑制制御（ドライブスタートコントロール）..... 194
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換..... 398
高電圧部位.....61
コートフック.....352
コーナリングランプ.....220
電球（バルブ）の交換.....398
子供専用シート
取り付け方.....39
小物入れ.....337
コンソールボックス.....338
コンライト（自動点灯・消灯装置）..218

## さ

サービスプラグ.....61
サイドエアバッグ.....30
サイド方向指示灯.....211
電球（バルブ）の交換.....398
方向指示レバー.....211
サイドミラー（ドアミラー）.....184
BSM（ブラインドスポットモニター）.277
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....290
格納のしかた.....185
操作.....184
ミラーヒーター.....320
リバース連動機能.....185
サンシェード
ルーフ.....189
サンバイザー.....345

## し

シート.....178, 179
正しい運転姿勢.....25
チャイルドシート.....38
調整.....178, 179
手入れ.....372
ヘッドレスト.....180
シートヒーター.....330
シートベルト.....27

お子さまの着用 ..... 27, 28
緊急時シートベルト固定機構 ..... 28
高さ調節 ..... 29
正しく着用するには..... 28
着け方、はずし方 ..... 28
手入れ ..... 372
妊娠中の方の着用 ..... 27
非着用警告灯 ..... 415
シートベルト非着用警告灯 ..... 415
シートベルトプリテンショナー ..... 29
機能 ..... 29
プリテンショナー警告灯 ..... 413
シートベンチレーター ..... 330
事故が発生したとき（EV システムの注意）..... 63
室内灯（インテリアランプ）..... 334
始動後走行距離..... 143
始動のしかた..... 202
シフトポジション..... 206
シフトレバー..... 206
シフトポジションの切りかえ ..... 206
操作 ..... 206
ジャッキ
ガレージジャッキ ..... 377
車載ジャッキ ..... 386
ジャッキハンドル..... 386
車幅灯
電球（バルブ）の交換..... 398
ランプスイッチ ..... 218
車両型式 ..... 448
車両仕様（スペック）..... 446
車両接近通報装置..... 60
車両データの記録..... 7
車両を緊急停止するには ..... 404
充電
急速充電 ..... 97
車載充電器 ..... 95
充電時間の目安 ..... 83
充電装備.....68
充電に関するアドバイス .....86
充電に関する警告 .....93, 99
充電のしかた.....90, 97
充電リッドが開けられない .....435
充電リッドの開閉 .....69
正常に充電できない .....120
タイマー充電機能 .....102
電源について .....79
普通充電.....90
普通充電ケーブル .....71
マイルームモード .....117
メッセージ.....127, 419
充電ケーブル（普通充電ケーブル）
安全機能.....73
インジケーター .....73
コントロールユニット .....72
充電ケーブルに関する警告 .....71
普通充電コネクターを解錠できないとき77
充電ポート
急速充電リッド .....68
充電リッドが開かないとき .....435
充電リッドの開閉 .....69
普通充電コネクターの施錠・解錠.....76
普通充電リッド .....68
充電用 USB 端子.....346
充電リッド
充電リッドが開かないとき .....435
瞬間電費 .....143
仕様（車両仕様）.....448
衝撃感知ドアロック解除システム ...157
初期化
タイヤ空気圧警報システム .....382
パワーウインドウ .....186
ムーンルーフ.....189
初期設定 .....461
助手席シートベルト非着用警告灯 ...415
侵入センサー（オートアラーム）.....54

## す

スイッチ
AC100V ..... 353
BSM ..... 278
LTA ..... 249
PCS OFF ..... 240
PKSB ..... 295
RCTA ..... 291
TRC OFF ..... 304
VSC OFF ..... 304
アダプティブハイビームシステム ..... 221
イグニッション ..... 202
インストルメントパネル照度調整 ..... 141
ウインドウロック ..... 188
ウインドシールドデアイサー ..... 322
ウォッシャー ..... 229, 232
ASC スイッチ..... 217
オートマチックハイビーム ..... 225
“ODO TRIP” ..... 141
クリアランスソナー..... 283
シート調整 ..... 178, 179
シートヒーター ..... 330, 332
シートベンチレーター..... 330, 332
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 257
侵入センサー OFF..... 54
ステアリングヒーター..... 330, 332
タイヤ空気圧警報リセット ..... 382
ドアミラー ..... 184
ドアロック ..... 159
ドライブモードセレクト..... 302
パーキングブレーキ..... 212
ハザードランプ ..... 403
パドルシフト ..... 210
パワーウインドウ ..... 186
パワースイッチ ..... 202
ハンドルの位置調整..... 182
非常点滅灯（ハザードランプ）.....403
フォグランプ.....227
ブレーキホールドスイッチ .....215
ヘッドアップディスプレイ .....147
方向指示レバー .....211
ホーン（警音器）.....182
ムーンルーフ.....189
メーター操作.....142
ランプ.....218
リセット（タイヤ空気圧警報システム）
.....382, 384
リモートエアコンシステム .....328
リヤウインドウデフォッガー .....320
レーダークルーズコントロール.....257
ワイパー.....229, 232
スタック .....443
ステアリングアシステッドビークルスタビリティコントロール（S-VSC）..303
ステアリングヒーター.....330
ステアリングホイール（ハンドル）..182
位置調整.....182
オートアウェイ＆オートリターン機構 182
ステアリングヒーター .....330
メーター操作スイッチ .....142
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル .....304
電球（バルブ）の交換 .....398
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....309
スピードメーター .....139
スペック（車両仕様）.....446
スマートエントリー＆スタートシステム
.....173
アンテナの位置.....173
EV システムの始動 .....202
カスタマイズ設定.....449
緊急始動機能.....433
警告ブザー.....173
警告メッセージ.....173

作動範囲 ..... 173
節電機能 ..... 174
電波がおよぼす影響について ..... 176
ドアの解錠・施錠 ..... 156, 162
バックドアの施錠・解錠 ..... 162
スモールランプ（車幅灯）..... 218
電球（バルブ）の交換 ..... 398
ランプスイッチ ..... 218
スリップ表示灯 ..... 304

## せ

清掃 ..... 368, 372
アルミホイール ..... 369
外装 ..... 368
シートベルト ..... 372
内装 ..... 372
レーダー ..... 234
制動灯
緊急ブレーキシグナル ..... 304
電球（バルブ）の交換 ..... 398
セカンダリーコリジョンブレーキ... 304
積算距離計（オドメーター）..... 140
セキュリティインジケーター .... 52, 53
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 262
先行車発進告知機能 ..... 267
センサー
LTA ..... 245
インナーミラー ..... 183
雨滴感知センサー ..... 230
湿度センサー ..... 325
侵入センサー ..... 54
ライトセンサー ..... 219
レーダーセンサー ..... 278
洗車 ..... 368
前照灯（ヘッドランプ）..... 218
オートレベリングシステム ..... 220
電球（バルブ）の交換 ..... 398
ライトセンサー ..... 219
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 219
ランプスイッチ ..... 218
センターディスプレイ ..... 315

## そ

走行可能距離 ..... 143
走行時間 ..... 143
走行情報表示 ..... 142
走行モード（ドライブモード）..... 302
送信機（タイヤ空気圧警報システム）
..... 380
速度計（スピードメーター）..... 139

## た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
..... 211
電球（バルブ）の交換 ..... 398, 399
方向指示レバー ..... 211
ワット数 ..... 448
タイマー充電機能 ..... 102
タイヤ ..... 378
空気圧 ..... 390, 448
空気圧警告灯 ..... 412
交換 ..... 386
チェーン ..... 309
点検 ..... 378
パンクしたときは ..... 386, 423
パンク応急修理キット ..... 423
冬用タイヤ ..... 309
ホイールサイズ ..... 448
ローテーション（位置交換）..... 380
タイヤが空まわりする（スタックした）
..... 443
タイヤ空気圧
警告灯 ..... 412
タイヤ空気圧警報システム

ID コードの登録・選択 384
機能について 380
空気圧バルブ／送信機について 381
空気圧表示画面 380
警告灯 412
初期化 382
タイヤチェーン 309
タコメーター 139

## ち

チェーン（タイヤチェーン） 309
チャイルドシート 38
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け 49
シートベルトでの固定 47
選択方法 38
チャイルドプロテクター 159
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ） 212
警告灯 414
警告メッセージ 213
操作 212
冬季の注意 309
未解除走行時警告ブザー 214

## つ

通信利用型レーダークルーズコントロール 263
ツール（工具） 386

## て

提案サービス機能 144
ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ 146
マルチインフォメーションディスプレイ 141
手入れ 368, 372
アルミホイール 369
外装 368
シートベルト 372
内装 372
レーダー 234
テールランプ（尾灯） 218
電球（バルブ）の交換 398
ランプスイッチ 218
デッキアンダートレイ 341
デッキフック（荷物固定用フック） 340
デッキボード 341
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー） 320
電気モーター 58
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ） 398
ワット数 448
電欠になったとき 64
点検基準値（メンテナンスデータ） 446
電子キー 152
作動範囲 173
正常に働かないとき 436
節電機能 174
電池が切れた 436
電池交換 393
電池交換（キー） 393
電費
瞬間電費 143
平均電費 143

## と

ドア 156
オートドアロック・アンロック機能 160
衝撃感知ドアロック解除システム 157
スマートエントリー＆スタートシステム 173
チャイルドプロテクター 159
ドアガラス 186

ドアロックスイッチ..... 159
ドアロックボタン ..... 159
バックドア ..... 160
ワイヤレスリモコン..... 156
ドアミラー
BSM（ブラインドスポットモニター）277
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 290
格納のしかた ..... 185
操作..... 184
ミラーヒーター ..... 320
リバース連動機能 ..... 185
盗難防止装置
イモビライザーシステム..... 52
オートアラーム ..... 53
時計 ..... 139, 345
トップテザーアンカレッジ ..... 50
トノカバー..... 342
ドライブスタートコントロール ..... 194
急発進の抑制制御 ..... 194
後退速度の抑制制御..... 194
ドライブモードセレクトスイッチ... 302
トラクションコントロール（TRC）. 304
トランスミッション..... 206
操作..... 206
パドルシフトスイッチ..... 210
メンテナンスデータ..... 446
トリップメーター..... 140

## な

内装
収納装備 ..... 337
手入れ..... 372
ナビゲーションシステム連携表示. 143, 146

## に

ニーエアバッグ .....30
荷物
積むときの注意.....200
デッキフック.....340
荷室内装備.....340

## ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）.....443

## は

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....301
パーキングサポートブレーキ（静止物）
.....299
パーキングブレーキ .....212
警告灯.....414
警告メッセージ.....213
操作 .....212
冬季の注意.....309
未解除走行時警告ブザー .....214
パーソナルランプ .....334
ハイビーム（ヘッドランプ）.....218
アダプティブハイビームシステム.....221
オートマチックハイビーム .....225
電球（バルブ）の交換 .....398
ランプスイッチ .....218
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 .....398
ハザードランプ（非常点滅灯）
スイッチ.....403
電球（バルブ）の交換 .....398
挟み込み防止機能
パワーウインドウ .....186
パワーバックドア .....167
ムーンルーフ.....189

発炎筒 ..... 403
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換..... 398
バックドア..... 160
イージークローザー..... 166
バックドアハンドル..... 162
バッテリー（駆動用電池）
駆動用電池残量計 ..... 139
駆動用電池充電警告灯..... 415
充電について ..... 68
搭載位置 ..... 58
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯 ..... 412
補機バッテリーがあがった..... 438
補機バッテリーを交換するとき ..... 440
バニティ（化粧用）ミラー ..... 345
バニティミラーランプ
装備について ..... 345
ワット数 ..... 448
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ）..... 398
ワット数 ..... 448
パワーウインドウ..... 186
ウインドウロックスイッチ..... 188
閉めることができないときは..... 186
初期化..... 186
操作..... 186
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 .. 187
挟み込み防止機能 ..... 186
巻き込み防止 ..... 186
パワースイッチ（イグニッションスイッチ）..... 202
パワースイッチ..... 202
自動電源 OFF 機能..... 205
車両を緊急停止するには..... 404
モードの切りかえ ..... 205
パワーステアリング..... 304
警告灯 ..... 413
パンクした
タイヤ空気圧警告灯 .....412
タイヤパンク応急修理キット装着車...423
番号灯（ライセンスプレートランプ）
.....218
電球（バルブ）の交換 .....398
ランプスイッチ.....218
ハンズフリーパワーバックドア.....164
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整.....182
オートアウェイ＆オートリターン機構 182
ステアリングヒーター .....330
メーター操作スイッチ .....142

## ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC）.....303
PKSB
後方接近車両.....301
静止物.....299
ヒーター
エアコン・デフォッガー .....319
駆動用電池.....84
シートヒーター.....330
ステアリングヒーター .....330
ミラーヒーター.....320
非常時給電システム .....359
非常点滅灯（ハザードランプ）
スイッチ.....403
電球（バルブ）の交換 .....398
ワット数.....448
尾灯（テールランプ）.....218
電球（バルブ）の交換 .....398
ランプスイッチ.....218
ヒューズ.....395
表示灯.....137
日よけ（サンバイザー）.....345

ヒルスタートアシストコントロール 304

## ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 ..... 438
フォグランプ
スイッチ ..... 218
電球（バルブ）の交換..... 398
ブザー
接近警報（レーダークルーズコントロール）..... 262
手放し運転警告（LTA)..... 252
パーキングブレーキ未解除走行時警告 214
半ドア ..... 157, 173
半ドア走行 ..... 159
窓開警告 ..... 187
ムーンルーフ開警告..... 190
普通充電ケーブル
安全機能 ..... 73
インジケーター ..... 73
コントロールユニット..... 72
充電ケーブルに関する警告..... 71
普通充電コネクターを解錠できないとき77
普通充電コネクターの施錠・解錠..... 76
フック
買い物フック ..... 340
けん引フック ..... 409
コートフック ..... 352
デッキフック ..... 340
フロアマット固定フック..... 24
冬の前の準備（寒冷時の運転）..... 309
冬用タイヤ..... 309
ブラインドスポットモニター（BSM）
..... 277
プリクラッシュセーフティ（PCS）
PCS OFF スイッチ ..... 240
機能..... 238
PCS 警告灯 ..... 417
ブレーキ
回生ブレーキ.....59
緊急ブレーキシグナル .....304
警告灯.....412
パーキングブレーキ .....212
ブレーキホールド .....215
メンテナンスデータ .....447
ブレーキアシスト .....303
機能 .....303
ブレーキ付近からキーキー音が聞こえる
.....197
ブレーキフルード .....447
ブレーキホールド .....215
フロアマット .....24
フロントシート
シートヒーター .....330
シートベンチレーター .....330
正しい運転姿勢 .....25
調整 .....178
手入れ.....372
ヘッドレスト .....180
フロントフォグランプ
スイッチ.....227
電球（バルブ）の交換 .....398
フロント方向指示灯 .....211
電球（バルブ）の交換 .....398, 399
方向指示レバー .....211
ワット数.....448

## へ

平均車速 .....143
平均電費 .....143
ヘッドアップディスプレイ .....146
EV システムインジケーター.....150
運転支援システム表示 .....148
スイッチ.....147
設定 .....148
走行状況表示.....146

ナビゲーションシステム連携 ..... 146
割り込み表示 ..... 149
ヘッドランプ..... 218
クリーナー ..... 229
電球（バルブ）の交換..... 398
ライトセンサー ..... 219
ランプ消し忘れ防止機能..... 219
ランプスイッチ ..... 218
ヘッドランプオートレベリングシステム
..... 220
ヘッドレスト..... 180
ベンチレーター（シートベンチレーター）
..... 330

## ほ

ホイール
交換（タイヤ）..... 386
メンテナンスデータ..... 448
ホイールナットレンチ ..... 386
方向指示灯..... 211
電球（バルブ）の交換..... 398, 399
方向指示レバー ..... 211
ワット数 ..... 448
ホーン（警音器）..... 182
補機バッテリー
交換するとき ..... 440
冬の前の準備 ..... 309
補機バッテリーがあがった..... 438
保証 ..... 8
ボトルホルダー..... 339
ボンネット..... 375
開け方 ..... 375
警告ブザー ..... 159
警告メッセージ ..... 159

## ま

マイルームモード..... 117
マルチインフォメーションディスプレイ
.....141
運転支援機能情報 .....144
オーディオシステム連携 .....143
警告メッセージ.....419
設定 .....144
走行情報表示.....142
タイヤ空気圧.....380
提案サービス機能 .....144
ドライブインフォメーション .....143
ナビゲーションシステム連携 .....143
メーター操作スイッチ .....142
メニューアイコン .....141
割り込み表示.....141

## み

ミラー
アウターミラー .....184
インナーミラー .....183
ドアミラー.....184
バニティミラー .....345
ミラーヒーター .....320

## む

ムーンルーフ
初期化.....189
操作 .....189
ドアロック連動ムーンルーフ開閉機能 189
挟み込み防止機能 .....189

## め

メーター
計器類.....139
警告灯.....412
警告メッセージ.....419
照度調整.....141

設定 ..... 144
時計 ..... 139
表示灯 ..... 137
マルチインフォメーションディスプレイ
..... 141
メーター操作スイッチ ..... 142
メカニカルキー ..... 154
メニューアイコン ..... 141
メンテナンスデータ ..... 446

## も

モーター（電気モーター）..... 58
ボンネット ..... 375

## ゆ

ユーザーカスタマイズ機能 ..... 449
雪道ですべって動けない（スタックした）
..... 443
油脂類 ..... 446

## ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
..... 218
電球（バルブ）の交換 ..... 398
ランプスイッチ ..... 218
ラゲージフック ..... 340
ラジエーター
オーバーヒート ..... 442
メンテナンスデータ ..... 446
ランプ
アダプティブハイビームシステム ..... 221
インテリアランプ ..... 334
オートマチックハイビーム ..... 225
コーナリングランプ ..... 220
室内灯 ..... 334
電球（バルブ）の交換 ..... 398
非常点滅灯（ハザードランプ）..... 403
フロントフォグランプ ..... 227
ヘッドランプ（前照灯）..... 218
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）..... 211
ライトセンサー ..... 219
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 219
リヤフォグランプ ..... 227
ワット数 ..... 448
ランプ消し忘れ防止機能 ..... 219

## り

リバース連動機能 ..... 185
リモートエアコンシステム ..... 328
リモートタッチ ..... 314
リヤアームレスト ..... 351
リヤウインドウデフォッガースイッチ
..... 320
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 290
リヤシート ..... 179
リヤ席シートベルト非着用警告灯 ... 415
リヤフォグランプ
スイッチ ..... 227
電球（バルブ）の交換 ..... 398
リヤ方向指示灯 ..... 211
電球（バルブ）の交換 ..... 398
方向指示レバー ..... 211

## る

ルームミラー（インナーミラー）..... 183

## れ

冷却水 ..... 446
冬の前の準備 ..... 309
メンテナンスデータ ..... 446

冷却装置（ラジエーター）..... 446
オーバーヒート ..... 442
メンテナンスデータ..... 446
レーダークルーズコントロール（全車速追従付き）..... 257
警告メッセージ ..... 266
接近警報 ..... 262
レーダー ..... 234
レーントレーシングアシスト（LTA）
警告メッセージ ..... 253
操作 ..... 249
レクサスクライメイトコンシェルジュ ..... 318
レバー
シフト ..... 206
方向指示 ..... 211
ボンネット解除 ..... 375
ロック（ドア）..... 156

## ろ

ロードサインアシスト (RSA)..... 254
ロック
ウインドウロック ..... 188
スマートエントリー＆スタートシステム ..... 173
チャイルドプロテクター..... 159
ドア ..... 156
バックドア ..... 160
ワイヤレスリモコン..... 154

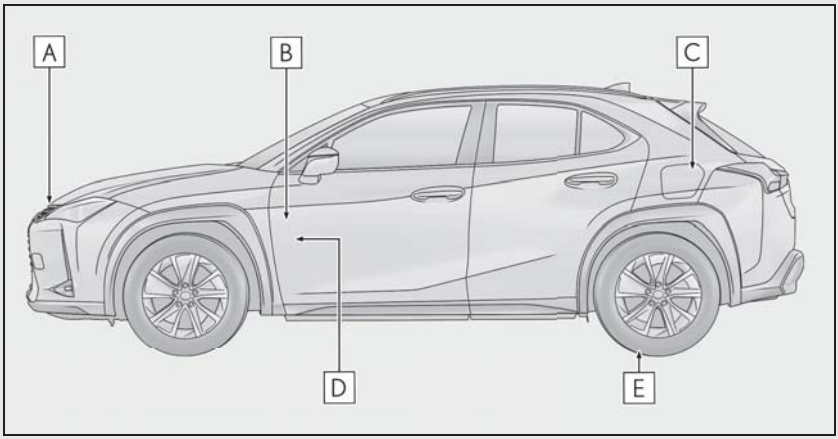
## わ

ワイパー＆ウォッシャー
ウォッシャー液の補充..... 378
フロント ..... 229
フロントワイパーデアイサー ..... 323
リヤ..... 232
ワイパー停止位置の切りかえ ..... 231
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）..347
ワイヤレスリモコン .....154
作動の合図.....157
操作 .....154
電池の交換.....393
半ドア警告ブザー .....157
リモートエアコンシステム .....328
ワックス .....368
ワット数 .....448

**次の装備は、別冊「ナビゲーションシステム取扱説明書」をお読みください。**

・オーディオ
・パノラミックビューモニター
・バックガイドモニター
・ナビゲーションシステム
・音声操作システム
・ハンズフリー
・G-Link
・ETC2.0 システム

## 充電スタンドでの情報




A ボンネットフック（→P.375）

B パワーバックドアスイッチ★（→P.163）

C 充電ポート（→P.68）

D ボンネット解除レバー（→P.375）

E タイヤ空気圧（→P.448）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

| | |
|---|---|
| 外部電源 | P.82 |
| 充電時間 | P.86 |
| タイヤが冷えているときの空気圧 | P.448 |

「個人情報保護方針」については、https://lexus.jp にて掲載しております。

ラJ-2

M76510
01999-76510
II- 2021年8月12日
2021年8月19日初版

UX300e